

第9期東郷町高齢者福祉計画
策定のための
アンケート調査結果報告書

令和5年3月

東 郷 町

目 次

I	調査の概要	1
1.	調査目的.....	1
2.	調査設計.....	1
3.	回収結果.....	2
4.	調査結果の見方	2
II	調査結果の概要.....	5
1.	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査について	5
2.	在宅介護実態結果について	7
3.	ケアマネジャー調査結果について	9
4.	事業所調査結果について	10
5.	在宅生活改善調査について	10
6.	居所変更実態調査について	11
7.	介護人材実態調査について	11
III	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果	13
1.	回答者と回答者の家族や生活状況について	13
2.	からだをうごかすことについて	19
3.	食べることについて	28
4.	毎日の生活について	32
5.	地域での活動について	39
6.	回答者とまわりの人の「助け合い」について	57
7.	健康について	71
8.	介護保険制度について	79
9.	地域包括支援センターについて	85
10.	認知症について	88
11.	調査結果からみる調査対象者の評価.....	95
IV	在宅介護実態調査の結果	109
1.	調査対象者自身について	111
2.	サービスや支援について	114
3.	今後の生活の場所について	119
4.	地域包括支援センターについて	123
5.	介護保険料について	130
6.	地域での支え合いや地域活動について	132
7.	主な介護者自身について	140

8. 仕事と介護の両立について	148
9. 介護する上での負担について	158
10. 介護者への支援について	165
V ケアマネジャー調査の結果.....	171
VI 事業所調査の結果.....	203
VII 在宅生活改善調査の結果	221
1. 事業所票.....	221
2. 利用者票.....	223
VIII 居所変更実態調査の結果	231
IX 介護人材実態調査の結果	239

I 調査の概要

1. 調査目的

本調査は、「第8期東郷町高齢者福祉計画」が令和5年度をもって満了となることから、新たな計画づくりに向けた基礎資料として、本町在住の65歳以上の高齢者、要支援・要介護認定者及び本町の利用者のサービス計画作成に携わっているケアマネジャー、介護サービスを提供していただいている事業者等を対象として、本町の高齢者福祉に関する実態や高齢者の現状を把握し、高齢者福祉の推進に活用することを目的として実施します。

2. 調査設計

全体で7種の調査を実施しました。各調査の対象、方法等は下表のとおりです。

調査種別	対象	調査基準日	調査期間	調査方法
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	本町在住の65歳以上から2,200人を無作為抽出	令和5年 1月1日	令和5年 1月24日 ～2月14日	郵送による 配布・回収
在宅介護	本町在住の要支援・要介護認定者から1,000人を無作為抽出			
ケアマネジャー	本町で居宅サービス計画を作成しているケアマネジャー42人			
事業所対象調査	本町の介護保険サービス事業者35事業者			電子メールによる配布・回収 (在宅生活改善調査のケアマネジャー分は郵送による配付・回収)
在宅生活改善調査	本町の居宅介護支援事業者12事業者及び本町でケアマネジャー42人			
居所変更実態調査	本町の施設系介護保険サービス事業者16事業者			
介護人材実態調査	本町の介護保険サービス事業者35事業者			

3. 回収結果

各調査の回収結果は下表のとおりです。

調査種別	配付数	有効回収数	回収率
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	2,200 件	1,547 件	70.3%
在宅介護実態調査	1,000 件	575 件	57.5%
ケアマネジャー対象調査	42 件	32 件	76.2%
事業所対象調査	35 件	35 件	100.0%
在宅生活改善調査	事業者 12 件 ケアマネジャー42 人	事業者 12 件 ケアマネジャー32 人	100.0% 76.2%
居所変更実態調査	16 件	16 件	100.0%
介護人材実態調査 (事業者向け)	35 事業者 延べ 48 件 (訪問系 12、通所系 15、 施設・居住系 21)	35 事業者 延べ 48 件 (訪問系 12、通所系 15、施設・居住系 21)	100.0%

4. 調査結果の見方

◇回答結果の割合「%」は集計対象者総数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、選択肢からいずれか1つの選択肢を選ぶ設問であっても合計値が100.0%にならない場合があります。

◇複数回答（特に表記のない場合は、当てはまる選択肢を全て選択する形式）の設問の場合、各選択肢の回答割合の合計が100.0%を超える場合があります。この形式の設問については、質問文の末尾に「複数回答」と表記しています。

◇図表中の「%」は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、単数回答の設問（1つだけに○をつけるもの）であっても、合計が100.0%にならない場合があります。また、複数回答の設問の場合（当てはまるものすべてに○をつけるもの等）は、「n」に対する各選択肢の回答者数の割合を示します。

◇図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。

◇図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。

◇本文中の設問・選択肢、図表中の選択肢は、原則として調査票に記載された表現のまま、選択肢の順に記載していますが、一部、必要に応じて省略しています。

◇表中の網掛けは、「不明・無回答」を除き、最も割合の高い項目と二番目に割合の高い項目を表しています。なお、回答者(n)が10未満の場合は、順位の表記を省略し、読み取り文の対象外としています。さらに、クロス集計において性別、年齢別、要介護度別等の回答者(n)が回答者なし(0)の場合は、掲載を省略しています。

◇全体の調査結果について、令和元年度に実施した前回調査との比較を行っています。令和元年度調査の概要は下記のとおりです。なお、今回調査は「本報告書中での表記」の「R1」を「R4」として報告書中で表記しています。

調査種別	本報告書中での表記	配付数	有効回収数	回収率
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	R1 年一般高齢者	2,200 件	1,639 件	74.5%
在宅介護	R1 年在宅介護認定者	1,000 件	613 件	61.3%
ケアマネジャー	R1 年ケアマネジャー	36 件	32 件	88.9%
事業所	R1 年事業所	30 件	29 件	96.7%

◇調査結果について、地域ごとの状況を把握するため、日常生活圏域別に集計結果を示していることがあります。本町の日常生活圏域は北部と南部の2圏域となっており、それぞれに含まれる地区は下記の通りです。

圏域	含まれる地区
北部	諸輪、和合、和合ヶ丘、諸輪住宅、白鳥、御岳、押草団地南、押草団地北、北山台
南部	傍示本、祐福寺、部田、白土、春木台、西白土、清水、兵庫、三ツ池

Ⅱ 調査結果の概要

1. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査について

(1) 回答者と回答者の家族や生活状況について

- ◆回答者の年齢は、前回調査と比べて全体的に高齢化しています。
- ◆家族構成について、「1人暮らし」がやや増加し、「その他」が減少しており、三世代同居が減っていることがうかがえます。
- ◆くらしの経済的な状況について、「大変苦しい」または「やや苦しい」という回答がやや増加しています。

(2) からだを動かすことについて

- ◆外出の頻度について、前回調査と比べて「ほとんど外出しない」「週1回」がやや増加しています。
- ◆昨年と比べて外出の回数が「とても減っている」または「減っている」という回答も増加しています。
- ◆外出を控えている人は、前回調査の2倍以上となっています。外出を控えている理由として76.8%が新型コロナウイルス感染症の防止を回答しています。
- ◆「電車」「巡回バス・路線バス」といった公共の交通機関の利用についても、前回調査より減少しています。

(3) 食べることについて

- ◆この半年間で、2～3 kg以上の体重減少があった人、この半年間で、お茶や汁物等でむせることがあった人が、前回調査と比べてやや増加しています。
- ◆だれかと食事をとる機会が「ほとんどない」が5.8%、「年に何度かある」が6.3%となっています。

(4) 毎日の生活について

- ◆バスや電車等（自家用車を含む）を使っでの1人での外出については、「できるけどしていない」が増加しています。
- ◆食品・日用品の買物、食事の用意、請求書の支払い、預貯金の出し入れについては、男女差が大きく、男性は女性と比べて「できるし、している」が少なく、「できるけどしていない」が多くなっています。食事の用意については「できない」も、女性より多くなっています。

（５）地域での活動について

- ◆「老人クラブ」「区・自治会」といった地域の活動への参加が、前回調査より減少しています。
- ◆地域づくりの活動への参加については、今後の参加に前向きな回答（「ぜひ参加したい」と「参加してもよい」の合計）は、参加者としての参加で 53.1%、企画・運営としての参加で 30.4%となっています。
- ◆不足している地域活動については、「地域活動を知らない」という回答が最も多くなっています。
- ◆趣味や特技を活かせる場が地域活動の中に「ある」という回答がやや減少しています。

（６）回答者とまわりの人の「助け合い」について

- ◆周りの人との助け合いについては、「配偶者」や「家族」という回答が多くなっていますが、「1人暮らし」では「友人」という回答が多く、また他の家族構成と比べて「そのような人はいない」が多くなっています。
- ◆地域の人に手助けや協力をしてほしいことについては「災害時の手助け」が最も多く、地域の人に対して手助けや協力できることについては、「声かけ」が最も多くなっています。

（７）健康について

- ◆現在の健康状態については、8割以上が「とてもよい」または「まあよい」と回答しています。
- ◆医療や介護が必要になったときや、人生の最期を迎える場所について、「自宅」を希望する人が最も多く、女性より男性でその傾向が強くなっています。

（８）介護保険制度について

- ◆介護保険制度について知っているものに関して、前回調査と比べて「介護が必要な高齢者を、社会全体で支える仕組みである」がやや減少している一方で、「よく知らない」がやや増加しています。
- ◆介護保険料の使われ方で知っているものについても、前回調査と比べて「よく知らない」が増加しています。
- ◆日常生活で使っている（使いたい）サービスについては「緊急通報システム装置の貸出し」が 19.9%と最も多く、次いで「草むしりや庭の手入れ」が多くなっています。

（９）地域包括支援センターについて

- ◆地域包括支援センターを知っているという人が前回調査よりやや増加しています。男性より女性の方が知っている人が多くなっています。

(10) 認知症について

- ◆認知症については「どのような症状がよく知っている」が18.2%、「どのような症状がある程度知っている」が58.6%となっています。
- ◆認知症になったら不安なことについては、「家族に身体的・精神的負担をかけること」が69.4%と最も多く、次いで「買い物や料理、車の運転等、これまでできていたことができなくなってしまうこと」が67.1%となっています。
- ◆認知症の相談窓口を知っている人が29.0%となっており、前回調査との大きな差異はみられません。知っている相談窓口については「地域包括支援センター」が最も多くなっています。

2. 在宅介護実態結果について

(1) 回答者自身について【A票】

- ◆前回調査と比べると世帯類型で「その他」が減少し、「夫婦のみ世帯」がやや増加しています。
- ◆家族や親族の方からの介護については、「ほぼ毎日ある」が33.0%の一方、「ない」が31.7%となっており、2極化の傾向がみられます。

(2) サービスや支援について【A票】

- ◆住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の介護保険サービスを利用しているのは58.8%となっています。
- ◆介護保険サービスを利用していない理由については、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が49.0%と最も多く、前回調査と比べて増加しています。
- ◆今後利用したい、または今後必要だと思われる支援・サービス・制度については、「在宅で生活するためのデイサービスやヘルパー等」が51.3%と最も多く、次いで「高齢者タクシー料金助成」が38.1%となっています。

(3) 今後の生活の場所について【A票】

- ◆人生の最期の迎え方について家族と話し合ったことについては、「一応話し合ったことがある」が44.7%と最も多く、次いで「まったく話し合ったことがない」が36.2%
- ◆施設等への入所・入居の検討状況については、「入所・入居を検討している」が16.9%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が10.3%となっています。要介護度が上がるにつれて「入所・入居は検討していない」が少なく、「すでに入所・入居申し込みをしている」が多くなっています。

（４）地域包括支援センターについて【Ａ票】

- ◆地域包括支援センターについては、「知っている」が76.2%となっており、前回調査よりやや増加しています。また、地域包括支援センターの役割として知っているものについては、回答の多かった「高齢者の総合相談窓口」「要支援の認定を受けた人のケアプラン作成」「ケアマネジャーへの支援や指導」で、前回調査より増加しています。
- ◆地域包括支援センターの利用については、「利用したことがある」が80.4%となっており、前回調査より増加しています。

（５）介護保険料について【Ａ票】

- ◆介護保険料の使われ方で知っているものについては、一般高齢者を対象とした介護予防・日常生活圏ニーズ調査とは異なり、「知らない」がやや減少しています。
- ◆今後の介護保険料のあり方については、「介護サービスは現在の保険料でまかなえる範囲でよい」が64.3%で最も多くなっています。

（６）地域での支え合いや地域活動について【Ａ票】

- ◆地域の人との付き合いについては、前回調査と比べて、「世間話をする程度の人がいる」「挨拶をする程度の人がいる」「相談できる人がある」「困った時に内容によっては助けてくれる人がある」が増加しています。
- ◆地域の人に手助けや協力をしてほしいことについては、「災害時の手助け」が最も多く、次いで次いで「声かけ」が多くなっています。
- ◆地域の人に対して手助けや協力できることについては、「特になし」が最も多く、次いで「声かけ」が多くなっています。

（７）主な介護者自身のことについて【Ｂ票】

- ◆主な介護者の年齢は、「60代」が22.0%で最も多く、次いで「50代」が21.4%となっています。70歳以上の回答が合計で34.0%となっています。
- ◆主な介護者の一日の平均的な介護時間は、「2時間未満」が25.1%と最も多くなっている一方、「10時間以上」という回答も14.8%あります。
- ◆介護保険の情報や高齢者サービスの情報の入手先については、「ケアマネジャー」が56.8%と最も多く、次いで「地域包括支援センター」が32.9%となっています。

（８）仕事と介護の両立について【Ｂ票】

- ◆介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた家族等の介護者の状況については、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が61.8%と最も多く、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」は7.5%となっています。
- ◆主な介護者35.6%が就労しており、「働いていない」は43.2%となっています。

- ◆働きながら介護を続けていくことについては、『続けていける』が 71.1%、『続けていくのは難しい』が 8.6%となっています。前回調査と比べると、『続けていくのは難しい』がやや減少しています。

（９）介護する上での負担について【Ｂ票】

- ◆主な介護者の方が行っている介護等については、「外出の付き添い、送迎等」が 60.2%と最も多く、次いで「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が 56.5%となっています。
- ◆現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者が不安に感じる介護については、「認知症状への対応」が 29.2%と最も多く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が 25.1%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が増加しています。

（10）介護者への支援について【Ｂ票】

- ◆介護の手助けや介護に関する悩みを相談できる人がいるかについては、「いる」が 60.4%、「いない」が 14.2%、「わからない」が 11.7%となっています。前回調査と比べると、「いる」が減少しています。また、女性より男性の方が「いない」が多くなっています。
- ◆介護者の支援事業については、「参加したことがある」が 9.5%となっています。

3. ケアマネジャー調査結果について

（１）ケアプランの担当について

- ◆ケアプランの担当人数については、「31 人～40 人」が 46.9%と最も多く、次いで「11 人～20 人」が 15.6%となっています。前回調査と比べると、「31 人～40 人」が増加しています。
- ◆介護保険対象の居宅サービスの中で、供給が不足していると感じているサービスについては、「訪問介護」「訪問リハビリテーション」がそれぞれ 43.8%で最も多くなっています。
- ◆介護保険サービス以外のサービス（生活支援サービスや町が単独で行っているサービス等）も含めて、居宅サービス計画の作成を行っているのは 81.3%となっており、導入しているサービスについては、「配食サービス」が 88.5%と最も多く、次いで「高齢者タクシー料金助成」が 69.2%となっています。

（２）他機関との連携について

- ◆困難事例等を地域包括支援センターに相談したことがあるのは 59.4%となっており、前回調査よりやや減少しています。
- ◆医療機関や医療従事者との連携で苦勞していることについては「ある」が 56.3%で多数となっていますが、前回調査と比べると「ある」が減少し「ない」が増加しています。

- ◆医療・介護連携を行うに当たっての課題については、「自身が連携したいタイミングと相手の都合が合わず、連携が取りにくい」が 62.5%と最も多く、次いで「専門用語等、会話に気を遣う」が 53.1%となっています。
- ◆多職種との連携については、「歯科医師」「薬剤師」「医療介護サポートセンター（かけはし）」で「ほとんど連携が取れていない」が 2 割を超えています。

（3）ケアマネジャー業務について

- ◆ケアマネジャーとしての仕事への満足度については、『満足している』という回答が多数となっていますが、前回調査と比べて「満足していない」が増加しています。
- ◆ケアマネジャーとして困っていることについては、「ケアマネ業務以外の事務量が多い（業務範囲が不明確）」が 68.8%と最も多く、前回調査より増加しています。一方で「困難なケースへの対応」は減少しています。

4. 事業所調査結果について

（1）サービス提供の状況について

- ◆事業所のサービス提供の状況については、「サービス提供量に余裕がない」が 34.3%、「サービス提供量に余裕がある」が 40.0%となっており、前回調査と比べると「サービス提供量に余裕がある」が増加しています。
- ◆サービスの待機者の状況については、「受け入れる余裕がある」が 77.1%で前回調査より増加しています。

（2）職員の確保について

- ◆現在のサービス提供状況と職員数の過不足の状況については、『不足している』が 65.7%となっています。
- ◆特に人材確保に苦慮している職種については、「介護職員（訪問）」「介護職員（施設）」がそれぞれ 28.6%と最も多く、次いで「介護職員（通所）」が 22.9%となっています。

5. 在宅生活改善調査について

- ◆自宅等から、居場所を変更した利用者の要介護度については、要介護 2 または要介護 3 が多くなっています。
- ◆「自宅」「サ高住」「住宅型有料」「軽費老人ホーム」に居住する利用者で、生活の維持が難しくなっている人は、全体では 3.8%となっており、要介護 1、要介護 2 が多くなっています。

- ◆現在のサービス利用で生活の維持が難しくなる理由について、本人の状態等に属する理由では「必要な身体介護の増大」、家族等介護者の意向・負担等に属する理由については「介護者の介護に係る不安・負担量の増大」が多く、中でも夜間、日中の「排泄」の負担が大きくなっています。

6. 居所変更実態調査について

- ◆回答のあった施設系サービス事業者の利用者については、「特定施設」「グループホーム」は「要介護2」が最も多く、「介護老人保健施設」は「要介護3」、それ以外の施設は「要介護4」が最も多くなっています。
- ◆「住宅型有料老人ホーム」「グループホーム」「地域密着型特別養護老人ホーム」は退去の半数以上が「死亡」となっています。「介護老人保健施設」では「病院・診療所」、「特定施設」では「特別養護老人ホーム」への退去が多くなっています。

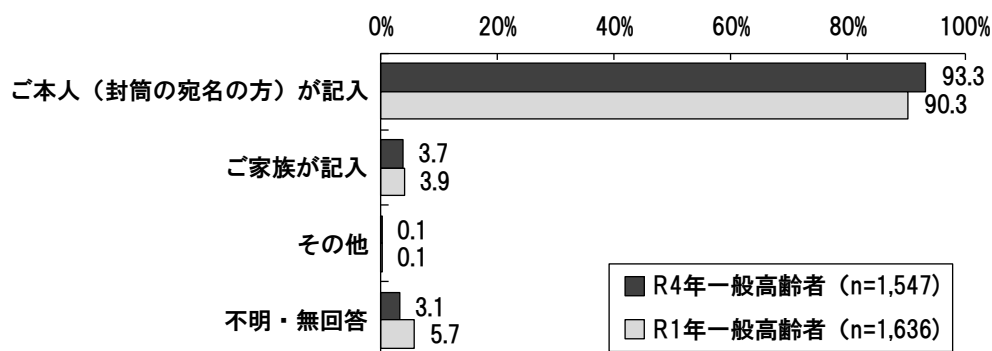
7. 介護人材実態調査について

- ◆回答のあった訪問系サービス、施設・居住系サービス、通所系サービスのいずれについても、昨年1年間では採用者数が離職者数を上回っており、職員数が増加しています。
- ◆正規職員の採用については、訪問系サービスで30歳代、施設・居住系サービスで40歳代、通所系サービスで50歳代が最も多くなっています。非正規職員の採用については、いずれのサービス系統も60歳代が最も多くなっています。
- ◆職員の離職については、正規職員では40歳代、50歳代が多くなっています。

Ⅲ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果

調査票を記入されたのはどなたですか。【複数回答】

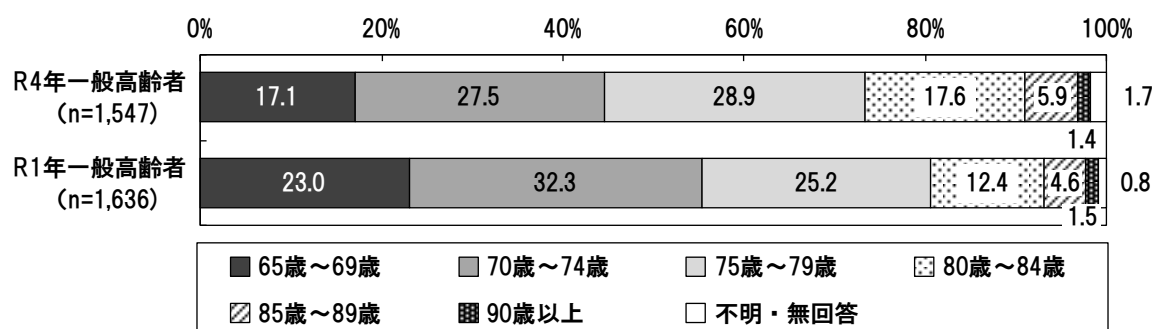
調査票の記入者については、「ご本人（封筒の宛名の方）が記入」が93.3%、「ご家族が記入」が3.7%、「その他」が0.1%となっています。



1. 回答者と回答者の家族や生活状況について

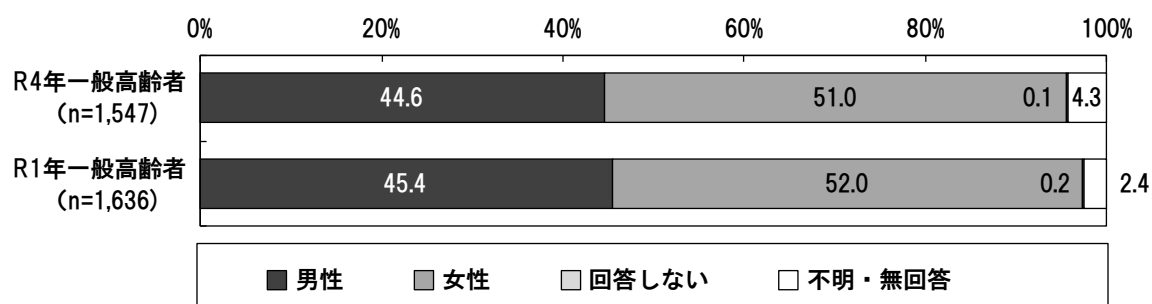
問1 あなたの年齢を教えてください。

年齢については、「75歳～79歳」が28.9%と最も高く、次いで「70歳～74歳」が27.5%となっています。



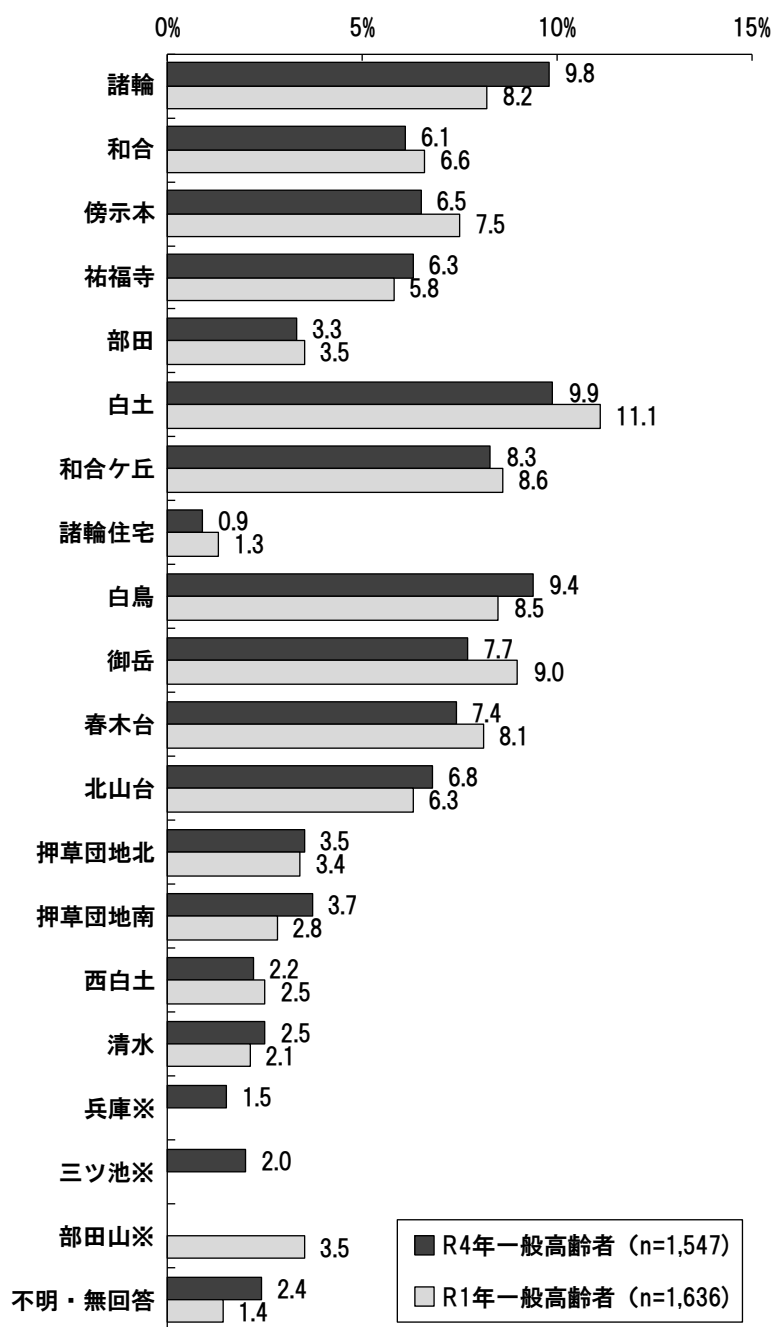
問2 性別を教えてください。

性別については、「男性」が44.6%、「女性」が51.0%、「回答しない」が0.1%となっています。

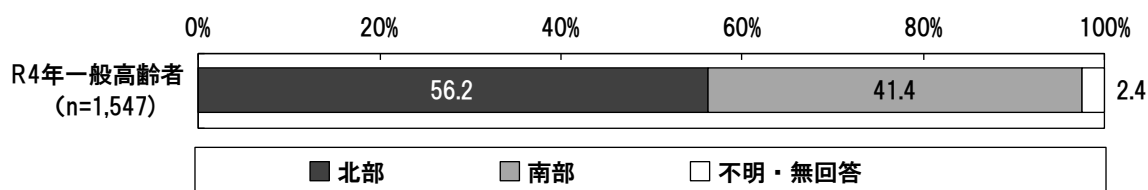


問3 あなたのお住まいはどこですか。

居住地については、「白土」が9.9%と最も高く、次いで「諸輪」が9.8%となっています。
 なお、日常生活圏域別でみると、「北部」が56.2%、「南部」が41.4%となっています。

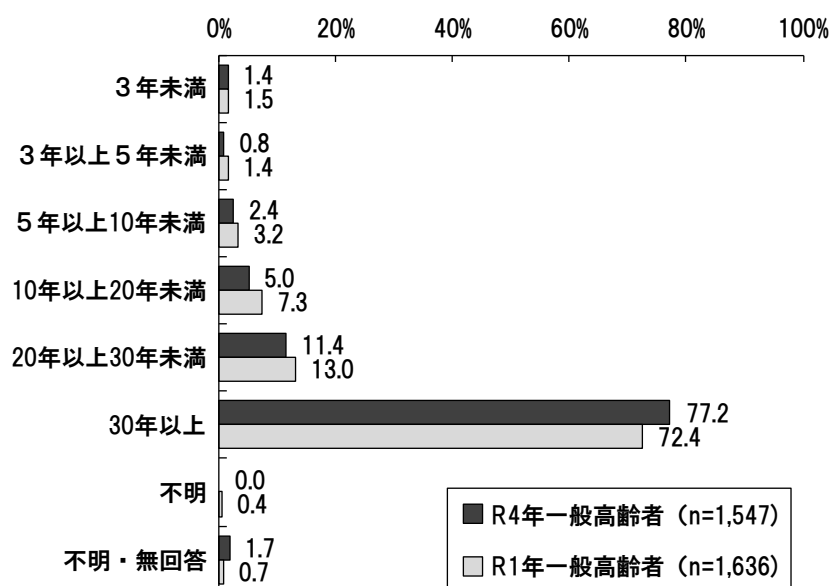


※選択肢の「兵庫」「三ツ池」はR4年度調査のみ、「部田山」はR1年度調査のみとなっています。



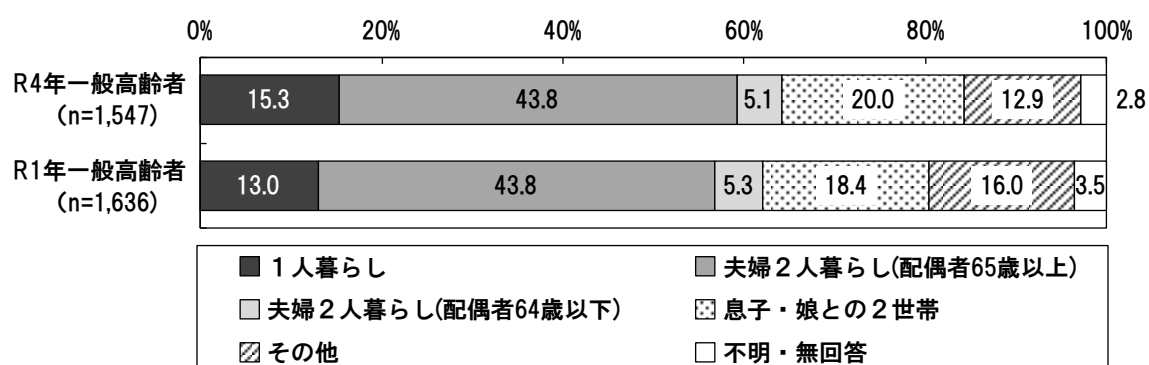
問4 あなたは、東郷町に住んで何年になりますか。

東郷町に住んでいる年数については、「30年以上」が77.2%と最も高く、次いで「20年以上30年未満」が11.4%となっています。



問5 家族構成を教えてください。

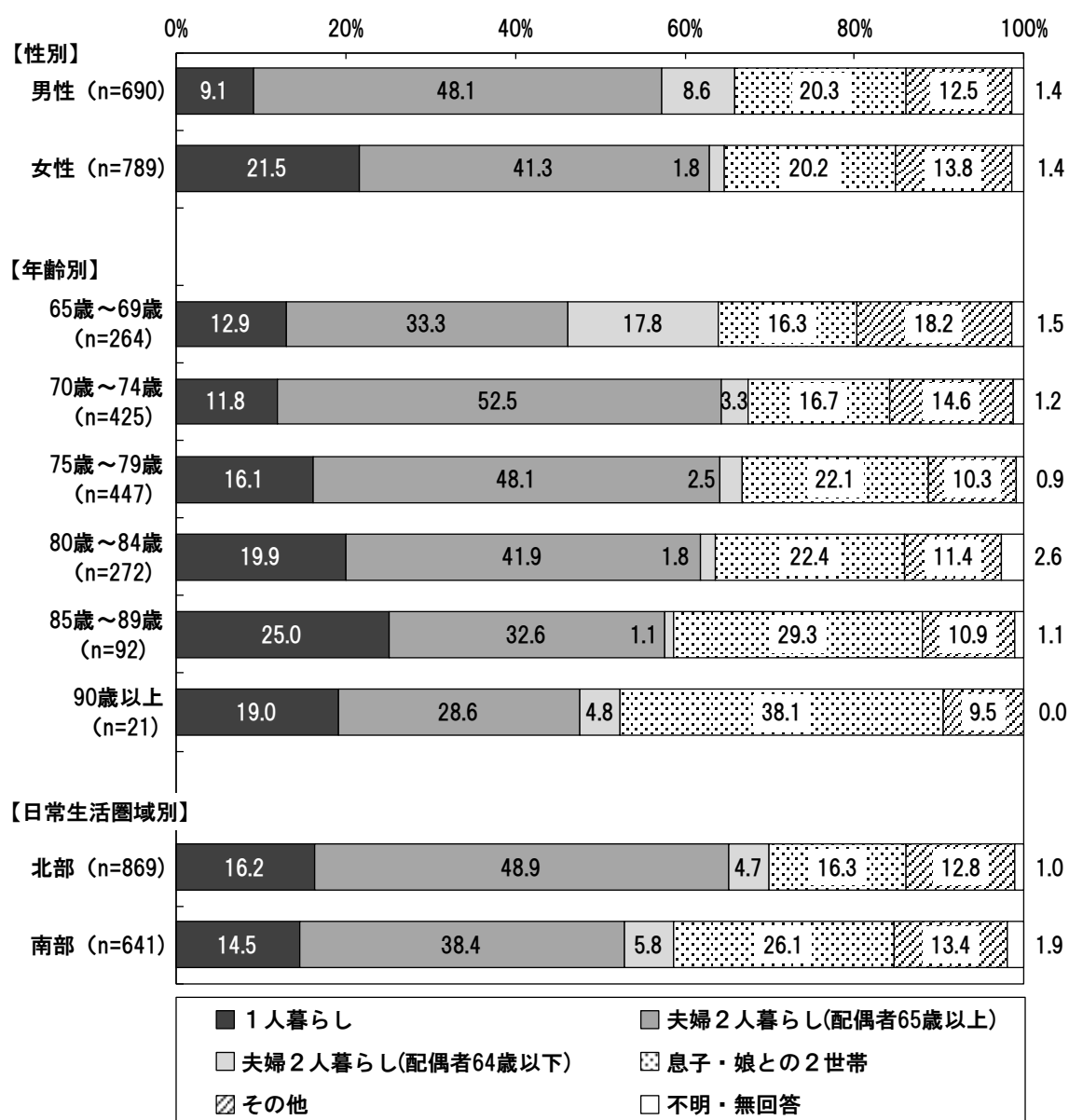
家族構成については、「夫婦2人暮らし(配偶者 65歳以上)」が43.8%と最も高く、次いで「息子・娘との2世帯」が20.0%となっています。



性別でみると、女性で「1人暮らし」が21.5%と、男性と比べて12.4ポイント高くなっています。

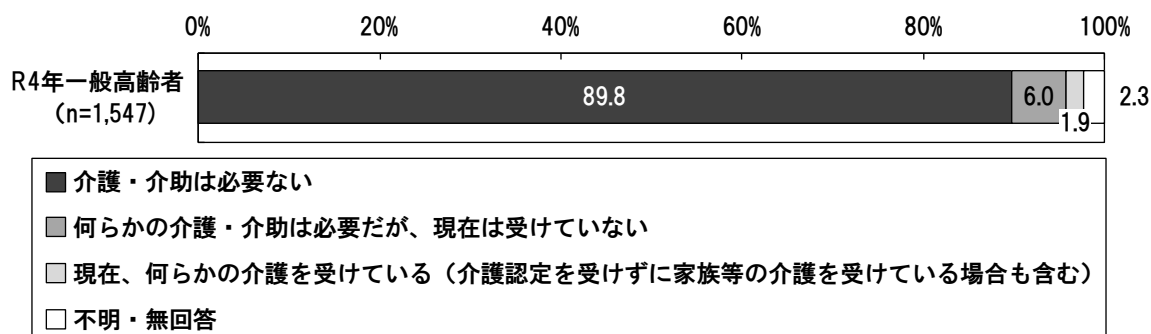
年齢別でみると、「1人暮らし」が85歳～89歳で25.0%、80歳～84歳、90歳以上でそれぞれ19%台となっています。なお、年齢が上がるにつれて「息子・娘との2世帯」が高くなっています。

日常生活圏域別でみると、「1人暮らし」が北部で16.2%、南部で14.5%となっています。なお、「息子・娘との2世帯」が南部で26.1%と、北部に比べて9.8ポイント高くなっています。



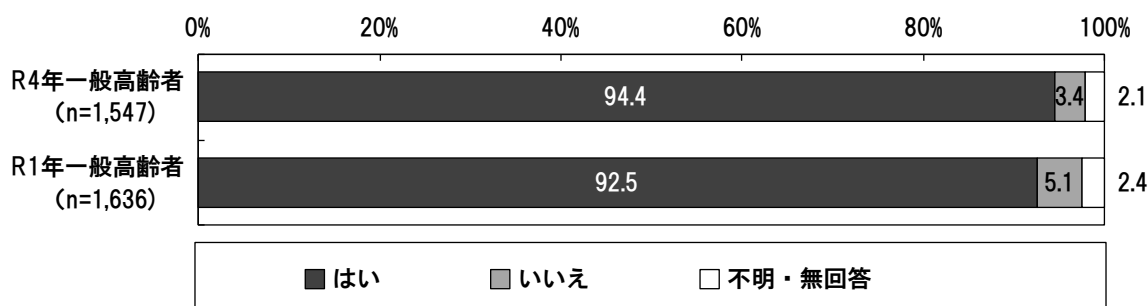
問6 あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。

普段の生活における介護・介助の必要性については、「介護・介助は必要ない」が 89.8%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が 6.0%、「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族等の介護を受けている場合も含む）」が 1.9%となっています。



問7 あなたは、東郷町で今後も生活していきたいですか。

東郷町での定住意向については、「はい」が 94.4%、「いいえ」が 3.4%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



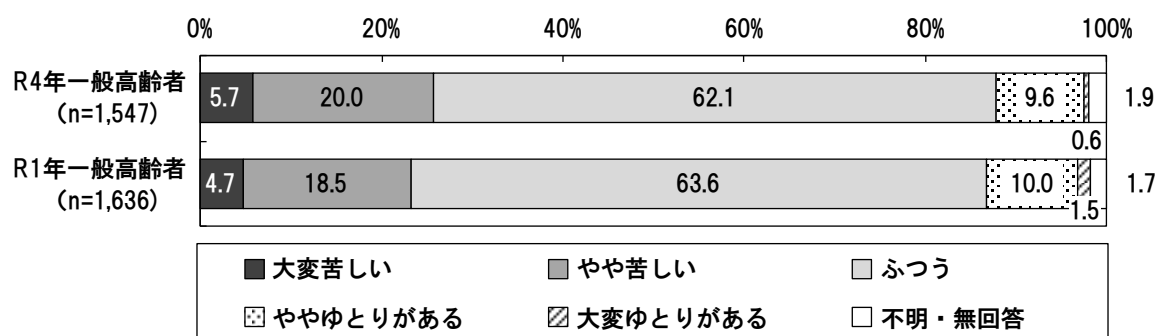
問8 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

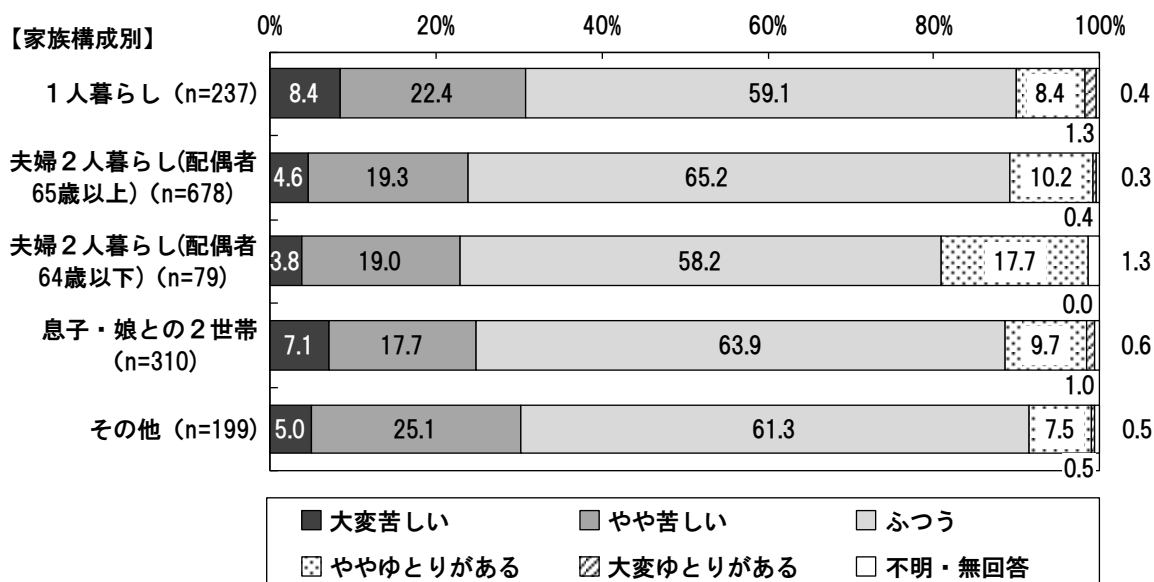
『苦しい』 … 「大変苦しい」と「やや苦しい」の合算

『ゆとりがある』 … 「ややゆとりがある」と「大変ゆとりがある」の合算

現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じているかについては、『苦しい』が25.7%、「ふつう」が62.1%、『ゆとりがある』が10.2%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



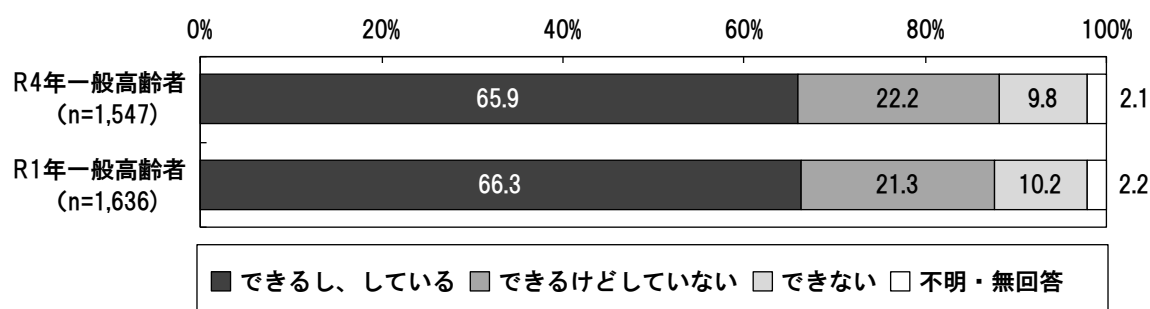
家族構成別でみると、1人暮らし、その他で『苦しい』がそれぞれ30%台と、他の家族構成と比べて高くなっています。



2. からだをうごかすことについて

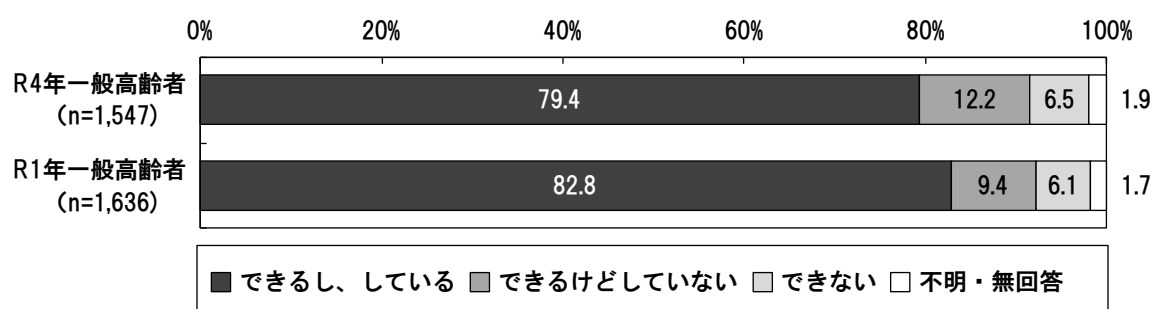
問9 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。

階段を手すりや壁をつたわずに昇っているかについては、「できるし、している」が65.9%、「できるけどしていない」が22.2%、「できない」が9.8%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



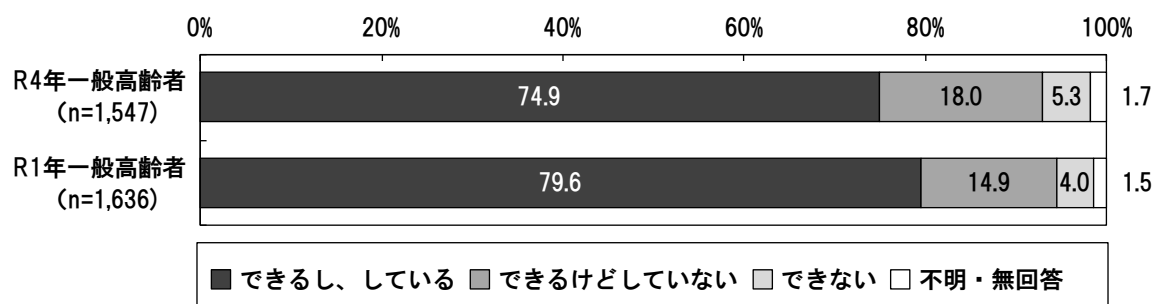
問10 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。

椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているかについては、「できるし、している」が79.4%、「できるけどしていない」が12.2%、「できない」が6.5%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



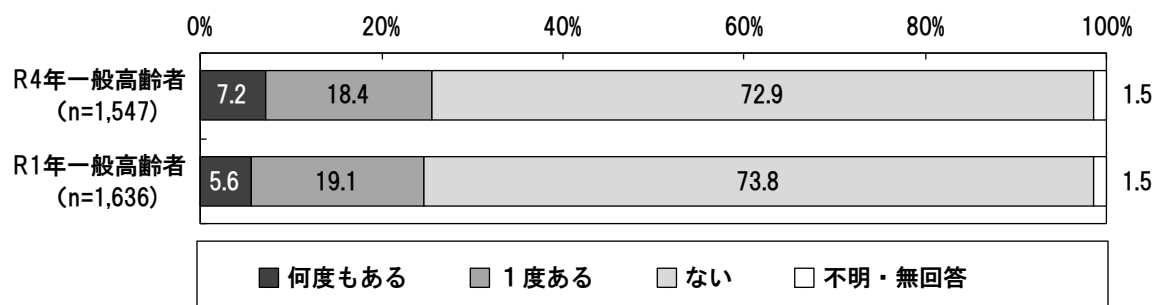
問11 続けて15分位歩いていますか。

続けて15分位歩いているかについては、「できるし、している」が74.9%、「できるけどしていない」が18.0%、「できない」が5.3%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



問 12 過去 1 年間に転んだ経験がありますか。

過去 1 年間に転んだ経験については、「何度もある」が 7.2%、「1 度ある」が 18.4%、「ない」が 72.9%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



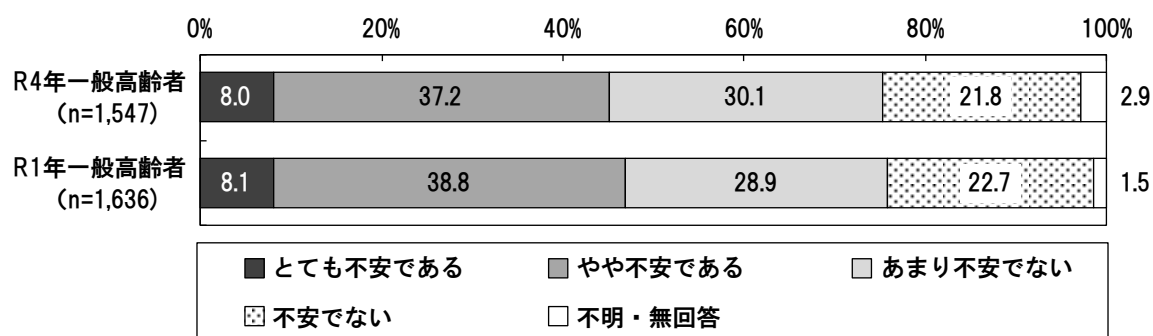
問 13 転倒に対する不安はありますか。

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『不安である』…「とても不安である」と「やや不安である」の合算

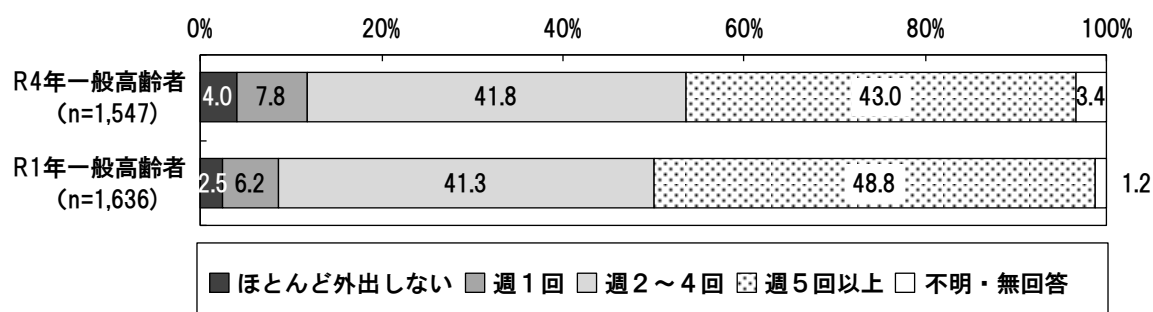
『不安でない』…「あまり不安でない」と「不安でない」の合算

転倒に対する不安については、『不安である』が 45.2%、『不安でない』が 51.9%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。

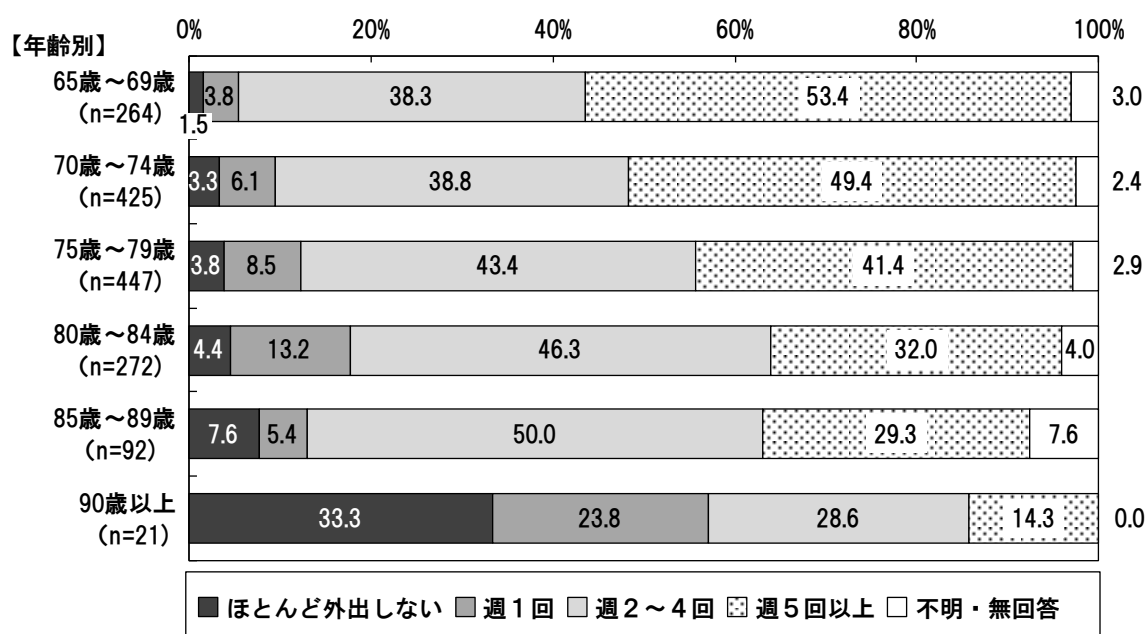


問 14 週にどの程度外出していますか。

1 週間の外出頻度については、「週 5 回以上」が 43.0%と最も高く、次いで「週 2～4 回」が 41.8%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「週 5 回以上」がやや低くなっています。



年齢別でみると、年齢が上がるにつれて「週 5 回以上」が低くなっています。なお、90 歳以上では「ほとんど外出しない」が 33.3%と、他の年齢と比べて高くなっています。



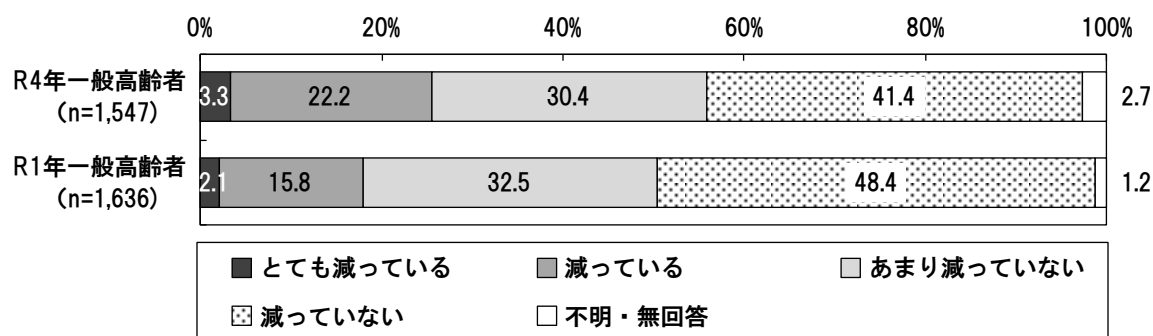
問 15 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『減っている』 … 「とても減っている」と「減っている」の合算

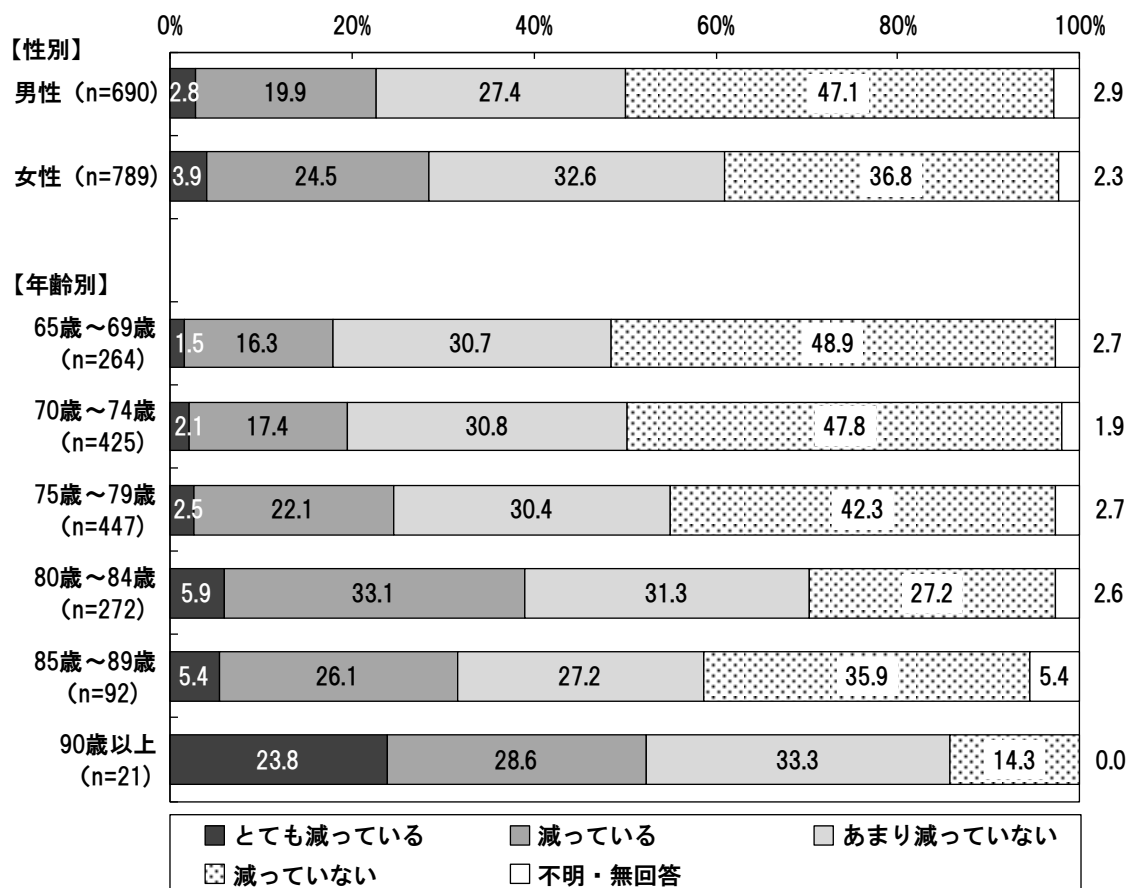
『減っていない』 … 「あまり減っていない」と「減っていない」の合算

昨年と比べて外出の回数の増減については、『減っている』が 25.5%、『減っていない』が 71.8%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、『減っている』がやや高くなっています。



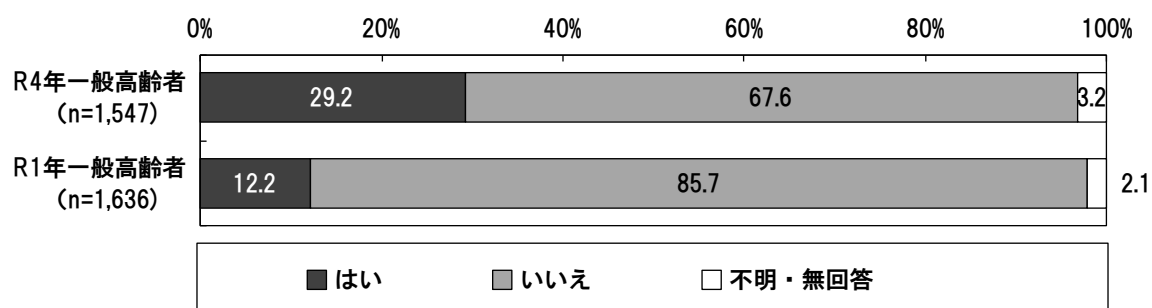
性別でみると、『減っている』が男性で 22.7%、女性で 28.4%となっています。

年齢別でみると、年齢が上がるにつれて『減っている』が高くなっており、90 歳以上では 52.4%となっています。

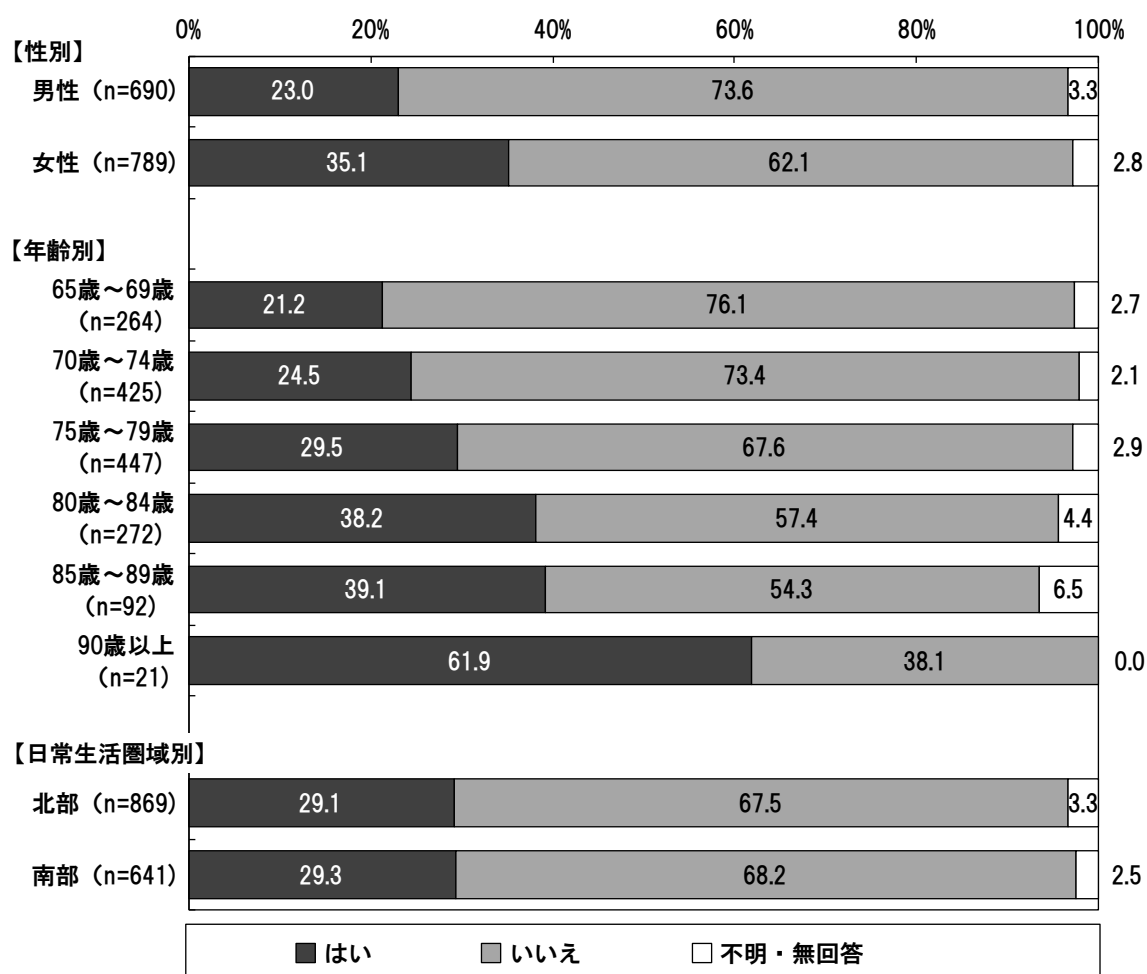


問 16 外出を控えていますか。

外出を控えているかについては、「はい」が 29.2%、「いいえ」が 67.6%となっています。
 なお、令和元年度調査と比較すると、「はい」が 17.0 ポイント高くなっています。



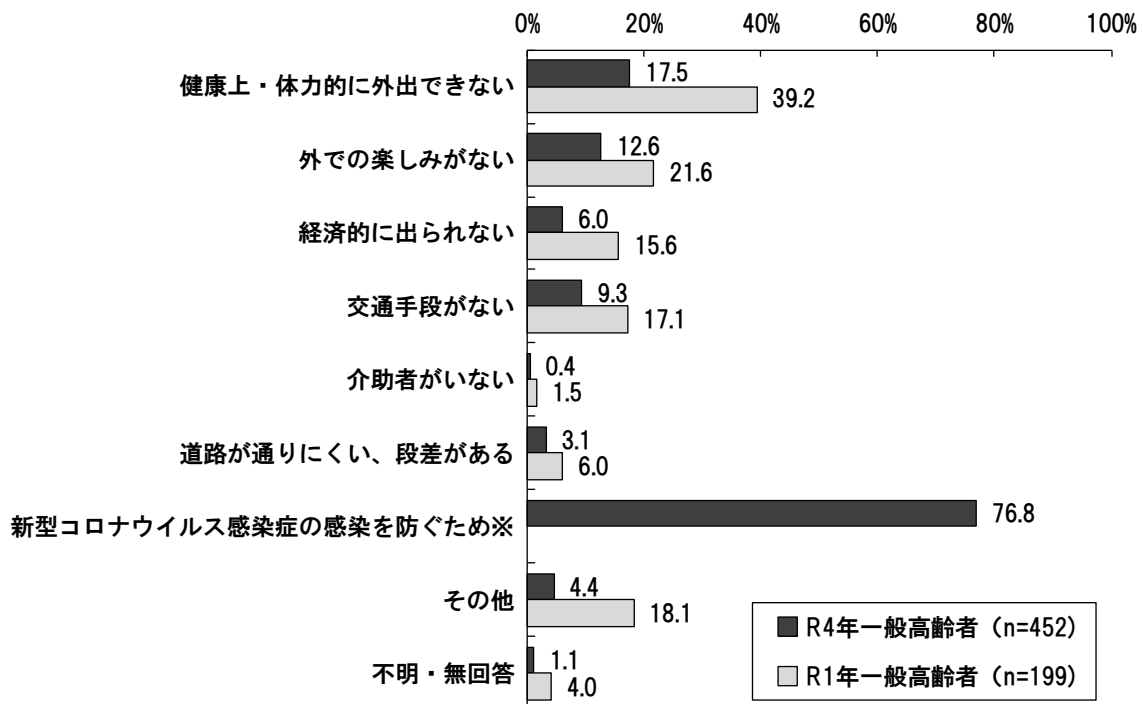
性別でみると、女性で「はい」が 35.1%と、男性と比べて 12.1 ポイント高くなっています。
 年齢別でみると、年齢が上がるにつれて「はい」が高くなっており、90 歳以上では 61.9%と、他の年齢と比べても突出して高くなっています。
 日常生活圏域別でみると、大きな差異はみられません。



【問 16 で「1. はい」と回答した方のみ】

問 16-1 外出を控えている理由は、次のどれですか。【複数回答】

外出を控えている理由については、「新型コロナウイルス感染症の感染を防ぐため」が76.8%と最も高く、次いで「健康上・体力的に外出できない」が17.5%となっています。



※選択肢の「新型コロナウイルス感染症の感染を防ぐため」は、R4 年度調査のみとなっています。

その他回答記載例
気分がのらない。
飲み会・活動が無くなった。
乗り物酔い
配偶者の健康

性別でみると、女性で「新型コロナウイルス感染症の感染を防ぐため」が80.1%と、男性と比べて10.3ポイント高くなっています。

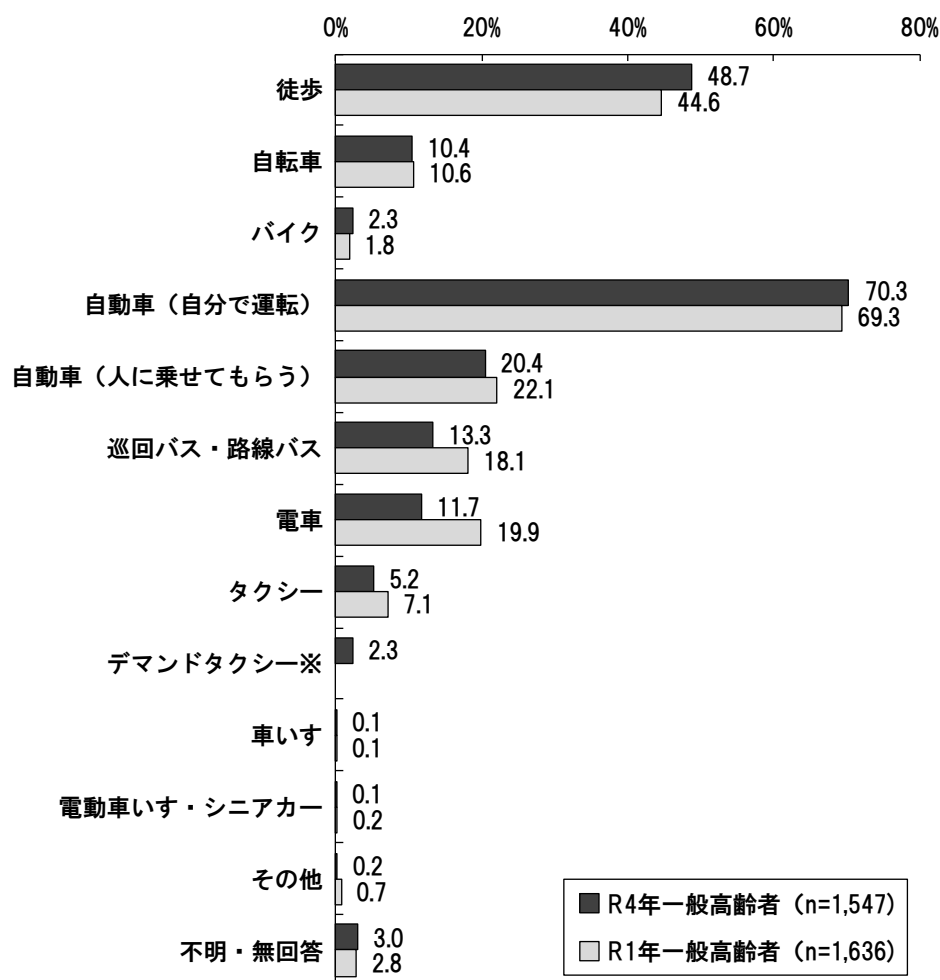
年齢別でみると、年齢が上がるにつれ「健康上・体力的に外出できない」が高くなっており、90歳以上では76.9%と高くなっています。また、80歳～84歳で「外での楽しみがない」が20.2%と、他の年齢と比べて高くなっています。

日常生活圏域別でみると、大きな差異はみられません。

(単位：%)	n=	健康上・体力的に外出できない	外での楽しみがない	経済的に出られない	交通手段がない	介助者がいない	道路が通りにくい、段差がある	新型コロナウイルス感染症の感染を防ぐため	その他	不明・無回答
性別										
男性	159	22.0	14.5	9.4	8.2	0.0	3.1	69.8	3.8	1.3
女性	277	14.8	11.6	3.6	10.1	0.7	3.2	80.1	4.3	1.1
年齢別										
65歳～69歳	56	7.1	5.4	7.1	8.9	0.0	3.6	87.5	3.6	0.0
70歳～74歳	104	12.5	9.6	10.6	4.8	1.0	3.8	82.7	2.9	0.0
75歳～79歳	132	16.7	12.1	3.8	8.3	0.8	3.0	78.0	3.0	1.5
80歳～84歳	104	18.3	20.2	3.8	13.5	0.0	1.9	70.2	3.8	1.0
85歳～89歳	36	25.0	13.9	5.6	8.3	0.0	2.8	61.1	16.7	5.6
90歳以上	13	76.9	7.7	0.0	23.1	0.0	7.7	53.8	0.0	0.0
日常生活圏域別										
北部	253	16.6	12.6	3.6	8.7	0.4	2.8	75.9	3.2	2.0
南部	188	18.6	12.2	8.5	9.6	0.5	3.7	76.6	5.9	0.0

問 17 外出する際の移動手段は何ですか。【複数回答】

外出する際の移動手段については、「自動車（自分で運転）」が 70.3%と最も高く、次いで「徒歩」が48.7%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「電車」が8.2ポイント低くなっています。



※選択肢の「デマンドタクシー」は、R4 年度調査のみとなっています。

性別でみると、男性で「自動車（自分で運転）」が 81.9%と、女性と比べて 21.3 ポイント高くなっています。また、女性で「自動車（人に乗せてもらう）」が 29.9%と、男性と比べて 20.2 ポイント高くなっています。

年齢別でみると「自動車（自分で運転）」が、80歳～84歳で52.6%、85歳～89歳で46.7%、90歳以上で23.8%と65歳～79歳と比べて低いものの、高い割合となっています。なお、「巡回バス・路線バス」は、割合が高い年齢でも75歳以上でそれぞれ15%～19%にとどまっています。

日常生活圏域別でみると、いずれの圏域も「自動車（自分で運転）」が70%台と高くなっています。一方、「巡回バス・路線バス」は、北部で16.8%と、南部と比べて8.4ポイント高くなっています。

(単位：%)	n=	徒歩	自転車	バイク	自動車（自分で運転）	自動車（人に乗せてもらう）	巡回バス・路線バス	電車	タクシー	デマンドタクシー	車いす
性別											
男性	690	46.7	11.6	3.2	81.9	9.7	8.6	10.3	2.5	0.9	0.1
女性	789	50.4	8.7	1.5	60.6	29.9	17.6	12.9	7.7	3.7	0.0
年齢別											
65歳～69歳	264	46.6	12.1	3.0	84.5	13.6	10.6	12.9	1.9	0.4	0.0
70歳～74歳	425	49.2	11.1	4.2	81.6	18.4	9.6	11.8	3.1	0.7	0.0
75歳～79歳	447	47.7	9.4	0.9	69.4	20.4	15.2	11.6	4.7	2.7	0.0
80歳～84歳	272	51.5	10.3	1.8	52.6	29.4	16.9	11.0	9.6	4.8	0.4
85歳～89歳	92	53.3	9.8	1.1	46.7	18.5	16.3	9.8	12.0	5.4	0.0
90歳以上	21	33.3	9.5	0.0	23.8	52.4	19.0	9.5	14.3	4.8	0.0
日常生活圏域別											
北部	869	51.2	9.8	2.3	70.0	20.4	16.8	15.5	6.0	2.6	0.0
南部	641	45.4	11.7	2.5	71.1	20.7	8.4	6.4	4.1	1.9	0.2

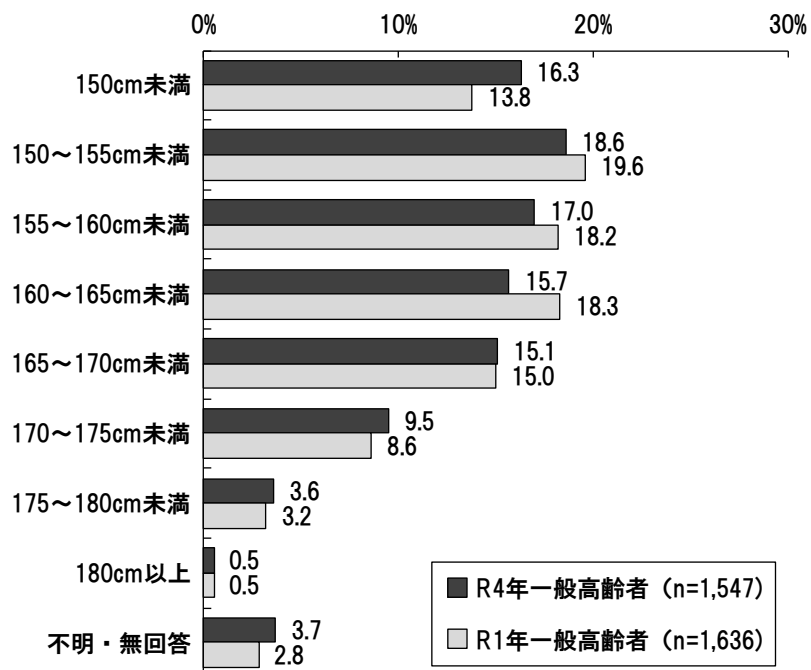
(単位：%)	n=	電動シニアカー 車いす・ その他	不明・無回答
性別			
男性	690	0.1	3.5
女性	789	0.1	2.4
年齢別			
65歳～69歳	264	0.0	2.7
70歳～74歳	425	0.0	2.6
75歳～79歳	447	0.2	2.9
80歳～84歳	272	0.4	2.9
85歳～89歳	92	0.0	5.4
90歳以上	21	0.0	0.0
日常生活圏域別			
北部	869	0.0	2.9
南部	641	0.3	2.8

3. 食えることについて

問 18 身長・体重をご記入ください。【数量回答】

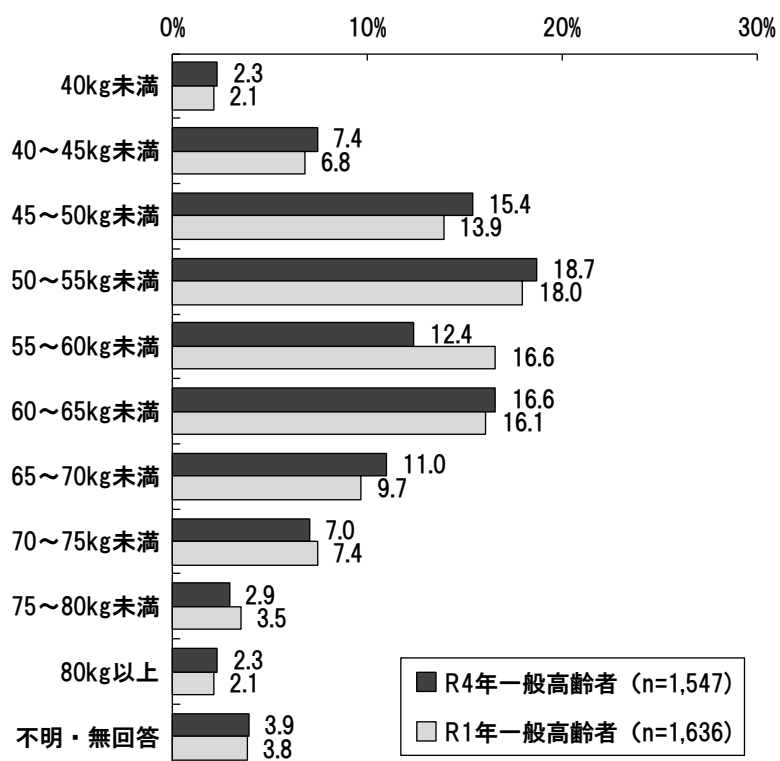
① 身長

身長については、「150～155cm 未満」が18.6%と最も高く、次いで「155～160cm 未満」が17.0%となっています。



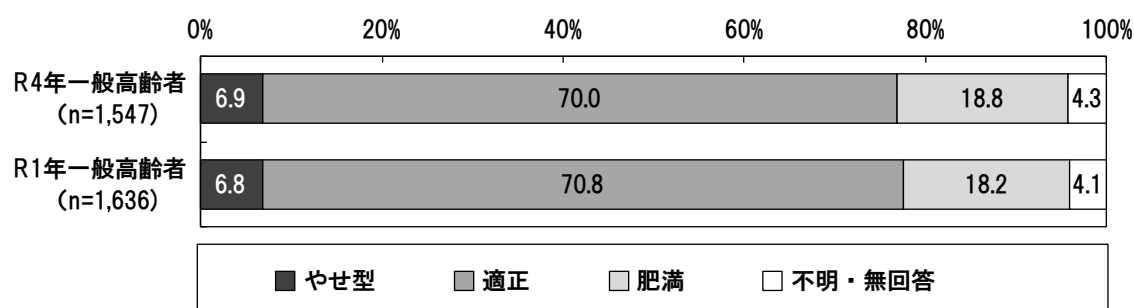
② 体重

体重については、「50～55kg 未満」が18.7%と最も高く、次いで「60～65kg 未満」が16.6%となっています。



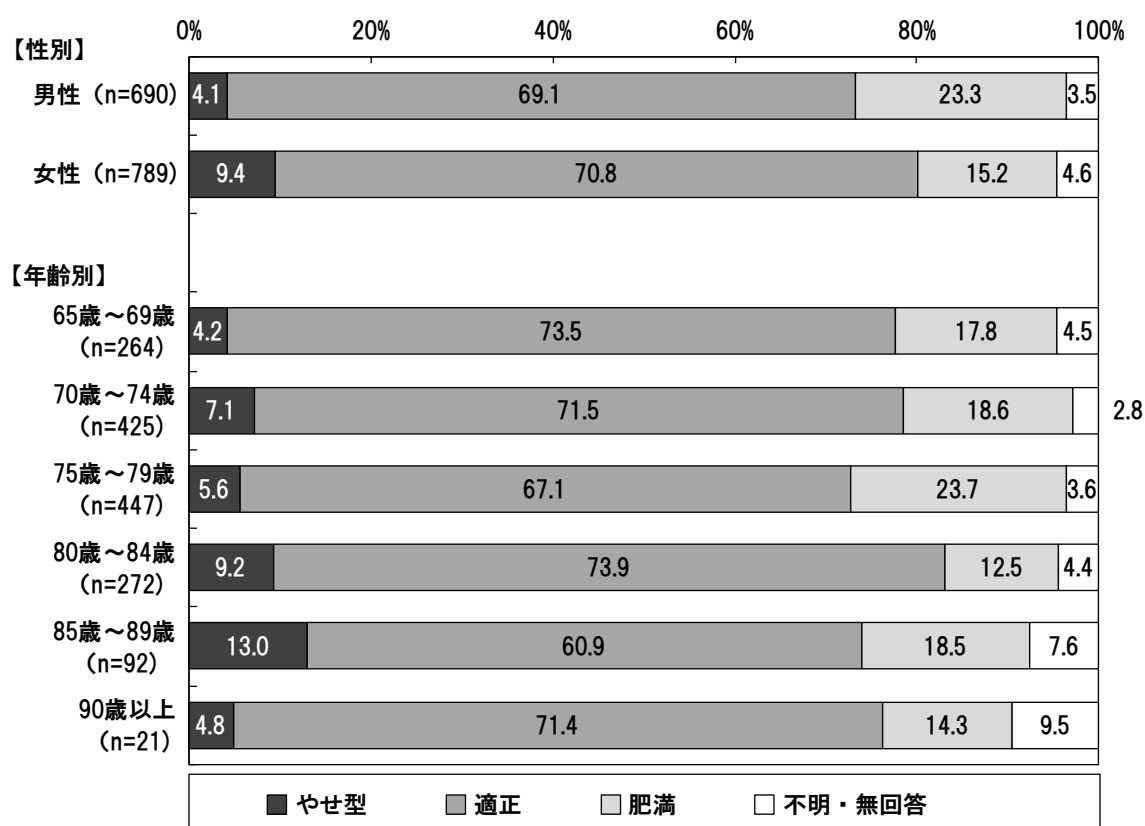
③ BMI

BMIについては、「やせ型」が6.9%、「適正」が70.0%、「肥満」が18.8%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



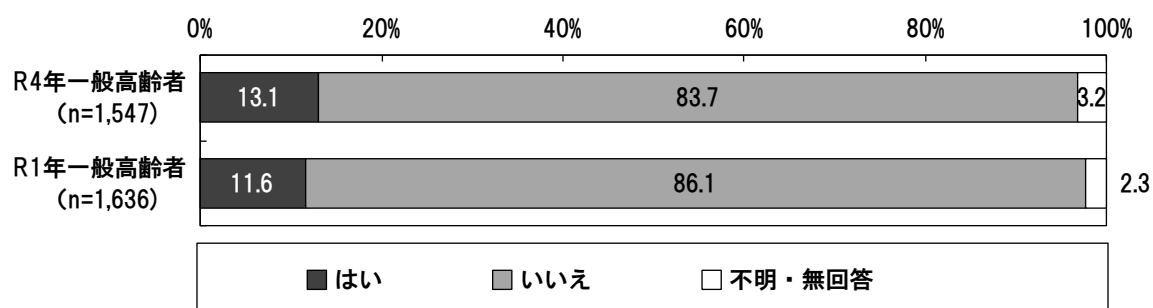
性別でみると、「やせ型」が男性で 4.1%、女性で 9.4%と、女性でやや高くなっています。なお、「肥満」が男性で 23.3%と、女性と比べて 8.1 ポイント高くなっています。

年齢別でみると、85 歳～89 歳で「やせ型」が 13.0%、75 歳～79 歳で「肥満」が 23.7%と、それぞれ他の年齢と比べて高くなっています。



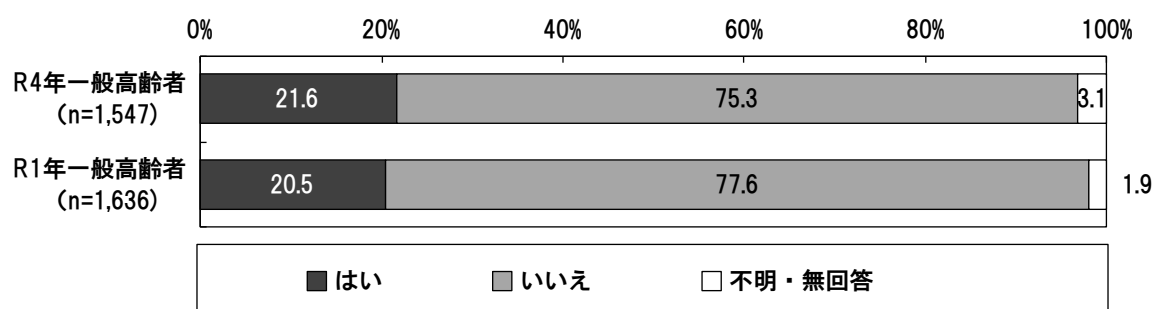
問 19 この半年間で、2～3 kg以上の体重減少がありましたか。

この半年間での2～3 kg以上の体重減少の有無については、「はい」が13.1%、「いいえ」が83.7%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



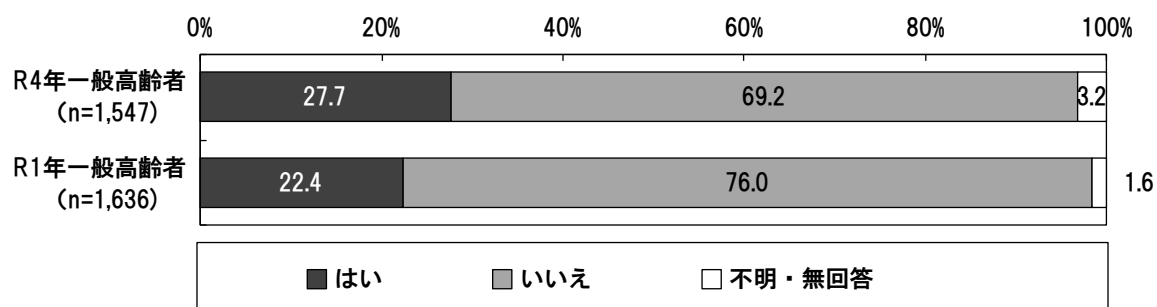
問 20 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。

半年前に比べて固いものが食べにくくなったかについては、「はい」が21.6%、「いいえ」が75.3%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



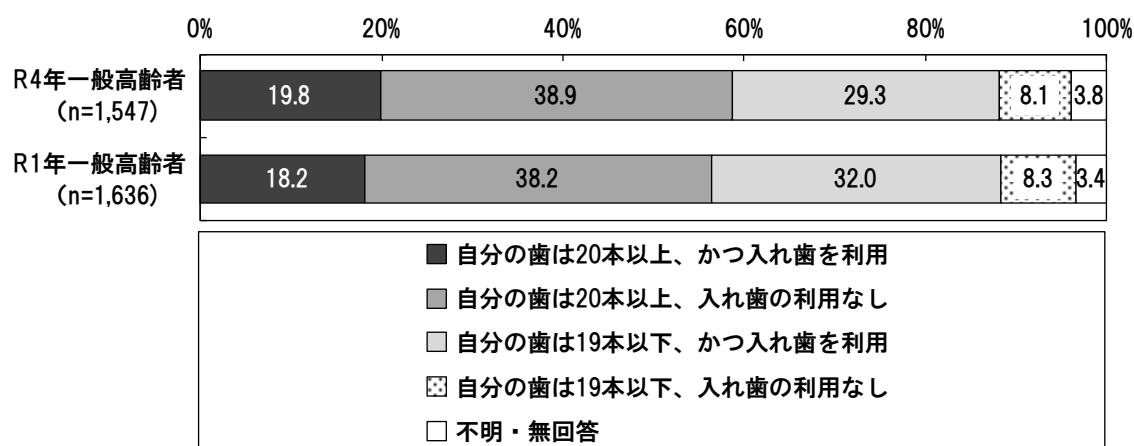
問 21 この半年間で、お茶や汁物等でむせることができましたか。

この半年間で、お茶や汁物等でむせることの有無については、「はい」が27.7%、「いいえ」が69.2%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「はい」がやや高くなっています。



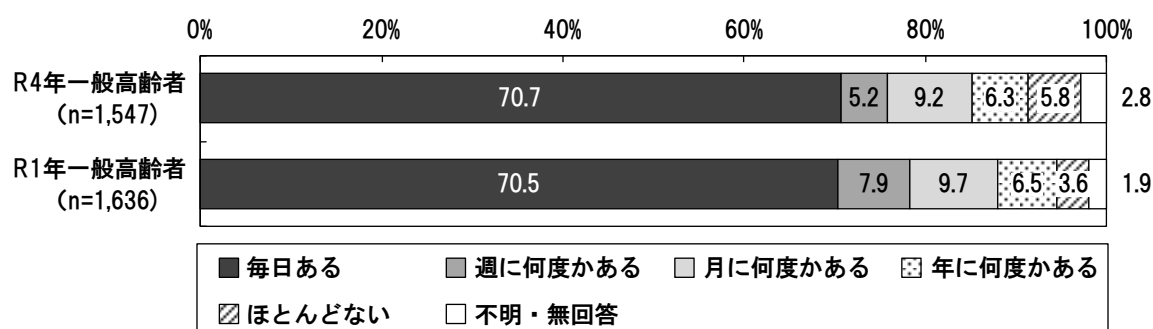
問 22 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。（成人の歯の総本数は、親知らずを含めて 32 本です）

歯の数と入れ歯の利用状況については、「自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし」が 38.9%と最も高く、次いで「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」が 29.3%となっています。入れ歯を利用している人の合計は 49.1%、利用していない人の合計は 47.0%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



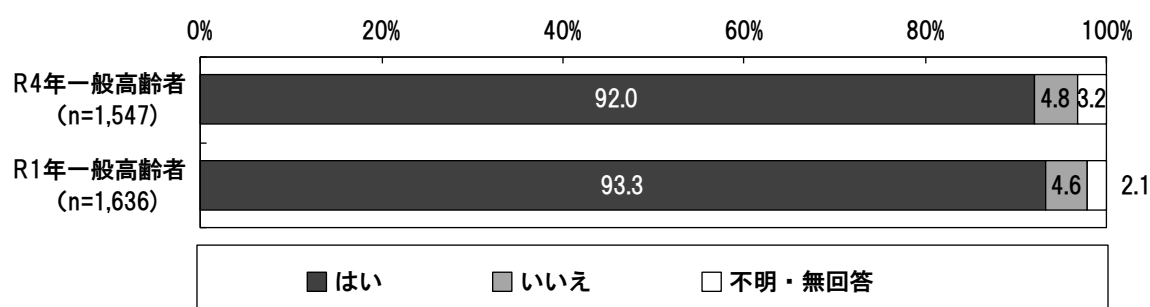
問 23 どなたか（家族を含む）と食事をとにもする機会がありますか。

食事をとにもする機会については、「毎日ある」が70.7%と最も高く、次いで「月に何度かある」が 9.2%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



問 24 食べることは、楽しいですか。

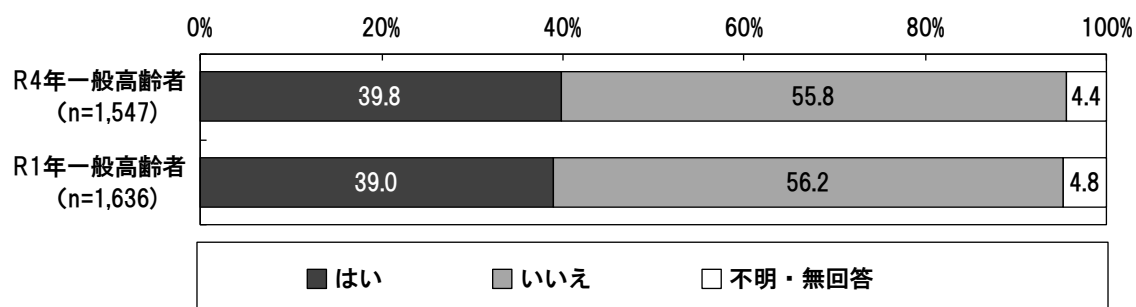
食べることは楽しいかについては、「はい」が 92.0%、「いいえ」が 4.8%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



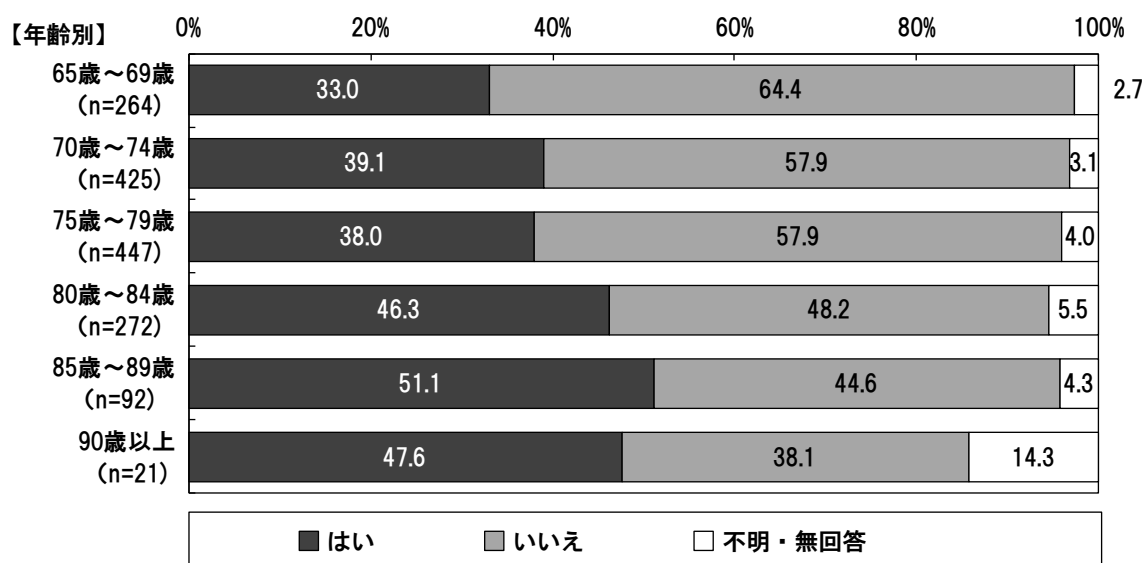
4. 毎日の生活について

問 25 物忘れが多いと感じますか。

物忘れが多いかについては、「はい」が 39.8%、「いいえ」が 55.8%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。

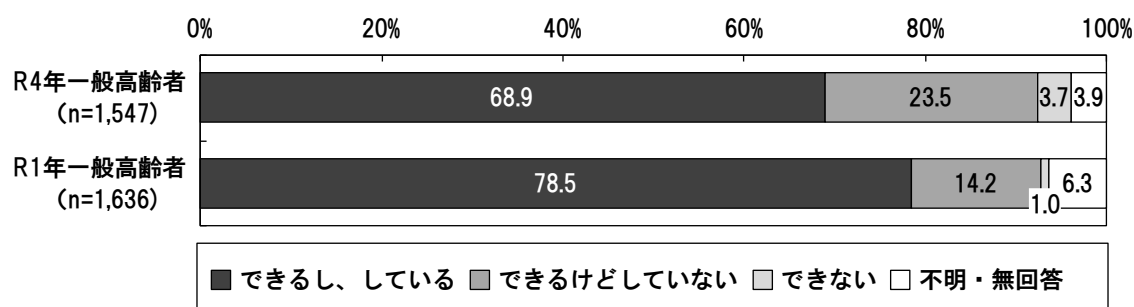


年齢別でみると、85歳～89歳で「はい」が51.1%と、他の年齢と比べて高くなっています。



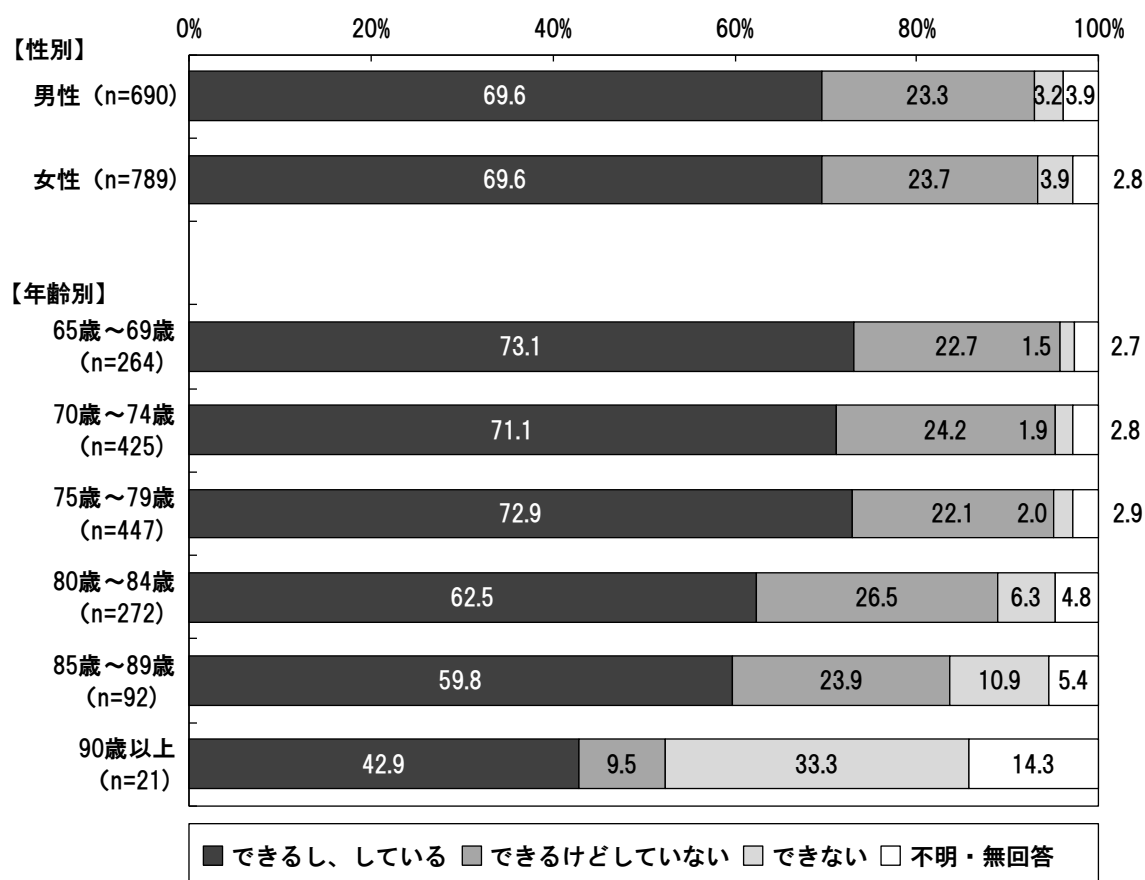
問 26 バスや電車等（自家用車を含む）を使って1人で外出していますか。

バスや電車等（自家用車を含む）を使って1人で外出しているかについては、「できるし、している」が68.9%、「できるけどしていない」が23.5%、「できない」が3.7%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「できるし、している」が9.6ポイント低くなっています。



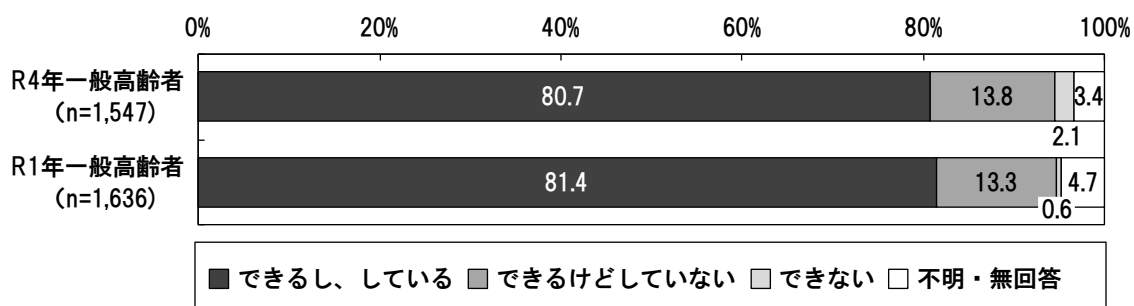
性別でみると、大きな差異はみられません。

年齢別でみると、「できるけどしていない」が65歳～89歳でそれぞれ20%台となっています。



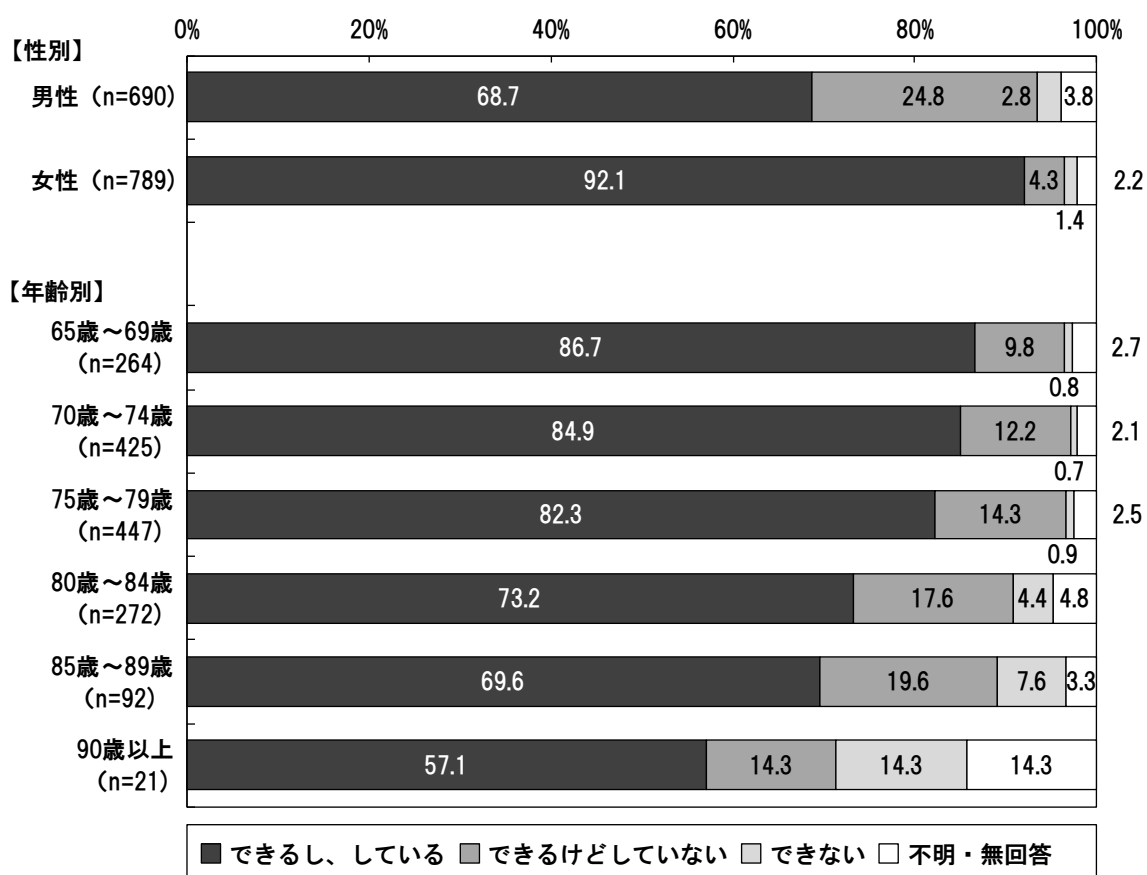
問 27 自分で食品・日用品の買物をしていますか。

自分で食品・日用品の買物をしているかについては、「できるし、している」が80.7%、「できるけどしていない」が13.8%、「できない」が2.1%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



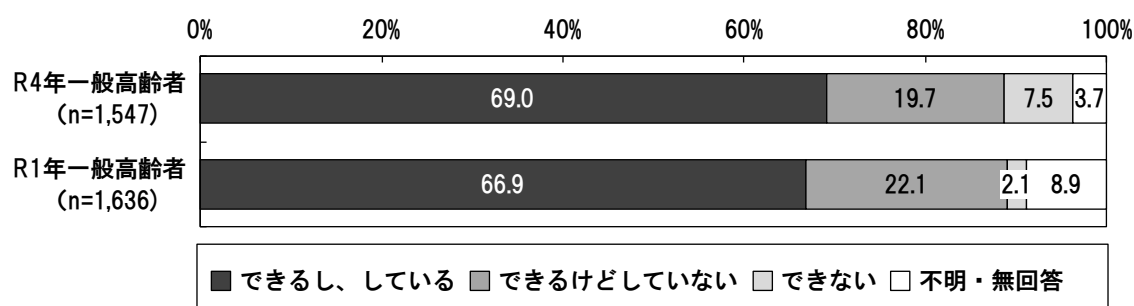
性別でみると、男性で「できるけどしていない」が24.8%と、女性と比べて20.5ポイント高くなっています。

年齢別でみると、65歳～89歳で「できるけどしていない」が、年齢が上がるにつれて高くなっています。



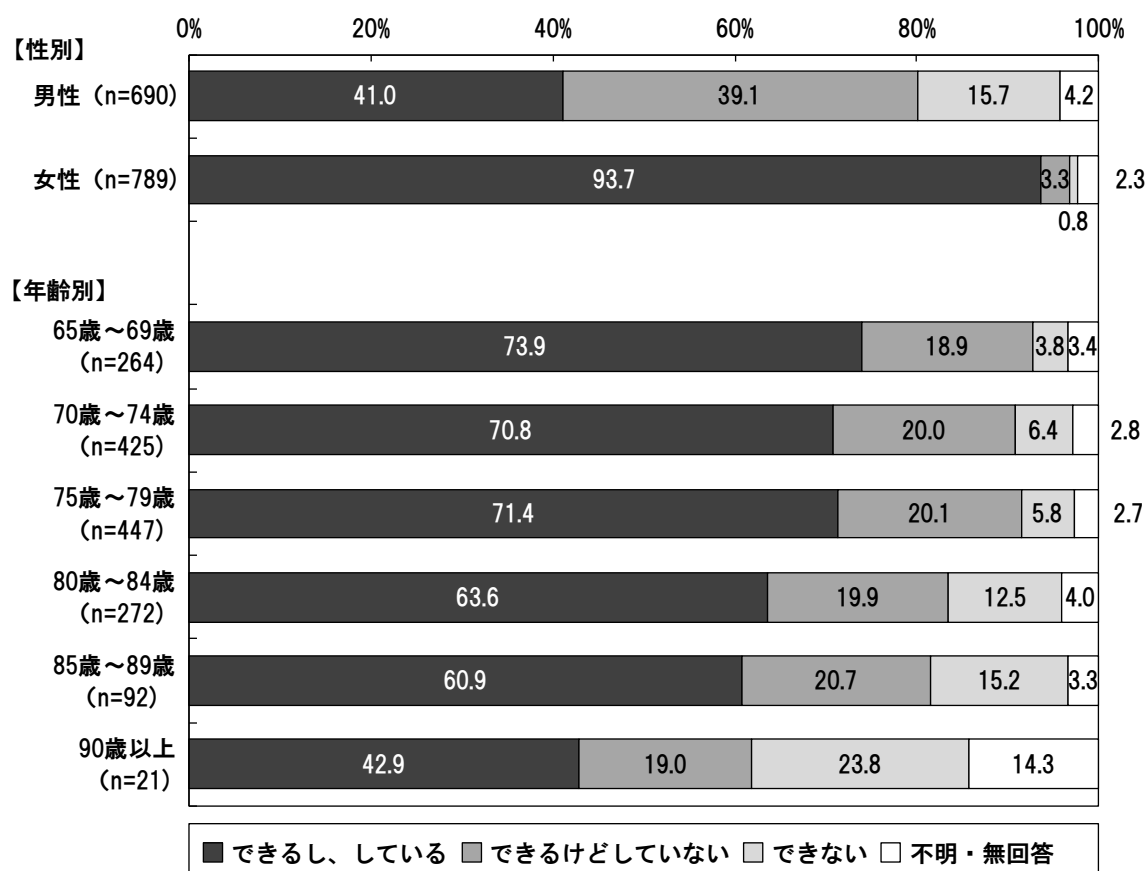
問 28 自分で食事の用意をしていますか。

自分で食事の用意をしているかについては、「できるし、している」が69.0%、「できるだけしていない」が19.7%、「できない」が7.5%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「できない」がやや高くなっています。



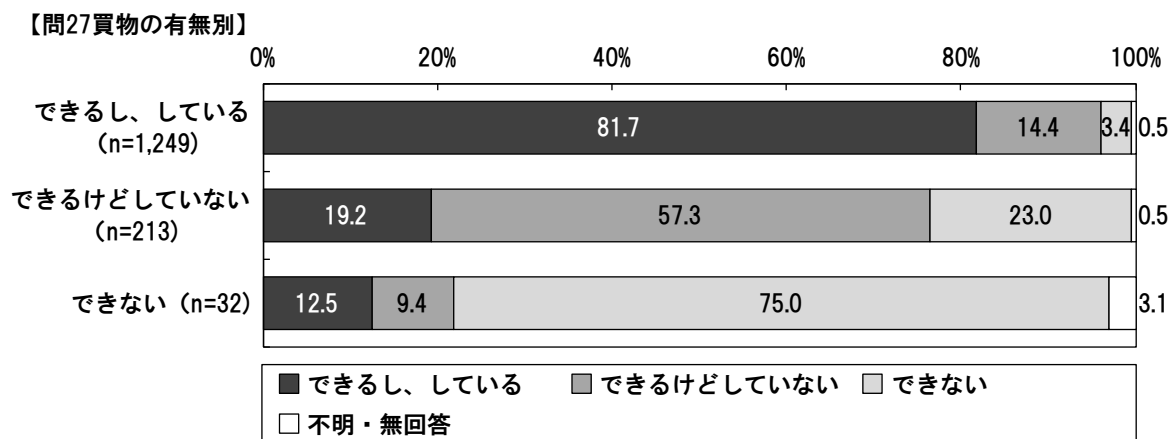
性別でみると、男性で「できるだけしていない」が39.1%と、女性と比べて35.8ポイント高くなっています。

年齢別でみると、いずれの年齢でも「できるだけしていない」が20%前後となっています。



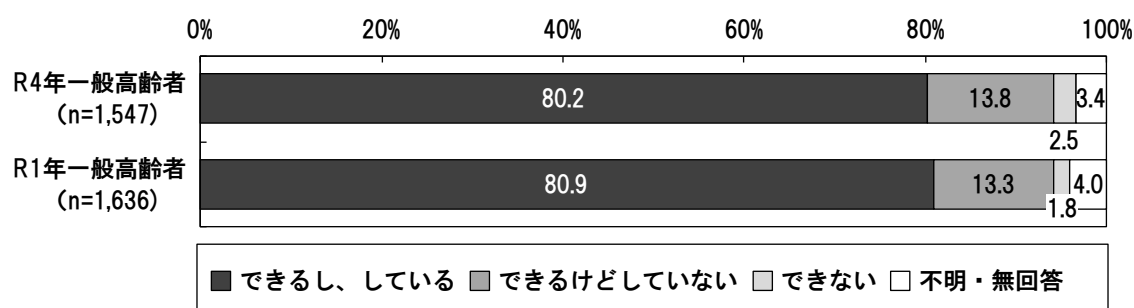
■問 27×問 28

買物の有無別でみると、買物が自分で「できるし、している」人の81.7%は自分で食事の用意が「できるし、している」となっています。買物を自分でしている人は、食事の用意も自分でしていることが多く、買物を自分でしていない（「できるけどしていない」または「できない」）人は、食事の用意も自分でしていないことが多くなっています。



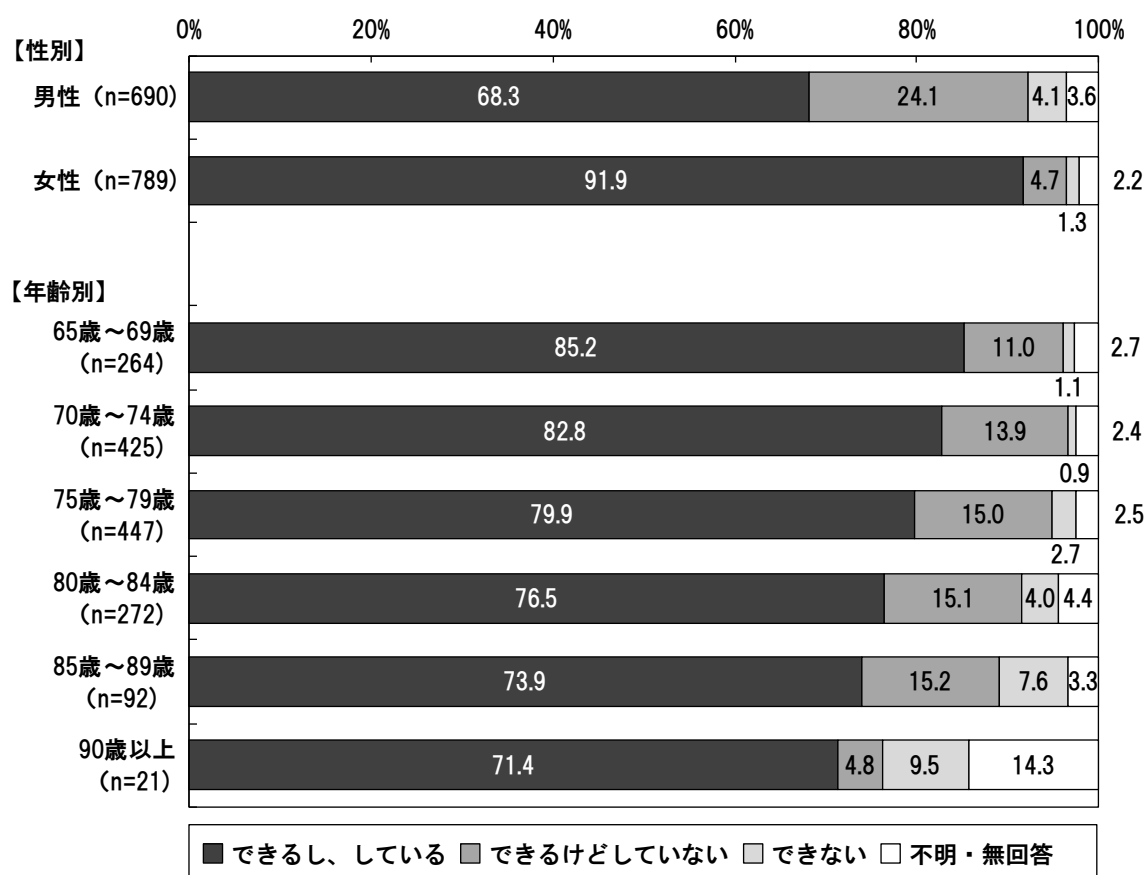
問 29 自分で請求書の支払いをしていますか。

自分で請求書の支払いをしているかについては、「できるし、している」が80.2%、「できるけどしていない」が13.8%、「できない」が2.5%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



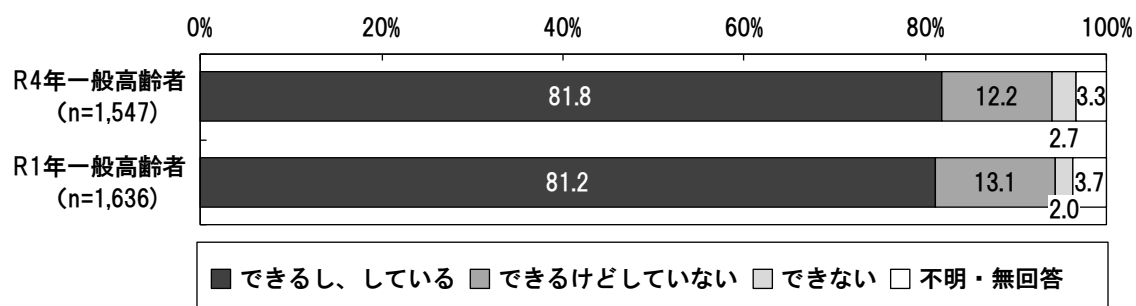
性別でみると、男性で「できるけどしていない」が24.1%と、女性と比べて19.4ポイント高くなっています。

年齢別でみると、75歳～89歳で「できるけどしていない」が15%台と、他の年齢と比べて高くなっています。



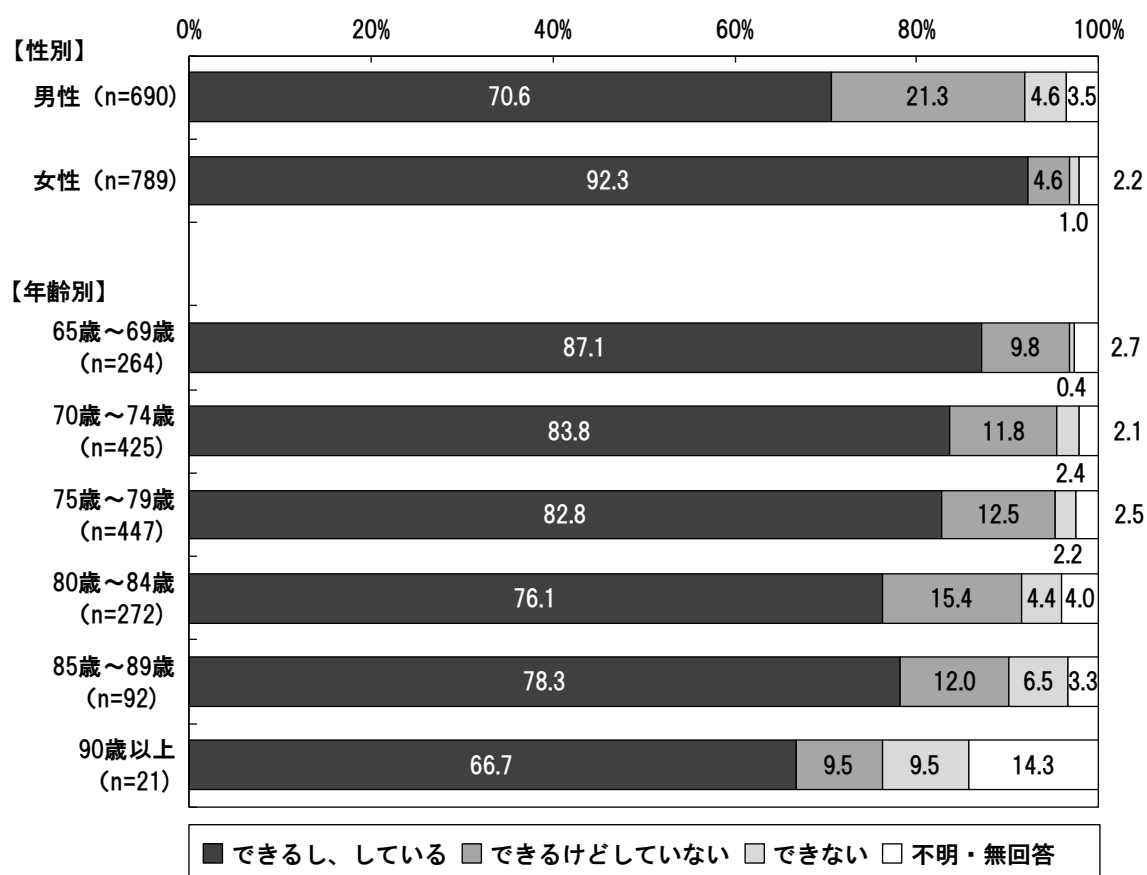
問 30 自分で預貯金の出し入れをしていますか。

自分で預貯金の出し入れをしているかについては、「できるし、している」が81.8%、「できるけどしていない」が12.2%、「できない」が2.7%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



性別でみると、男性で「できるけどしていない」が21.3%と、女性と比べて16.7ポイント高くなっています。

年齢別でみると、80歳～84歳で「できるけどしていない」が15.4%と、他の年齢と比べて高くなっています。



5. 地域での活動について

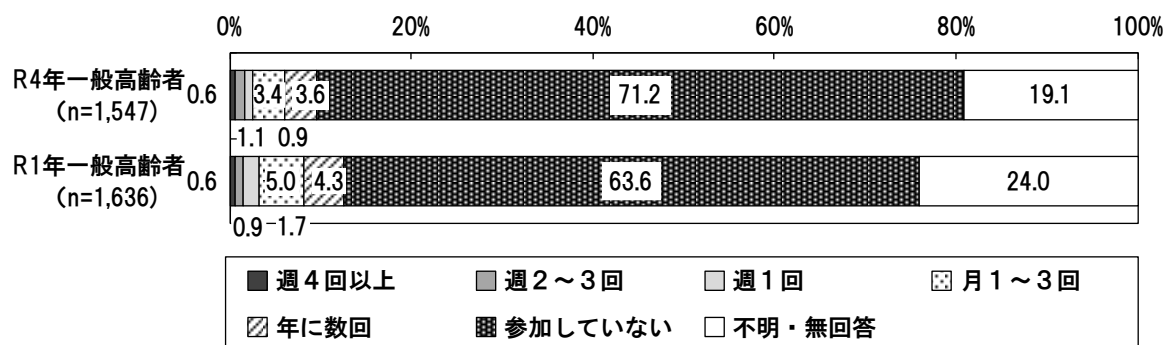
問 31 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『参加している』…「週4回以上」「週2～3回」「週1回」「月1～3回」「年に数回」の合算

① ボランティアのグループ（NPO を含む）

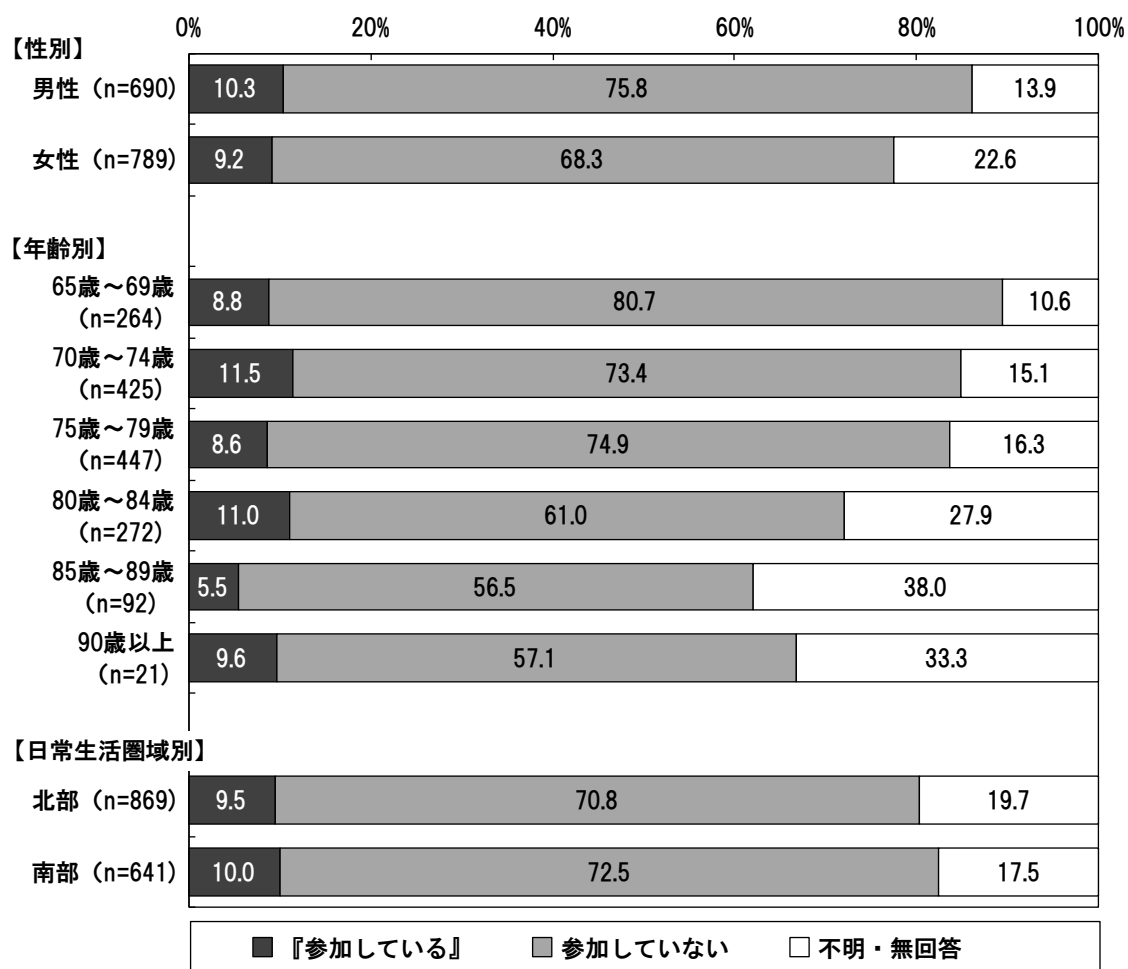
ボランティアのグループ（NPO を含む）への参加頻度については、「参加していない」が 71.2%と最も高く、次いで「年に数回」が 3.6%となっており、年に数回以上『参加している』は 9.6%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「参加していない」がやや高くなっています。



性別でみると、『参加している』は男性で10.3%、女性で9.2%となっています。

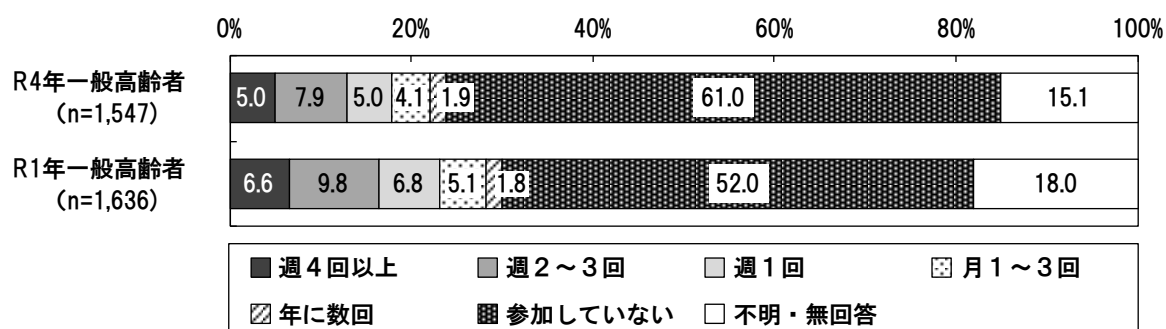
年齢別でみると、『参加している』は70歳～74歳、80歳～84歳でそれぞれ11%台となっており、他の年齢と比べてやや高くなっています。

日常生活圏域別でみると、『参加している』は北部で9.5%、南部で10.0%となっています。



② スポーツ関係のグループやクラブ

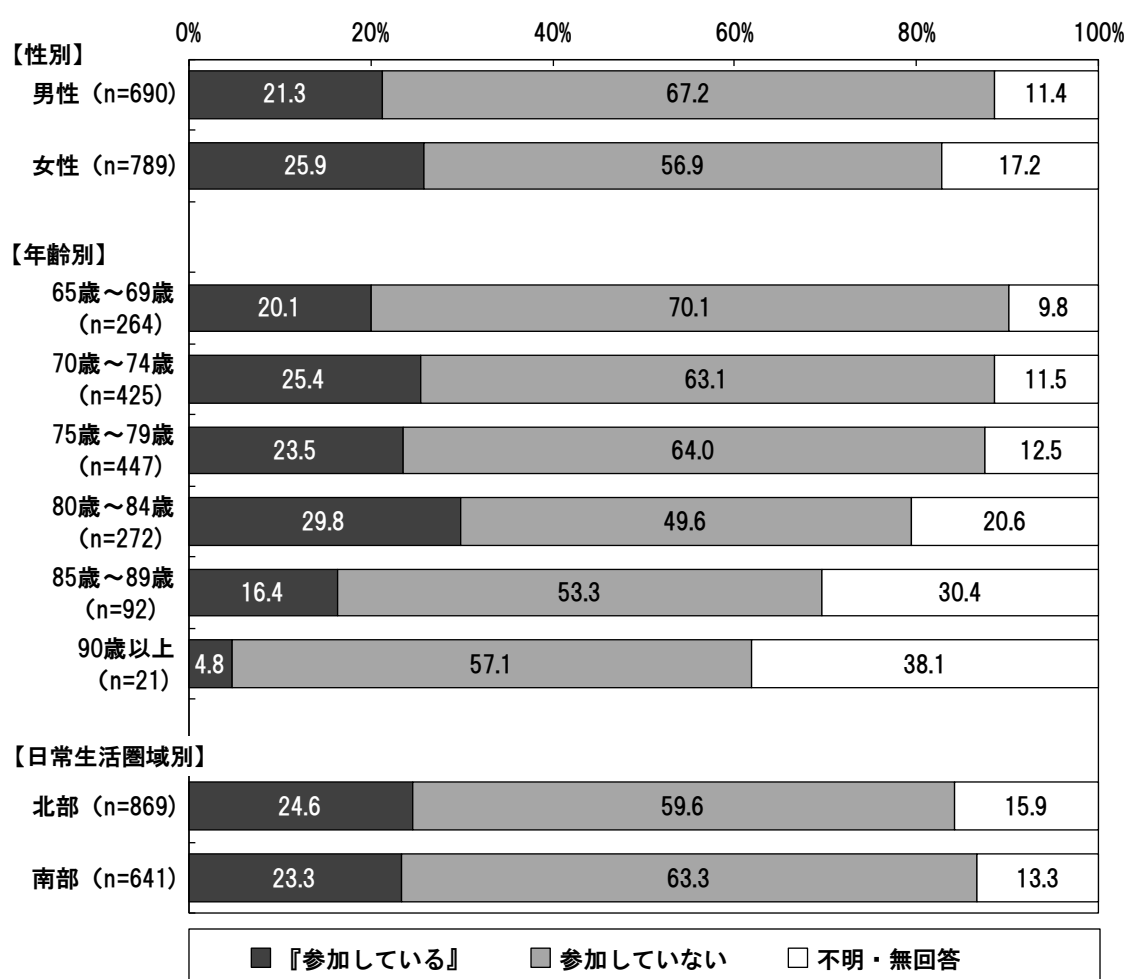
スポーツ関係のグループやクラブへの参加頻度については、「参加していない」が61.0%と最も高く、次いで「週2～3回」が7.9%となっており、年に数回以上『参加している』は23.9%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「参加していない」が9.0ポイント高くなっています。



性別でみると、『参加している』は男性で21.3%、女性で25.9%となっています。なお、男性で「参加していない」が67.2%と、女性と比べて10.3ポイント高くなっています。

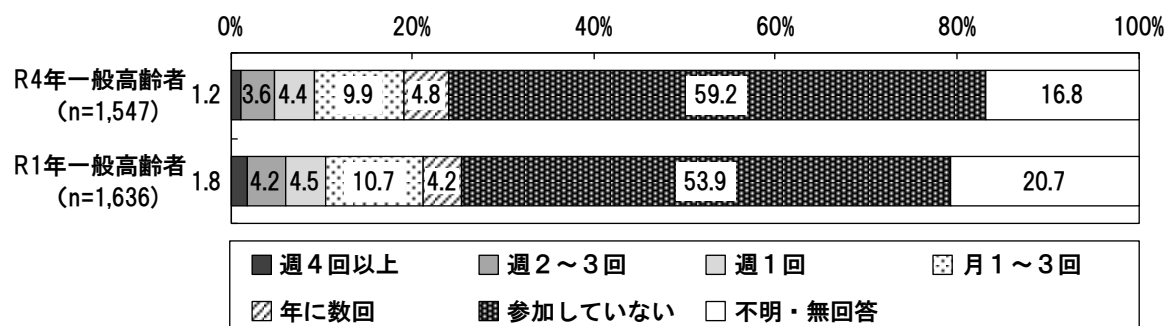
年齢別でみると、『参加している』は65歳～84歳でそれぞれ20%台となっており、85歳以上と比べて高くなっています。

日常生活圏域別でみると、『参加している』は北部で24.6%、南部で23.3%となっています。



③ 趣味関係のグループ

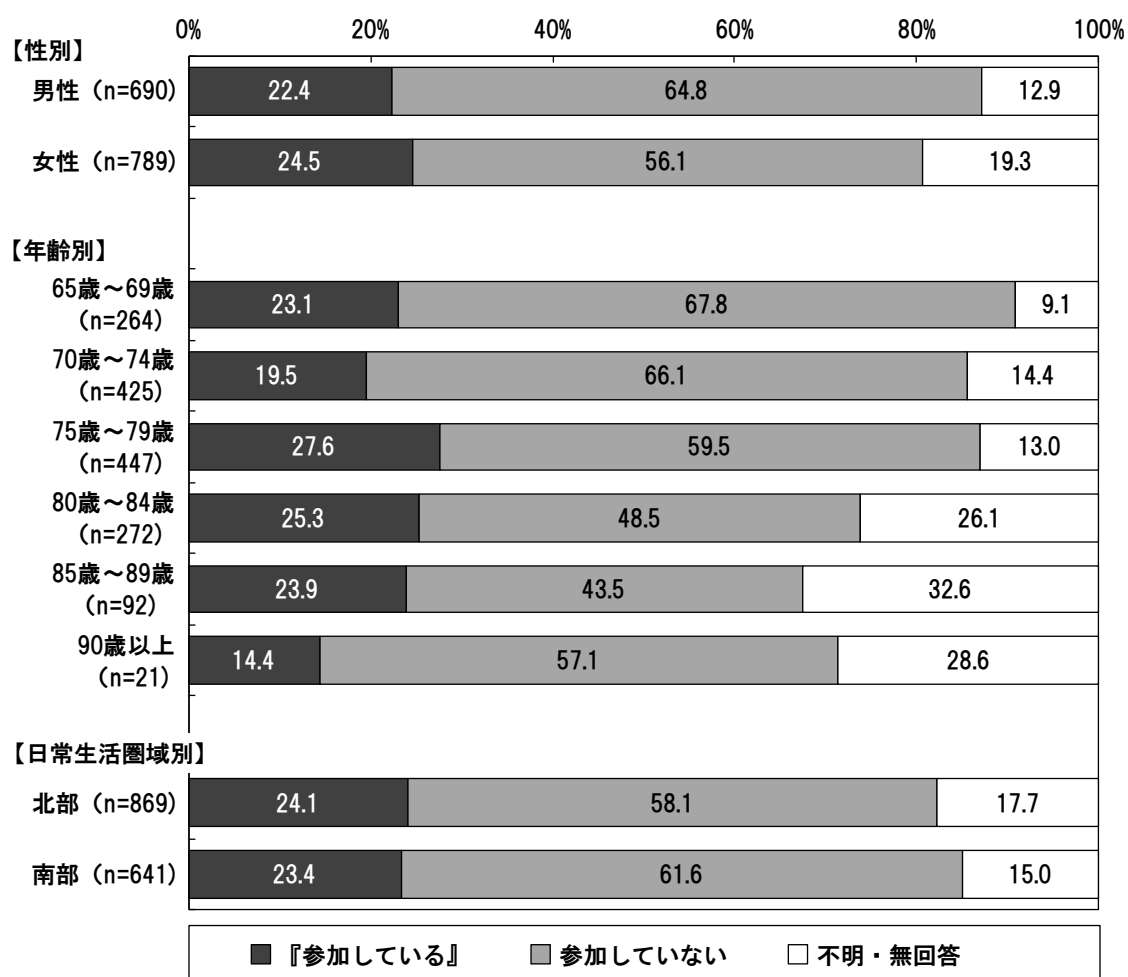
趣味関係のグループへの参加頻度については、「参加していない」が59.2%と最も高く、次いで「月1～3回」が9.9%となっており、年に数回以上『参加している』は23.9%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「参加していない」がやや高くなっています。



性別でみると、『参加している』は男性で22.4%、女性で24.5%となっています。なお、男性で「参加していない」が64.8%と、女性と比べて8.7ポイント高くなっています。

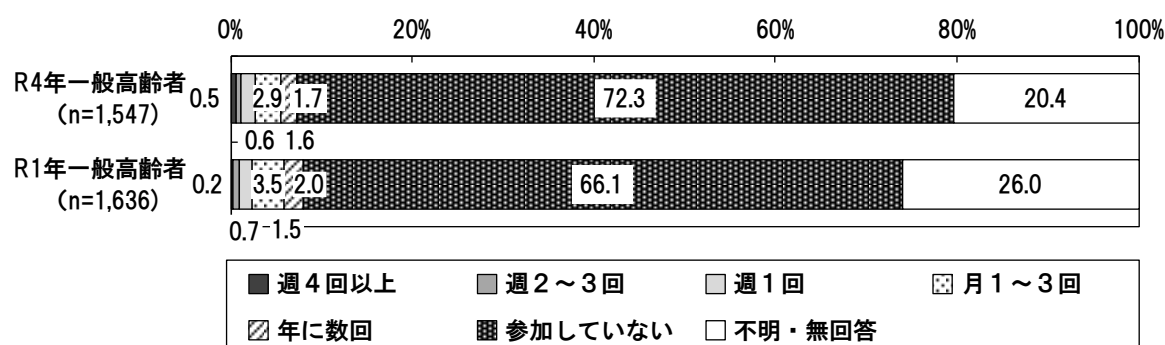
年齢別でみると、『参加している』は70歳～74歳、90歳以上を除いた年齢でそれぞれ20%台と高くなっています。

日常生活圏域別でみると、『参加している』は北部で24.1%、南部で23.4%となっています。



④ 学習・教養サークル

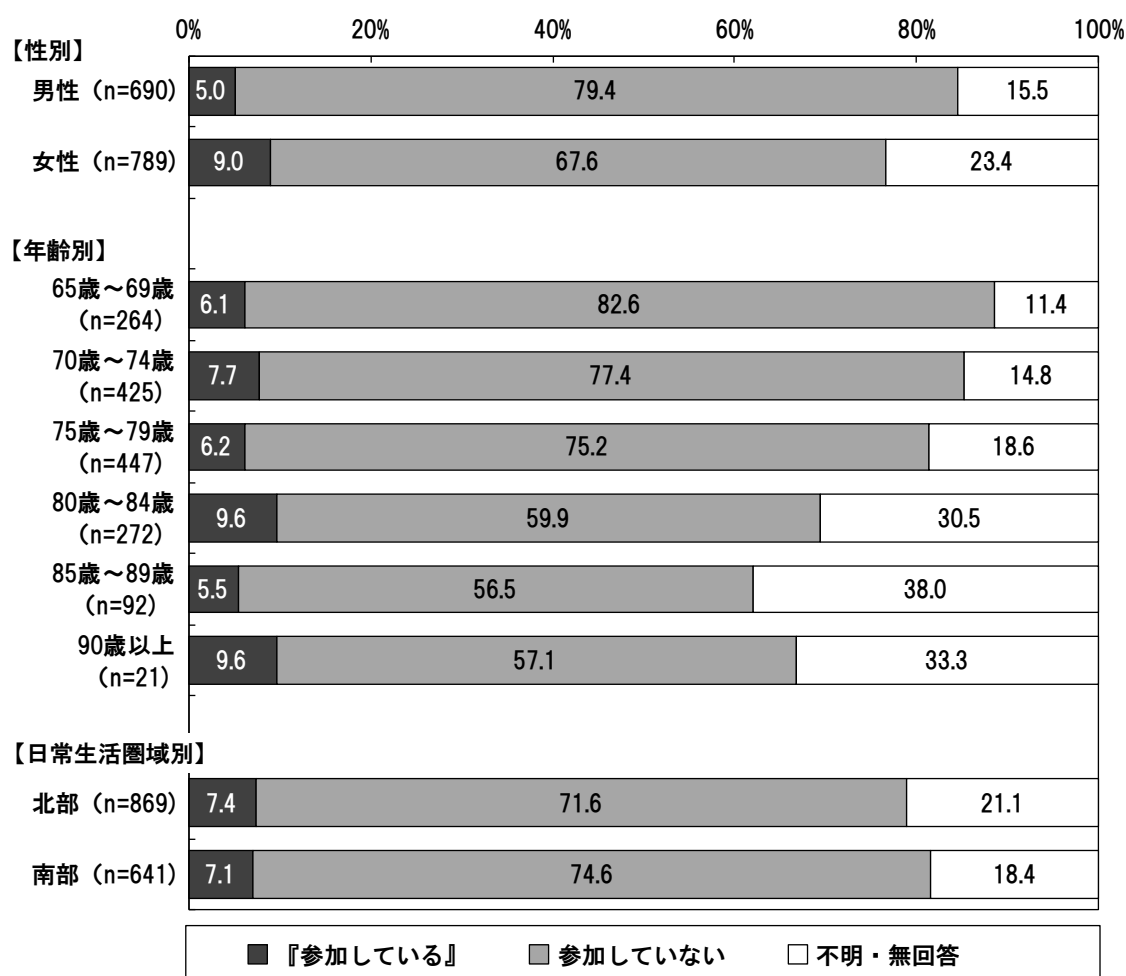
学習・教養サークルへの参加頻度については、「参加していない」が72.3%と最も高く、次いで「月1～3回」が2.9%となっており、年に数回以上『参加している』は7.3%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「参加していない」がやや高くなっています。



性別でみると、『参加している』は男性で5.0%、女性で9.0%となっています。なお、男性で「参加していない」が79.4%と、女性と比べて11.8ポイント高くなっています。

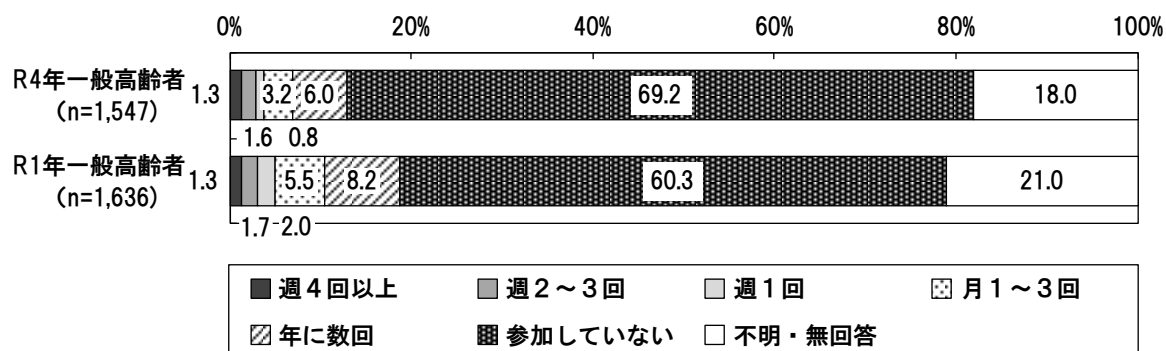
年齢別でみると、『参加している』はいずれの年齢もそれぞれ1割以下となっています。

日常生活圏域別でみると、『参加している』は北部で7.4%、南部で7.1%となっています。



⑤ 老人クラブ

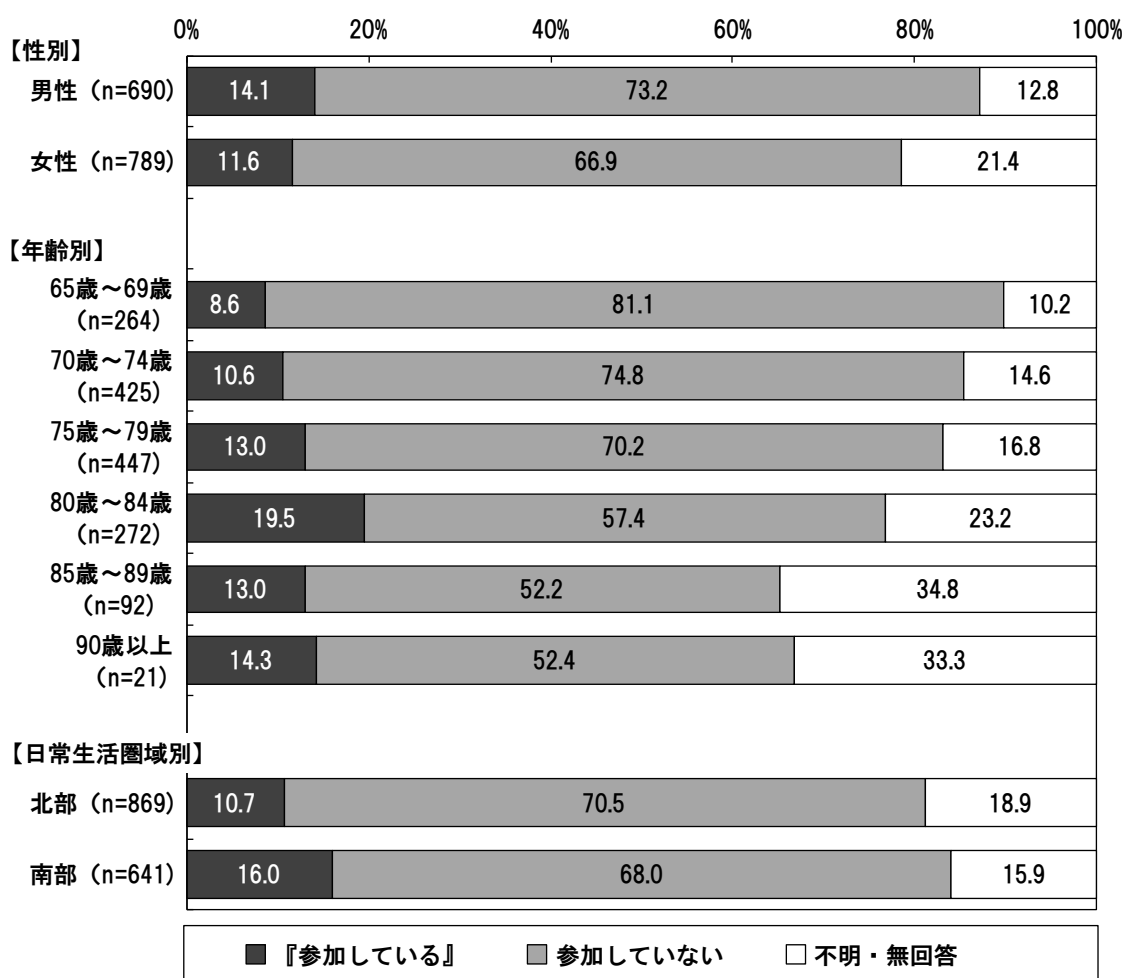
老人クラブへの参加頻度については、「参加していない」が69.2%と最も高く、次いで「年に数回」が6.0%となっており、年に数回以上『参加している』は12.9%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「参加していない」が8.9ポイント高くなっています。



性別でみると、『参加している』は男性で14.1%、女性で11.6%となっています。

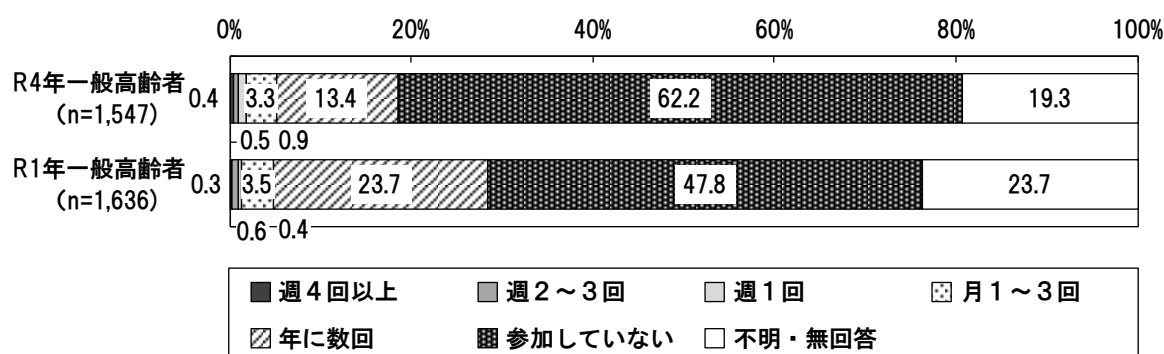
年齢別でみると、『参加している』は80歳～84歳で19.5%と、他の年齢と比べて高くなっています。

日常生活圏域別でみると、『参加している』は北部で10.7%、南部で16.0%となっています。



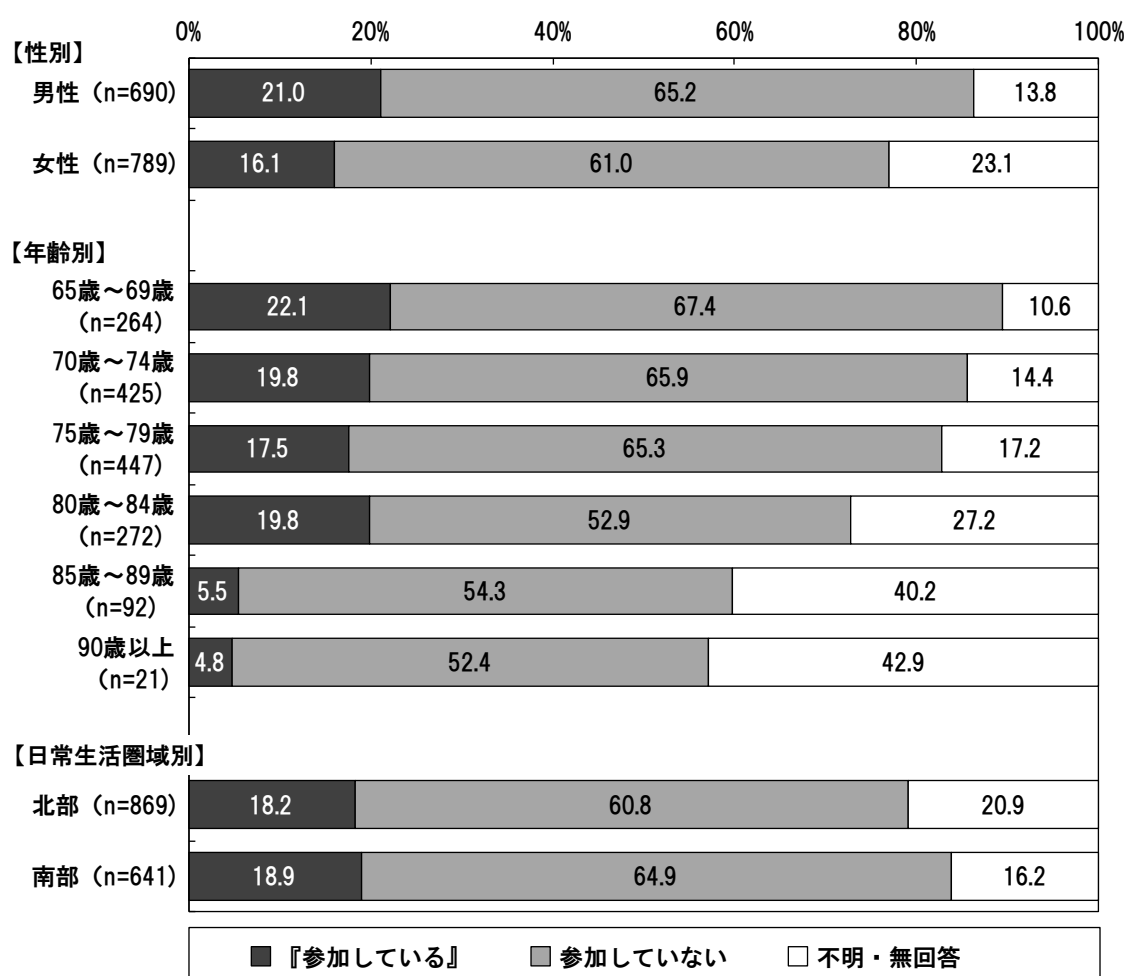
⑥ 区・自治会

区・自治会への参加頻度については、「参加していない」が62.2%と最も高く、次いで「年に数回」が13.4%となっており、年に数回以上『参加している』は18.5%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「参加していない」が14.4ポイント高くなっています。



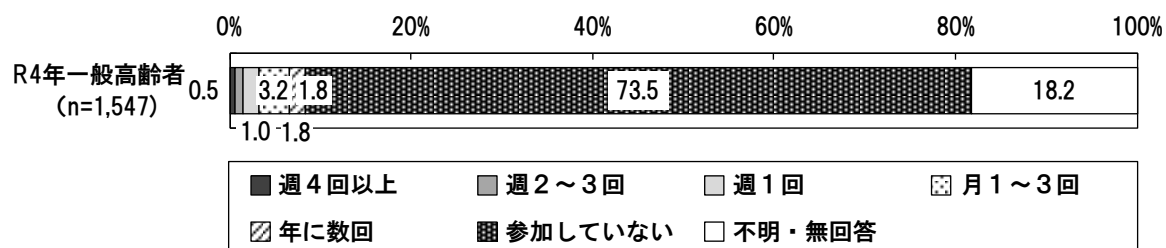
性別でみると、『参加している』は男性で21.0%、女性で16.1%となっています。
 年齢別でみると、『参加している』は65歳～69歳で22.1%と、他の年齢と比べて高くなっています。

日常生活圏域別でみると、『参加している』は北部で18.2%、南部で18.9%となっています。

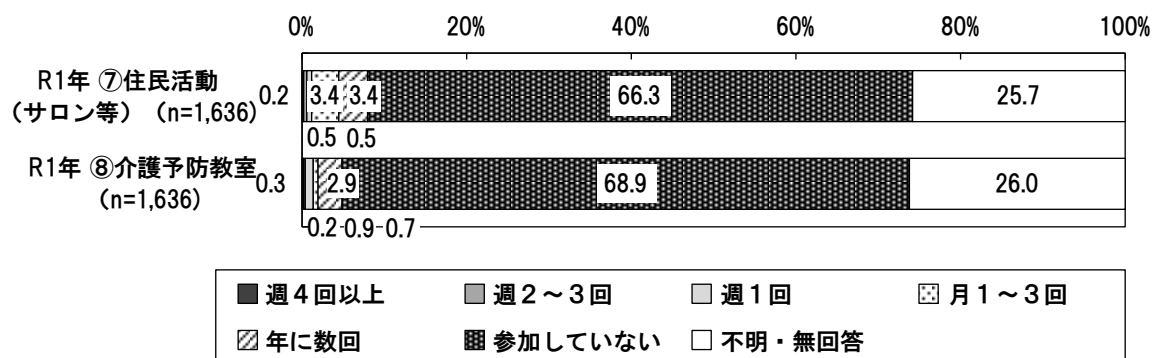


⑦ T0G0 まちかど運動教室、健康たまり場、元気アップ教室、住民主体のサロン等介護予防のための通いの場

T0G0 まちかど運動教室、健康たまり場、元気アップ教室、住民主体のサロン等介護予防のための通いの場への参加頻度については、「参加していない」が73.5%と最も高く、次いで「月1～3回」が3.2%となっており、年に数回以上『参加している』は8.3%となっています。



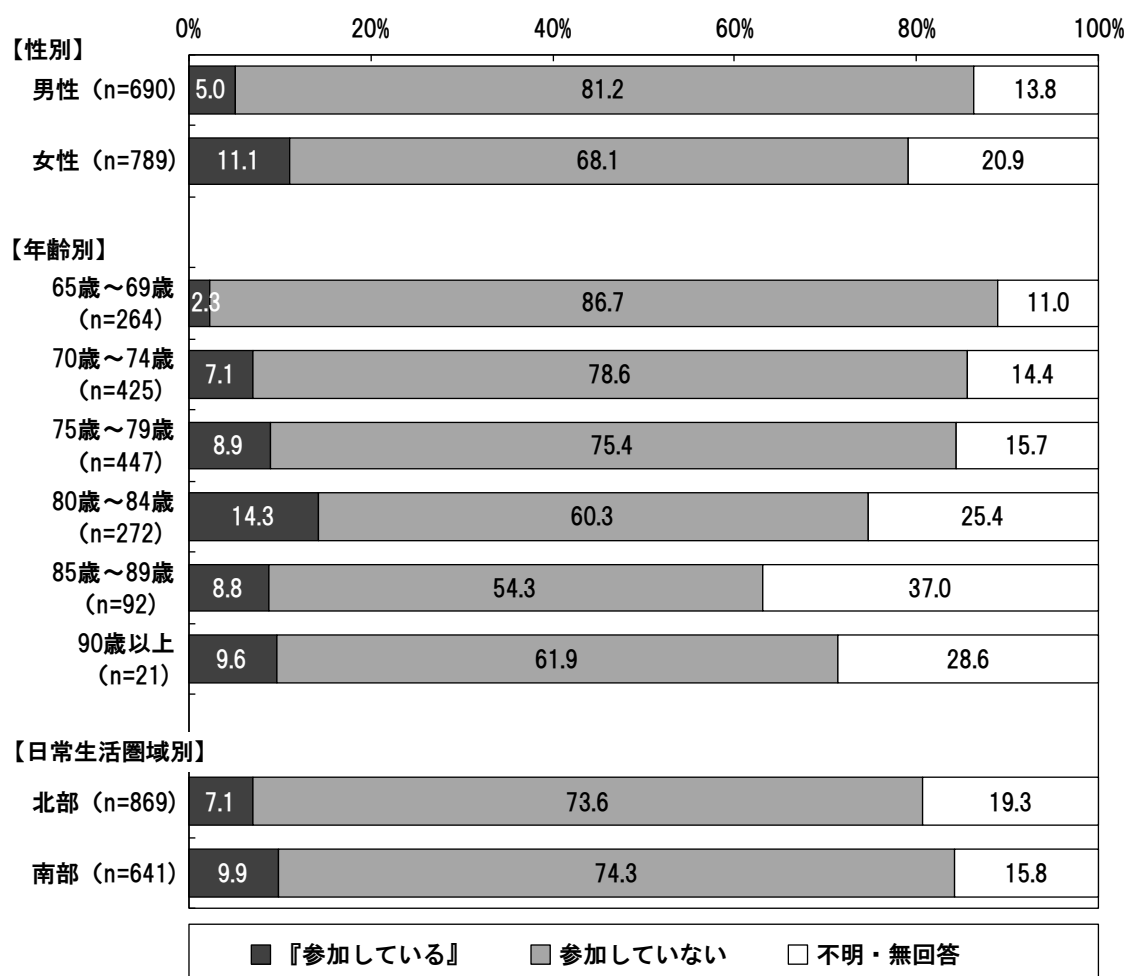
□参考値



性別でみると、『参加している』は男性で 5.0%、女性で 11.1%となっています。なお、男性で「参加していない」が 81.2%と、女性と比べて 13.1 ポイント高くなっています。

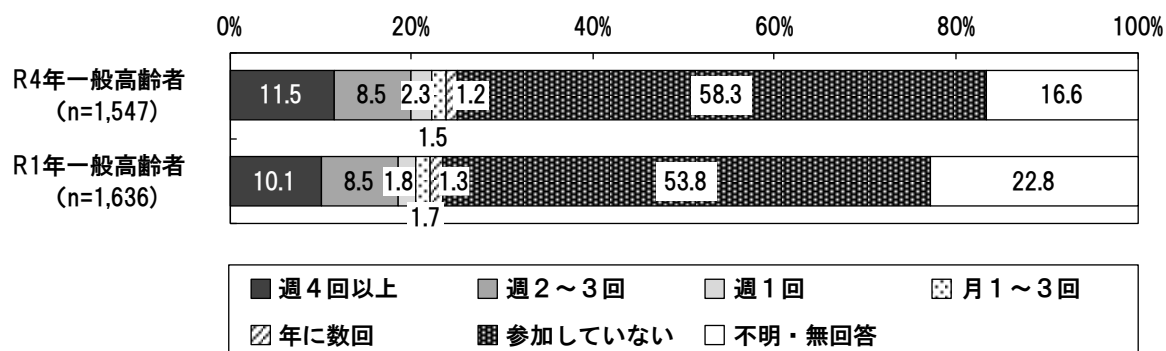
年齢別でみると、『参加している』は 80 歳～84 歳で 14.3%と、他の年齢と比べて高くなっています。

日常生活圏域別でみると、『参加している』は北部で 7.1%、南部で 9.9%となっています。



⑧ 就労等収入のある仕事

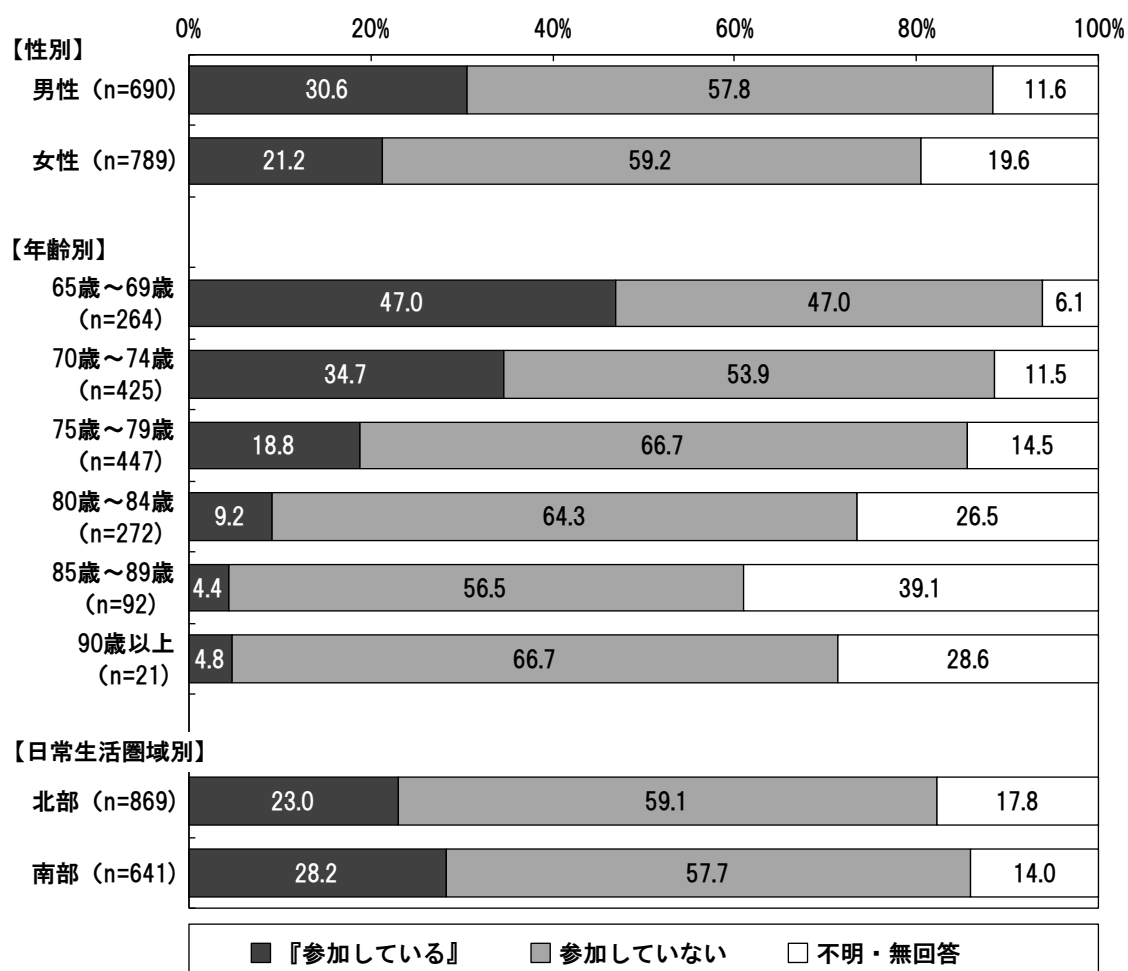
就労等収入のある仕事への参加頻度については、「参加していない」が58.3%と最も高く、次いで「週4回以上」が11.5%となっており、年に数回以上『参加している』は25.0%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



性別でみると、『参加している』は男性で30.6%、女性で21.2%となっています。なお、男性で『参加している』が30.6%と、女性と比べて9.4ポイント高くなっています。

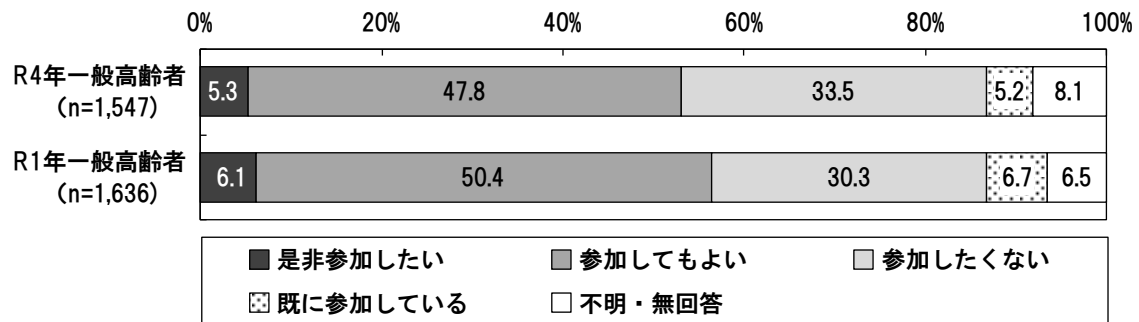
年齢別でみると、『参加している』は65歳～69歳で47.0%と高く、年齢が上がるにつれて低くなる傾向があります。

日常生活圏域別でみると、『参加している』は北部で23.0%、南部で28.2%となっています。



問 32 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。

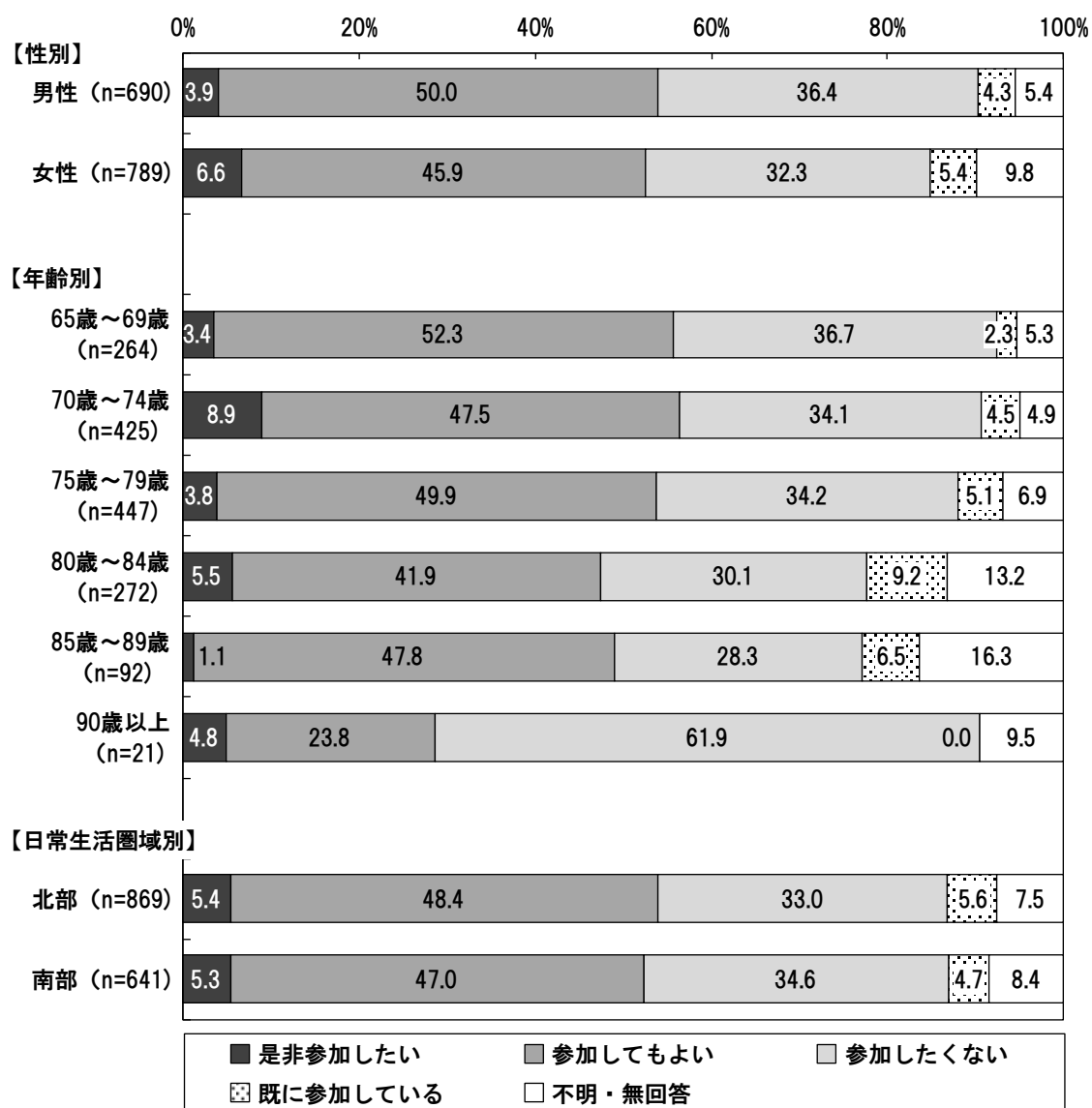
健康づくり活動や趣味等のグループ活動に参加者としての参加する意向については、「参加してもよい」が 47.8%と最も高く、次いで「参加したくない」が 33.5%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



性別でみると、「是非参加したい」が男性で 3.9%、女性で 6.6%となっています。また、「参加してもよい」は男性で 50.0%、女性で 45.9%となっています。

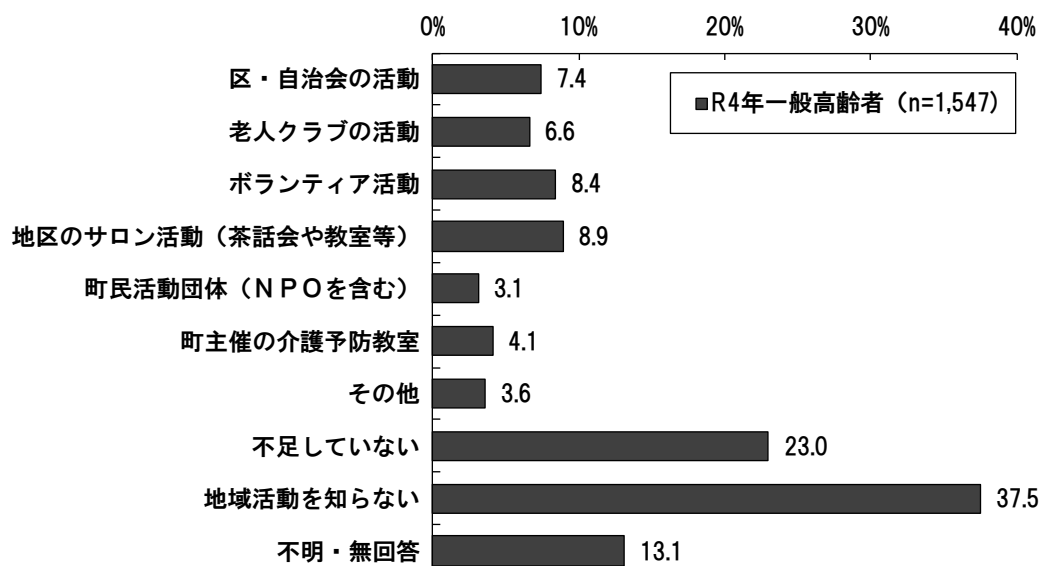
年齢別でみると、75 歳～79 歳で「是非参加したい」が 8.9%と、他の年齢と比べて高くなっています。65 歳～79 歳では「参加してもよい」が、それぞれ 5 割前後と高くなっています。

日常生活圏域別でみると、大きな差異はみられません。



問 33 あなたの住む地域には、どのような地域活動が不足していると思いますか。
(現在参加中のものを含む) 【複数回答】

住んでいる地域で不足していると思う地域活動については、「地域活動を知らない」が37.5%と最も高く、次いで「不足していない」が23.0%となっています。



その他回答記載例
参加していない
興味がない
コロナで活動休止が多い
学習・文化講座
家庭菜園・園芸等

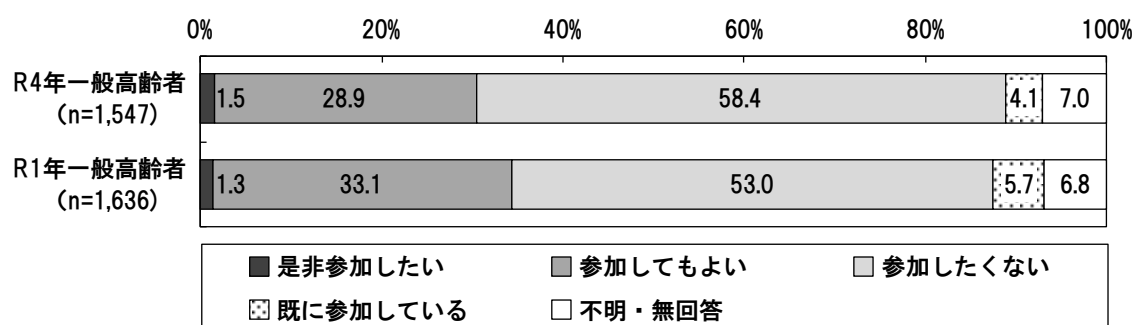
年齢別でみると、65歳～69歳で「地域活動を知らない」が50.0%、90歳以上で「老人クラブの活動」が23.8%と、それぞれ他の年齢と比べて高くなっています。

日常生活圏域別でみると、いずれの圏域も「地域活動を知らない」が30%台となっています。

(単位：%)	n=	区・自治会の活動	老人クラブの活動	ボランティア活動	地区のサロン活動（茶話会や教室等）	町民活動団体（NPOを含む）	町主催の介護予防教室	その他	不足していない	地域活動を知らない	不明・無回答
年齢別											
65歳～69歳	264	5.3	1.9	12.1	6.8	2.7	1.5	2.7	21.6	50.0	8.7
70歳～74歳	425	8.0	4.5	8.0	12.0	3.5	4.2	5.6	22.6	39.5	9.9
75歳～79歳	447	7.6	8.3	8.9	6.0	2.0	4.5	2.5	24.2	34.9	14.1
80歳～84歳	272	8.8	8.8	6.6	9.2	5.1	5.5	2.2	25.4	27.9	18.4
85歳～89歳	92	4.3	7.6	4.3	13.0	2.2	5.4	6.5	19.6	32.6	17.4
90歳以上	21	9.5	23.8	0.0	4.8	0.0	4.8	4.8	14.3	42.9	14.3
日常生活圏域別											
北部	869	8.3	6.0	8.4	9.4	3.8	4.1	3.6	22.1	36.6	13.5
南部	641	6.1	6.9	8.6	8.0	2.2	4.1	3.6	24.8	38.1	12.5

問 34 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。

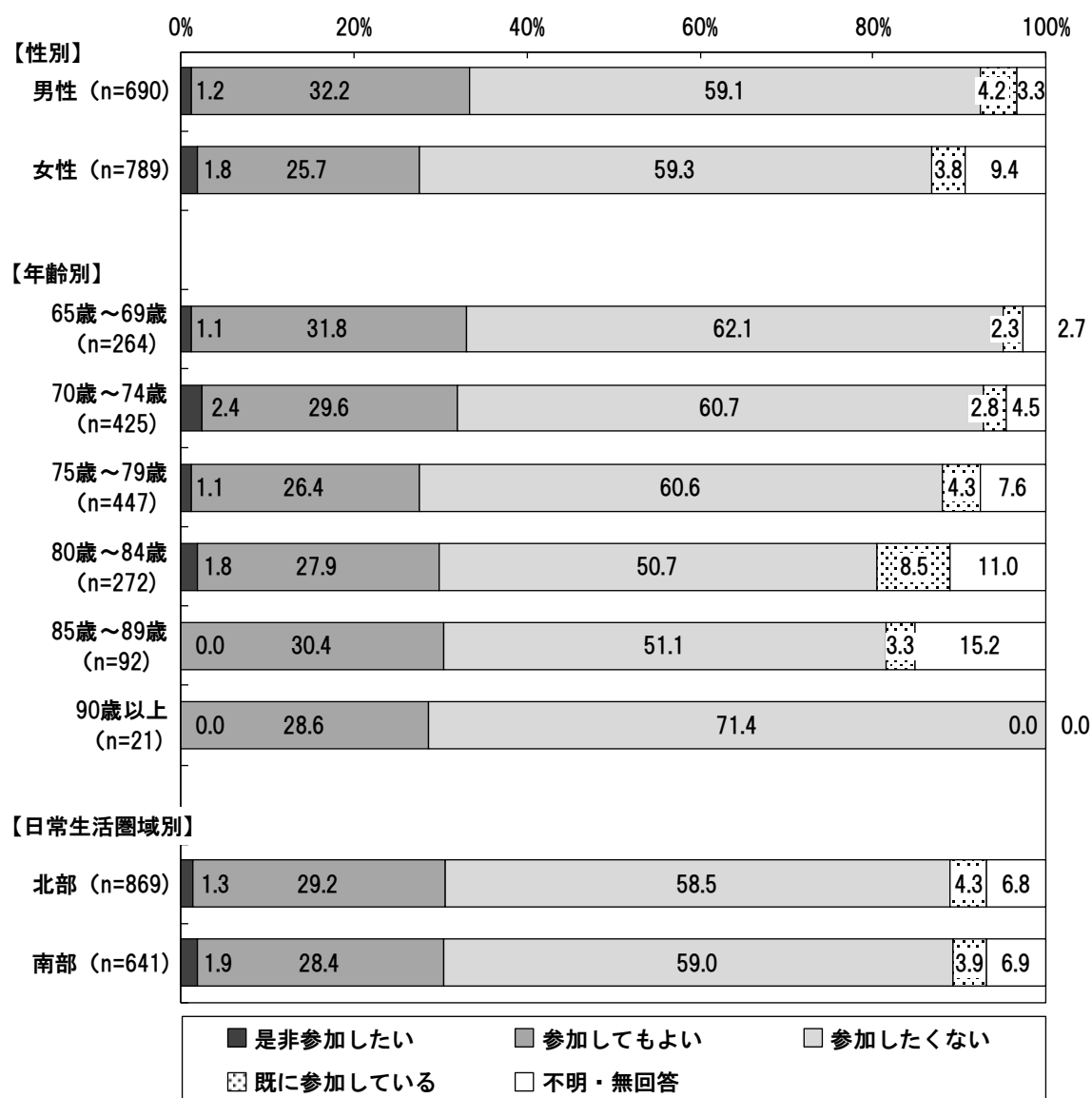
健康づくり活動や趣味等のグループ活動に企画・運営（お世話役）としての参加する意向については、「参加したくない」が 58.4%と最も高く、次いで「参加してもよい」が 28.9%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「参加したくない」がやや高くなっています。



性別でみると、「是非参加したい」が男性で 1.2%、女性で 1.8%となっています。また、「参加してもよい」は男性で 32.2%、女性で 25.7%となっています。

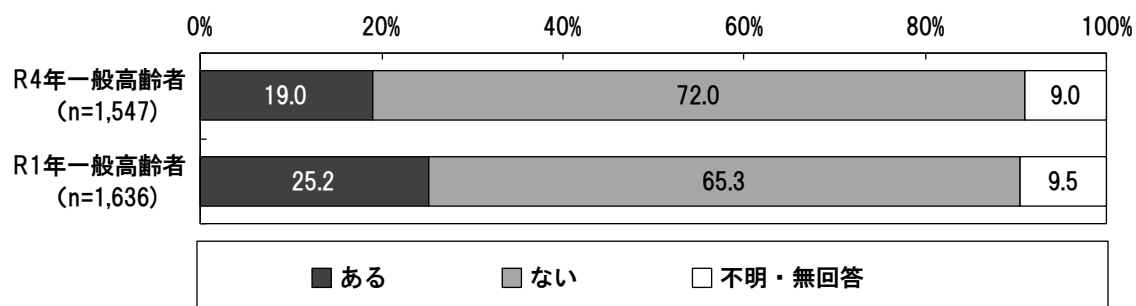
年齢別でみると、65 歳～84 歳で「是非参加したい」がそれぞれ数%、いずれの年齢でも「参加してもよい」が、それぞれ3割前後となっています。

日常生活圏域別でみると、大きな差異はみられません。



問 35 あなたの趣味や特技を活かせる場が地域活動の中にありますか。

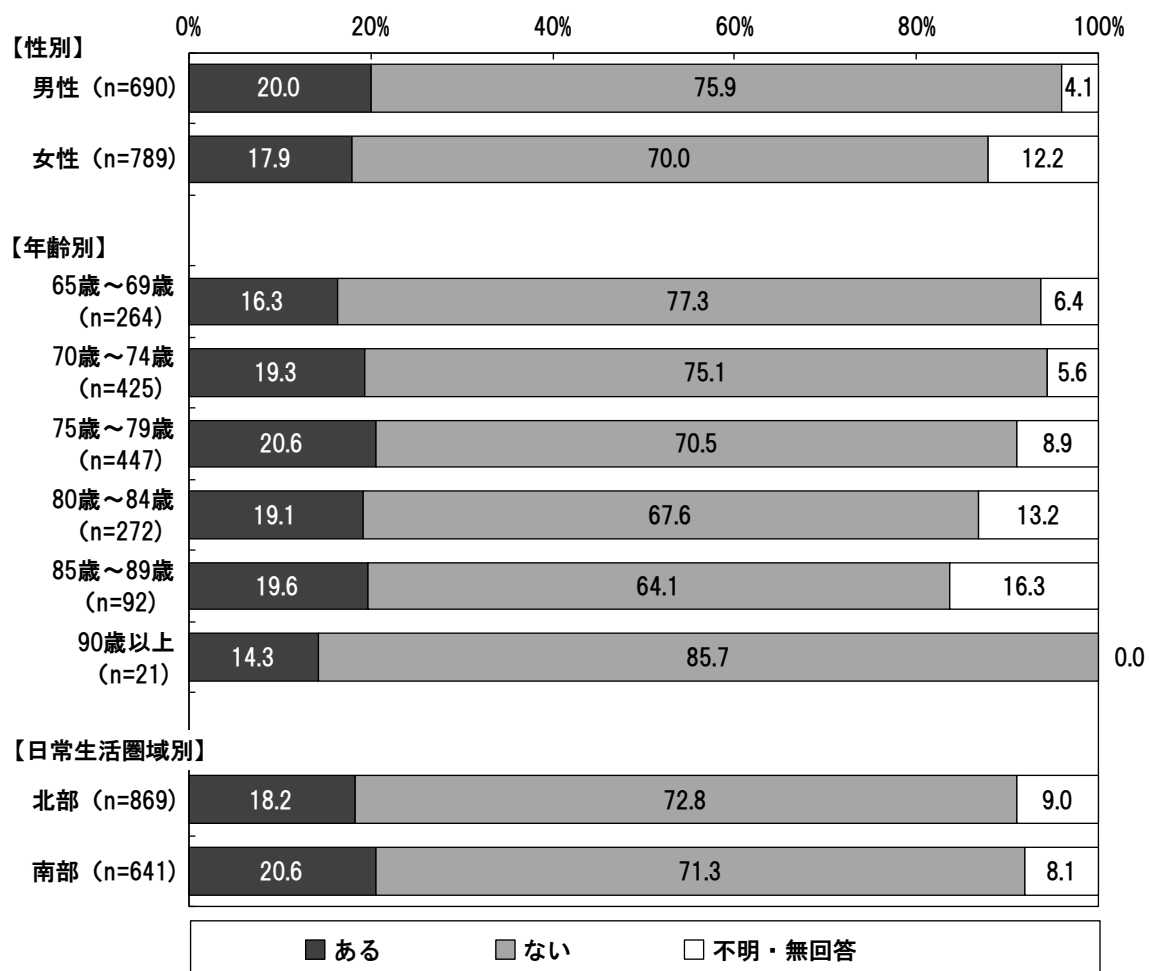
地域活動の中に趣味や特技を活かせる場があるかについては、「ある」が19.0%、「ない」が72.0%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「ある」がやや低くなっています。



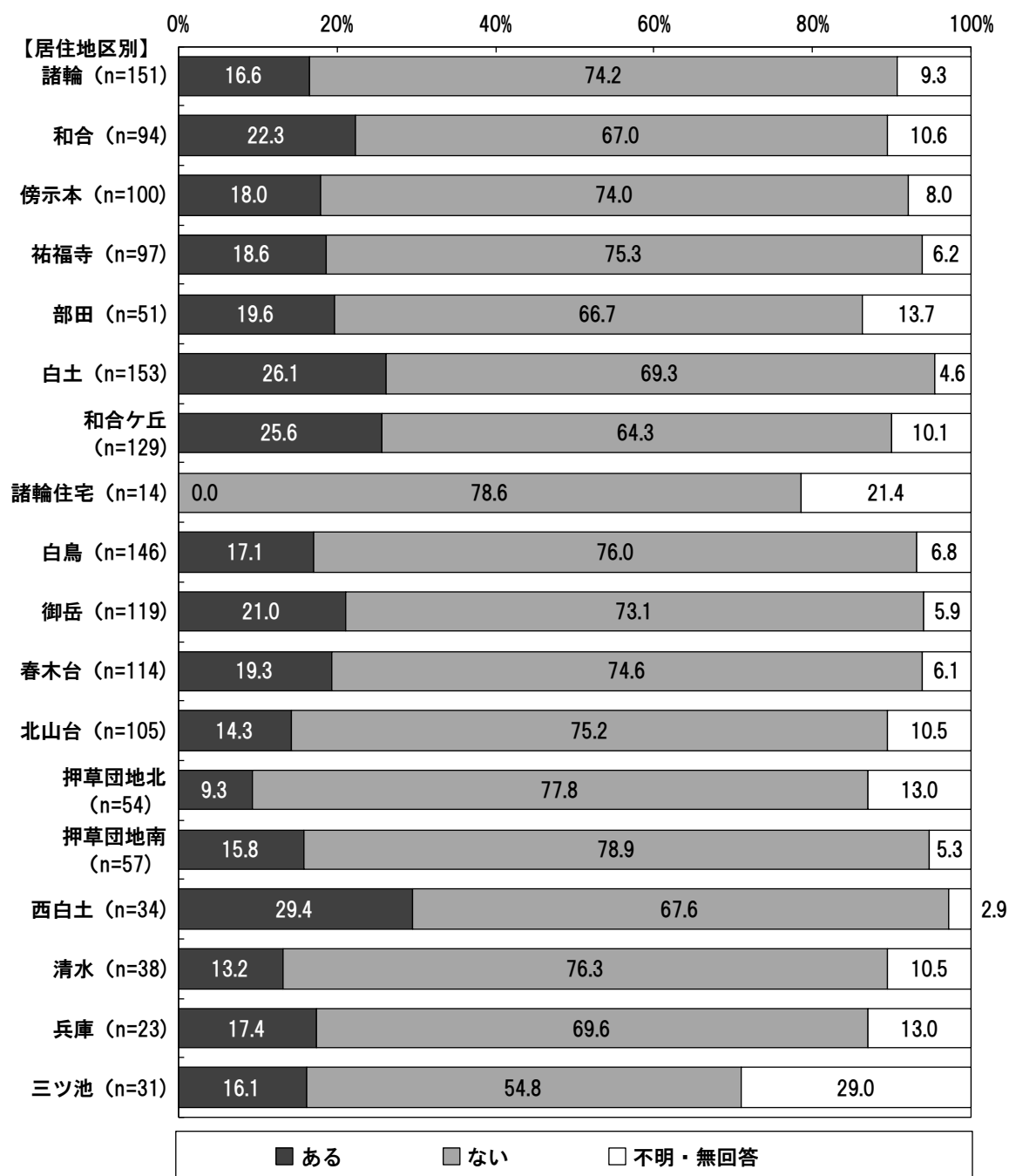
性別でみると、「ある」が男性で20.0%、女性で17.9%となっています。

年齢別でみると、70歳～89歳で「ある」がそれぞれ2割前後となっています。

日常生活圏域別でみると、「ある」が北部で18.2%、南部で20.6%となっています。

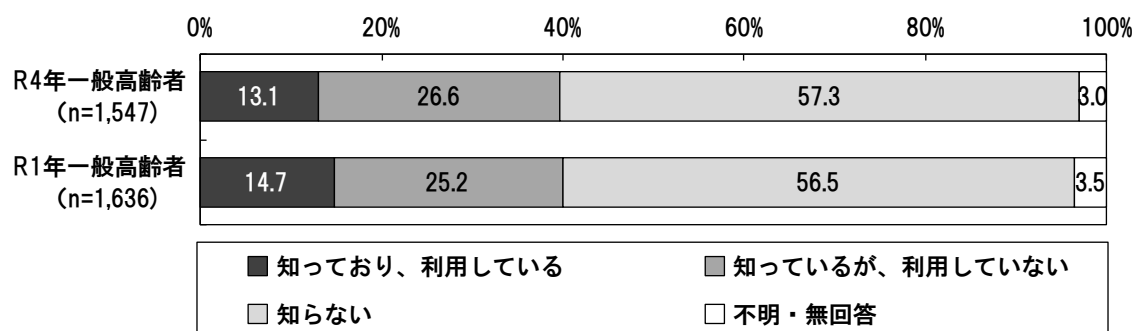


居住地区別でみると、西白土で「ある」が29.4%と、他の居住地区と比べて高くなっています。



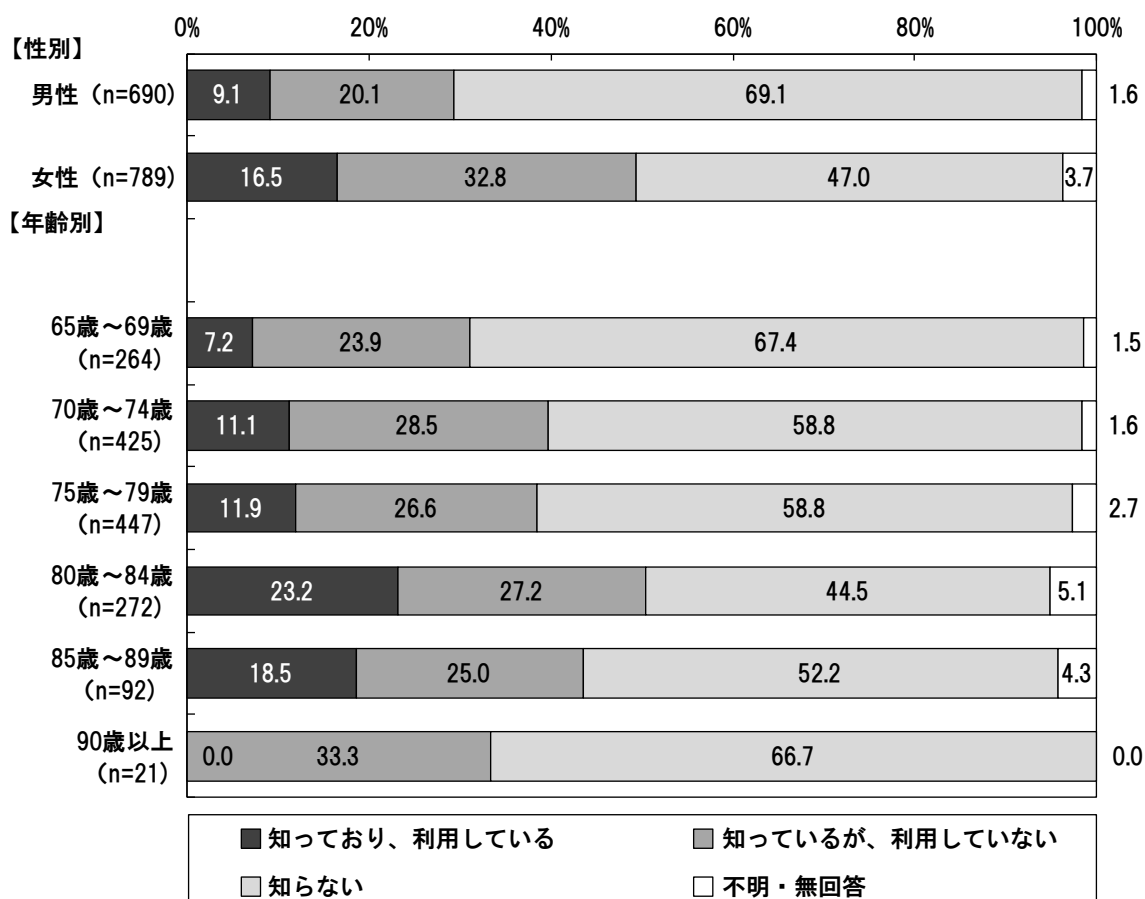
問 36 社会参加ポイント制度を知っていますか。

社会参加ポイント制度の認知については、「知っており、利用している」が13.1%、「知っているが、利用していない」が26.6%、「知らない」が57.3%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



性別でみると、「知っており、利用している」が男性で9.1%、女性で16.5%となっています。なお、「知らない」が男性で69.1%と、女性と比べて22.1ポイント高くなっています。

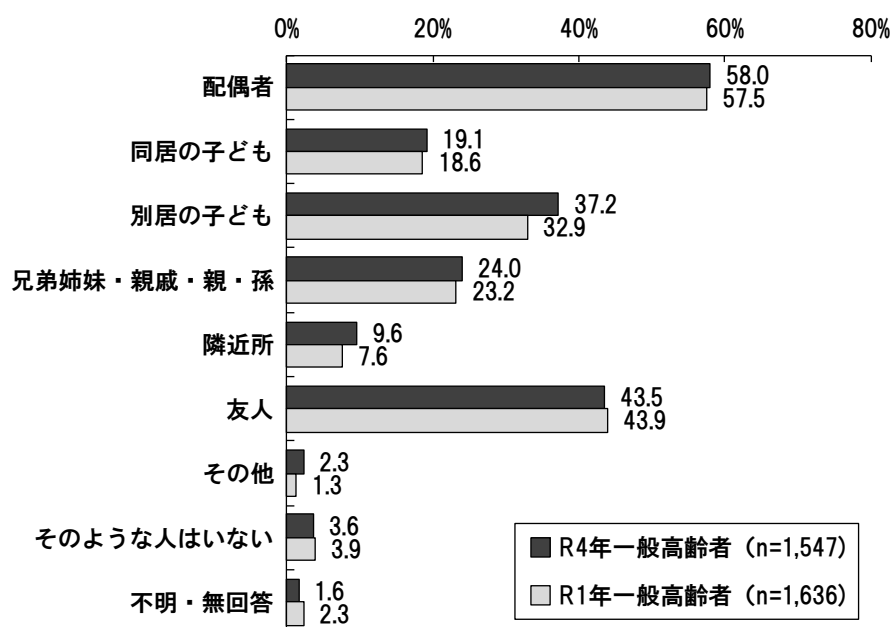
年齢別でみると、80歳～84歳で「知っており、利用している」が23.2%と、他の年齢と比べて高くなっています。「知らない」は、65歳～69歳、90歳以上でそれぞれ60%台と高くなっています。



6. 回答者とまわりの人の「助け合い」について

問 37 あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人はどなたですか。【複数回答】

心配事や愚痴を聞いてくれる人については、「配偶者」が58.0%と最も高く、次いで「友人」が43.5%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



その他回答記載例
仕事仲間・職場の人
趣味の仲間
同居人
愚痴は言わない

性別でみると、男性で「配偶者」が 74.3%と、女性と比べて 30.4 ポイント高くなっています。また、女性で「友人」（29.8 ポイント）、「別居の子ども」（21.7 ポイント）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（19.6 ポイント）、「隣近所」（10.1 ポイント）が男性と比べてそれぞれ高くなっています。

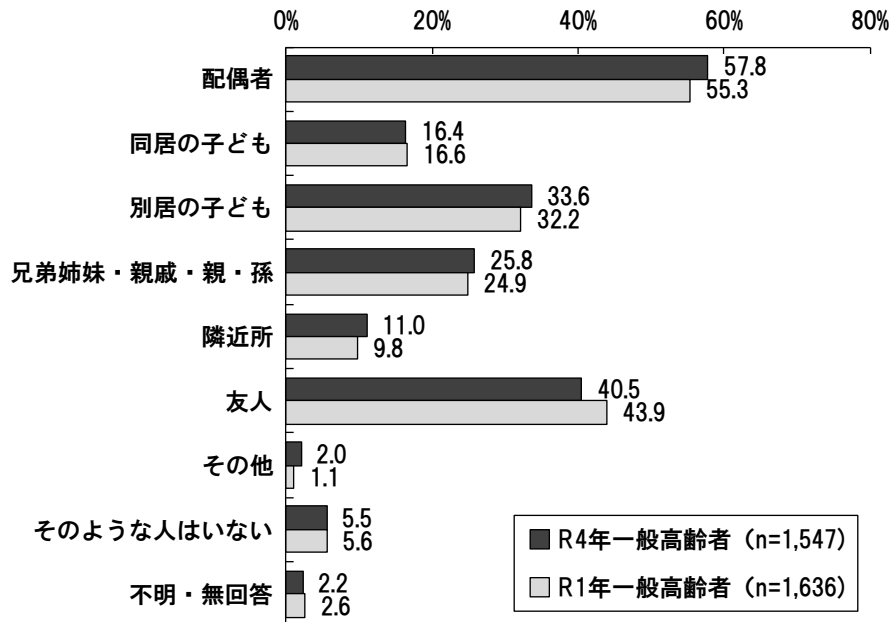
年齢別でみると、年齢が上がるにつれて「友人」が低くなっているものの、65 歳～79 歳でそれぞれ 40%台となっています。

家族構成別でみると、1 人暮らしで「友人」「別居の子ども」がそれぞれ 50%台と高くなっています。また、夫婦 2 人暮らし（配偶者 65 歳以上・配偶者 64 歳以下）では、「配偶者」がそれぞれ 80%台と高くなっています。

(単位：%)	n=	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	隣近所	友人	その他	そのような人はいない	不明・無回答
性別										
男性	690	74.3	15.2	26.1	13.5	4.2	27.4	3.3	4.9	0.7
女性	789	43.9	22.7	47.8	33.1	14.3	57.2	1.5	2.5	1.8
年齢別										
65 歳～69 歳	264	63.6	13.3	35.6	26.5	6.1	49.2	3.8	4.5	1.1
70 歳～74 歳	425	63.8	17.9	36.7	25.2	9.2	45.4	3.1	2.6	0.7
75 歳～79 歳	447	59.3	17.9	37.4	24.4	10.7	45.9	1.3	4.9	1.3
80 歳～84 歳	272	50.7	24.3	40.8	23.2	12.1	37.5	1.5	2.6	1.8
85 歳～89 歳	92	40.2	30.4	37.0	12.0	9.8	29.3	2.2	3.3	2.2
90 歳以上	21	33.3	33.3	38.1	23.8	4.8	9.5	0.0	0.0	4.8
家族構成別										
1 人暮らし	237	0.0	0.4	56.1	33.3	19.0	57.4	3.8	8.9	0.8
夫婦 2 人暮らし（配偶者 65 歳以上）	678	81.6	2.7	41.2	20.9	7.7	42.5	1.6	2.2	1.0
夫婦 2 人暮らし（配偶者 64 歳以下）	79	84.8	7.6	30.4	11.4	6.3	29.1	1.3	2.5	0.0
息子・娘との 2 世帯	310	51.0	58.7	23.9	25.8	7.4	39.0	2.3	2.6	2.6
その他	199	51.3	37.7	27.6	25.6	9.0	42.7	3.0	4.0	1.5

問 38 反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人はどなたですか。【複数回答】

心配事や愚痴を聞いてあげる人については、「配偶者」が57.8%と最も高く、次いで「友人」が40.5%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



その他回答記載例
仕事仲間・職場の人
自治会関係
同居人

性別でみると、男性で「配偶者」が 75.4%と、女性と比べて 32.8 ポイント高くなっています。また、女性で「友人」（29.4 ポイント）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（19.4 ポイント）、「別居の子ども」（14.2 ポイント）、「隣近所」（9.8 ポイント）が男性と比べてそれぞれ高くなっています。

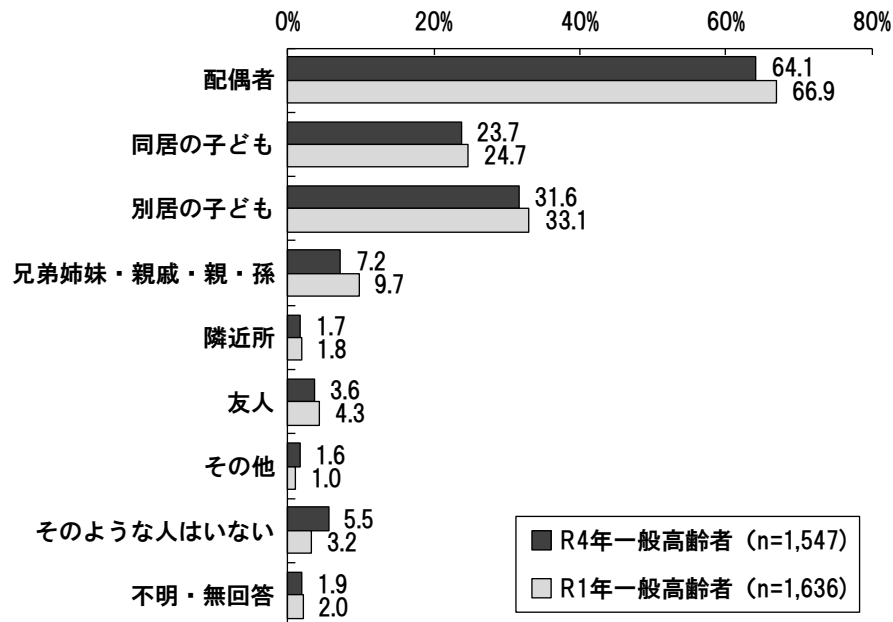
年齢別でみると、年齢が上がるにつれて「友人」が低くなる傾向にあるものの、65 歳～79 歳でそれぞれ 40%台となっています。

家族構成別でみると、1 人暮らしで「友人」が 53.6%と最も高くなっています。また、夫婦 2 人暮らし（配偶者 65 歳以上・配偶者 64 歳以下）では、「配偶者」がそれぞれ 79.8%、88.6%と高くなっています。

(単位：%)	n=	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	隣近所	友人	その他	そのような人はいない	不明・無回答
性別										
男性	690	75.4	13.6	26.5	15.7	5.7	24.8	2.3	6.1	1.6
女性	789	42.6	19.0	40.7	35.1	15.5	54.2	1.9	4.8	2.4
年齢別										
65 歳～69 歳	264	64.8	14.8	31.4	29.5	7.6	47.0	2.7	4.2	1.1
70 歳～74 歳	425	64.7	17.9	35.8	25.9	10.6	42.1	2.8	3.1	0.9
75 歳～79 歳	447	57.9	15.0	35.6	26.0	13.0	42.7	1.1	7.2	2.0
80 歳～84 歳	272	49.6	16.9	33.8	26.5	12.1	35.7	1.8	5.9	3.3
85 歳～89 歳	92	35.9	18.5	27.2	17.4	8.7	21.7	2.2	8.7	4.3
90 歳以上	21	38.1	23.8	19.0	19.0	9.5	19.0	0.0	14.3	4.8
家族構成別										
1 人暮らし	237	0.4	0.0	39.7	35.4	16.9	53.6	4.2	13.9	0.8
夫婦 2 人暮らし（配偶者 65 歳以上）	678	79.8	2.4	40.1	22.3	10.3	39.7	0.6	2.5	1.9
夫婦 2 人暮らし（配偶者 64 歳以下）	79	88.6	10.1	27.8	15.2	8.9	22.8	0.0	2.5	1.3
息子・娘との 2 世帯	310	52.6	49.0	23.9	28.7	8.1	37.4	2.3	4.8	3.2
その他	199	49.2	34.2	24.6	28.6	12.1	39.7	5.0	6.0	2.0

問 39 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人はどなたですか。【複数回答】

病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人については、「配偶者」が64.1%と最も高く、次いで「別居の子ども」が31.6%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



その他回答記載例
会社の仲間
同居人
寝込んだことがない

性別でみると、男性で「配偶者」が 80.0%と、女性と比べて 29.9 ポイント高くなっています。また、女性で「別居の子ども」（20.3 ポイント）、「同居の子ども」（11.7 ポイント）が男性と比べてそれぞれ高くなっています。

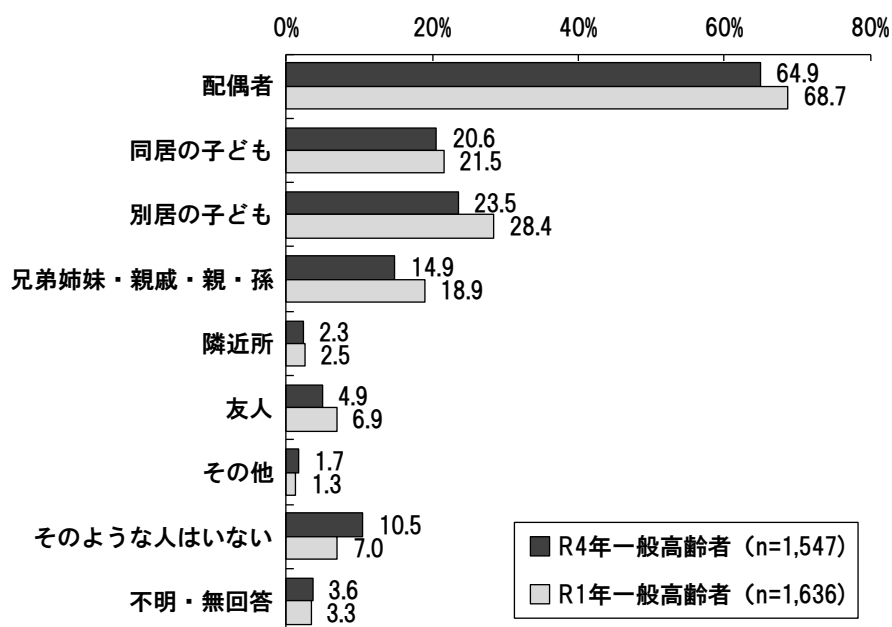
年齢別でみると、年齢が上がるにつれて「同居の子ども」が高くなっており、90 歳以上で 42.9%となっています。

家族構成別でみると、1 人暮らしで「別居の子ども」が 61.2%と最も高くなっています。また、夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上・配偶者 64 歳以下)では、「配偶者」がそれぞれ 90%台と高くなっています。

(単位：%)	n=	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	隣近所	友人	その他	そのような人はいない	不明・無回答
性別										
男性	690	80.0	17.7	20.9	5.1	0.3	1.2	1.3	4.6	0.7
女性	789	50.1	29.4	41.2	9.0	3.0	6.0	1.8	6.3	2.4
年齢別										
65 歳～69 歳	264	72.7	18.6	20.8	9.1	0.8	4.2	1.9	5.7	1.1
70 歳～74 歳	425	71.8	22.6	31.1	6.8	0.5	2.4	1.4	5.6	0.7
75 歳～79 歳	447	64.2	23.3	34.5	6.5	2.9	4.9	1.3	6.7	2.0
80 歳～84 歳	272	54.8	27.2	38.2	7.0	2.2	3.7	1.5	3.3	2.9
85 歳～89 歳	92	39.1	32.6	33.7	5.4	3.3	2.2	3.3	7.6	2.2
90 歳以上	21	33.3	42.9	28.6	9.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
家族構成別										
1 人暮らし	237	0.0	0.8	61.2	14.8	5.5	11.8	4.6	20.3	2.5
夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)	678	90.3	2.7	32.6	4.1	0.9	2.5	0.3	2.5	1.3
夫婦 2 人暮らし(配偶者 64 歳以下)	79	93.7	10.1	11.4	1.3	1.3	1.3	0.0	5.1	0.0
息子・娘との 2 世帯	310	55.5	72.3	17.4	7.1	1.3	1.9	1.0	2.3	1.9
その他	199	54.8	48.7	23.1	10.6	1.0	1.5	4.0	4.5	2.0

問 40 反対に、看病や世話をしあける人はどなたですか。【複数回答】

看病や世話をしあける人については、「配偶者」が64.9%と最も高く、次いで「別居の子ども」が23.5%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「別居の子ども」がやや低くなっています。



その他回答記載例
会社の仲間
同居人
できない

性別でみると、男性で「配偶者」が 76.8%と、女性と比べて 22.3 ポイント高くなっています。また、女性で「別居の子ども」が 29.7%と、男性と比べて 13.0 ポイント高くなっています。

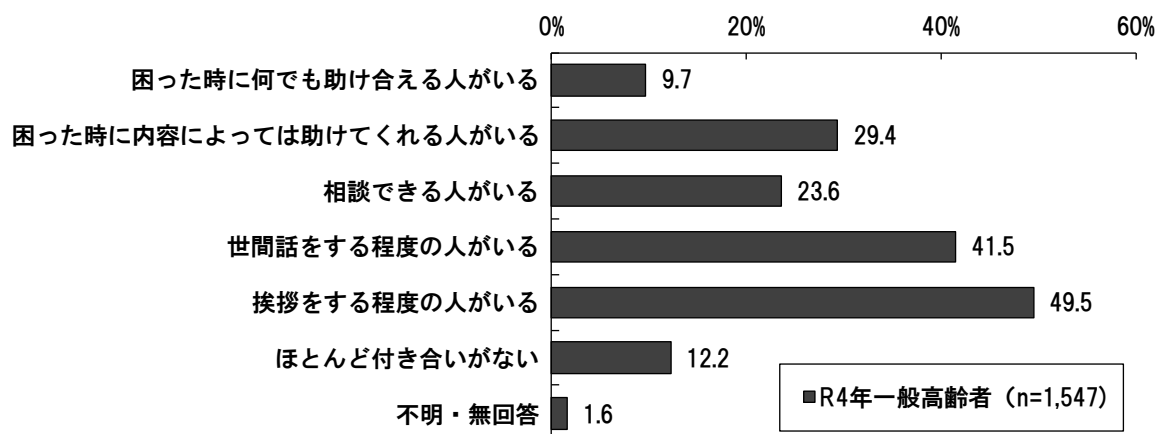
年齢別でみると、年齢が上がるにつれて「そのような人はいない」が高くなっています。

家族構成別でみると、1人暮らしで「そのような人はいない」が 35.9%と最も高くなっています。また、夫婦2人暮らし(配偶者 65 歳以上・配偶者 64 歳以下)では、「配偶者」がそれぞれ 90%台と高くなっています。

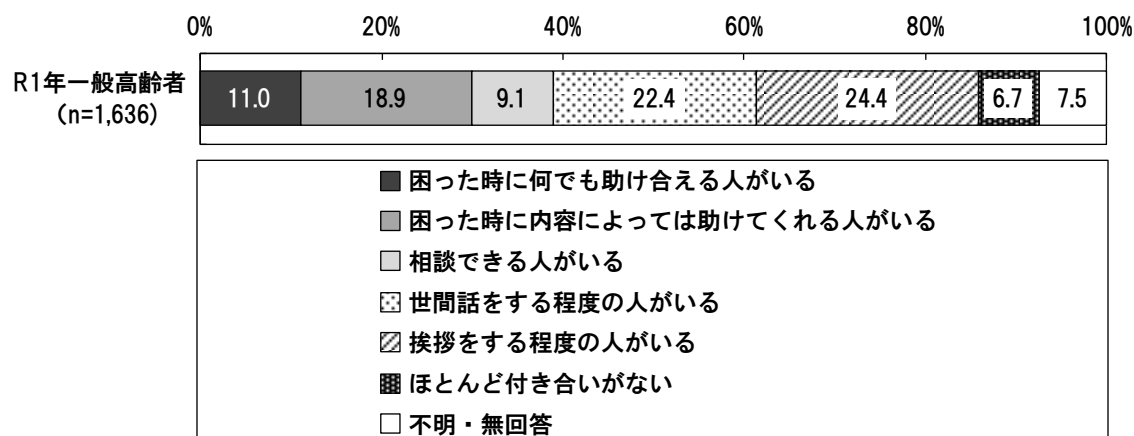
(単位：%)	n=	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	隣近所	友人	その他	そのような人はいない	不明・無回答
性別										
男性	690	76.8	16.1	16.7	10.6	0.9	1.7	1.2	9.7	2.0
女性	789	54.5	24.6	29.7	18.9	3.5	7.7	2.2	11.4	4.7
年齢別										
65 歳～69 歳	264	70.1	20.5	24.2	20.5	1.5	4.2	2.3	7.2	2.7
70 歳～74 歳	425	71.1	20.2	28.2	15.5	0.7	3.8	1.6	8.2	2.1
75 歳～79 歳	447	66.9	19.7	23.3	14.3	3.6	7.2	1.3	10.5	2.9
80 歳～84 歳	272	58.5	22.1	19.9	13.6	2.6	5.1	1.1	13.2	6.3
85 歳～89 歳	92	41.3	23.9	15.2	5.4	5.4	1.1	4.3	17.4	5.4
90 歳以上	21	28.6	19.0	4.8	4.8	0.0	0.0	4.8	33.3	4.8
家族構成別										
1 人暮らし	237	0.8	1.3	35.0	23.6	6.3	11.8	2.5	35.9	8.4
夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)	678	92.6	1.9	26.8	9.6	1.5	3.1	0.6	2.9	1.5
夫婦 2 人暮らし(配偶者 64 歳以下)	79	92.4	8.9	19.0	12.7	1.3	1.3	1.3	5.1	0.0
息子・娘との 2 世帯	310	55.2	58.1	12.9	17.1	1.6	4.2	2.3	11.0	3.5
その他	199	53.3	51.3	16.6	21.1	2.0	5.5	4.5	7.0	5.0

問 41 地域の人との付き合いは、どのようですか。【複数回答】

地域の人との付き合いについては、「挨拶をする程度の人がいる」が49.5%と最も高く、次いで「世間話をする程度の人がいる」が41.5%となっています。



□参考値



※R1 年度調査は回答が単数回答だったため、参考値としています。

性別でみると、女性で「相談できる人がいる」（13.2ポイント）、「困った時に内容によっては助けてくれる人がいる」（12.4ポイント）、「世間話をする程度の人がある」（10.5ポイント）が男性と比べてそれぞれ高くなっています。

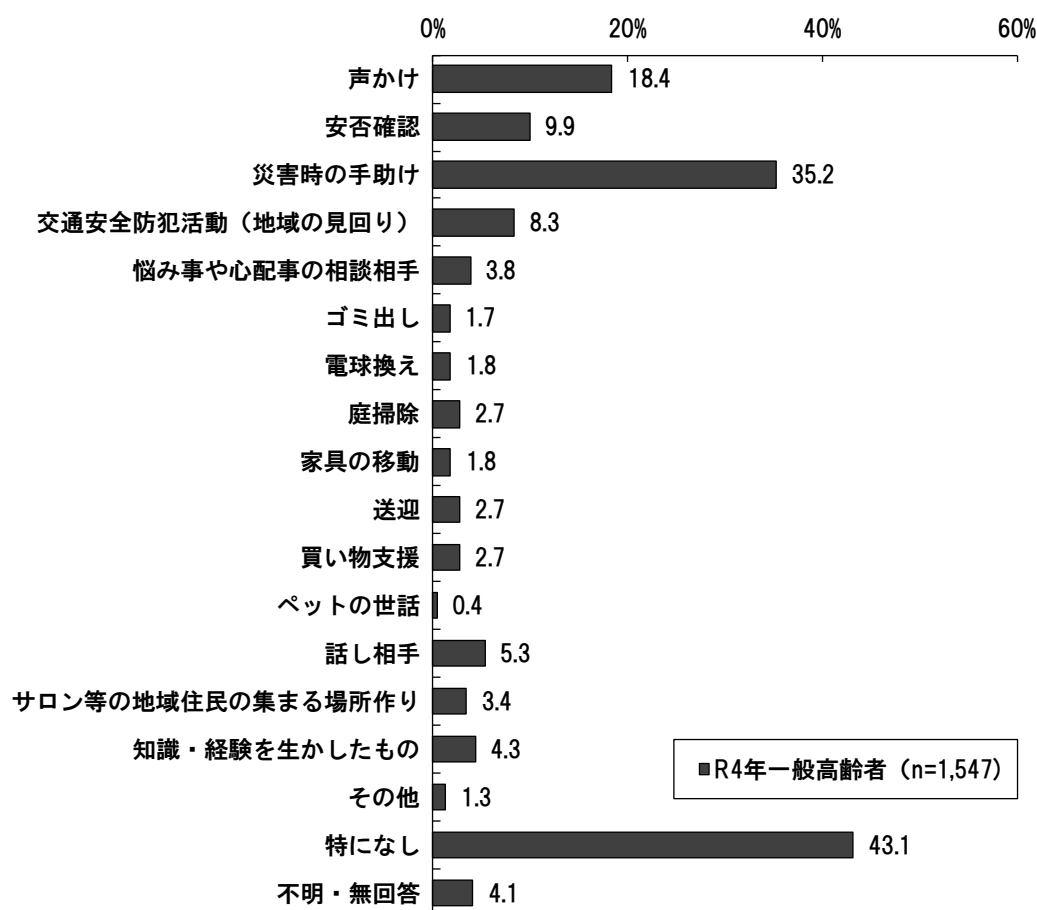
年齢別でみると、「困った時に何でも助け合える人がいる」「困った時に内容によっては助けてくれる人がいる」「相談できる人がいる」の親しい付き合いは、80歳前後をピークにいずれも低くなっています。また、「ほとんど付き合いがない」は、65歳～74歳や85歳以上で高くなっています。

居住地区別でみると、部田、西白土、押草団地南で「困った時に内容によっては助けてくれる人がいる」がそれぞれ40%台と高くなっています。

(単位：%)	n=	困った時に何でも助け合える人がいる	困った時に内容によっては助けてくれる人がいる	相談できる人がいる	世間話をする程度の人がある	挨拶をする程度の人がある	ほとんど付き合いがない	不明・無回答
性別								
男性	690	5.5	22.8	16.5	35.9	51.2	14.8	1.2
女性	789	13.3	35.2	29.7	46.4	49.0	10.6	1.5
年齢別								
65歳～69歳	264	7.2	24.6	17.4	32.6	56.8	16.3	1.5
70歳～74歳	425	5.6	30.4	24.2	43.1	52.5	15.3	0.7
75歳～79歳	447	12.3	31.5	26.8	44.3	48.1	8.1	1.6
80歳～84歳	272	14.7	30.1	26.5	43.8	48.9	8.5	1.8
85歳～89歳	92	7.6	26.1	16.3	42.4	35.9	17.4	2.2
90歳以上	21	4.8	19.0	14.3	28.6	33.3	23.8	0.0
居住地区別								
諸輪	151	16.6	25.8	25.2	39.1	38.4	13.2	2.0
和合	94	9.6	28.7	23.4	42.6	55.3	10.6	2.1
傍示本	100	13.0	35.0	31.0	58.0	45.0	4.0	1.0
祐福寺	97	9.3	33.0	19.6	48.5	41.2	14.4	1.0
部田	51	5.9	49.0	33.3	54.9	52.9	2.0	2.0
白土	153	11.1	22.9	19.0	37.3	48.4	19.0	0.0
和合ヶ丘	129	10.1	33.3	27.1	45.0	46.5	8.5	0.0
諸輪住宅	14	0.0	7.1	28.6	21.4	42.9	7.1	7.1
白鳥	146	10.3	28.1	21.9	37.7	48.6	15.8	2.1
御岳	119	8.4	26.9	21.0	42.9	52.9	11.8	0.8
春木台	114	4.4	21.1	18.4	31.6	57.9	14.9	0.9
北山台	105	6.7	29.5	22.9	40.0	61.9	12.4	1.0
押草団地北	54	11.1	27.8	29.6	48.1	61.1	13.0	3.7
押草団地南	57	7.0	40.4	26.3	38.6	49.1	10.5	0.0
西白土	34	14.7	41.2	35.3	44.1	44.1	5.9	0.0
清水	38	5.3	26.3	18.4	39.5	52.6	10.5	5.3
兵庫	23	4.3	17.4	21.7	30.4	39.1	21.7	0.0
三ツ池	31	6.5	35.5	16.1	32.3	61.3	12.9	3.2

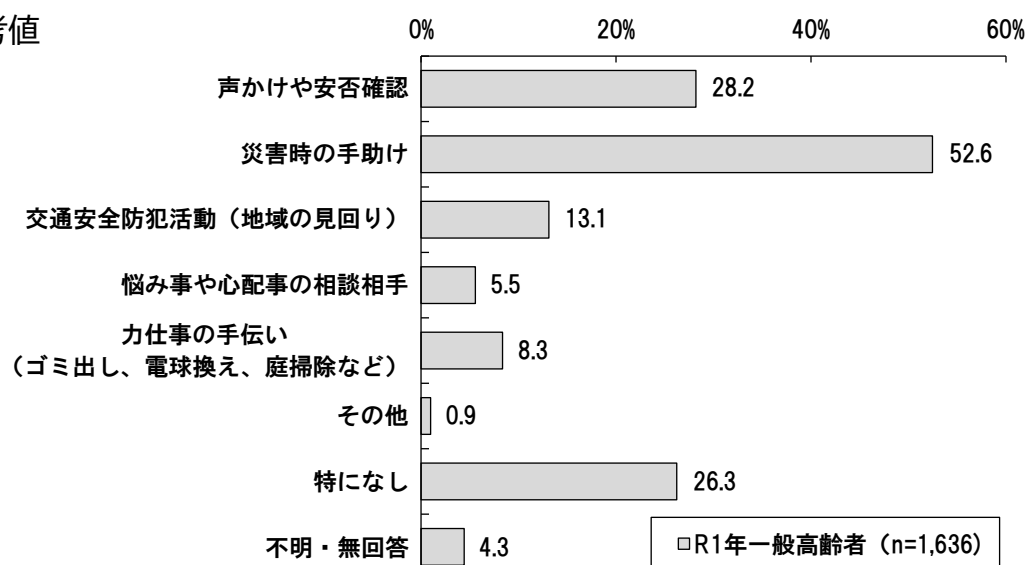
問 42 あなたが地域の人に手助けや協力をしてほしいことは何ですか。【複数回答】

地域の人に手助けや協力をしてほしいことについては、「特になし」が43.1%と最も高く、次いで「災害時の手助け」が35.2%となっています。



その他回答記載例
重いものの持ち運び
免許返納後の移動手段
毎日の体操・運動など

□参考値



性別でみると、男性で「特になし」が49.4%と女性と比べて10.9ポイント高くなっています。なお、手助けや協力してほしいことでは、女性で「災害時の手助け」が男性と比べてやや高くなっているものの、他の項目については性別で大きな差異はみられません。

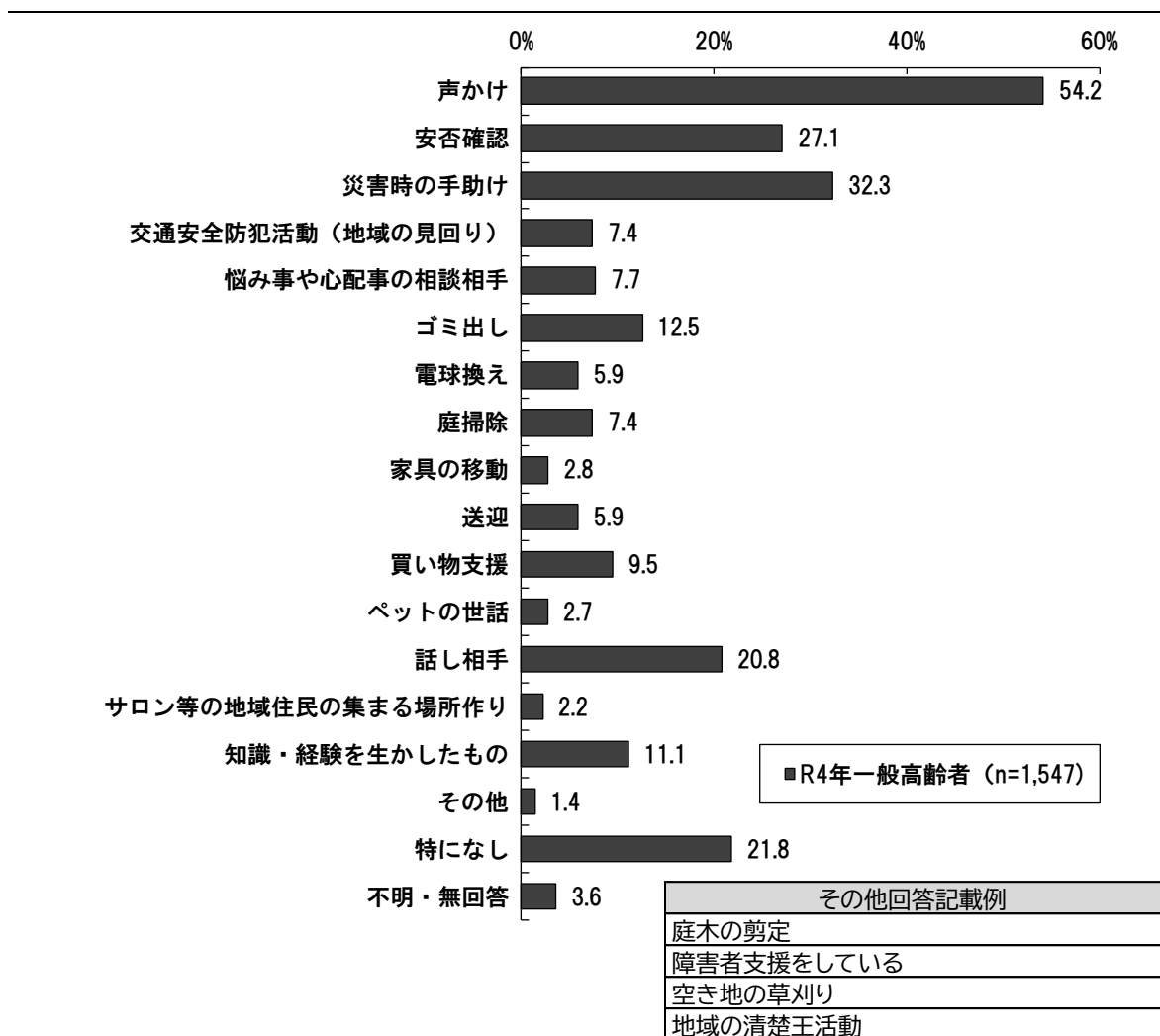
年齢別でみると、65歳～69歳、85～89歳以外の年齢で、「災害時の手助け」がそれぞれ30%台と高くなっています。

(単位：%)	n=	声かけ	安否確認	災害時の手助け	交通安全防犯活動 (地域の見回り)	悩み事や心配事の相談相手	ゴミ出し	電球換え	庭掃除	家具の移動
性別										
男性	690	16.5	9.1	31.7	7.5	1.9	1.4	0.7	1.9	1.3
女性	789	20.0	10.3	38.3	9.1	5.1	1.6	2.5	3.2	2.3
年齢別										
65歳～69歳	264	6.4	4.2	29.5	6.8	1.5	1.5	1.1	1.5	1.1
70歳～74歳	425	14.6	8.0	37.2	9.4	4.5	1.2	0.9	1.6	2.1
75歳～79歳	447	23.9	11.6	36.9	7.6	4.7	1.1	2.5	3.4	1.8
80歳～84歳	272	23.5	13.2	39.0	8.8	3.3	2.2	2.9	4.0	1.8
85歳～89歳	92	30.4	16.3	26.1	9.8	6.5	5.4	2.2	2.2	3.3
90歳以上	21	19.0	9.5	33.3	4.8	0.0	0.0	0.0	9.5	0.0

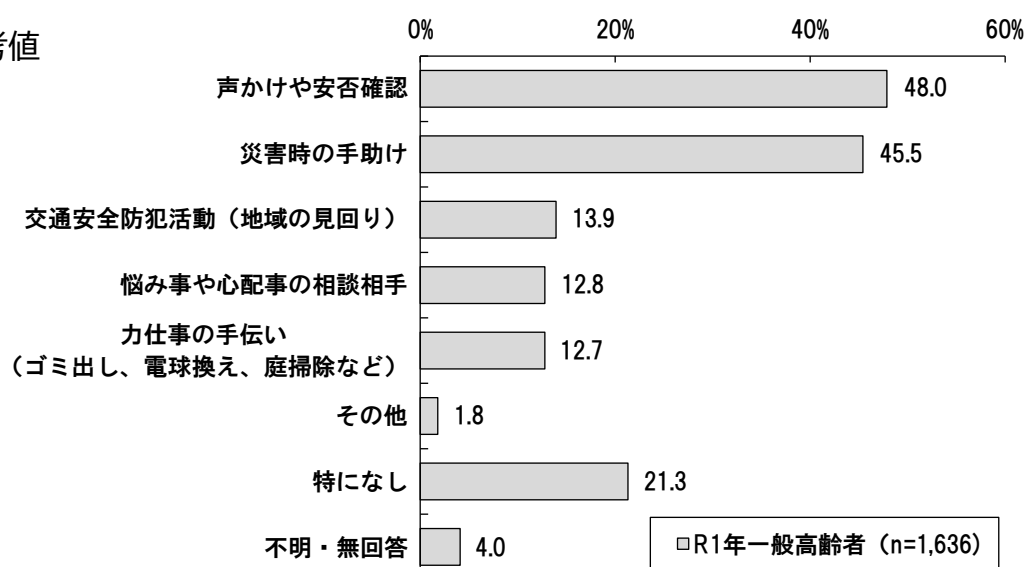
(単位：%)	n=	送迎	買い物支援	ペットの世話	話し相手	サロン等の地域住民の集まる場所作り	知識・経験を生かしたものの	その他	特になし	不明・無回答
性別										
男性	690	1.9	0.9	0.3	5.1	2.8	3.9	1.3	49.4	2.6
女性	789	3.0	3.9	0.3	5.8	3.9	4.7	1.3	38.5	5.1
年齢別										
65歳～69歳	264	0.0	0.4	0.0	2.3	0.8	4.9	1.1	59.8	1.9
70歳～74歳	425	1.9	1.9	0.5	4.7	4.2	4.0	1.6	44.5	4.0
75歳～79歳	447	2.5	2.9	0.7	6.0	3.6	5.1	1.1	40.5	3.4
80歳～84歳	272	5.5	3.7	0.0	7.0	4.0	3.7	1.5	32.0	6.3
85歳～89歳	92	4.3	5.4	0.0	6.5	5.4	0.0	0.0	38.0	4.3
90歳以上	21	9.5	14.3	0.0	9.5	0.0	4.8	0.0	33.3	4.8

問 43 あなた自身が地域の人に対して手助けや協力できることは何ですか。【複数回答】

自身が地域の人に対して手助けや協力できることについては、「声かけ」が54.2%と最も高く、次いで「災害時の手助け」が32.3%となっています。



□参考値



性別でみると、男性で「災害時の手助け」（14.0ポイント）、「知識・経験を生かしたもの」（12.1ポイント）、「電球換え」（10.6ポイント）、女性と比べてそれぞれ高くなっています。また、女性で「声かけ」（16.4ポイント）、「話し相手」（15.4ポイント）、男性と比べてそれぞれ高くなっています。

年齢別でみると、65歳～84歳で「声かけ」がそれぞれ50%台、85歳以上でもそれぞれ30%台と高くなっています。「災害時の手助け」は年齢が上がるにつれ、低くなっています。

(単位：%)	n=	声かけ	安否確認	災害時の手助け	交通安全防犯活動 (地域の見回り)	悩み事や心配事の相談相手	ゴミ出し	電球換え	庭掃除	家具の移動
性別										
男性	690	45.5	23.5	40.1	10.6	4.6	10.0	11.6	7.1	5.8
女性	789	61.9	30.7	26.1	4.6	10.4	14.3	1.0	7.6	0.4
年齢別										
65歳～69歳	264	50.0	27.7	41.3	9.8	6.1	13.3	7.2	5.7	4.2
70歳～74歳	425	52.9	27.8	38.1	7.3	8.2	14.1	5.9	8.7	2.8
75歳～79歳	447	59.7	28.0	32.0	6.5	8.9	13.0	5.8	7.8	2.0
80歳～84歳	272	58.1	29.0	22.4	7.7	7.4	9.9	5.5	6.6	2.9
85歳～89歳	92	39.1	19.6	15.2	5.4	4.3	9.8	5.4	6.5	2.2
90歳以上	21	38.1	9.5	9.5	4.8	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0

(単位：%)	n=	送迎	買い物支援	ペットの世話	話し相手	サロン等の地域住民の集まる場所作り	知識・経験を生かしたもの	その他	特になし	不明・無回答
性別										
男性	690	8.0	5.1	2.2	12.5	2.8	17.8	1.7	24.6	2.3
女性	789	3.9	13.2	3.2	27.9	1.8	5.7	1.1	20.0	4.1
年齢別										
65歳～69歳	264	5.7	9.8	3.8	19.7	1.9	13.6	1.1	20.5	2.3
70歳～74歳	425	7.5	11.8	4.0	22.1	2.8	13.2	1.9	19.8	3.5
75歳～79歳	447	4.9	10.5	2.2	22.8	1.3	10.3	0.9	20.1	2.7
80歳～84歳	272	4.8	5.1	1.1	21.0	3.3	8.5	1.5	22.8	5.1
85歳～89歳	92	6.5	7.6	1.1	10.9	2.2	4.3	3.3	37.0	4.3
90歳以上	21	4.8	0.0	0.0	4.8	0.0	19.0	0.0	42.9	4.8

7. 健康について

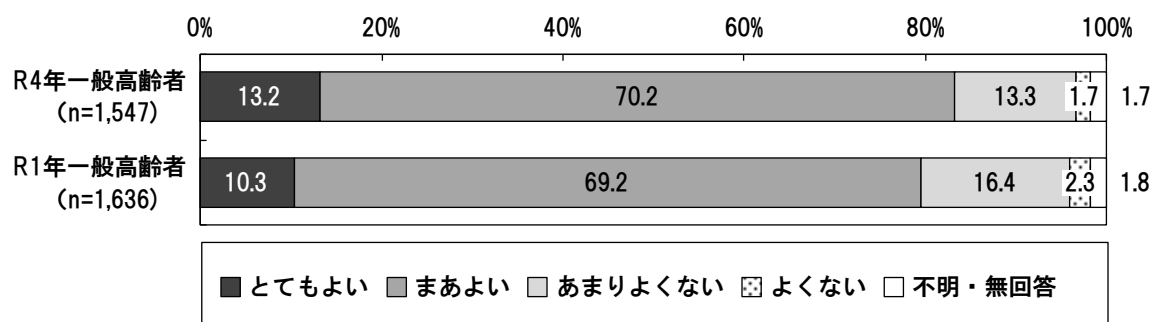
問 44 現在のあなたの健康状態はいかがですか。

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『よい』 … 「とてもよい」と「まあよい」の合算

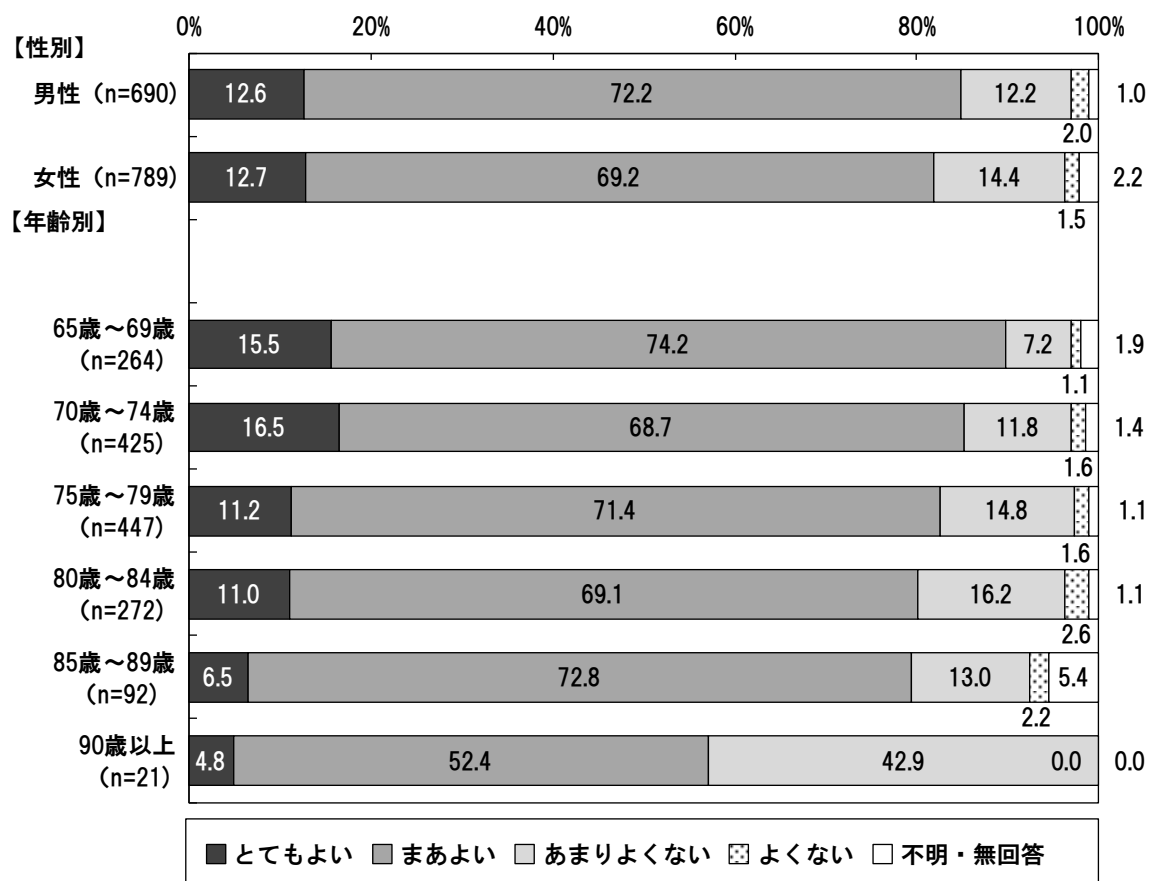
『よくない』 … 「あまりよくない」と「よくない」の合算

健康状態については、『よい』が 83.4%、『よくない』が 15.0%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



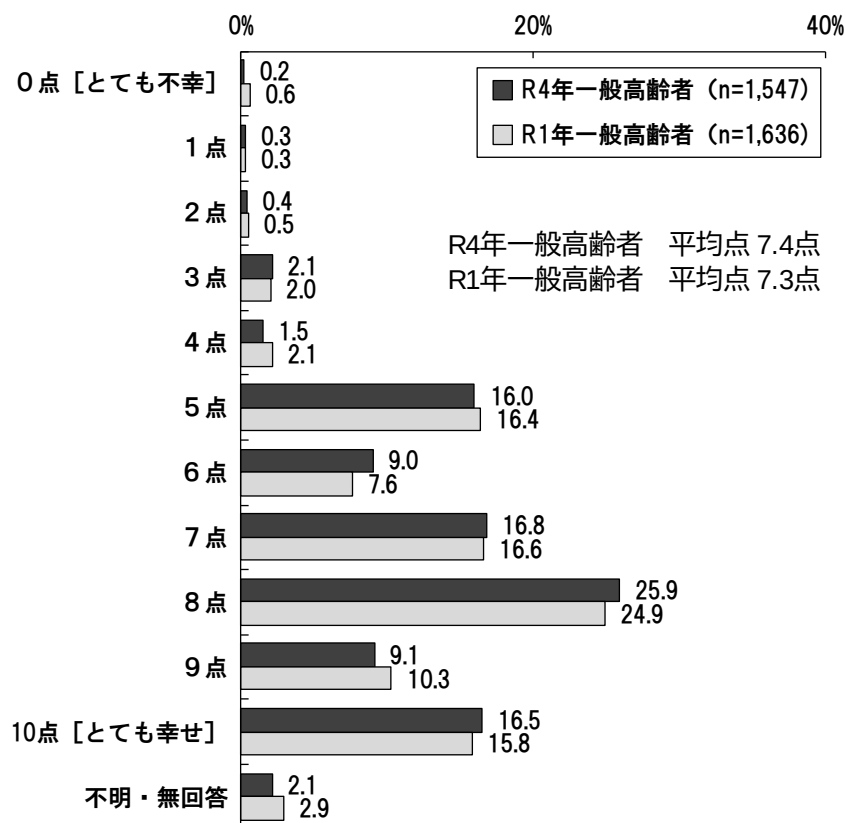
性別でみると、大きな差異はみられません。

年齢別でみると、年齢が上がるにつれて『よい』が低くなっています。



問 45 あなたは、現在どの程度幸せですか。【数量回答】

幸福度については、「8点」が25.9%と最も高く、次いで「7点」が16.8%、平均点は7.4点となっています。なお、令和元年度調査の平均点 7.3 点と比較すると、0.1 ポイント高くなっています。



※R4 年度調査の平均点 7.4 点は、「不明・無回答」を除いた n=1,515 の平均値です。

※R1 年度調査の平均点 7.3 点は、「不明・無回答」を除いた n=1,589 の平均値です。

性別で見ると、男女ともに「8点」が最も高く、平均点は男性で7.2点、女性で7.5点となっています。

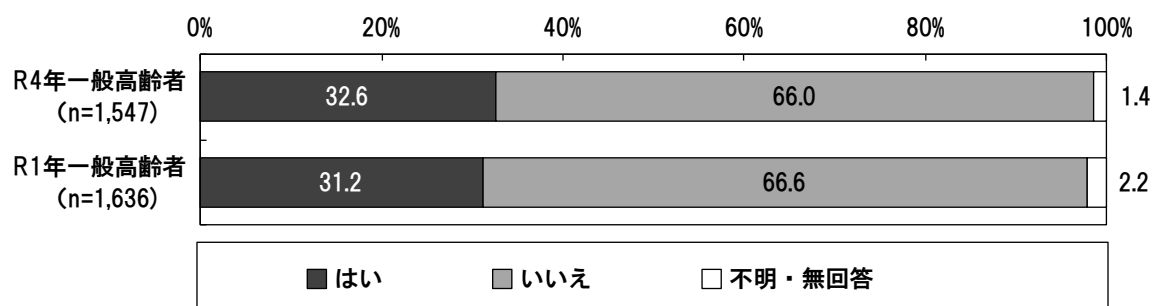
年齢別で見ると、65歳～84歳で「8点」、85歳以上で「5点」が、それぞれ最も高くなっています。平均点は、75歳～79歳、85歳～89歳で全体の平均点7.4点を下回っています。

(単位：％)	n=	とても不幸 ←————→ とても幸せ											不明・無回答	平均点
		0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点		
性別														
男性	690	0.0	0.3	0.4	2.2	1.7	16.8	10.6	18.6	27.2	8.3	12.9	1.0	7.2
女性	789	0.4	0.3	0.4	2.3	1.0	15.2	8.2	15.1	25.1	9.9	19.5	2.7	7.5
年齢別														
65歳～69歳	264	0.0	0.8	0.4	1.9	1.5	11.4	12.1	14.8	27.3	9.1	18.6	2.3	7.5
70歳～74歳	425	0.2	0.0	0.5	2.4	0.5	14.8	9.4	20.2	25.9	10.1	14.1	1.9	7.4
75歳～79歳	447	0.2	0.2	0.4	2.2	1.6	17.7	8.1	16.6	27.3	8.5	16.8	0.4	7.3
80歳～84歳	272	0.0	0.0	0.4	2.6	2.2	15.1	9.6	16.9	24.3	8.8	17.3	2.9	7.4
85歳～89歳	92	1.1	1.1	0.0	1.1	2.2	26.1	5.4	12.0	23.9	6.5	15.2	5.4	7.0
90歳以上	21	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0	9.5	19.0	19.0	19.0	4.8	7.6

※平均値は、各々「不明・無回答」を除いた値です。

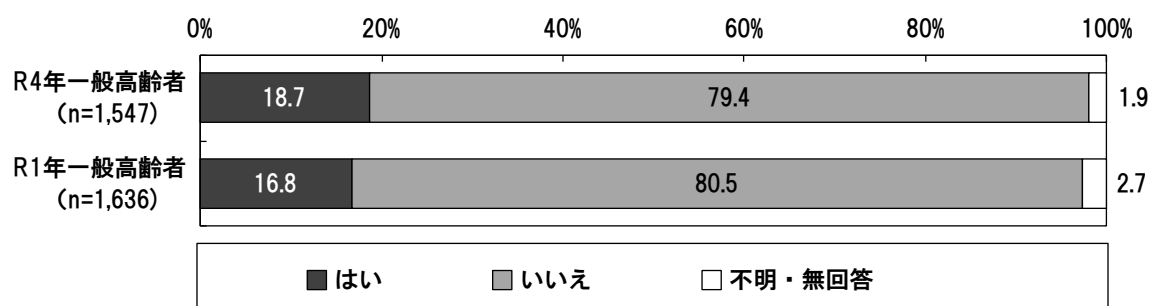
問 46 この 1 か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。

この 1 か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることについては、「はい」が 32.6%、「いいえ」が 66.0%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



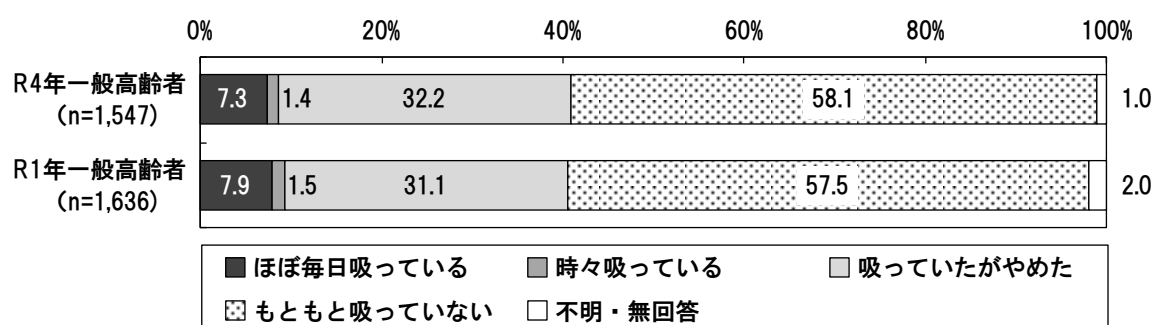
問 47 この 1 か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。

この 1 か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくあるかについては、「はい」が 18.7%、「いいえ」が 79.4%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



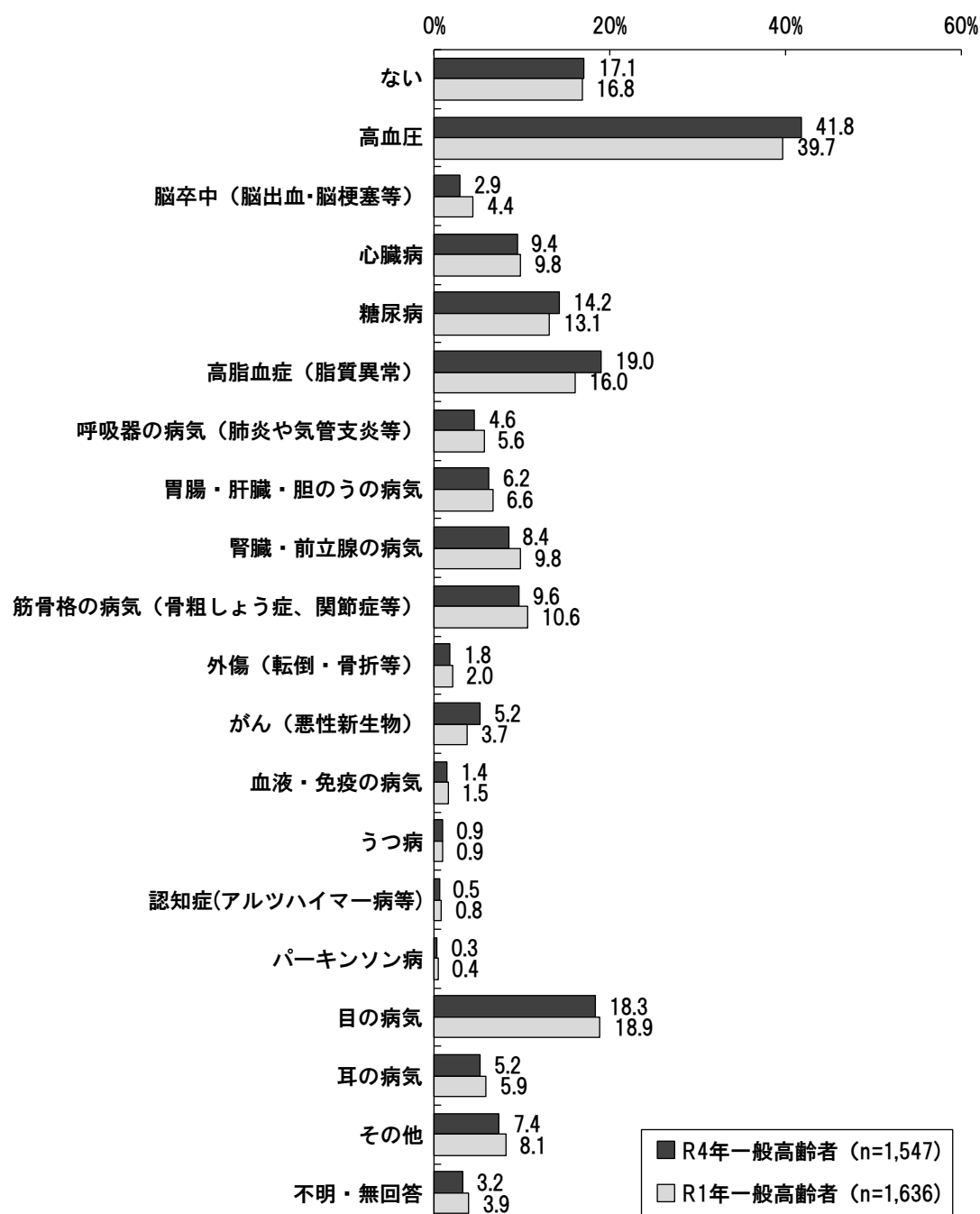
問 48 タバコは吸っていますか。

喫煙については、「もともと吸っていない」が 58.1%と最も高く、次いで「吸っていたがやめた」が 32.2%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



問 49 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。【複数回答】

現在治療中、または後遺症のある病気については、「高血圧」が 41.8%と最も高く、次いで「高脂血症（脂質異常）」が19.0%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



その他回答記載例
アレルギー・アトピー
腰痛
リュウマチ
甲状腺
透析中
自律神経の不調
乳がん

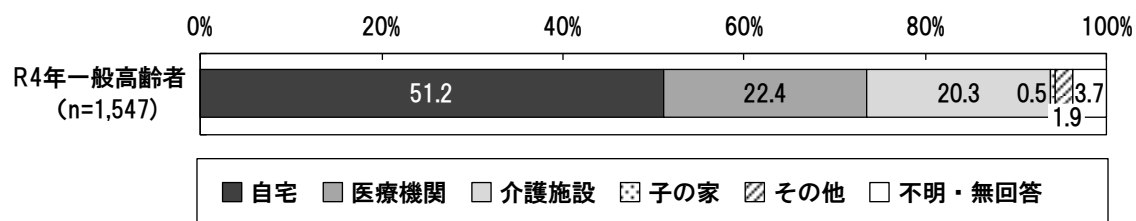
性別でみると、男性で「腎臓・前立腺の病気」が 15.9%と、女性と比べて 13.9 ポイント高くなっています。また、女性では「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」（10.3 ポイント）、「高脂血症（脂質異常）」（9.9 ポイント）が、男性と比べてそれぞれ高くなっています。

(単位：%)	n=	ない	高血圧	脳卒中（脳出血・脳梗塞等）	心臓病	糖尿病	高脂血症（脂質異常）	呼吸器の病気（肺炎や気管支炎等）	胃腸・肝臓・胆のうの病気	腎臓・前立腺の病気	筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）
性別											
男性	690	17.4	43.6	4.6	10.9	18.3	13.9	5.5	6.4	15.9	4.1
女性	789	16.5	40.6	1.3	8.1	10.6	23.8	3.8	6.1	2.0	14.4

(単位：%)	n=	外傷（転倒・骨折等）	がん（悪性新生物）	血液・免疫の病気	うつ病	認知症（アルツハイマー病等）	パーキンソン病	目の病気	耳の病気	その他	不明・無回答
性別											
男性	690	1.0	6.2	1.0	0.3	0.3	0.1	19.3	6.7	6.8	1.6
女性	789	2.5	4.7	1.6	1.3	0.6	0.4	17.6	4.1	7.9	4.3

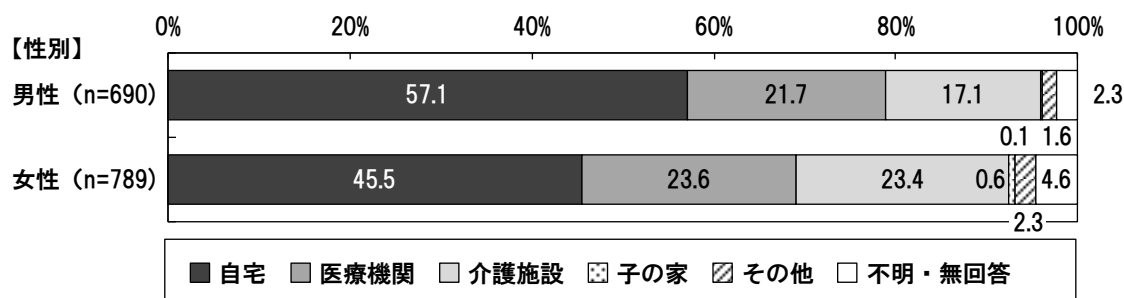
問 50 あなたは、医療や介護が必要になったときに、どこで過ごしたいですか。

医療や介護が必要になったときに過ごしたい場所については、「自宅」が51.2%と最も高く、次いで「医療機関」が22.4%となっています。



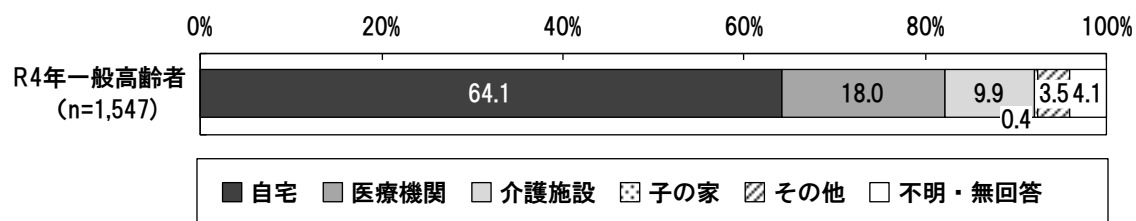
その他回答記載例
その時でないとわからない
考えたことがない
自分の状態による
グループホーム

性別でみると、男性で「自宅」が57.1%と、女性と比べて 11.6 ポイント高くなっています。



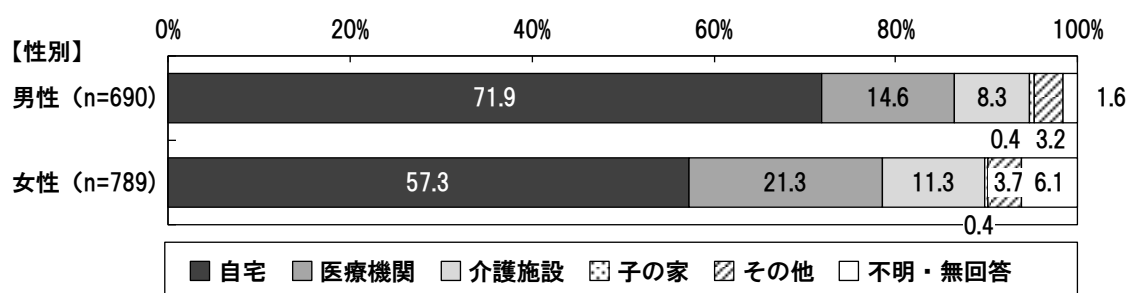
問 51 あなたは、人生の最期をどこで迎えたいですか。

人生の最期を迎えたい場所については、「自宅」が64.1%と最も高く、次いで「医療機関」が18.0%となっています。



その他回答記載例
どこでもよい
状況による
考えていない

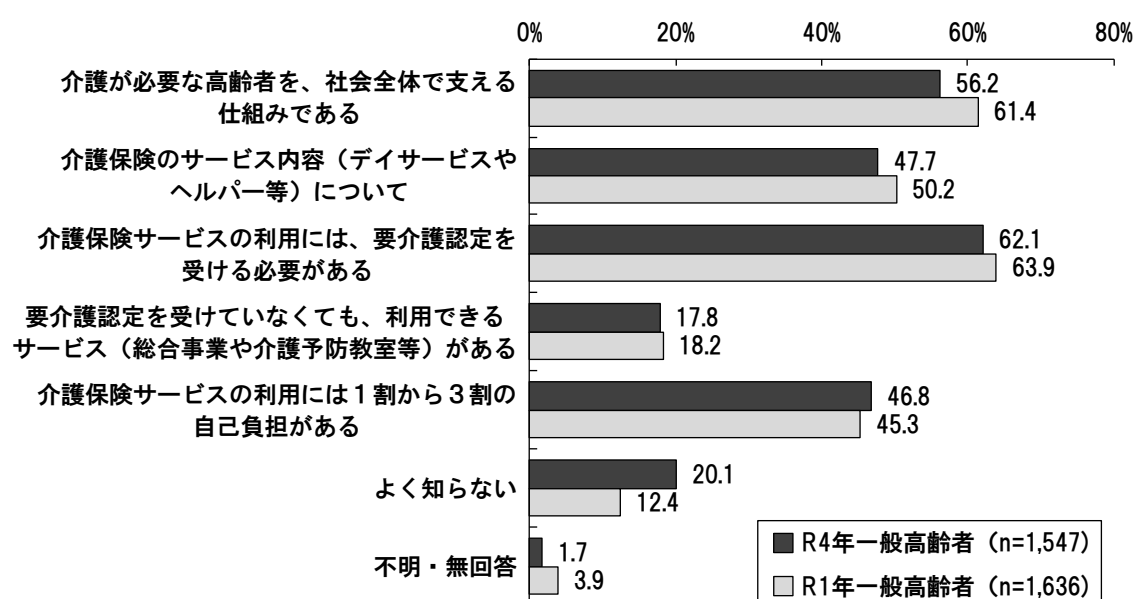
性別でみると、男性で「自宅」が71.9%と、女性と比べて14.6ポイント高くなっています。



8. 介護保険制度について

問 52 介護保険制度について、あなたが知っているものはどれですか。【複数回答】

介護保険制度について知っていることについては、「介護保険サービスの利用には、要介護認定を受ける必要がある」が62.1%と最も高く、次いで「介護が必要な高齢者を、社会全体で支える仕組みである」が56.2%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「介護が必要な高齢者を、社会全体で支える仕組みである」がやや低くなっている一方で、「よく知らない」はやや高くなっています。



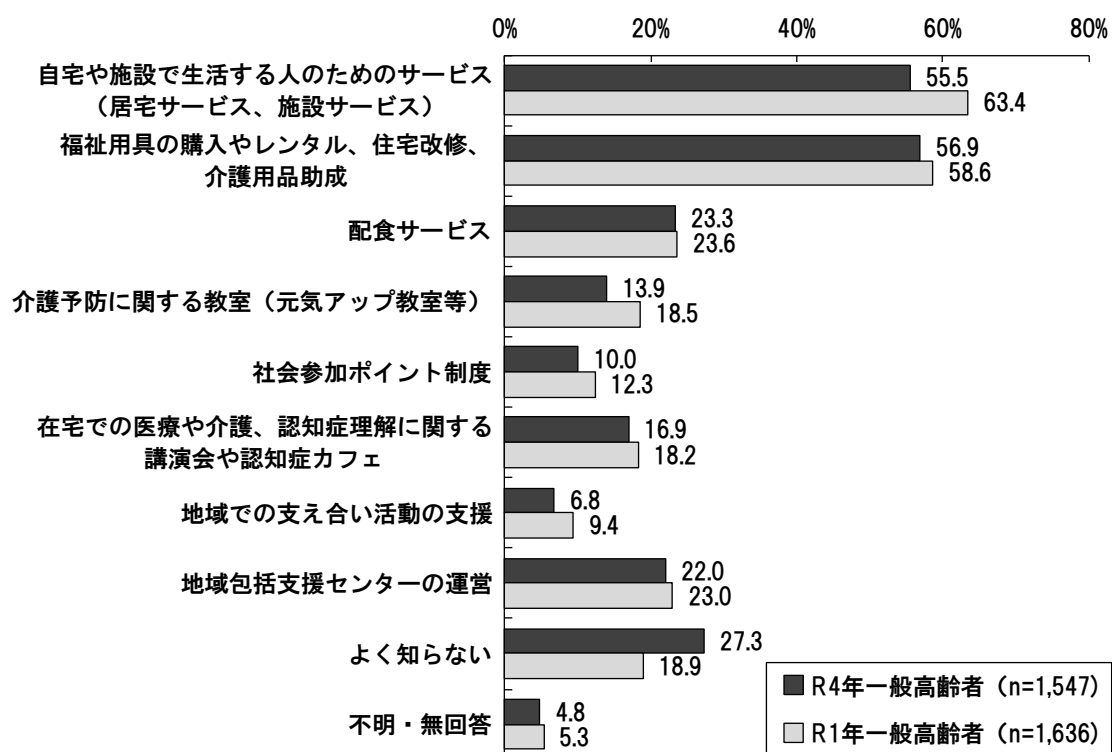
性別でみると、女性で「介護保険サービスの利用には、要介護認定を受ける必要がある」（13.7ポイント）、「介護保険のサービス内容（デイサービスやヘルパー等）について」（10.3ポイント）が、男性と比べてそれぞれ高くなっています。

年齢別でみると、「要介護認定を受けていなくても、利用できるサービス（総合事業や介護予防教室等）がある」が65歳～84歳でそれぞれ17%台～20.0%であるものの、85歳以上では1割未満と低くなっています。

（単位：％）	n=	介護が必要な高齢者を、社会全体で支える仕組みである	介護保険のサービス内容（デイサービスやヘルパー等）について	介護保険サービスの利用には、要介護認定を受ける必要がある	要介護認定を受けていなくても、利用できるサービス（総合事業や介護予防教室等）がある	介護保険サービスの利用には1割から3割の自己負担がある	よく知らない	不明・無回答
性別								
男性	690	58.3	42.2	55.1	14.5	43.3	23.5	1.3
女性	789	54.2	52.5	68.8	21.2	50.6	17.0	1.9
年齢別								
65歳～69歳	264	62.9	53.0	67.8	18.9	52.3	15.9	1.9
70歳～74歳	425	60.5	50.4	64.7	20.0	47.8	18.1	1.6
75歳～79歳	447	53.9	46.5	63.5	17.2	47.9	19.9	0.4
80歳～84歳	272	50.4	48.2	55.1	18.4	44.5	23.9	1.8
85歳～89歳	92	45.7	29.3	48.9	9.8	34.8	26.1	5.4
90歳以上	21	42.9	33.3	57.1	9.5	28.6	33.3	4.8

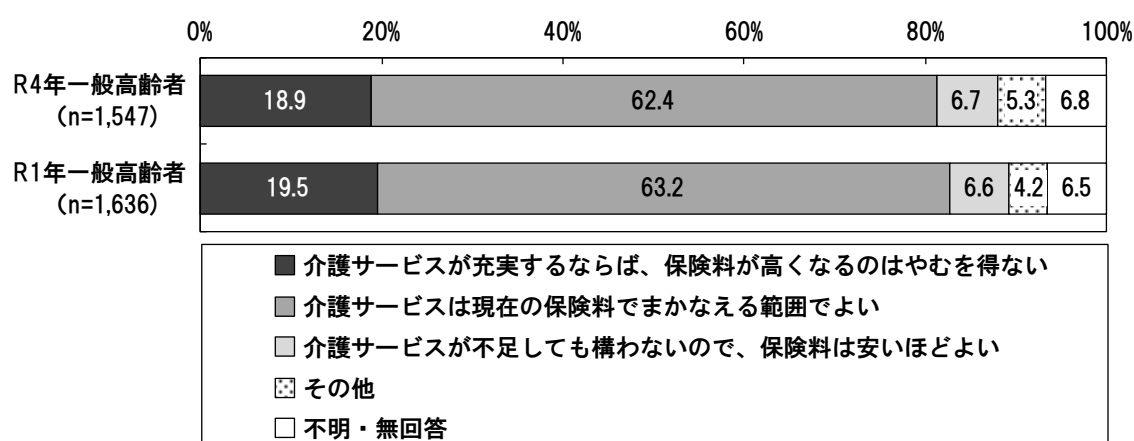
問 53 介護保険料の使われ方で、あなたが知っているものはどれですか。【複数回答】

介護保険料の使われ方で知っていることについては、「福祉用具の購入やレンタル、住宅改修、介護用品助成」が56.9%と最も高く、次いで「自宅や施設で生活する人のためのサービス（居宅サービス、施設サービス）」が55.5%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「自宅や施設で生活する人のためのサービス（居宅サービス、施設サービス）」が7.9ポイント低くなっている一方で、「よく知らない」は8.4ポイント高くなっています。



問 54 今後の介護保険料のあり方について、あなたの考えに一番近いものはどれですか。

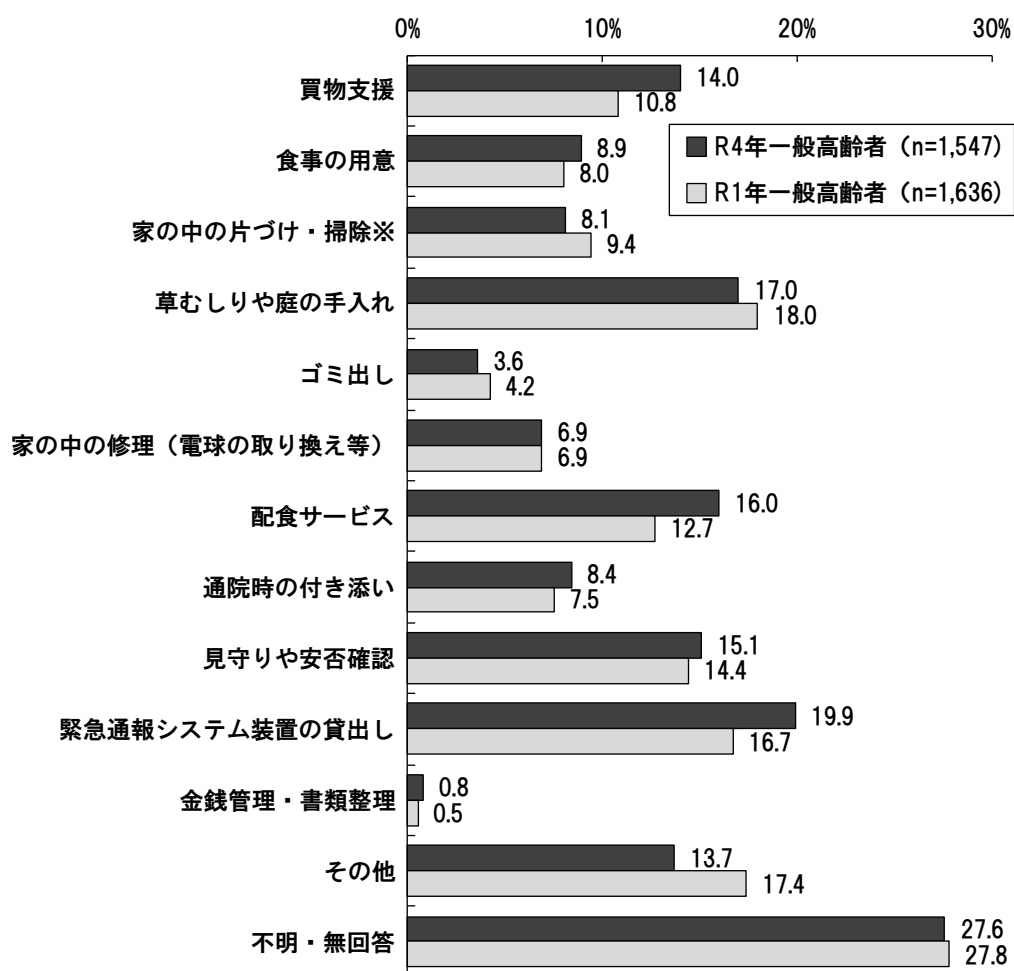
今後の介護保険料のあり方について、自分に一番近い考えについては、「介護サービスは現在の保険料でまかなえる範囲でよい」が62.4%と最も高く、次いで「介護サービスが充実するならば、保険料が高くなるのはやむを得ない」が18.9%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



その他回答記載例
サービスの充実を望むが保険料は安い方がいい
よくわからない
年金で賄える料金
保険料が上がるのもサービス不足も悩みの種

問 55 あなたが日常生活で使っている（使いたい）支援（サービス）はどれですか。
【複数回答】

日常生活で使っている（使いたい）支援（サービス）については、「緊急通報システム装置の貸出し」が 19.9%と最も高く、次いで「草むしりや庭の手入れ」が 17.0%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



※R4 年度調査の選択肢「家の中の片づけ・掃除」は、R1 年度調査では「掃除」となっています。

その他回答記載例
今のところ特にない
まだ必要としていない
送迎・配車サービス
必要な時に相談できるところ

日常生活圏域別でみると、いずれの圏域も「緊急通報システム装置の貸出し」「草むしりや庭の手入れ」が上位となっています。

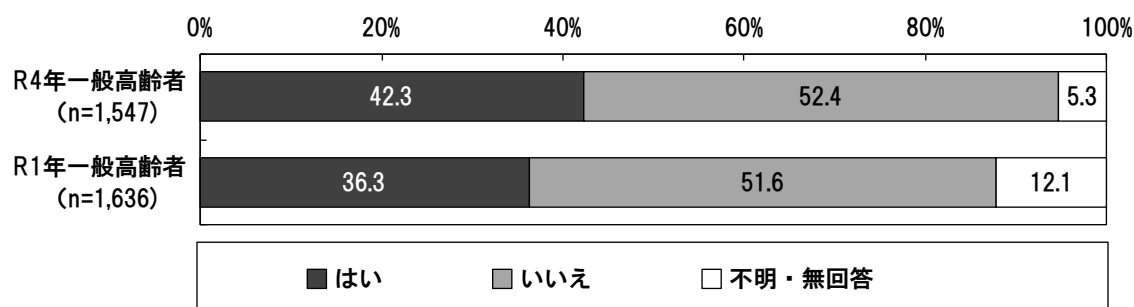
(単位：％)	n=	買物支援	食事の用意	掃除 家の中の片づけ・	草むしりや庭の手入れ	ゴミ出し	家の中の修理（電球の取り換え等）	配食サービス	通院時の付き添い	見守りや安否確認	緊急通報システム装置の貸出し
日常生活圏域別											
北部	869	15.1	8.4	8.7	16.7	3.9	7.2	16.1	8.4	14.6	19.6
南部	641	12.8	10.0	7.5	17.8	3.1	5.8	16.5	8.4	16.2	20.7

(単位：％)	n=	理金 銭管理・書類整	その他	不明・無回答
日常生活圏域別				
北部	869	0.6	12.7	28.7
南部	641	1.1	14.7	25.9

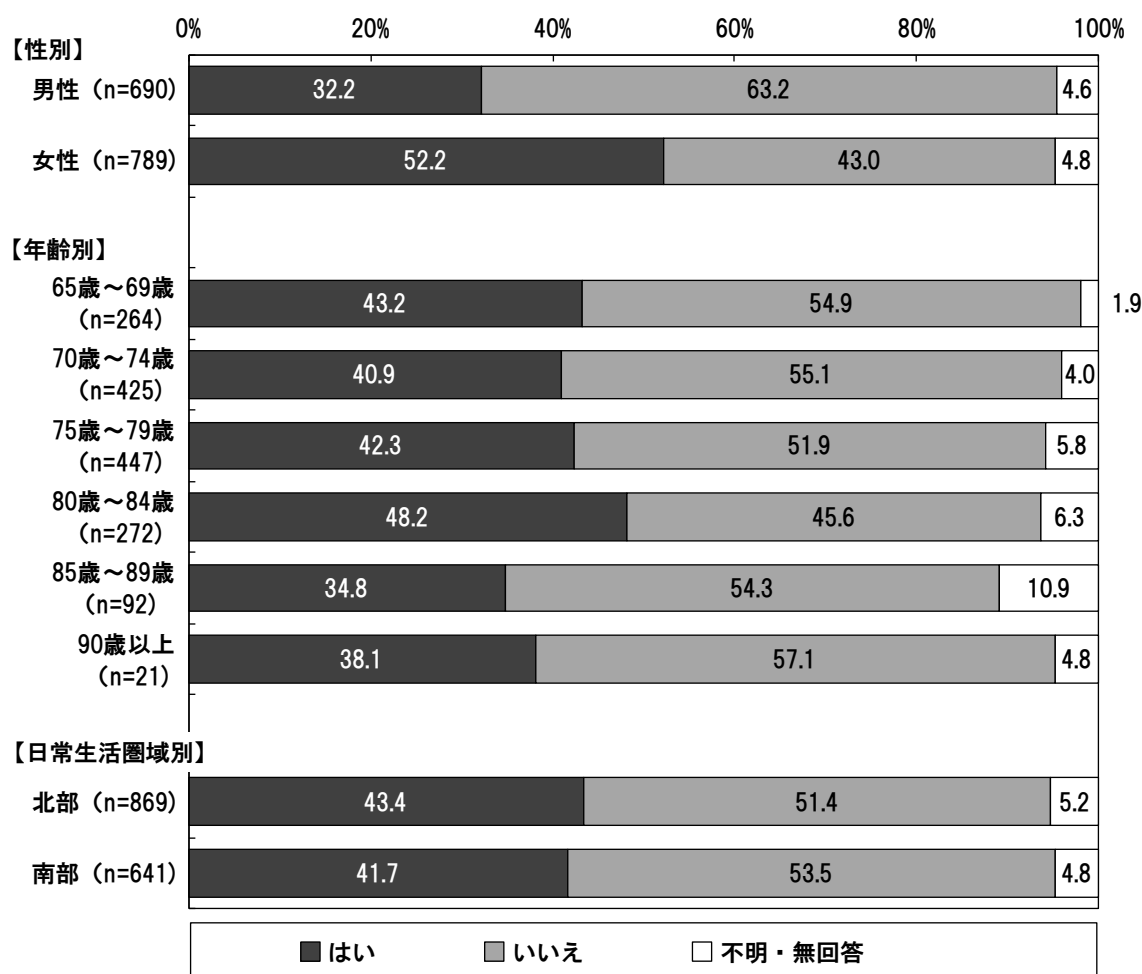
9. 地域包括支援センターについて

問 56 あなたは、地域包括支援センターを知っていますか。

地域包括支援センターの認知については、「はい」が 42.3%、「いいえ」が 52.4%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「はい」がやや高くなっています。

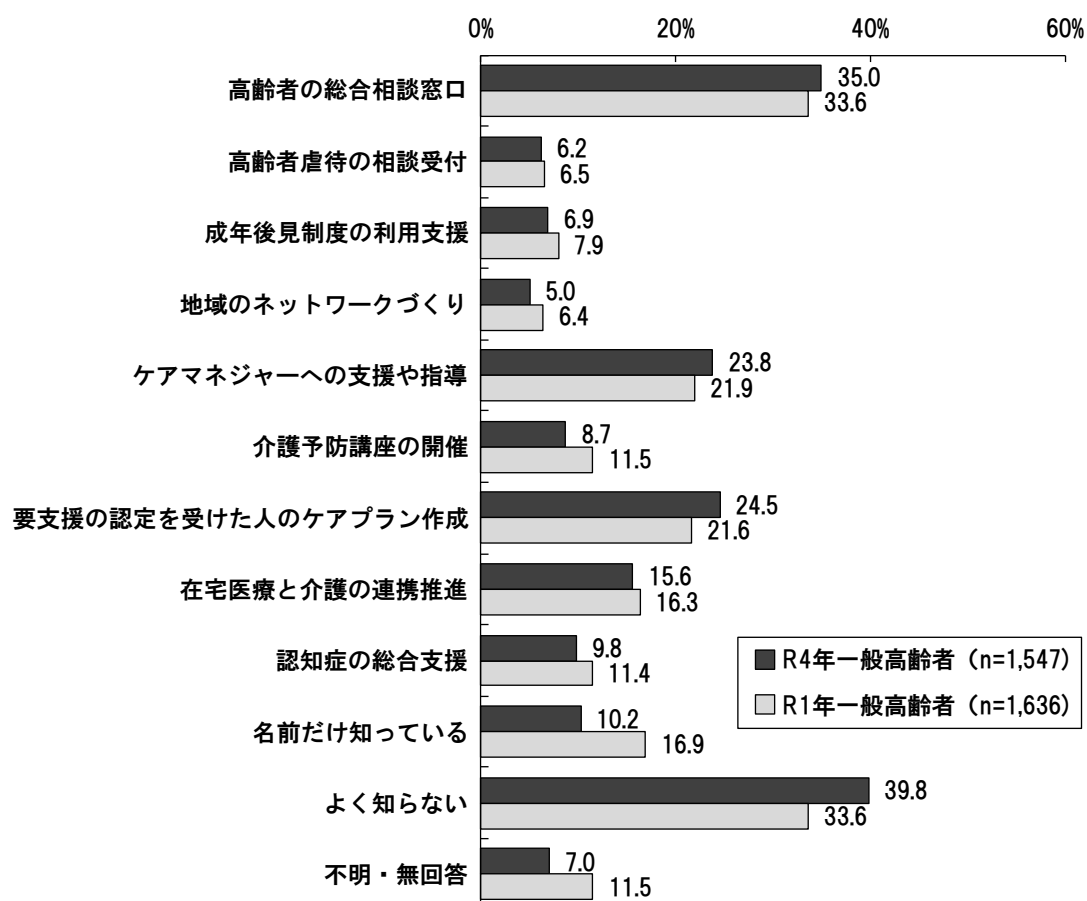


性別でみると、男性で「はい」が 32.2%と、女性と比べて 20.0 ポイント低くなっています。年齢別でみると、65 歳～84 歳で「はい」がそれぞれ 40%台となっています。日常生活圏域別でみると、「はい」が北部で 43.4%、南部で 41.7%となっています。



問 57 あなたが、地域包括支援センターの役割として知っているものはどれですか。
【複数回答】

地域包括支援センターの役割として知っていることについては、「よく知らない」が39.8%と最も高く、次いで「高齢者の総合相談窓口」が35.0%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「よく知らない」がやや高くなっています。



性別でみると、男性で「よく知らない」が51.3%と、女性と比べて21.0ポイント高くなっています。また、女性で「高齢者の総合相談窓口」（17.5ポイント）、「要支援の認定を受けた人のケアプラン作成」（14.7ポイント）、「ケアマネジャーへの支援や指導」（12.3ポイント）、男性と比べてそれぞれ高くなっています。

年齢別でみると、65歳～74歳、90歳以上で「よく知らない」がそれぞれ40%台と高くなっています。

日常生活圏域別でみると、いずれの圏域も「よく知らない」がそれぞれ39%台と高くなっています。

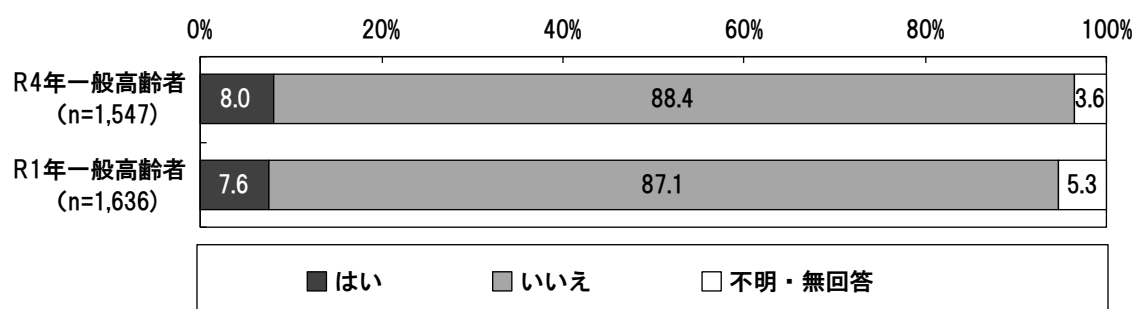
(単位：％)	n=	高齢者の総合相談窓口	高齢者虐待の相談受付	成年後見制度の利用支援	地域のネットワークづくり	ケアマネジャーへの支援や指導	介護予防講座の開催	要支援の認定を受けた人のケアプラン作成	在宅医療と介護の連携推進	認知症の総合支援	名前だけ知っている
性別											
男性	690	26.1	4.9	6.1	4.8	17.2	5.5	16.7	11.0	6.7	8.8
女性	789	43.6	7.5	7.6	5.4	29.5	11.3	31.4	20.0	12.8	11.3
年齢別											
65歳～69歳	264	34.1	4.9	6.8	4.2	25.0	8.0	25.8	15.9	8.3	7.6
70歳～74歳	425	33.2	7.5	8.2	6.4	23.3	8.9	25.2	14.6	10.4	8.9
75歳～79歳	447	34.2	5.1	6.5	4.0	24.4	8.5	23.3	15.9	9.4	12.5
80歳～84歳	272	42.6	7.0	6.3	7.0	26.1	9.6	27.2	18.8	12.5	10.7
85歳～89歳	92	29.3	5.4	6.5	2.2	17.4	7.6	17.4	10.9	8.7	13.0
90歳以上	21	38.1	19.0	4.8	0.0	9.5	4.8	23.8	9.5	4.8	9.5
日常生活圏域別											
北部	869	36.5	6.2	7.2	5.3	24.9	8.6	25.8	16.7	10.7	9.8
南部	641	33.4	6.6	6.6	4.8	22.5	8.6	23.1	14.2	8.7	11.1

(単位：％)	n=	よく知らない	不明・無回答
性別			
男性	690	51.3	6.4
女性	789	30.3	6.6
年齢別			
65歳～69歳	264	47.3	3.4
70歳～74歳	425	44.2	7.3
75歳～79歳	447	37.4	7.4
80歳～84歳	272	30.1	7.4
85歳～89歳	92	38.0	7.6
90歳以上	21	47.6	4.8
日常生活圏域別			
北部	869	39.7	6.7
南部	641	39.9	6.7

10. 認知症について

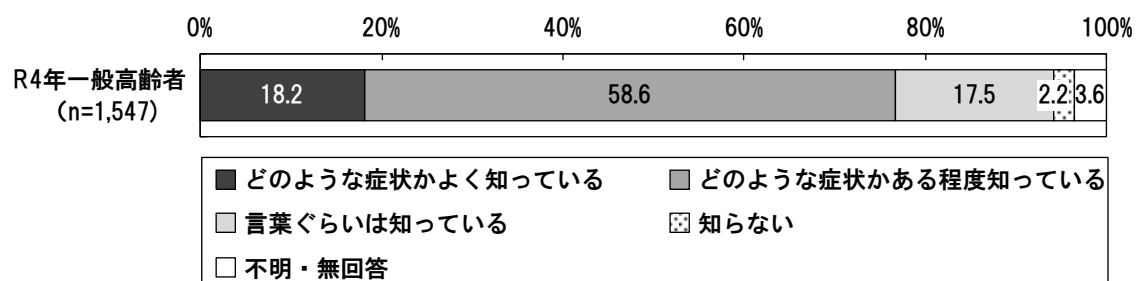
問 58 あなたは、認知症の症状がありますか。または、家族に認知症の症状がある人がいますか。

自身や家族に認知症の症状があるかについては、「はい」が 8.0%、「いいえ」が 88.4%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



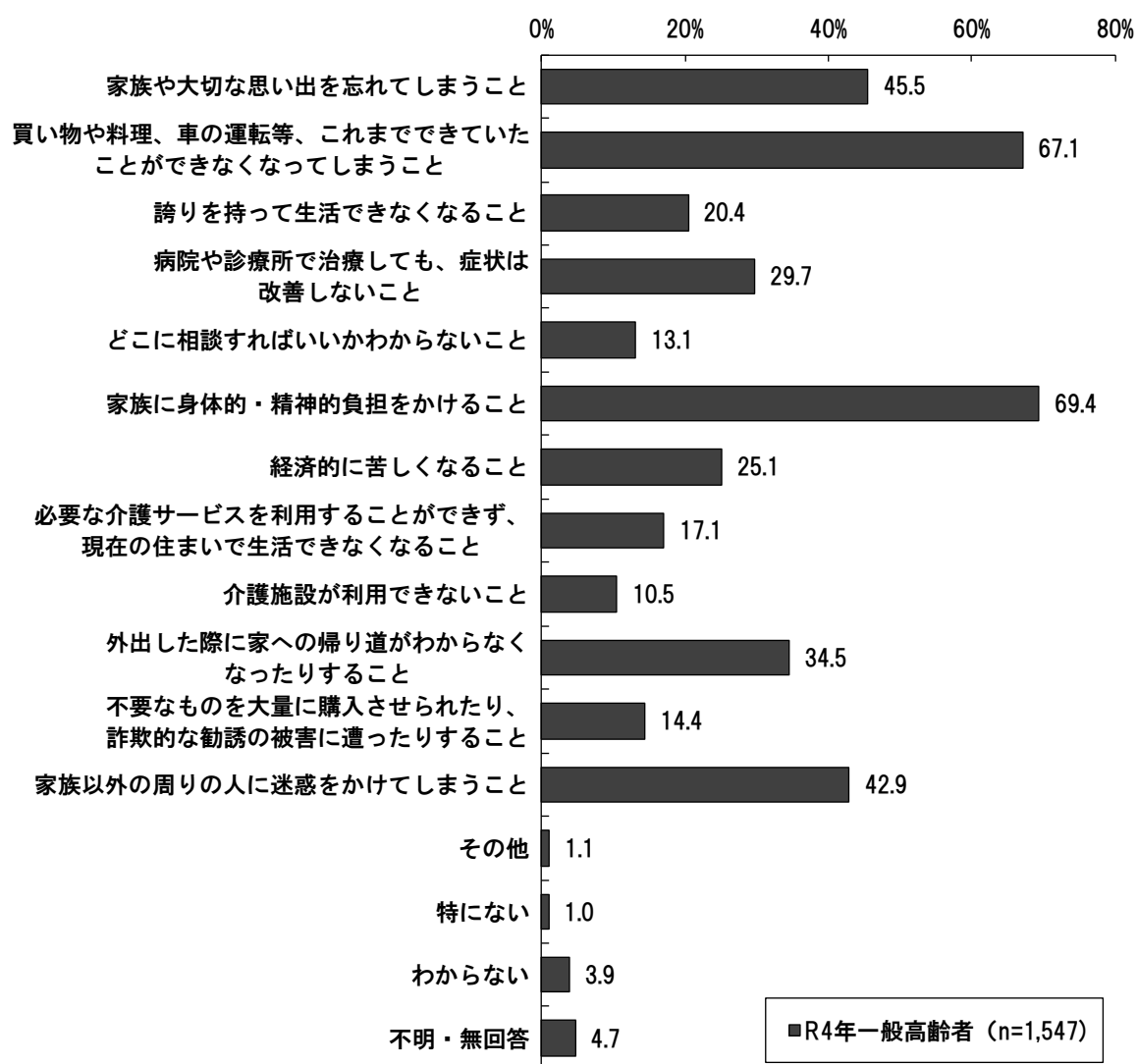
問 59 あなたは、認知症について知っていますか。

認知症について知っているかについては、「どのような症状かある程度知っている」が 58.6%と最も高く、次いで「どのような症状かよく知っている」が 18.2%となっています。



問 60 認知症になったとしたら、どのようなことを不安と感じますか。【複数回答】

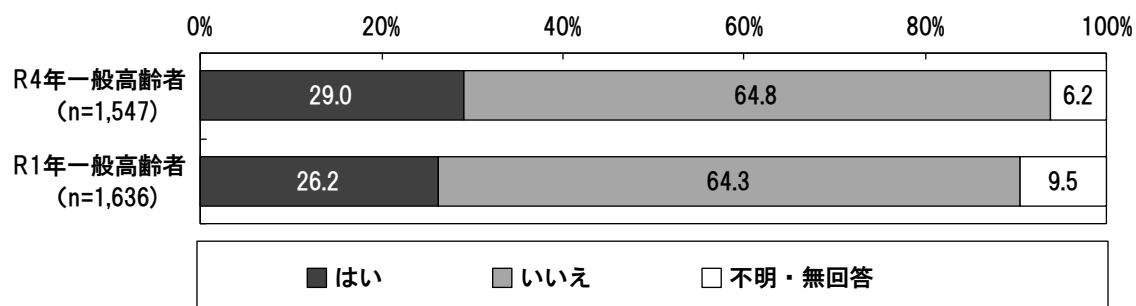
認知症になったら不安なことについては、「家族に身体的・精神的負担をかけること」が69.4%と最も高く、次いで「買い物や料理、車の運転等、これまでできていたことができなくなってしまうこと」が67.1%となっています。



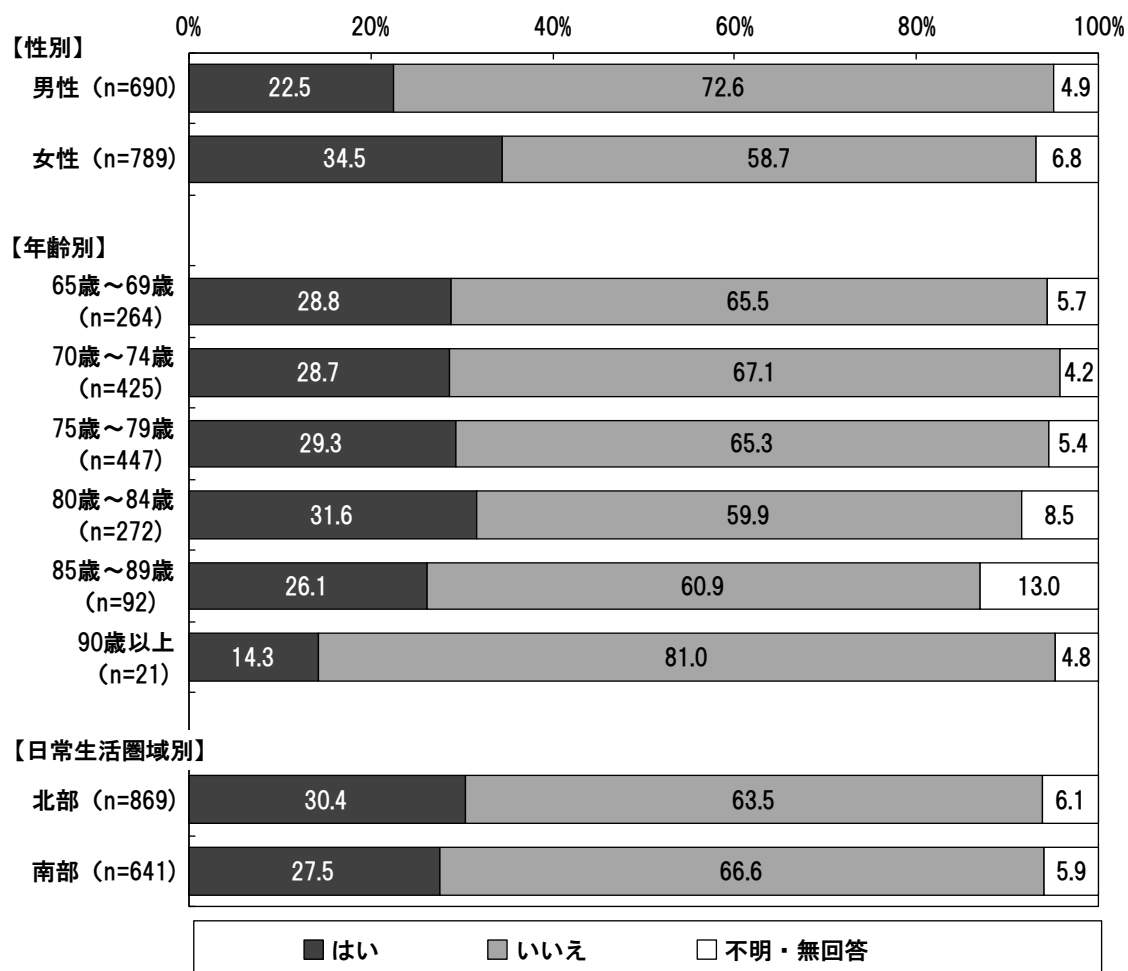
その他回答記載例
自分が認知症になったか否か、理解出来るかどうか。
預金口座の管理、カード等のパスワードを忘れること
信頼できる人を得ること
特に考えないようにしている

問 61 認知症に関する相談窓口を知っていますか。

認知症に関する相談窓口を知っているかについては、「はい」が 29.0%、「いいえ」が 64.8%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



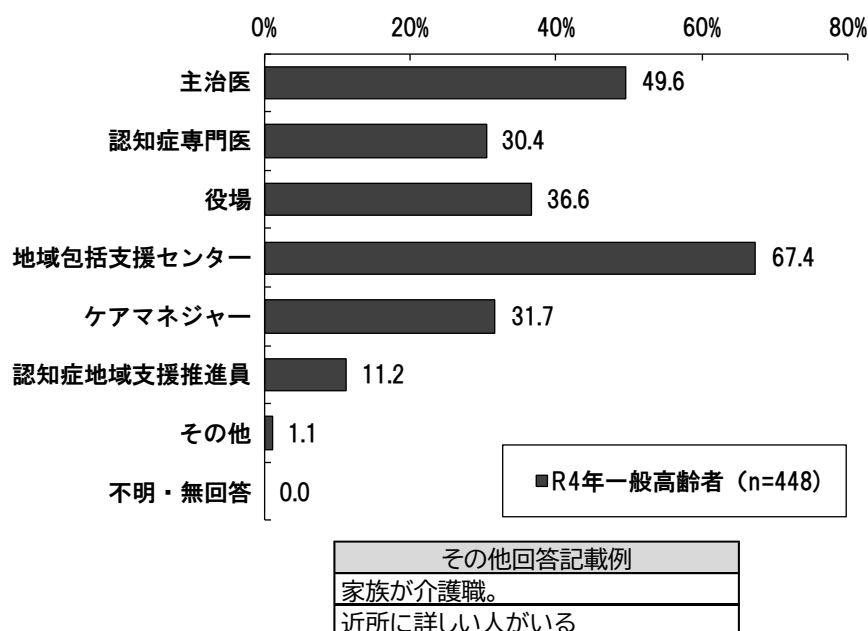
性別でみると、男性で「はい」が 22.5%と、女性と比べて 12.0 ポイント低くなっています。
 年齢別でみると、80 歳～84 歳で「はい」が 31.6%と高くなっています。
 日常生活圏域別でみると、「はい」が北部で 30.4%、南部で 27.5%となっています。



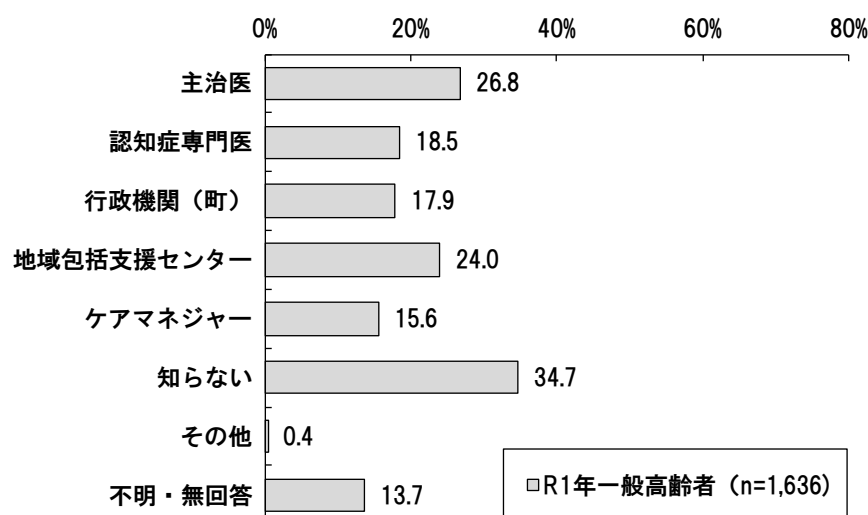
【問 61 で「1. はい」と回答した方のみ】

問 61－1 認知症に関する相談窓口として知っているものはどれですか。【複数回答】

認知症に関する相談窓口として知っているものについては、「地域包括支援センター」が 67.4%と最も高く、次いで「主治医」が 49.6%となっています。



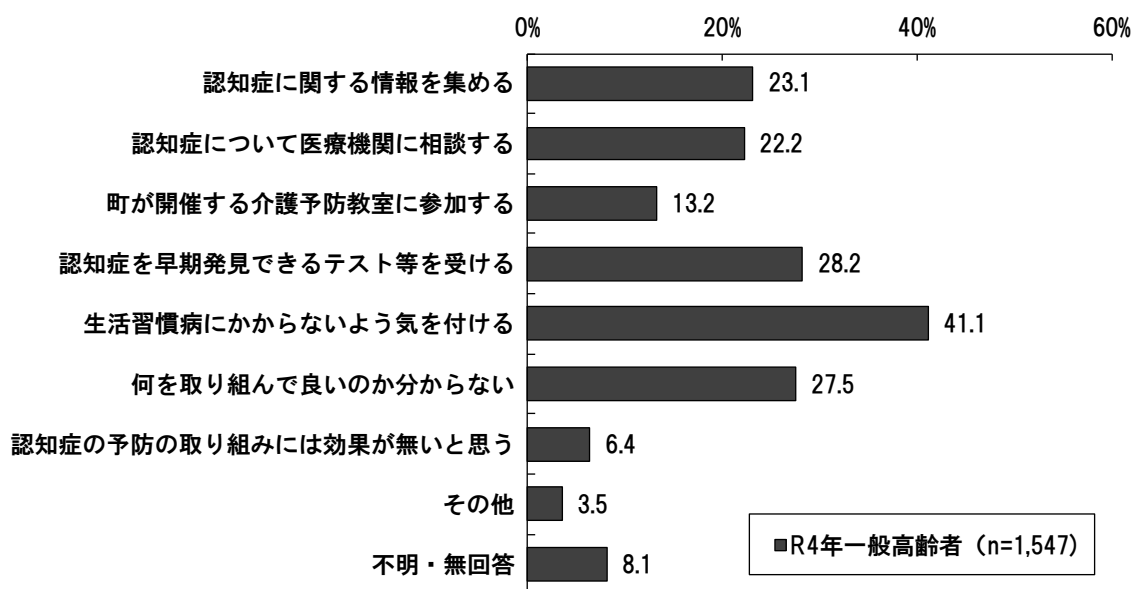
□参考値



※R4 年度調査は前問の問 61 で認知症に関する相談窓口を知っているかどうかの設問があり、「はい（知っている）」と回答した方のみ本設問の問 61－1 に回答しています。一方、R1 年度調査は相談窓を知っているかどうかの設問はなく、「知らない」を含めた設問となっています。

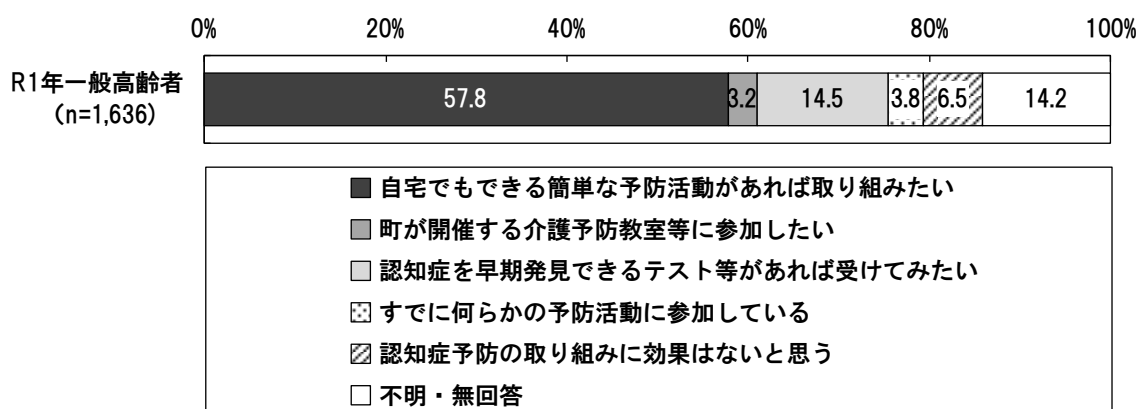
問 62 認知症の予防で取り組みたいことは何ですか。【複数回答】

認知症の予防で取り組みたいことについては、「生活習慣病にかからないよう気を付ける」が41.1%と最も高く、次いで「認知症を早期発見できるテスト等を受ける」が28.2%となっています。



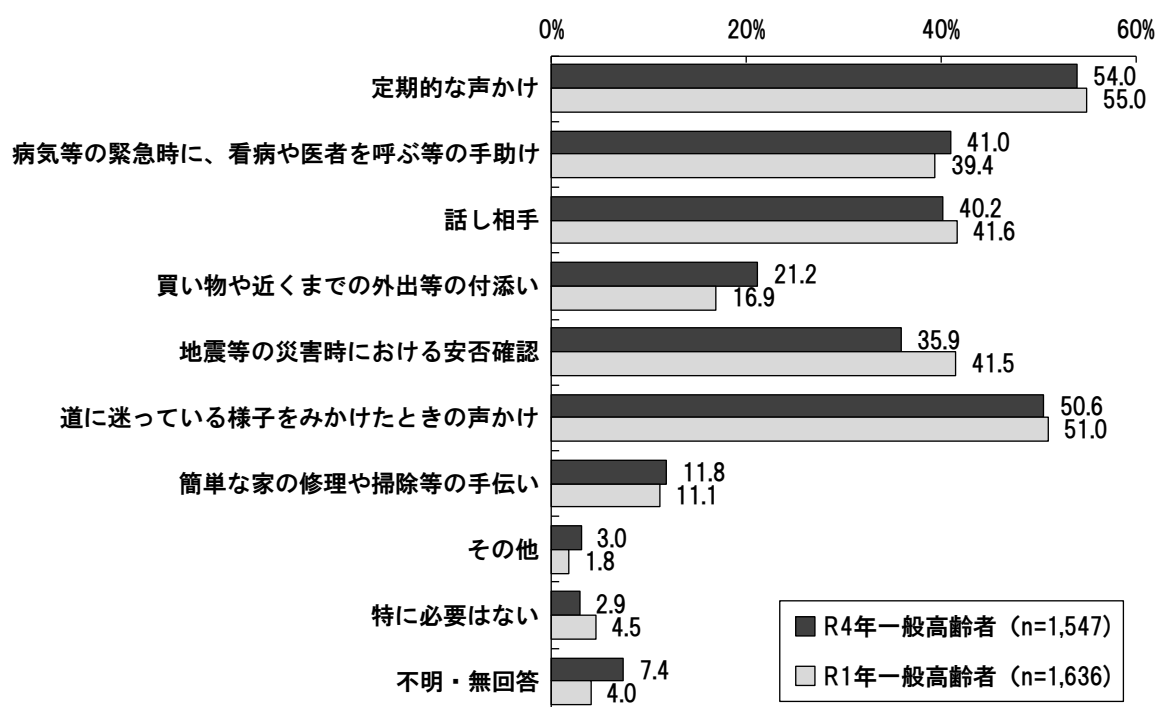
その他回答記載例	
運動・体操をする	
日ごろから頭を使うことをする	
趣味の活動	
人との交流	

□参考値（単数回答）



問 63 あなたは認知症の人が住み慣れた地域で暮らしていくためには、どのような地域住民の協力があるとよいと思いますか。【複数回答】

認知症の人が住み慣れた地域で暮らしていくために、あるとよい地域住民の協力については、「定期的な声かけ」が54.0%と最も高く、次いで「道に迷っている様子をみかけたときの声かけ」が50.6%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「地震等の災害時における安否確認」がやや低くなっています。



その他回答記載例
その時にならないとわからない
家族による対応
入所できる施設の充実

年齢別でみると、65 歳～84 歳で「定期的な声かけ」が、65 歳～79 歳で「道に迷っている様子をみかけたときの声かけ」が、それぞれ 50% 台と高くなっています。

日常生活圏域別でみると、いずれの圏域も「定期的な声かけ」「道に迷っている様子をみかけたときの声かけ」が、それぞれ 50% 台と高くなっています。

(単位：%)	n=	定期的な声かけ	病気等の緊急時に、看病や医者と呼ぶ等の手助け	話し相手	買い物や近くまでの外出等の付添い	地震等の災害時における安否確認	道に迷っている様子をみかけたときの声かけ	簡単な家の修理や掃除等の手伝い	その他	特に必要はない	不明・無回答
年齢別											
65 歳～69 歳	264	58.7	38.6	36.7	23.9	38.3	54.2	14.0	3.4	2.3	4.2
70 歳～74 歳	425	54.8	42.4	40.5	23.1	38.1	52.9	13.9	4.2	1.6	4.9
75 歳～79 歳	447	52.6	41.2	43.4	21.7	35.6	51.9	11.0	1.8	4.3	7.2
80 歳～84 歳	272	54.8	43.0	41.2	18.8	33.8	46.7	9.9	1.5	2.6	11.8
85 歳～89 歳	92	40.2	33.7	35.9	9.8	26.1	39.1	6.5	5.4	3.3	13.0
90 歳以上	21	47.6	33.3	23.8	9.5	38.1	47.6	0.0	9.5	9.5	9.5
日常生活圏域別											
北部	869	54.3	42.0	40.5	21.4	36.2	50.5	11.3	2.8	2.8	7.0
南部	641	52.9	39.2	40.1	20.4	35.1	51.2	12.0	3.3	3.1	7.6

11. 調査結果からみる調査対象者の評価

一般高齢者調査結果を活用し、「運動器」「転倒」「閉じこもりリスク」「栄養」「認知機能」「うつ傾向」「IADL」の7項目について機能判定の評価を行いました。

(1) 運動器

■評価方法

以下の5つの設問中3問以上、該当する選択肢（問9～11で「できない」、問12で「何度もある」または「1度ある」、問13で「とても不安である」または「やや不安である」）が回答された場合、該当者（運動器機能の低下している高齢者）とした。

■評価に使用した調査設問結果【一般高齢者（n=1,547）】

単位：％

設問番号	設問	できるし、している	できるけどしていない	できない	不明・無回答
9	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。	65.9	22.2	9.8	2.1
10	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。	79.4	12.2	6.5	1.9
11	15分位続けて歩いていますか。	74.9	18.0	5.3	1.7

設問番号	設問	何度もある	1度ある	ない	不明・無回答
12	過去1年間に転んだ経験がありますか。	7.2	18.4	72.9	1.5

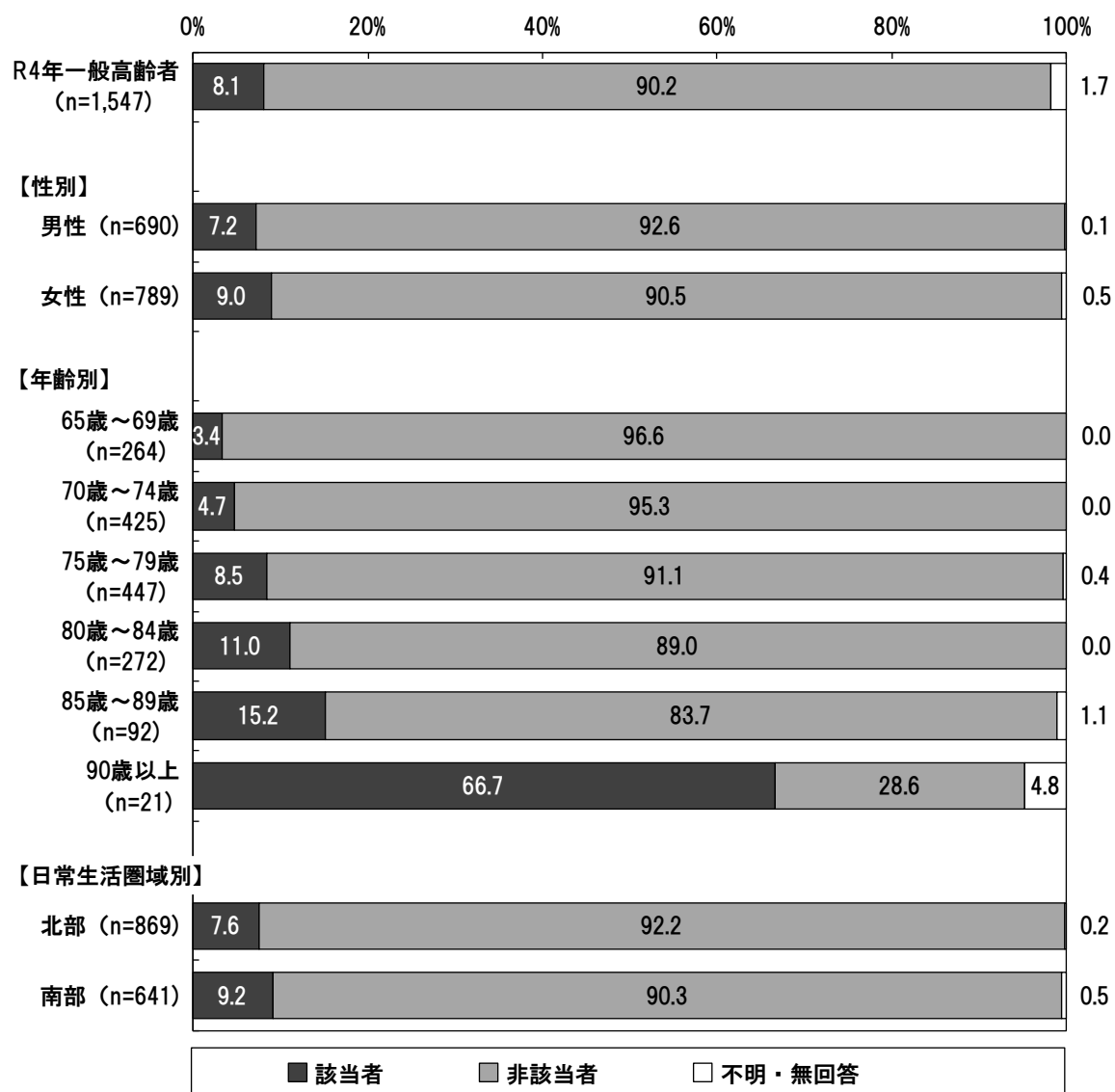
設問番号	設問	とても不安である	やや不安である	あまり不安でない	不安でない	不明・無回答
13	転倒に対する不安は大きいですか。	8.0	37.2	30.1	21.8	2.9

「該当者」は8.1%となっています。

性別でみると、「該当者」は男性で7.2%、女性で9.0%となっています。

年齢別でみると、「該当者」は年齢が上がるにつれて高くなっており、90歳以上で66.7%と高くなっています。

日常生活圏域別でみると、「該当者」は北部で7.6%、南部で9.2%となっています。



(2) 転倒

■評価方法

以下の設問で該当する選択肢（「何度もある」または「1度ある」）が回答された場合、該当者（転倒リスクのある高齢者）とした。

■評価に使用した調査設問結果【一般高齢者（n=1,547）】

単位：％

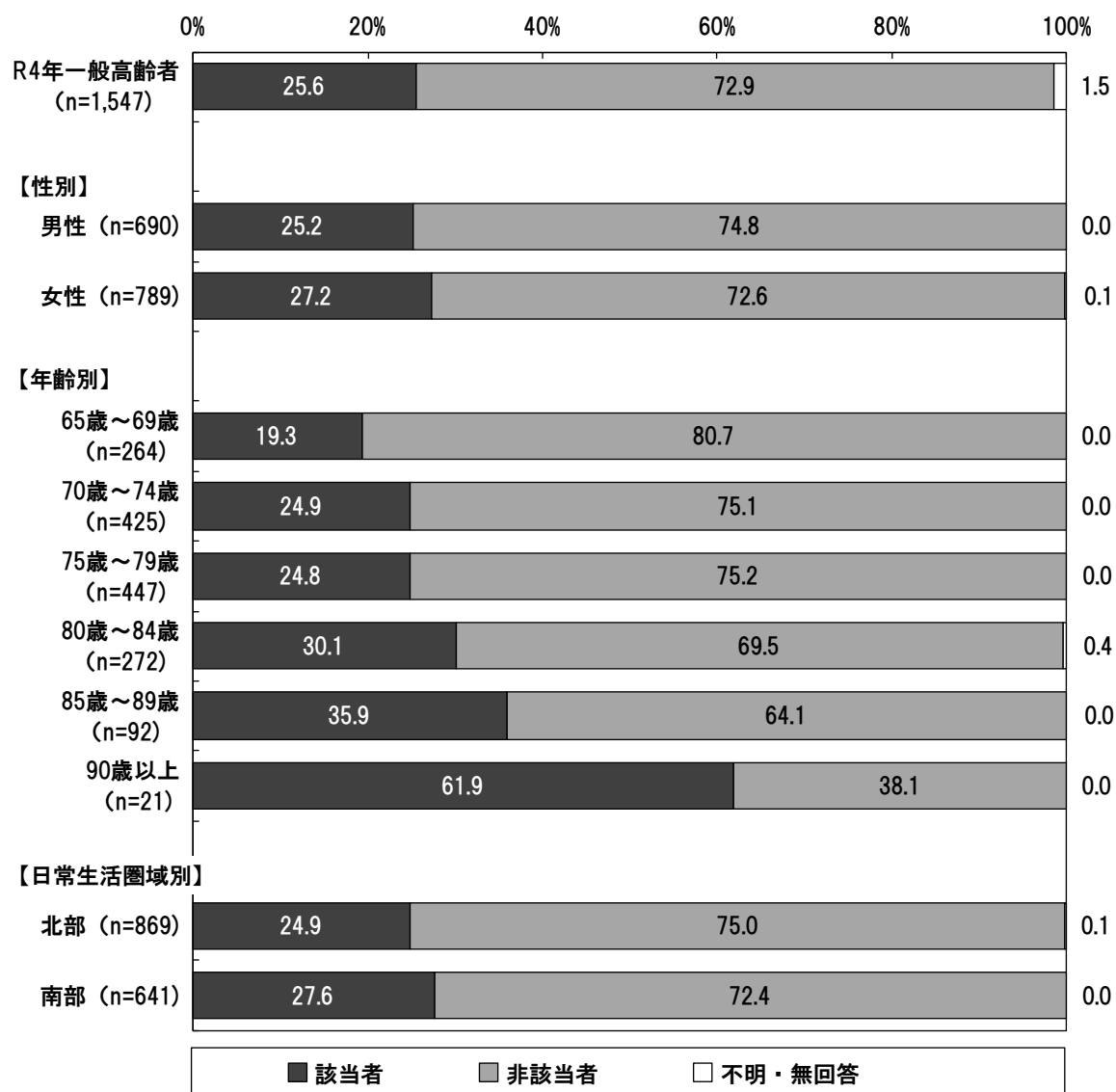
設問 番号	設問	何度もある	1度ある	ない	不明・無回答
12	過去1年間に転んだ経験がありますか。	7.2	18.4	72.9	1.5

「該当者」は25.6%となっています。

性別でみると、「該当者」は男性で25.2%、女性で27.2%となっています。

年齢別でみると、「該当者」は年齢が上がるにつれて高くなっており、90歳以上で61.9%と高くなっています。

日常生活圏域別でみると、「該当者」は北部で24.9%、南部で27.6%となっています。



(3) 閉じこもりリスク

■評価方法

以下の設問で該当する選択肢（「ほとんど外出しない」または「週1回」）が回答された場合、該当者（閉じこもり傾向のある高齢者）とした。

■評価に使用した調査設問結果【一般高齢者（n=1,547）】

単位：％

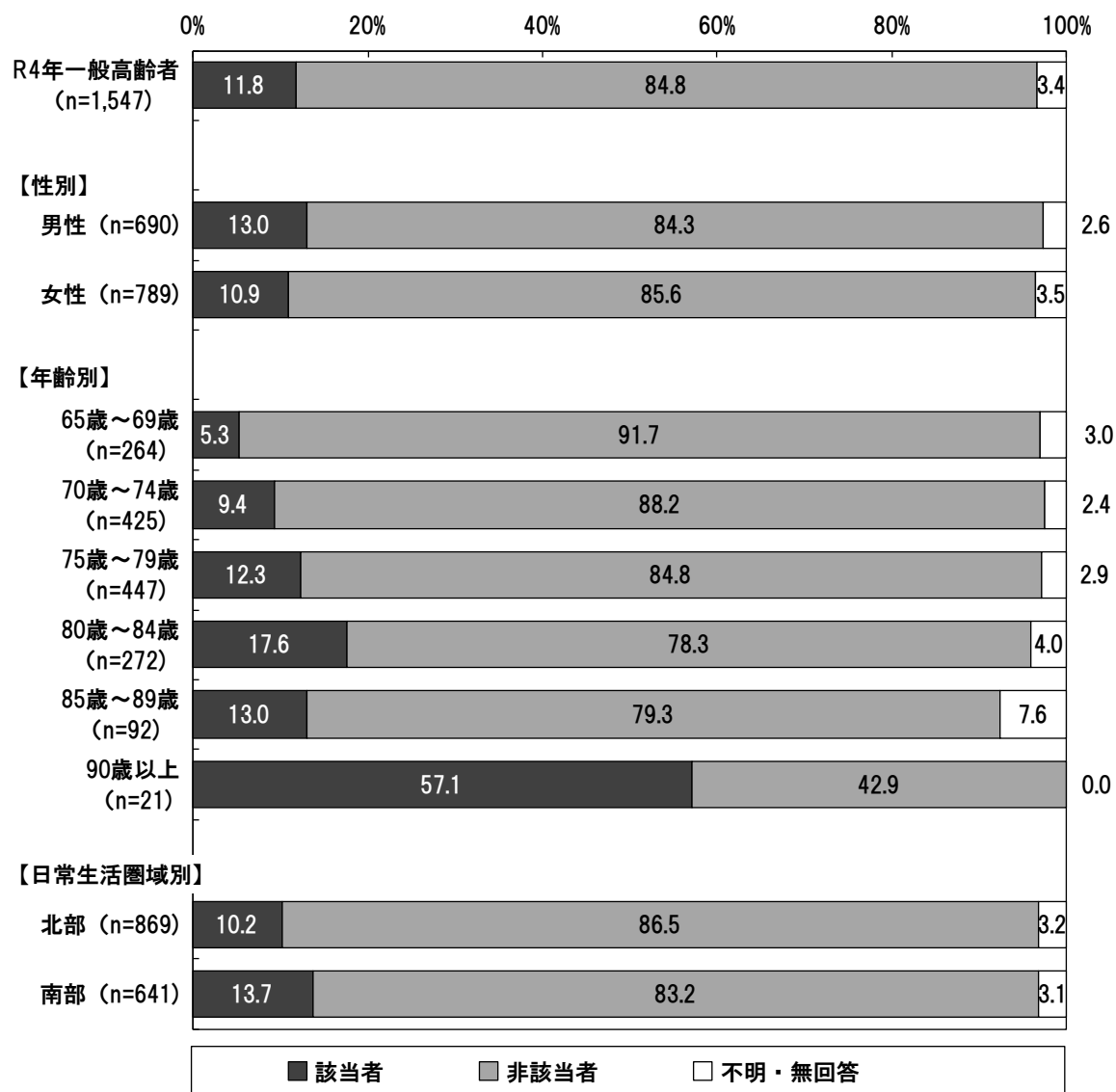
設問 番号	設問	ほとんど 外出しない	週1回	週2～4回	週5回以上	不明・ 無回答
14	週にどの程度外出していますか。	4.0	7.8	41.8	43.0	3.4

「該当者」は11.8%となっています。

性別でみると、「該当者」は男性で13.0%、女性で10.9%となっています。

年齢別でみると、「該当者」は65歳～89歳で5.3%～17.6%となっており、90歳以上では57.1%と高くなっています。

日常生活圏域別でみると、「該当者」は北部で10.2%、南部で13.7%となっています。



(4) 栄養

■評価方法

以下の2つの設問のうち、問18の結果から算出したBMIが18.5未満かつ、問19で「はい」と回答された場合、該当者（低栄養状態にある高齢者）とした。

■評価に使用した調査設問結果【一般高齢者（n=1,547）】

単位：％

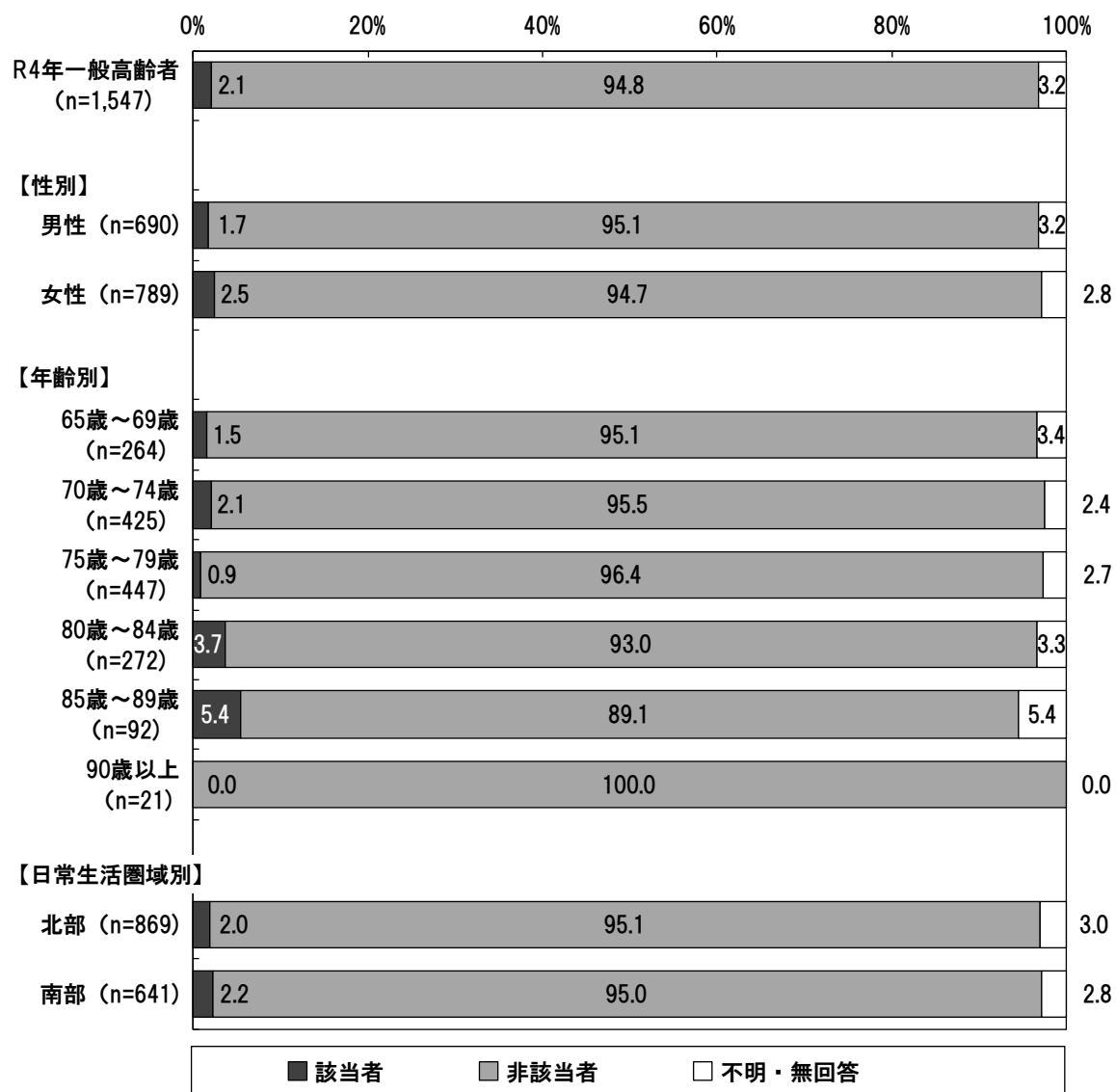
設問 番号	設問	BMI 18.5 未満	BMI 18.5 以上	不明・無回答
18	身長、体重はいくつですか。	6.9	88.8	4.3
設問 番号	設問	はい	いいえ	不明・無回答
19	この半年間で、2～3kg 以上の体重減少がありましたか。	13.1	83.7	3.2

「該当者」は2.1%となっています。

性別でみると、「該当者」は男性で1.7%、女性で2.5%となっています。

年齢別でみると、「該当者」は85歳～89歳で5.4%と、他の年齢と比べて高くなっています。

日常生活圏域別でみると、「該当者」は北部で2.0%、南部で2.2%となっています。



(5) 認知機能

■評価方法

以下の設問で該当する選択肢（「はい」）が回答された場合、該当者（認知機能の低下がみられる高齢者）とした。

■評価に使用した調査設問結果【一般高齢者（n=1,547）】

単位：％

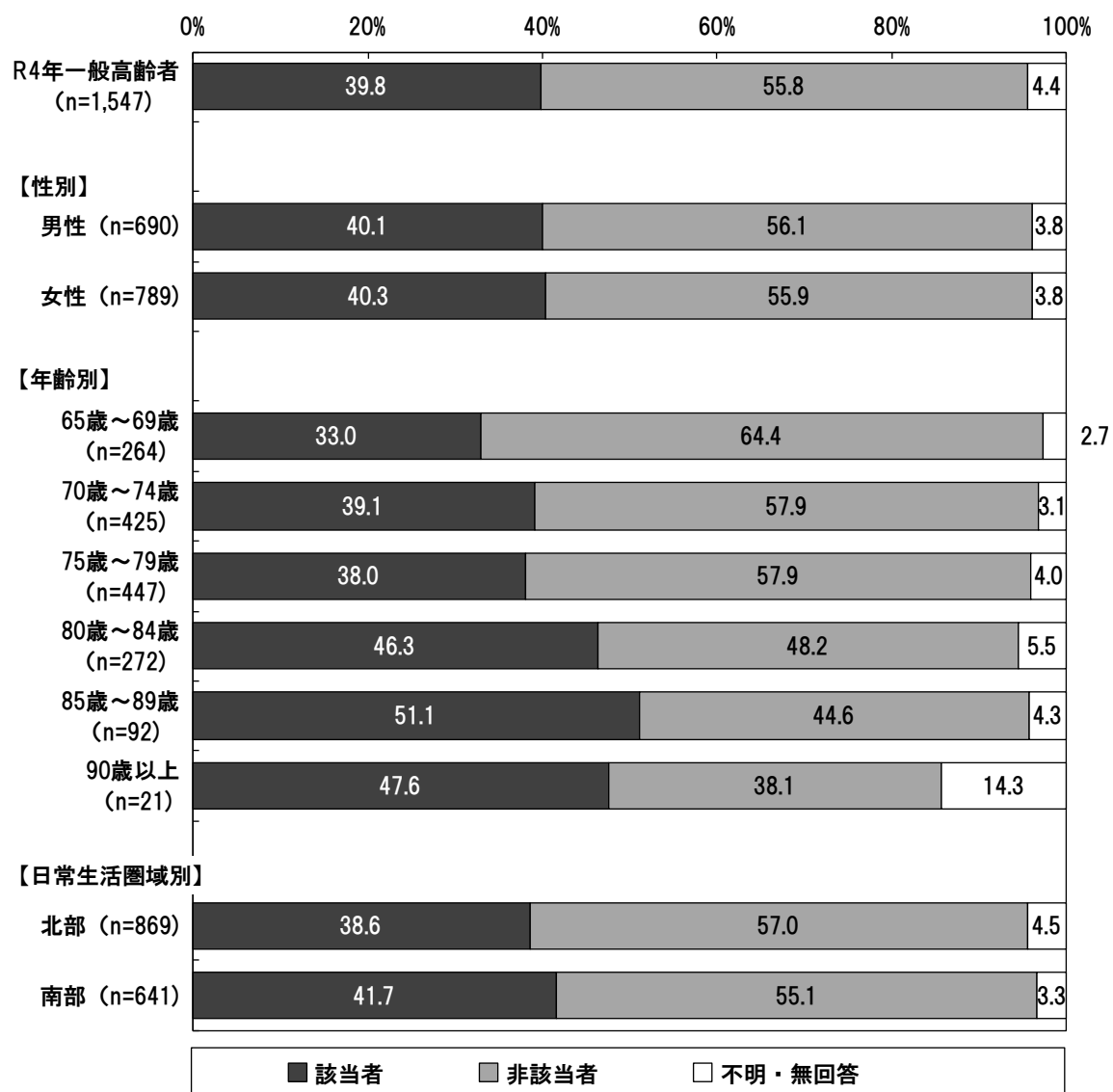
設問 番号	設問	はい	いいえ	不明・無回答
25	物忘れが多いと感じますか。	39.8	55.8	4.4

「該当者」は 39.8％となっています。

性別でみると、「該当者」は男性で 40.1％、女性で 40.3％となっています。

年齢別でみると、「該当者」は 85 歳～89 歳で 51.1％と、他の年齢と比べて高くなっています。

日常生活圏域別でみると、「該当者」は北部で 38.6％、南部で 41.7％となっています。



(6) うつ傾向

■評価方法

以下の2つの設問中いずれか1つでも該当する選択肢（「はい」）が回答された場合、該当者（うつ傾向の高齢者）とした。

■評価に使用した調査設問結果【一般高齢者（n=1,547）】

単位：％

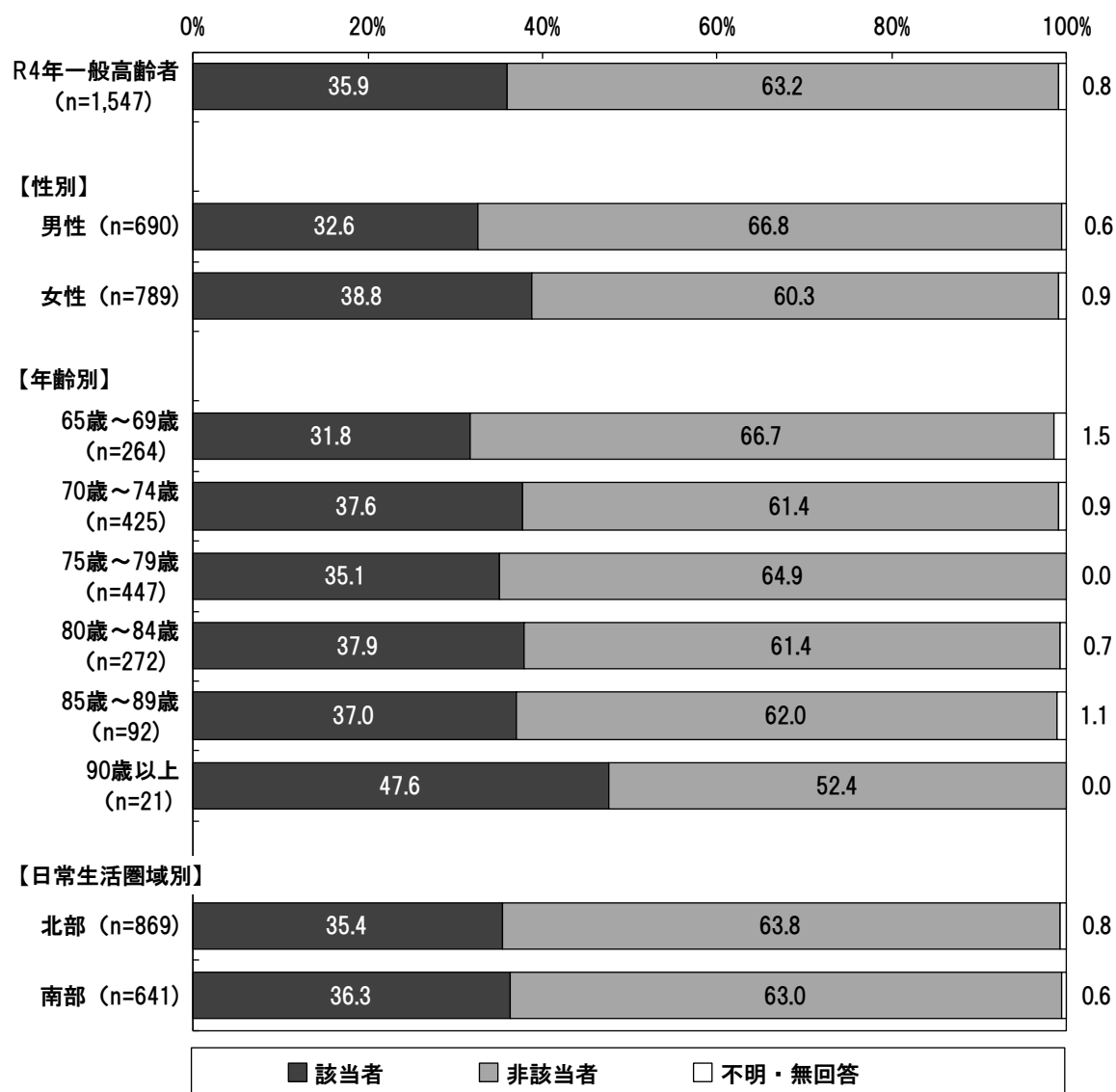
設問 番号	設問	はい	いいえ	不明・ 無回答
46	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。	32.6	66.0	1.4
47	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。	18.7	79.4	1.9

「該当者」は35.9%となっています。

性別でみると、「該当者」は男性で32.6%、女性で38.8%となっています。

年齢別でみると、「該当者」は90歳以上で47.6%と、他の年齢と比べて高くなっています。

日常生活圏域別でみると、「該当者」は北部で35.4%、南部で36.3%となっています。



(7) IADL（手段的日常生活動作）

IADLとは、日常生活を送る上で必要な動作のうち、ADL（日常生活動作：食事、排せつ、入浴などの基本的な行動）より複雑で高次の動作のことを言います。（例：買い物や洗濯・掃除などの家事全般、金銭や服薬の管理、外出時に乗り物に乗ることなど）

■評価方法

以下の5つの設問について、「できるし、している」または「できるけどしていない」と回答した方を1点とし、5点満点で評価した。5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」として評価した。

■評価に使用した調査設問結果【一般高齢者（n=1,547）】

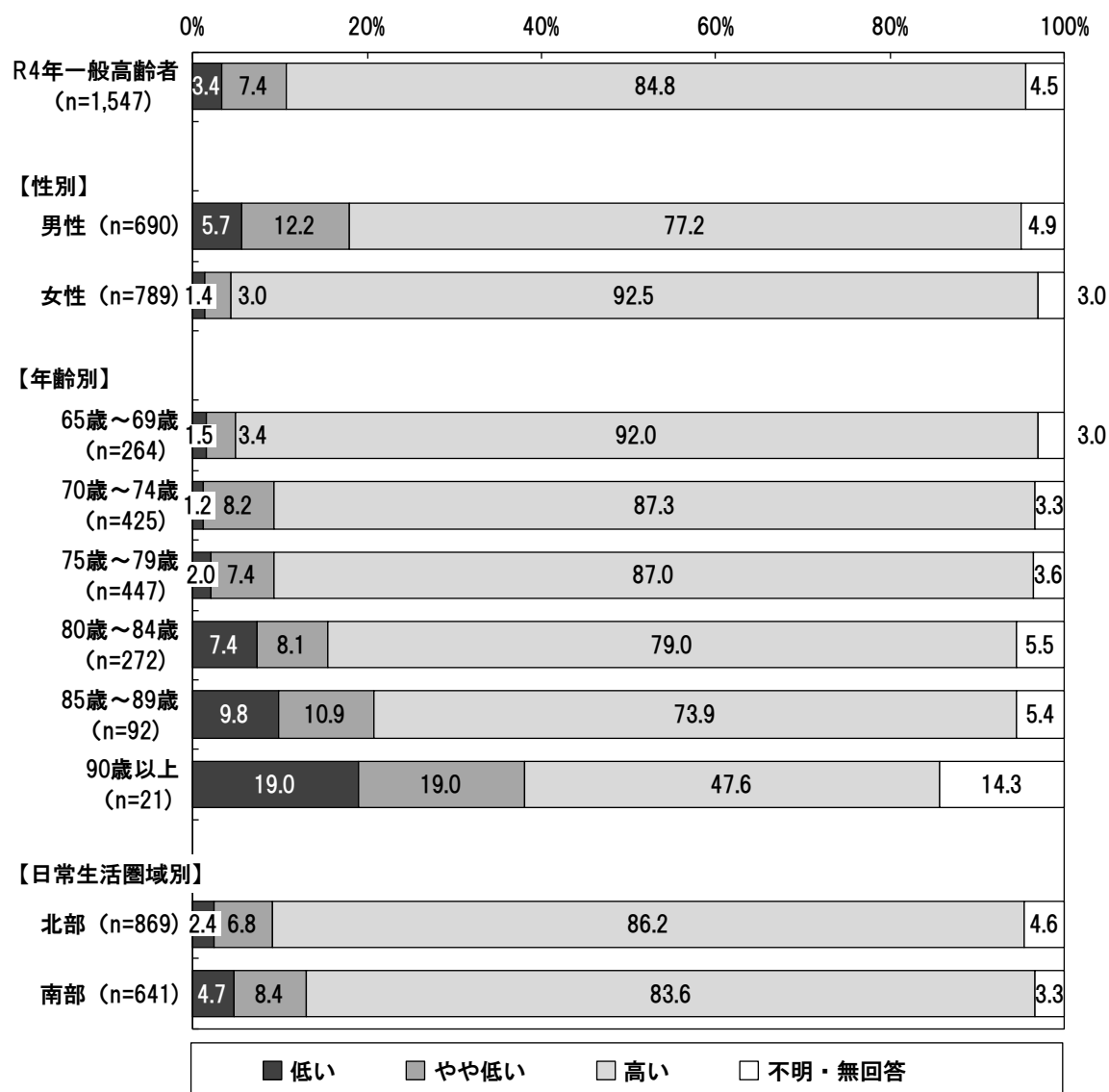
単位：％

設問番号	設問	できるし、している	できるけどしていない	できない	不明・無回答
26	バスや電車を使って一人で外出していますか（自家用車でも可）。	68.9	23.5	3.7	3.9
27	自分で食品・日用品の買物をしていますか。	80.7	13.8	2.1	3.4
28	自分で食事の用意をしていますか。	69.0	19.7	7.5	3.7
29	自分で請求書の支払いをしていますか。	80.2	13.8	2.5	3.4
30	自分で預貯金の出し入れをしていますか。	81.8	12.2	2.7	3.3

「低い」は3.4%となっています。

性別でみると、「低い」は男性で5.7%、女性で1.4%であり、男性でやや高くなっています。年齢別でみると、「低い」は70歳以降で年齢が上がるにつれて高くなっており、90歳以上では19.0%となっています。

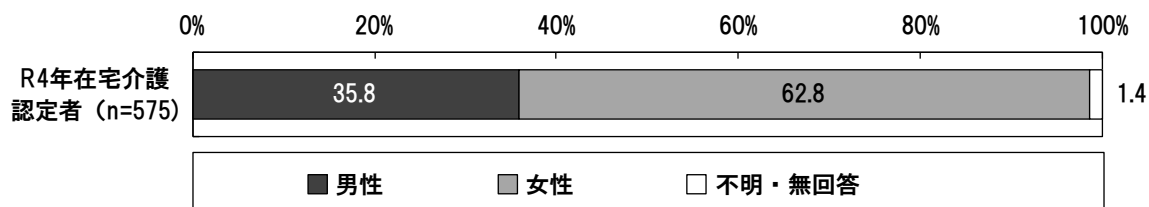
日常生活圏域別でみると、「低い」は北部で2.4%、南部で4.7%となっています。



IV 在宅介護実態調査の結果

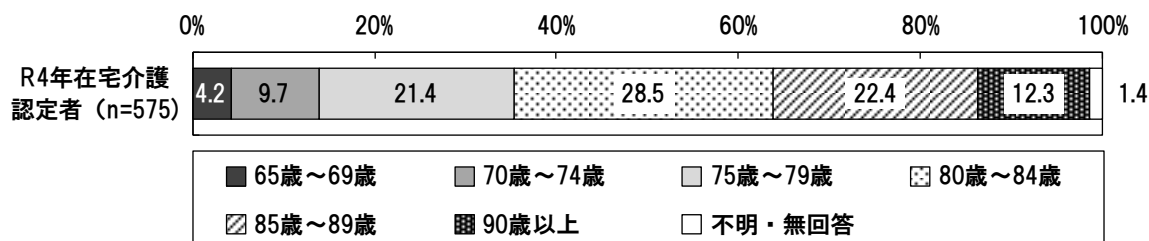
a. 性別

性別については、「男性」が35.8%、「女性」が62.8%となっています。



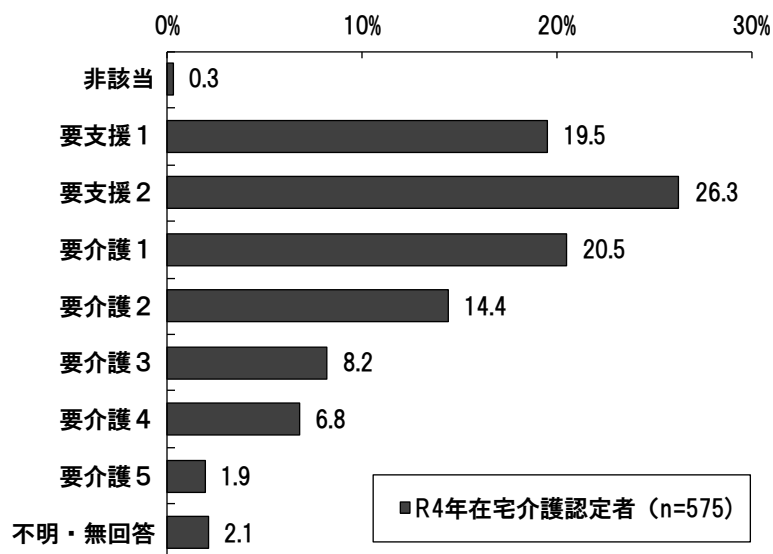
b. 年齢

年齢については、「80歳～84歳」が28.5%と最も高く、次いで「85歳～89歳」が22.4%となっています。



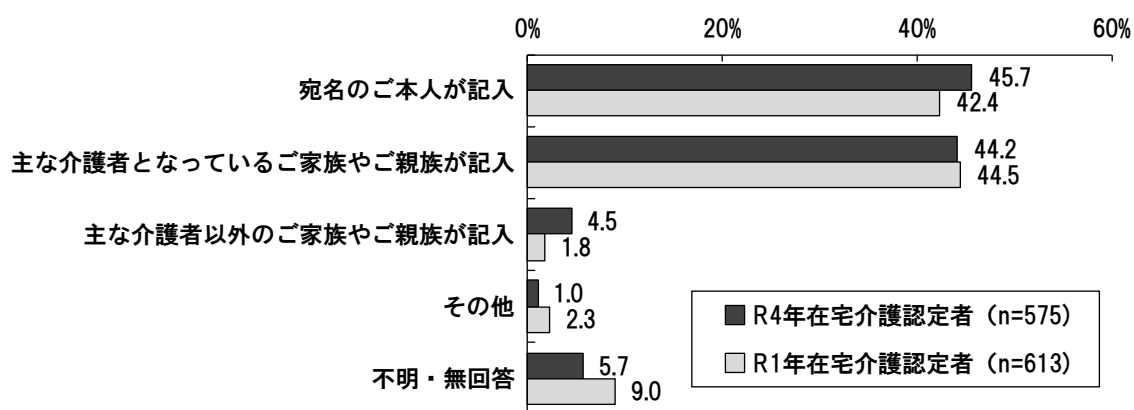
c. 要介護度

要介護度については、「要支援2」が26.3%と最も高く、次いで「要介護1」が20.5%となっています。



調査票を記入されたのはどなたですか。【複数回答】

調査票の記入者については、「宛名のご本人が記入」が45.7%と最も高く、次いで「主な介護者となっているご家族やご親族が記入」が44.2%となっています。



要介護度別でみると、要支援1・2では「宛名のご本人が記入」が、要介護1以上では「主な介護者となっているご家族やご親族が記入」が、それぞれ最も高くなっています。なお、要介護4以上では、「主な介護者となっているご家族やご親族が記入」がそれぞれ80%台と高くなっています。

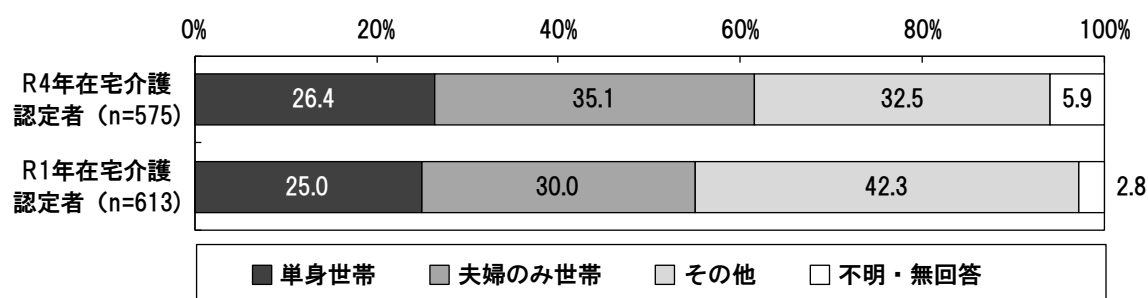
(単位：%)	n=	宛名のご本人が記入	主な介護者となっているご家族やご親族が記入	主な介護者以外のご家族やご親族が記入	その他	不明・無回答
要介護度別						
要支援1	112	76.8	14.3	3.6	0.0	7.1
要支援2	151	69.5	20.5	2.0	1.3	9.3
要介護1	118	30.5	62.7	4.2	1.7	0.8
要介護2	83	25.3	62.7	7.2	0.0	6.0
要介護3	47	10.6	74.5	8.5	2.1	4.3
要介護4	39	2.6	84.6	5.1	2.6	5.1
要介護5	11	0.0	81.8	18.2	0.0	0.0

【A票】調査対象者本人について

1. 調査対象者自身について

問1 世帯類型について、ご回答ください。

世帯類型については、「単身世帯」が 26.4%、「夫婦のみ世帯」が 35.1%、「その他」が 32.5%となっています。

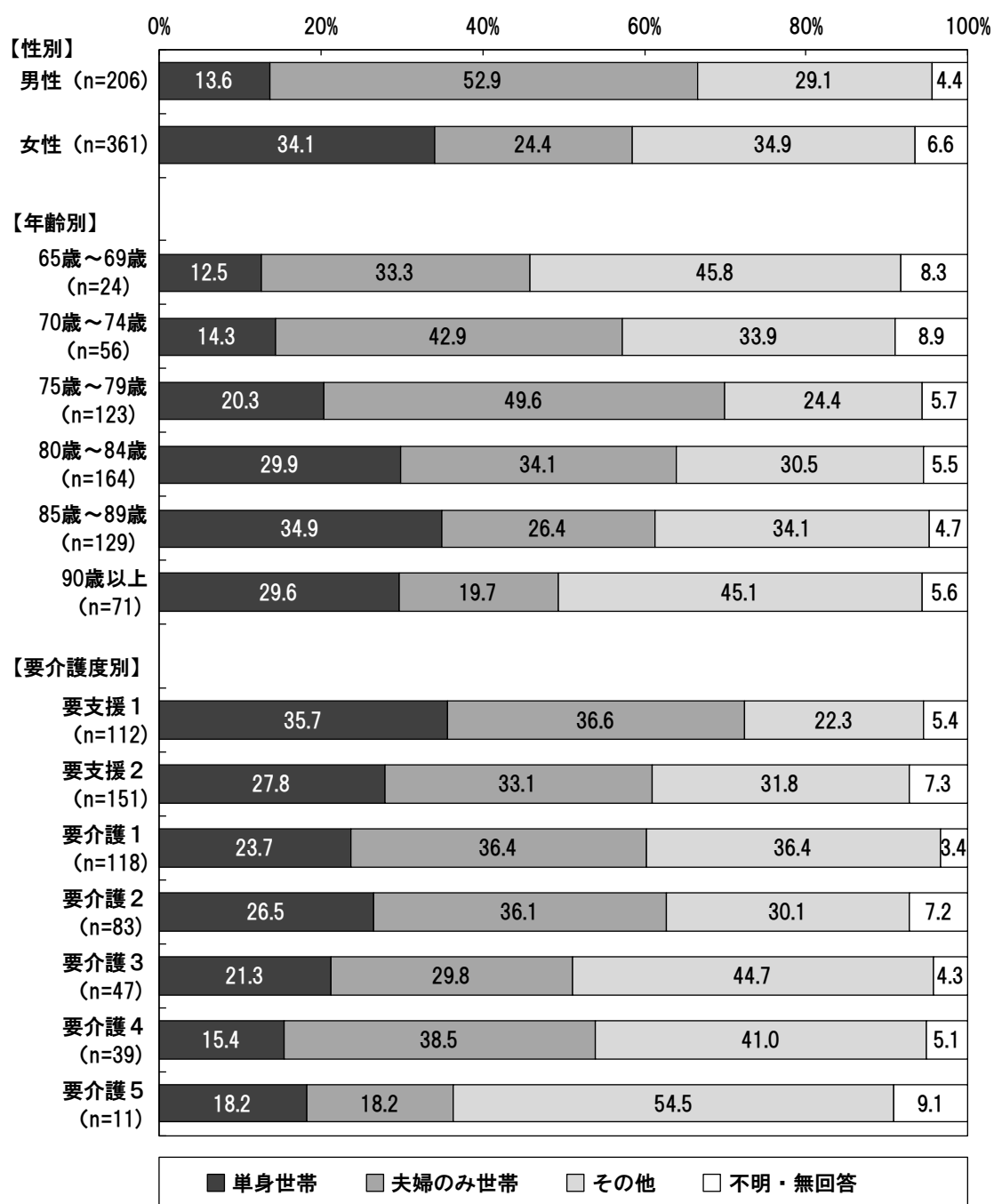


その他回答記載例
夫婦と子ども
子どもと同居
子どもの家族と同居

性別でみると、女性で「単身世帯」が 34.1%と、男性と比べて 20.5 ポイント高くなっています。

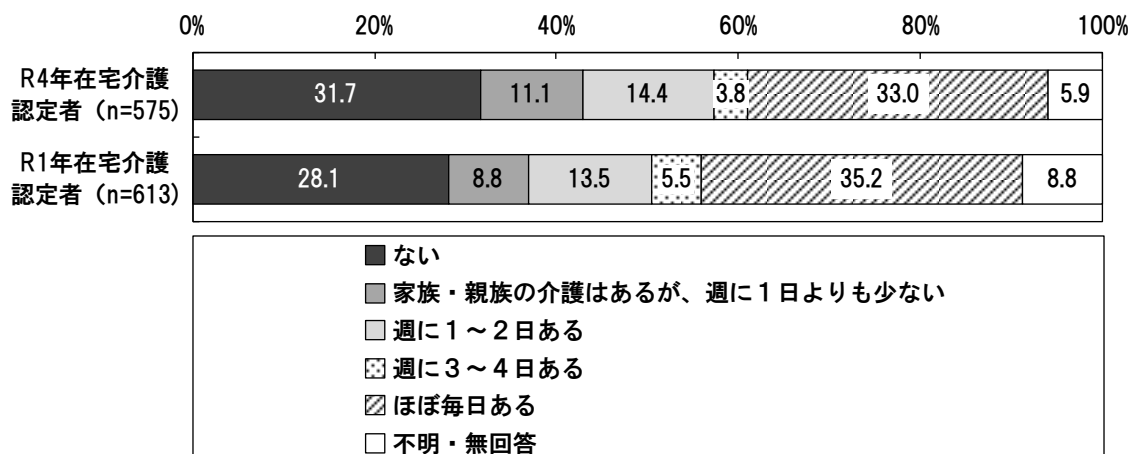
年齢別でみると、65 歳～89 歳で年齢が上がるにつれて「単身世帯」が高くなっており、85 歳～89 歳では 34.9%となっています。

要介護度別でみると、要支援 1 で「単身世帯」が 35.7%と、他の要介護度と比べて高くなっています。

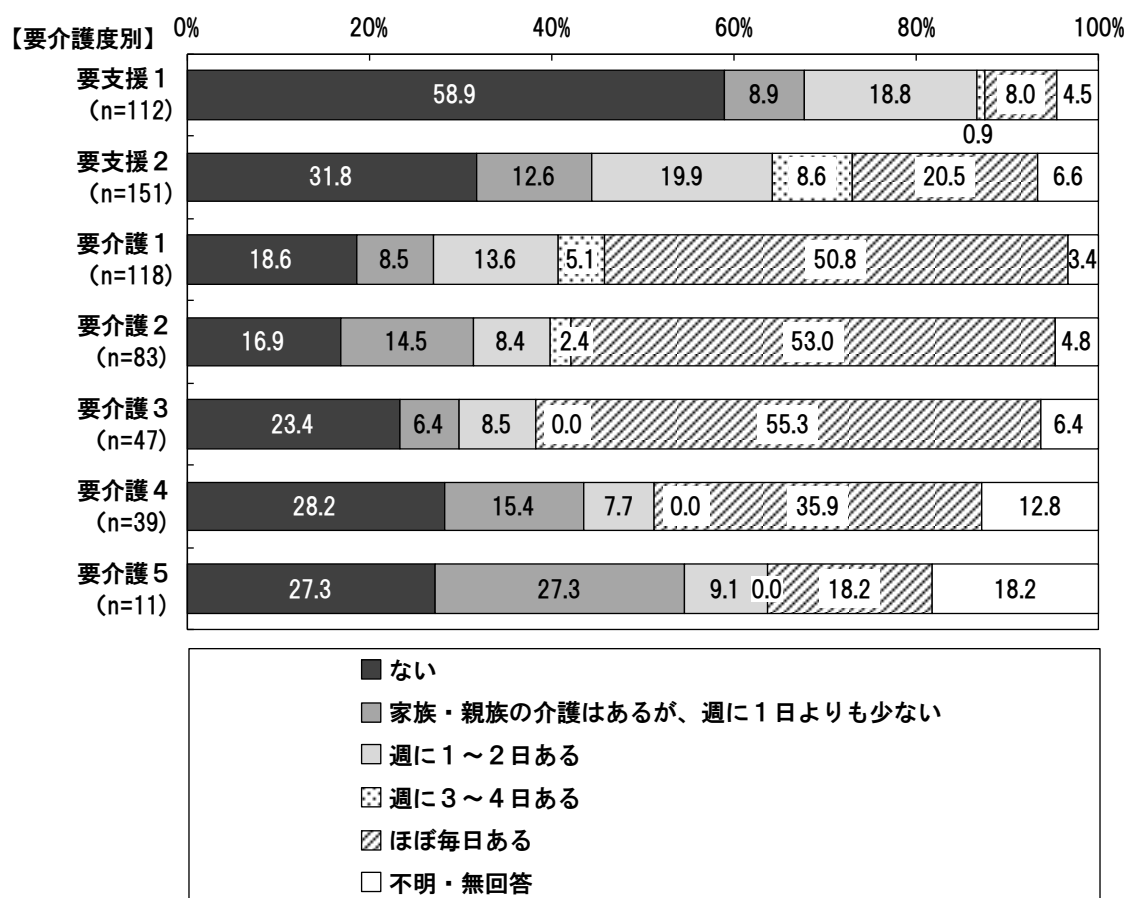


問2 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか。（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）

家族や親族の方からの介護については、「ほぼ毎日ある」が33.0%と最も高く、次いで「ない」が31.7%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



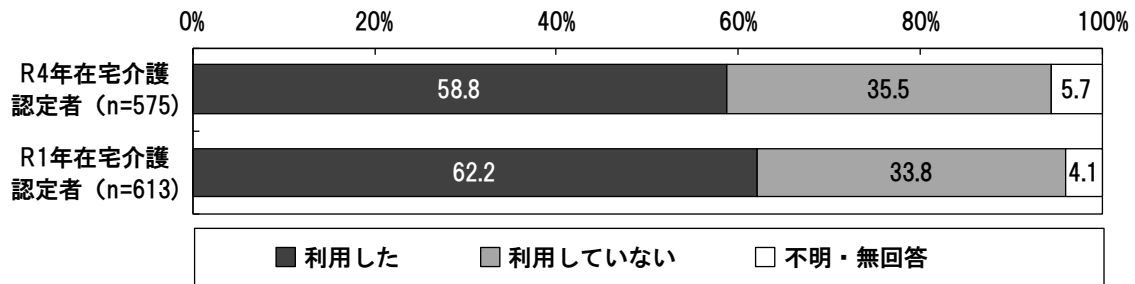
要介護度別でみると、要支援1で「ない」が58.9%、要介護1～3で「ほぼ毎日ある」がそれぞれ50%台と、それぞれ他の要介護度と比べて高くなっています。



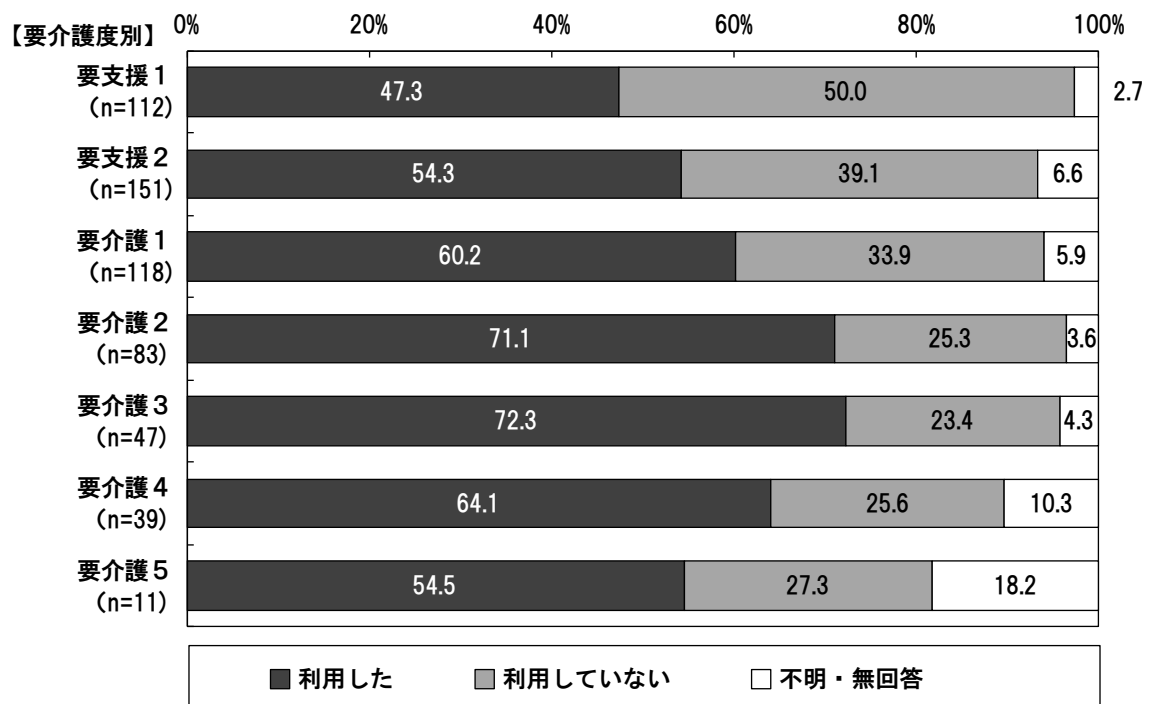
2. サービスや支援について

問3 令和4年12月の1か月の間に、（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスを利用しましたか。

令和4年12月の1か月の間の介護保険サービスの利用の有無については、「利用した」が58.8%、「利用していない」が35.5%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



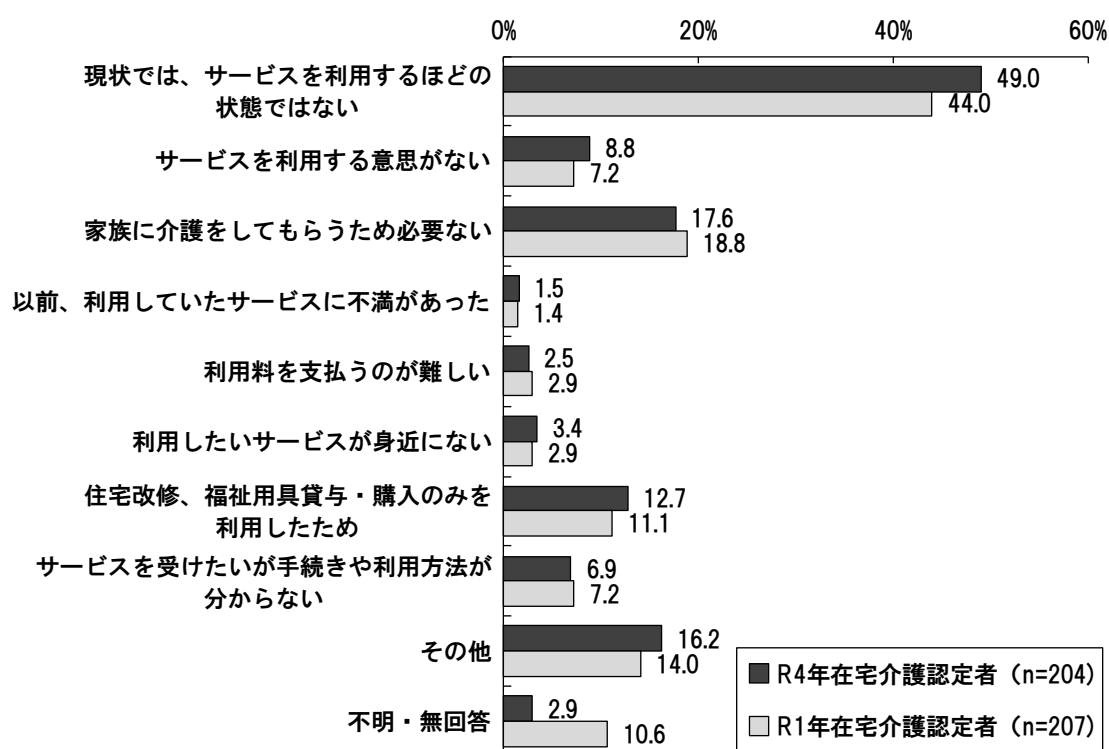
要介護度別でみると、要介護度2・3で「利用した」がそれぞれ70%台と、他の要介護度と比べて高くなっています。



【問3で「2. 利用していない」と回答した方のみ】

問4 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか。【複数回答】

介護保険サービスを利用していない理由については、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が49.0%と最も高く、次いで「家族に介護をしてもらうため必要ない」が17.6%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」がやや高くなっています。



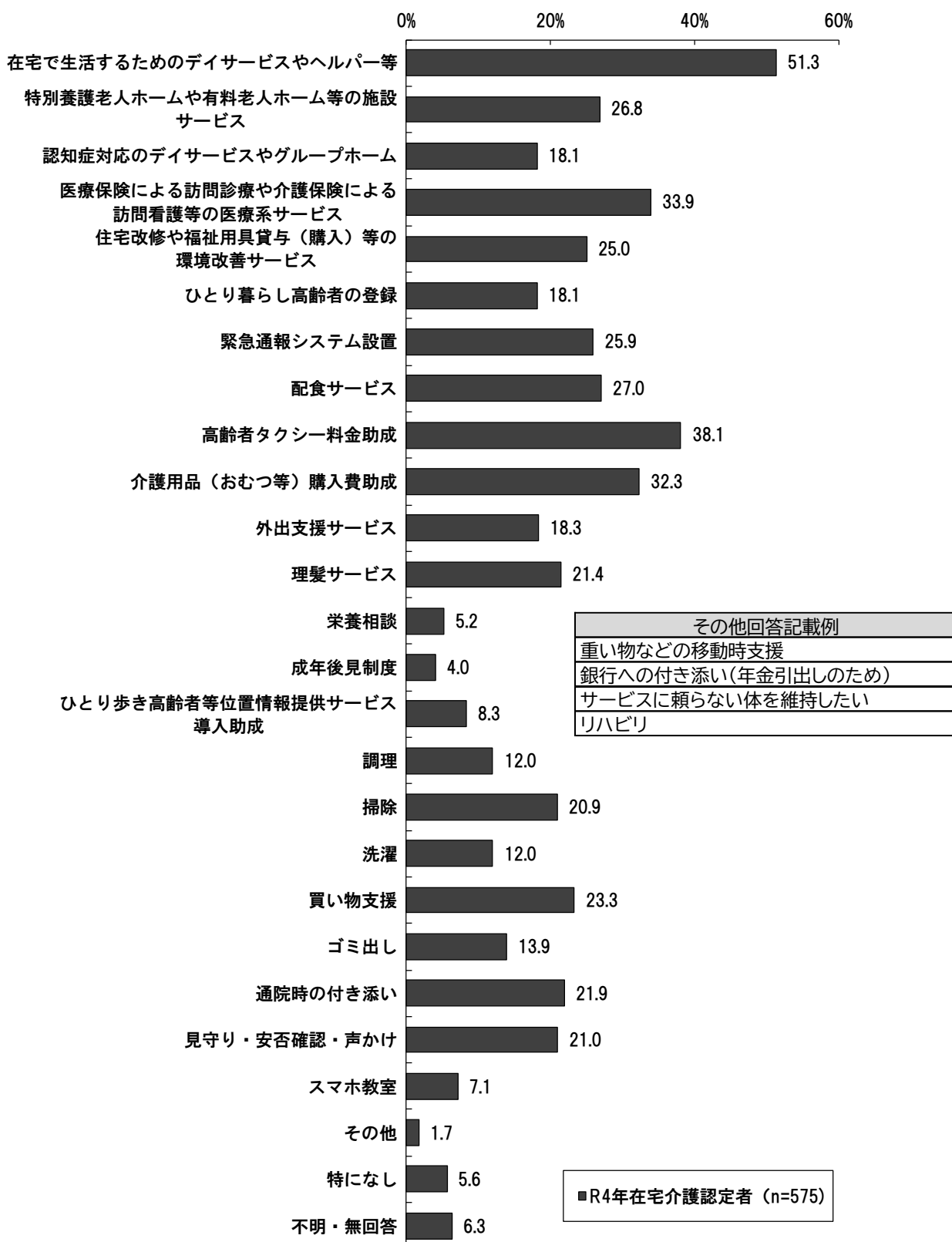
その他回答記載例
病院に入院している
施設に入居している
要介護認定ではなくなったから
時間がかかっても自分で生活している

要介護度別でみると、要介護2以下で「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が、要介護3で「その他」の他に「家族に介護をしてもらうため必要ない」が、それぞれ最も高くなっています。

(単位：％)	n=	現状では、サービスを利用するほどの状態ではない	サービスを利用する意思がない	家族に介護をしてもらうため必要ない	以前、利用していたサービスに不満があった	利用料を支払うのが難しい	利用したいサービスが身近にない	住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用したため	サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない	その他	不明・無回答
要介護度別											
要支援1	56	67.9	7.1	14.3	1.8	0.0	5.4	8.9	8.9	12.5	3.6
要支援2	59	49.2	8.5	15.3	3.4	6.8	1.7	18.6	5.1	11.9	1.7
要介護1	40	52.5	12.5	20.0	0.0	2.5	2.5	12.5	2.5	12.5	2.5
要介護2	21	33.3	9.5	28.6	0.0	0.0	0.0	14.3	9.5	14.3	0.0
要介護3	11	0.0	9.1	36.4	0.0	0.0	9.1	18.2	18.2	36.4	0.0
要介護4	10	10.0	0.0	10.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	50.0	20.0
要介護5	3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0

問5 今後利用したい、または今後必要だと思われる支援・サービス・制度は何ですか。【複数回答】

今後利用したい、または今後必要だと思われる支援・サービス・制度については、「在宅で生活するためのデイサービスやヘルパー等」が51.3%と最も高く、次いで「高齢者タクシー料金助成」が38.1%となっています。



要介護度別でみると、要介護２以下で「在宅で生活するためのデイサービスやヘルパー等」が、要介護３・５で「介護用品（おむつ等）購入費助成」が、それぞれ50%台と高くなっています。また、また、要介護３で「医療保険による訪問診療や介護保険による訪問看護等の医療系サービス」が40.4%と、他の要介護度と比べて高くなっています。

(単位：％)	n=	在宅で生活するための デイサービス やヘルパー等	特別養護老人ホームや有料老人ホーム等の施設サービス	認知症対応の デイサービス やグループホーム	医療保険による 訪問診療や介護 保険による訪問 看護等の医療系 サービス	住宅改修や福祉 用具貸与（購入） 等の環境改善サ ービス	ひとり暮らし高 齢者の登録	緊急通報システ ム設置	配食サービス	高齢者タクシー 料金助成	介護用品（おむ つ等）購入費助 成
要介護度別											
要支援１	112	54.5	22.3	16.1	36.6	22.3	28.6	32.1	34.8	38.4	25.0
要支援２	151	57.6	20.5	9.3	35.8	28.5	20.5	29.1	29.8	49.7	29.8
要介護１	118	55.1	29.7	27.1	34.7	28.0	14.4	23.7	26.3	38.1	31.4
要介護２	83	54.2	25.3	20.5	28.9	16.9	14.5	18.1	19.3	28.9	37.3
要介護３	47	29.8	40.4	14.9	40.4	27.7	10.6	25.5	21.3	34.0	51.1
要介護４	39	35.9	43.6	17.9	25.6	23.1	7.7	12.8	12.8	17.9	28.2
要介護５	11	18.2	36.4	45.5	18.2	18.2	18.2	36.4	27.3	45.5	54.5

(単位：％)	n=	外出支援サ ービス	理髪サ ービス	栄養相 談	成年後 見制度	ひとり歩 き高齢 者等位 置情報 提供サ ービス 導入助 成	調理	掃除	洗濯	買い物 支援	ゴミ出 し
要介護度別											
要支援１	112	21.4	13.4	8.0	4.5	10.7	10.7	30.4	12.5	32.1	19.6
要支援２	151	26.5	21.9	6.0	4.0	9.3	13.2	17.2	11.3	25.2	13.9
要介護１	118	12.7	22.0	3.4	5.1	7.6	12.7	16.1	9.3	16.9	10.2
要介護２	83	14.5	20.5	2.4	3.6	7.2	13.3	25.3	15.7	21.7	16.9
要介護３	47	12.8	34.0	8.5	0.0	6.4	8.5	19.1	17.0	17.0	12.8
要介護４	39	5.1	28.2	0.0	2.6	5.1	7.7	10.3	7.7	12.8	7.7
要介護５	11	27.3	27.3	9.1	9.1	9.1	18.2	27.3	9.1	36.4	9.1

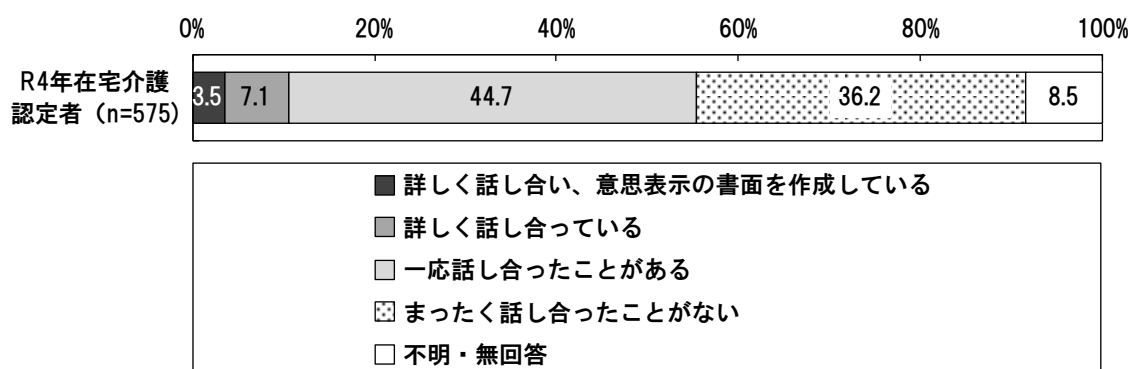
(前頁からの続き)

(単位：%)	n=	い 通院時の付き添	見 守り・安否確 認・声かけ	ス マホ教室	そ の他	特 になし	不 明・無回 答
要介護度別							
要支援1	112	24.1	22.3	13.4	0.9	3.6	8.9
要支援2	151	24.5	19.9	10.6	3.3	7.3	4.0
要介護1	118	20.3	18.6	3.4	0.0	7.6	4.2
要介護2	83	22.9	26.5	6.0	1.2	6.0	4.8
要介護3	47	17.0	19.1	2.1	0.0	4.3	4.3
要介護4	39	15.4	10.3	0.0	7.7	0.0	12.8
要介護5	11	27.3	45.5	0.0	0.0	9.1	18.2

3. 今後の生活の場所について

問6 あなたは、人生の最期をどのように迎えたいか家族と話し合ったことがありますか。

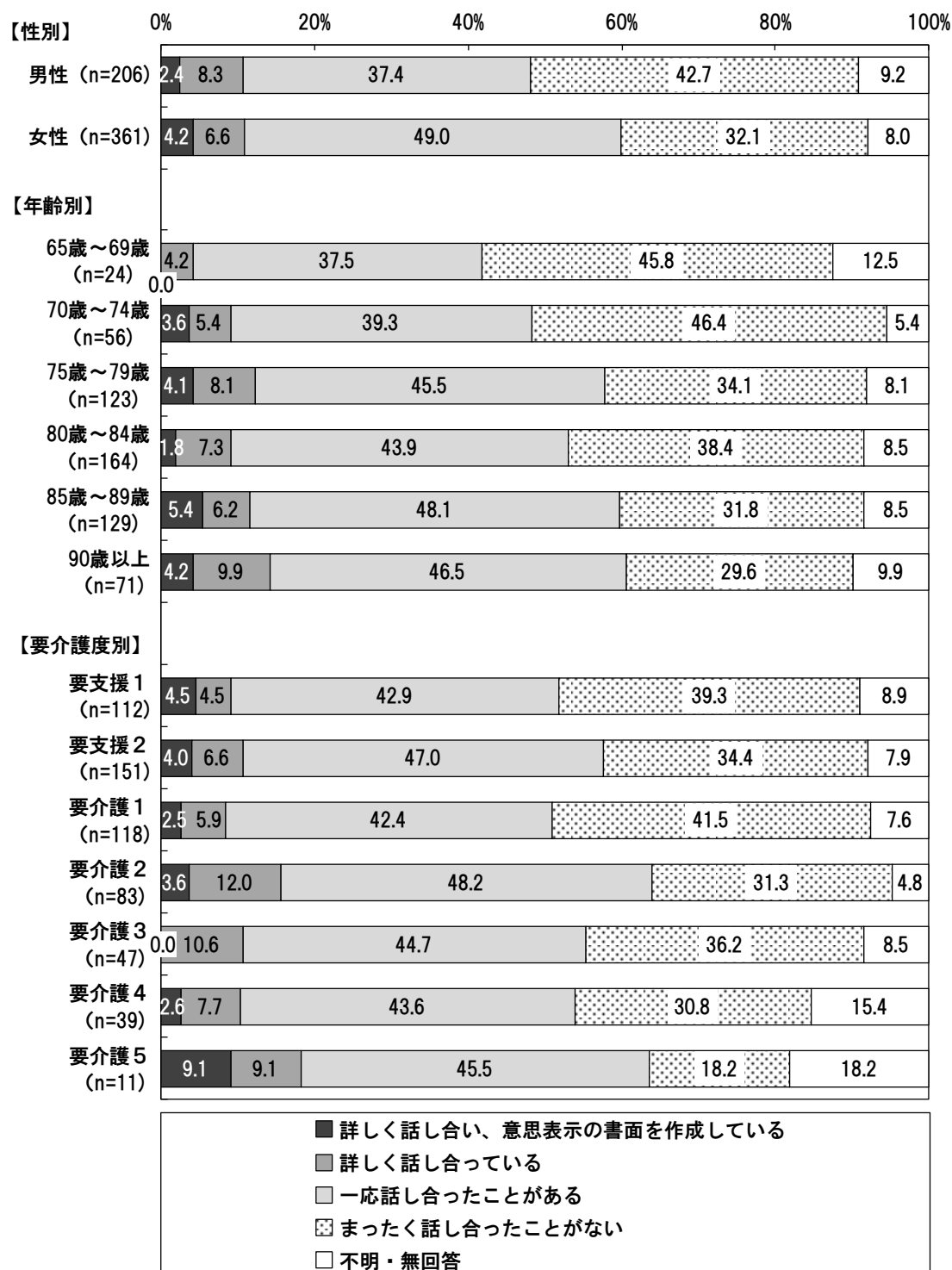
人生の最期の迎え方について家族と話し合ったことについては、「一応話し合ったことがある」が44.7%と最も高く、次いで「まったく話し合ったことがない」が36.2%となっています。



性別でみると、男性で「まったく話し合ったことがない」が42.7%と、女性と比べて10.6ポイント高くなっています。なお、「詳しく話し合い、意思表示の書面を作成している」は男性が2.4%、女性が4.2%となっています。

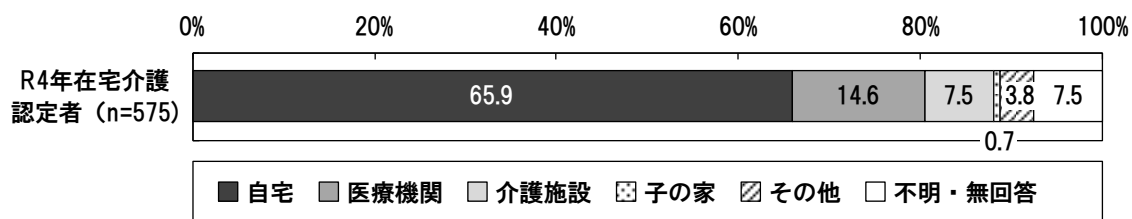
年齢別でみると、65歳～74歳で「まったく話し合ったことがない」がそれぞれ40%台と、他の年齢と比べて高くなっています。

要介護度別でみると、要介護5で「詳しく話し合い、意思表示の書面を作成している」が9.1%、要介護1で「まったく話し合ったことがない」が41.5%と、他の要介護度と比べてそれぞれ高くなっています。



問7 あなたは、人生の最期をどこで迎えたいですか。

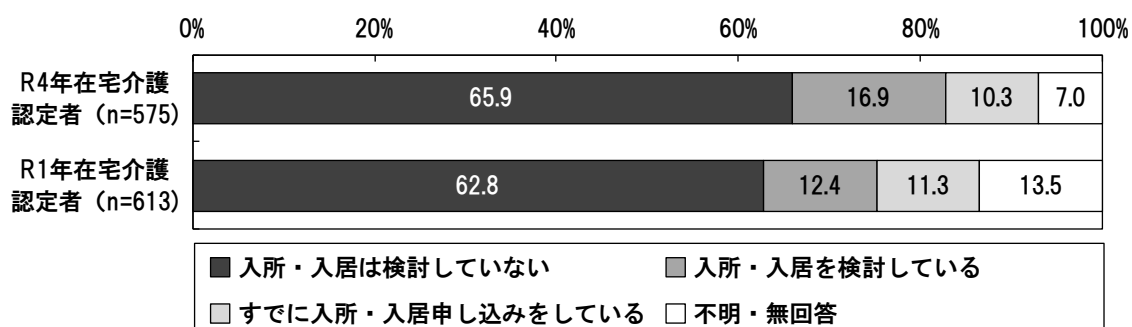
人生の最期を迎えたい場所については、「自宅」が65.9%と最も高く、次いで「医療機関」が14.6%となっています。



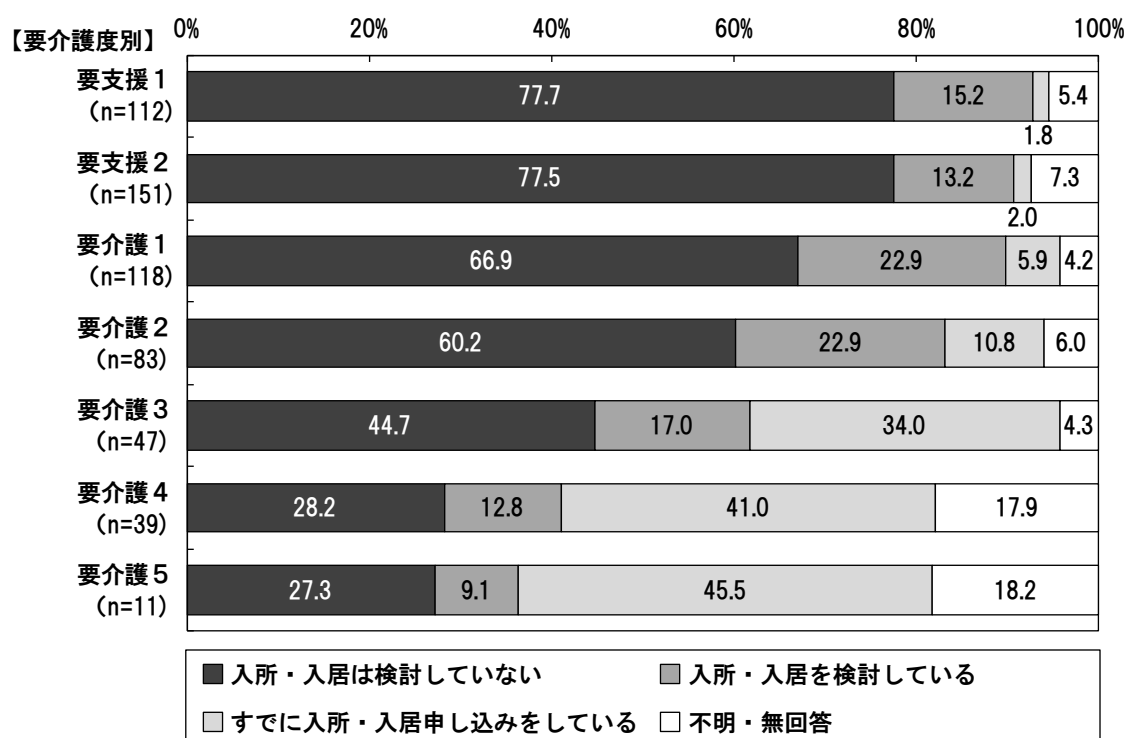
その他回答記載例
わからない
決めていない
どこでもよい

問8 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください。

施設等への入所・入居の検討状況については、「入所・入居は検討していない」が 65.9%、「入所・入居を検討している」が 16.9%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が 10.3%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「入所・入居は検討していない」「入所・入居を検討している」でやや高くなっています。



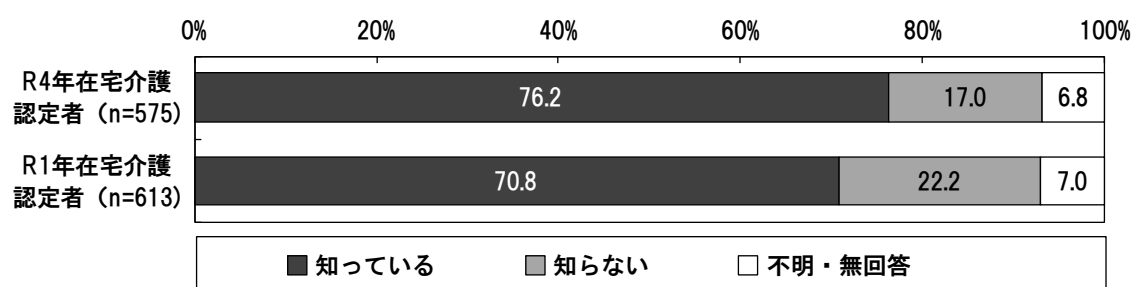
要介護度別でみると、要介護度が上がるにつれて「入所・入居は検討していない」が低く、「すでに入所・入居申し込みをしている」が高くなっています。



4. 地域包括支援センターについて

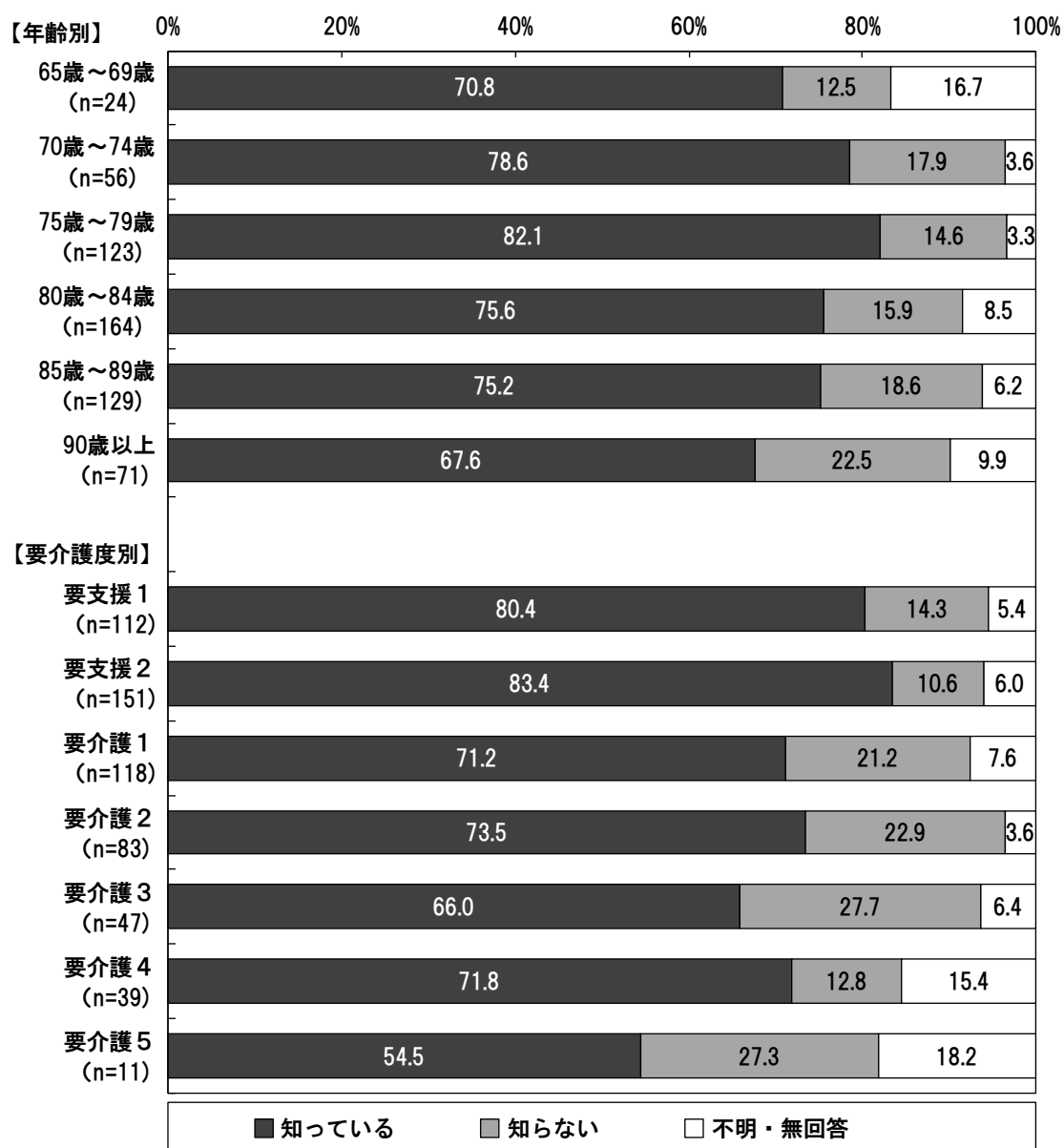
問9 あなたは、地域包括支援センターを知っていますか。

地域包括支援センターを知っているかについては、「知っている」が76.2%、「知らない」が17.0%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「知っている」がやや高くなっています。



年齢別でみると、75 歳～79 歳で「知っている」が 82.1%と、他の年齢と比べて高くなっています。

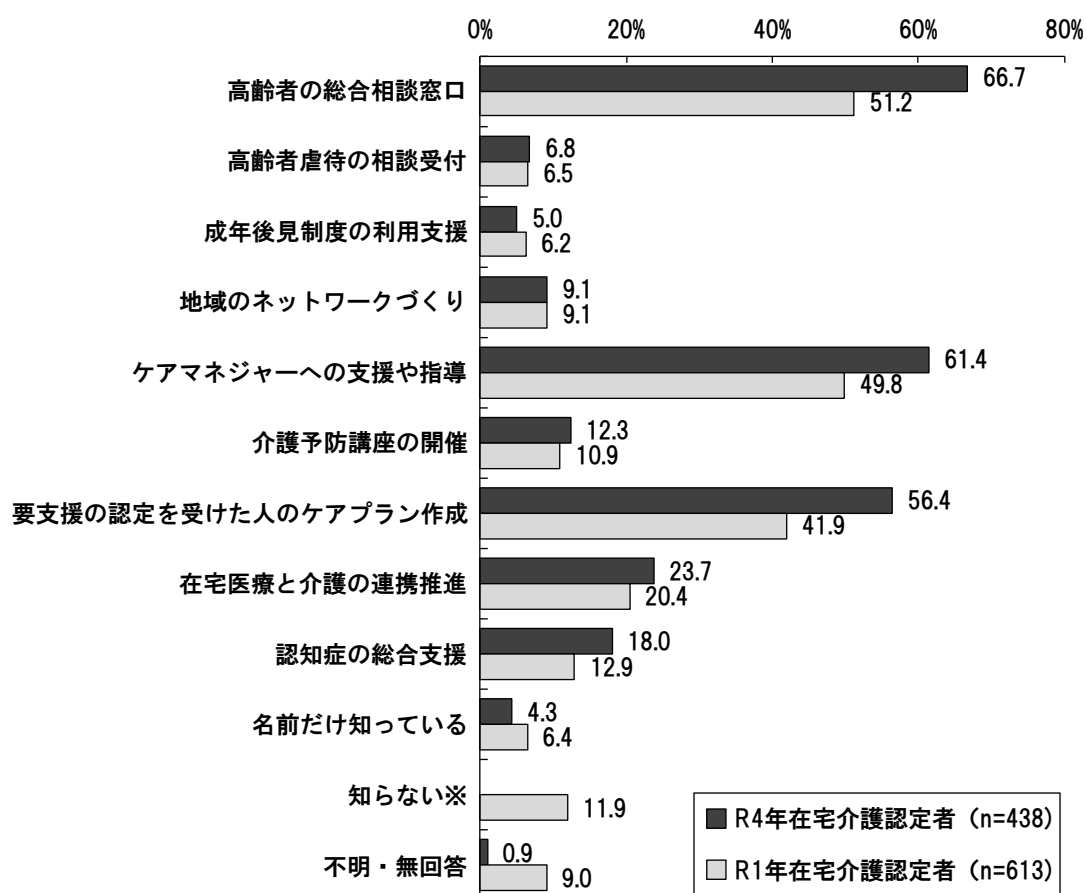
要介護度別でみると、要支援 1・2 で「知っている」がそれぞれ 80%台と、他の要介護度と比べて高くなっている一方で、要介護 5 では「知っている」が 54.5%と低くなっています。



【問9で「1. 知っている」と回答した方のみ】

問 10 あなたが、地域包括支援センターの役割として知っているものはどれですか。
【複数回答】

地域包括支援センターの役割として知っているものについては、「高齢者の総合相談窓口」が66.7%と最も高く、次いで「ケアマネジャーへの支援や指導」が61.4%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「高齢者の総合相談窓口」が15.5ポイント、「要支援の認定を受けた人のケアプラン作成」が14.5ポイント、「ケアマネジャーへの支援や指導」が11.6ポイント、それぞれ高くなっています。



※選択肢の「知らない」はR1年度調査のみとなっています。

年齢別でみると、70 歳～74 歳で「要支援の認定を受けた人のケアプラン作成」が、80 歳～84 歳、90 歳以上で「高齢者の総合相談窓口」が、90 歳以上で「ケアマネジャーへの支援や指導」が、それぞれ 70% 台と高くなっています。

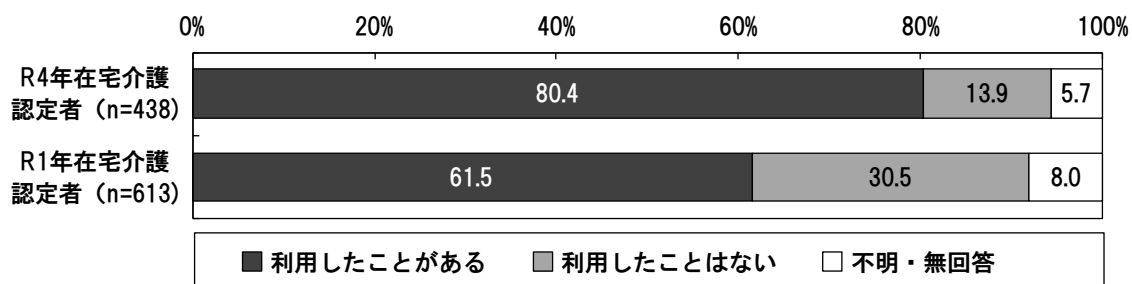
要介護度別でみると、要支援 1、要介護 1～3 で「高齢者の総合相談窓口」が、要支援 2 で「要支援の認定を受けた人のケアプラン作成」が、要介護 4 で「ケアマネジャーへの支援や指導」が、それぞれ最も高くなっています。

(単位：%)	n=	高齢者の総合相談窓口	高齢者虐待の相談受付	成年後見制度の利用支援	地域のネットワークづくり	ケアマネジャーへの支援や指導	介護予防講座の開催	要支援の認定を受けた人のケアプラン作成	在宅医療と介護の連携推進	認知症の総合支援	名前だけ知っている	不明・無回答
年齢別												
65 歳～69 歳	17	52.9	0.0	0.0	5.9	58.8	0.0	64.7	23.5	11.8	5.9	0.0
70 歳～74 歳	44	59.1	6.8	9.1	18.2	63.6	9.1	79.5	27.3	13.6	2.3	0.0
75 歳～79 歳	101	65.3	5.0	3.0	8.9	67.3	15.8	51.5	19.8	18.8	5.0	1.0
80 歳～84 歳	124	72.6	5.6	7.3	6.5	58.9	16.9	57.3	25.8	19.4	3.2	0.8
85 歳～89 歳	97	61.9	7.2	4.1	9.3	53.6	7.2	47.4	19.6	14.4	6.2	2.1
90 歳以上	48	77.1	16.7	4.2	10.4	75.0	12.5	58.3	35.4	25.0	4.2	0.0
要介護度別												
要支援 1	90	76.7	4.4	6.7	11.1	56.7	13.3	51.1	30.0	13.3	2.2	1.1
要支援 2	126	55.6	5.6	3.2	10.3	65.9	14.3	68.3	21.4	15.1	4.8	0.8
要介護 1	84	71.4	8.3	2.4	6.0	64.3	8.3	50.0	22.6	25.0	4.8	0.0
要介護 2	61	63.9	8.2	8.2	11.5	59.0	9.8	50.8	21.3	21.3	6.6	1.6
要介護 3	31	80.6	12.9	12.9	6.5	61.3	16.1	51.6	25.8	16.1	0.0	3.2
要介護 4	28	64.3	10.7	3.6	10.7	71.4	17.9	53.6	25.0	17.9	10.7	0.0
要介護 5	6	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	83.3	33.3	33.3	0.0	0.0

【問9で「1. 知っている」と回答した方のみ】

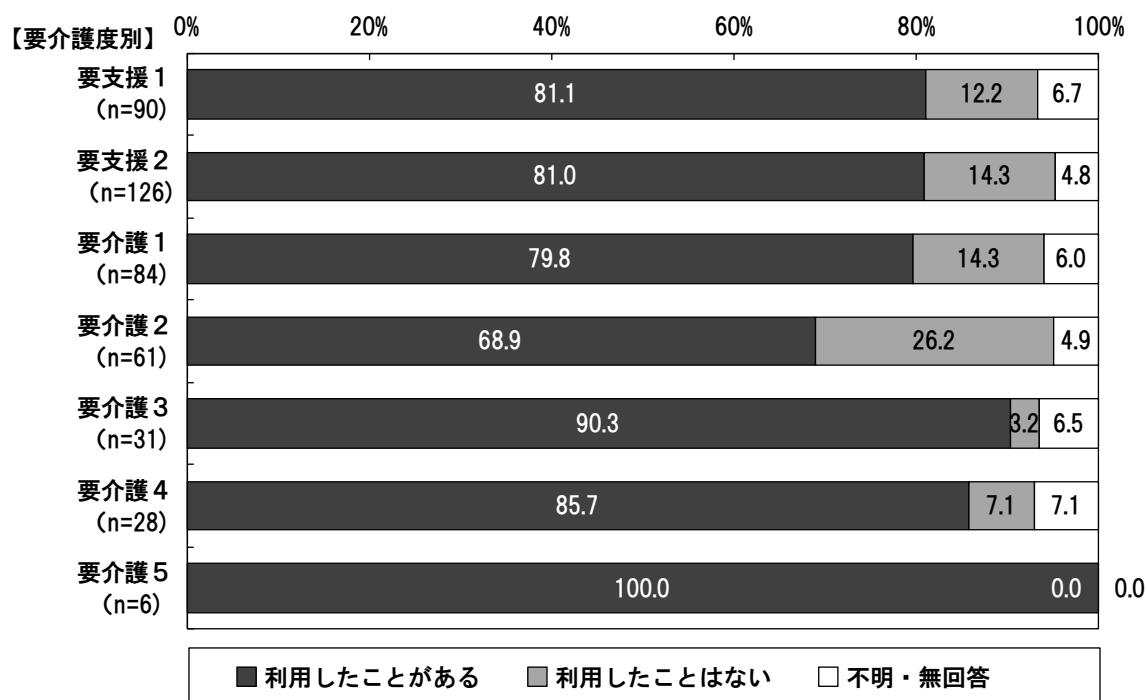
問11 あなたは、地域包括支援センターを利用したことがありますか。

地域包括支援センターの利用の有無については、「利用したことがある」が80.4%、「利用したことはない」が13.9%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「利用したことがある」が18.9ポイント高くなっています。



※本設問は、R4 年度調査では「地域包括支援センターを知っていますか」（問9）において「知っている」と回答した方のみへの設問ですが、R1 年度調査では限定なしの回答者全員への設問となっています。

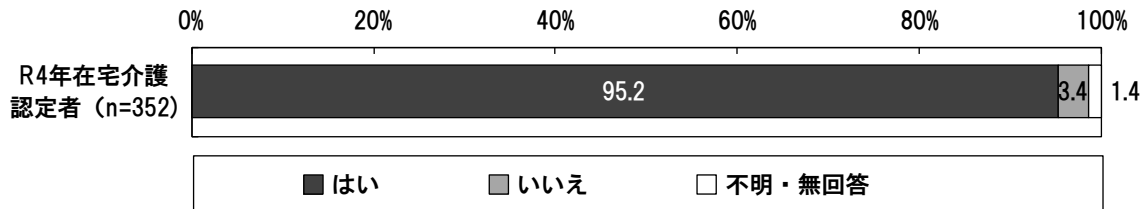
要介護度別でみると、要介護2で「利用したことがある」が68.9%と、他の要介護度と比べて低くなっています。



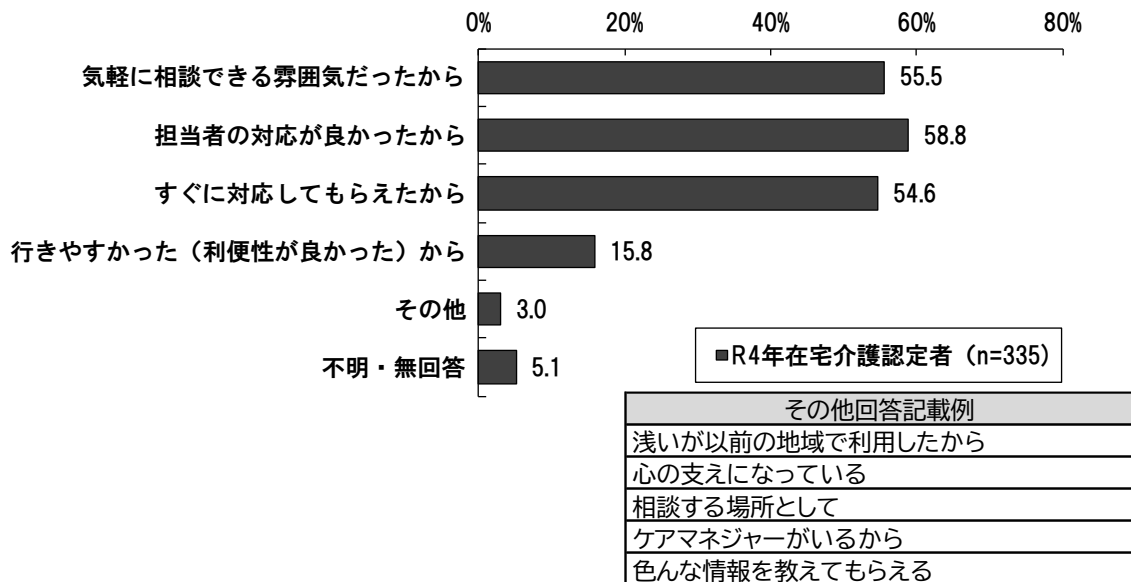
【問 11 で「1. 利用したことがある」と回答した方のみ】

問 12 今後も地域包括支援センターを利用したいですか。

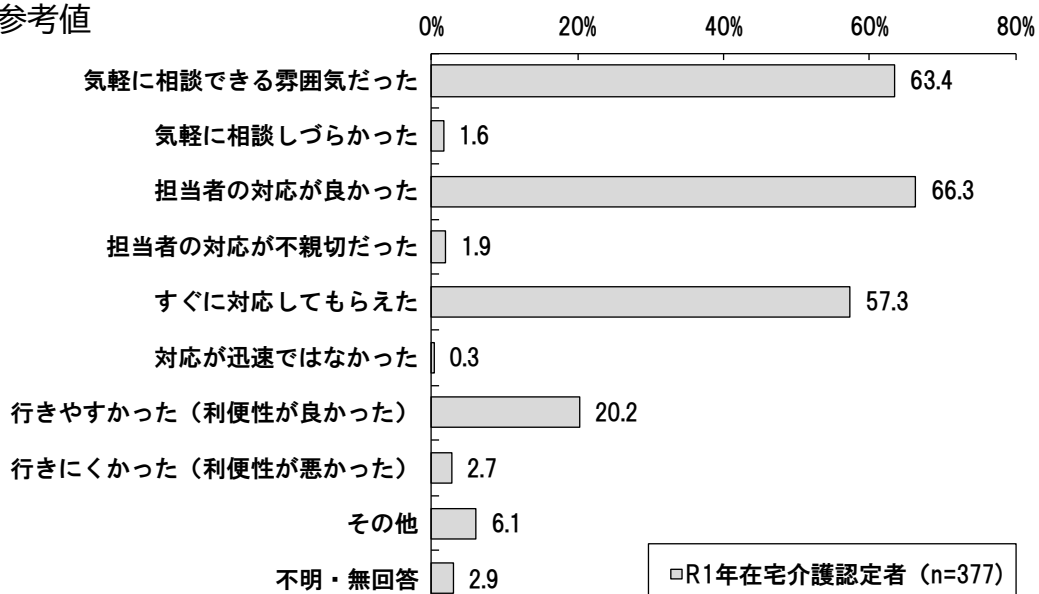
今後も地域包括支援センターを利用したいかについては、「はい」が 95.2%、「いいえ」が 3.4%となっています。なお、利用したい理由は、「担当者の対応が良かったから」「気軽に相談できる雰囲気だったから」「すぐに対応してもらえたから」がそれぞれ5割以上と高くなっています。一方、利用したくない理由は、「その他」が 75.0%と最も高くなっています。



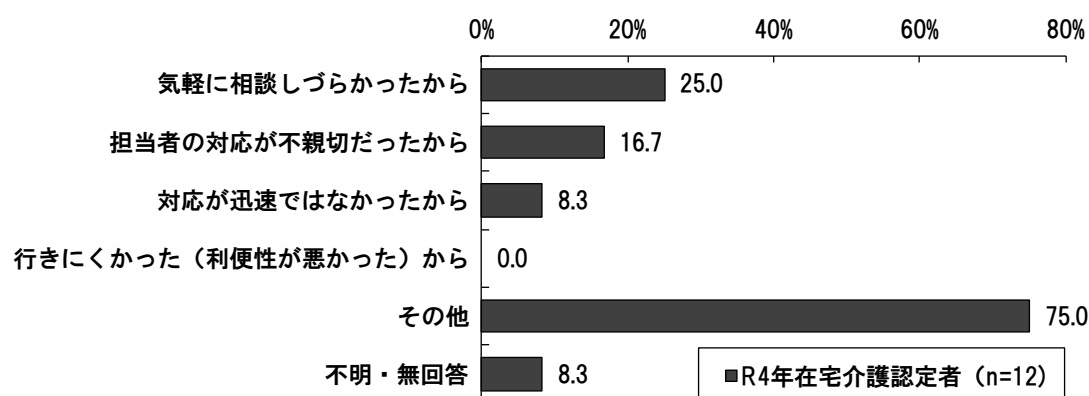
■今後も地域包括支援センターを利用したい理由



□参考値

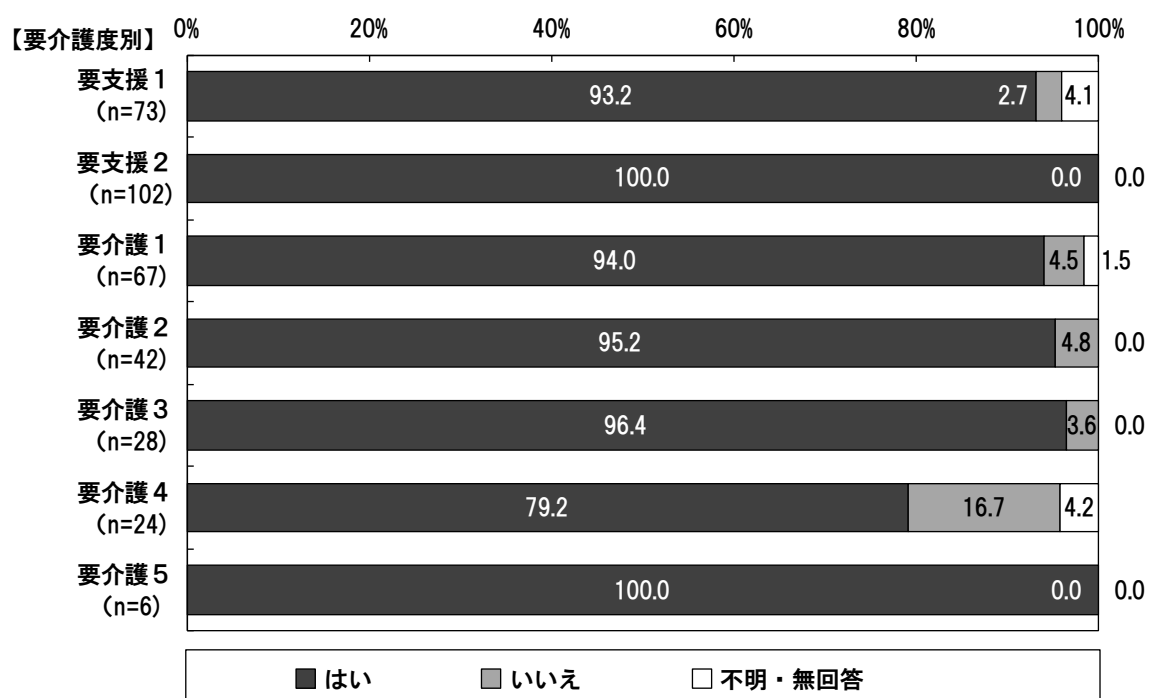


■地域包括支援センターを利用したくない理由



その他回答記載例
居宅介護事業所に登録したので必要性が低くなった
ケアマネジャーが替わって連絡なし
回復したから

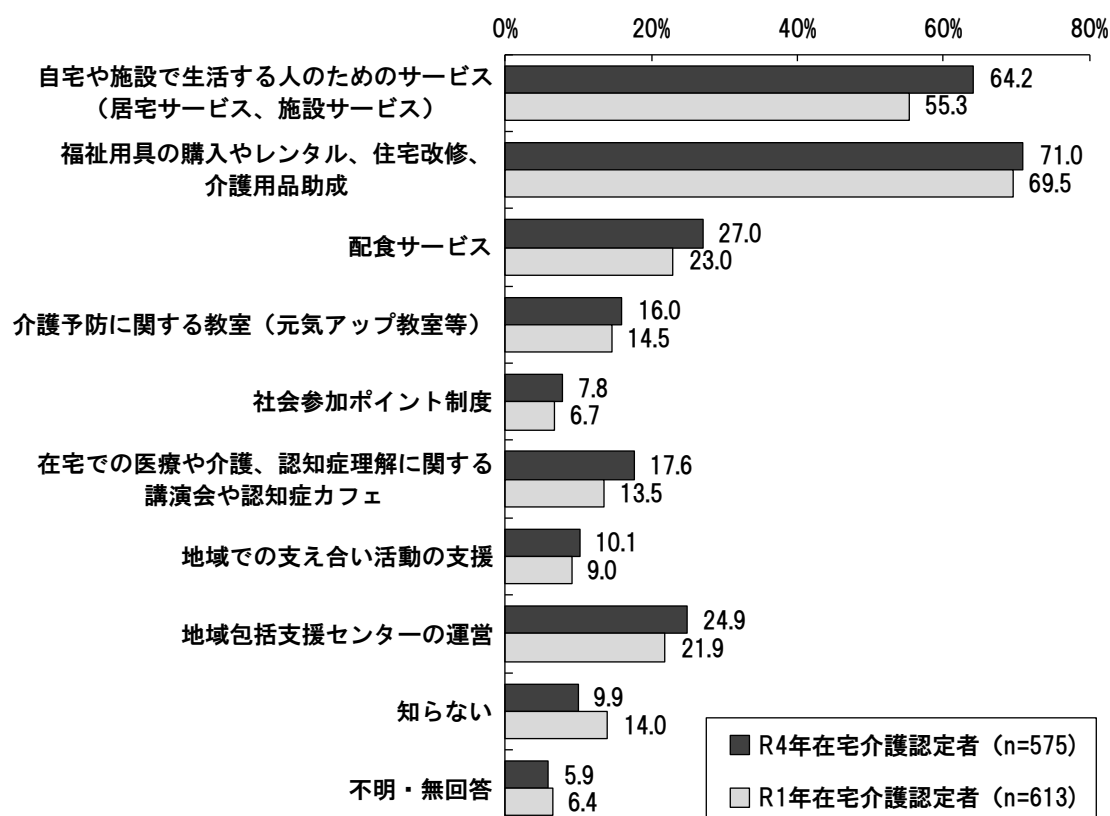
要介護度別でみると、要介護4で「はい」が79.2%と、他の要介護度と比べて低くなっています。



5. 介護保険料について

問 13 介護保険料の使われ方で、あなたが知っているものはどれですか。【複数回答】

介護保険料の使われ方で知っているものについては、「福祉用具の購入やレンタル、住宅改修、介護用品助成」が71.0%と最も高く、次いで「自宅や施設で生活する人のためのサービス（居宅サービス、施設サービス）」が64.2%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「自宅や施設で生活する人のためのサービス（居宅サービス、施設サービス）」が8.9ポイント高くなっています。

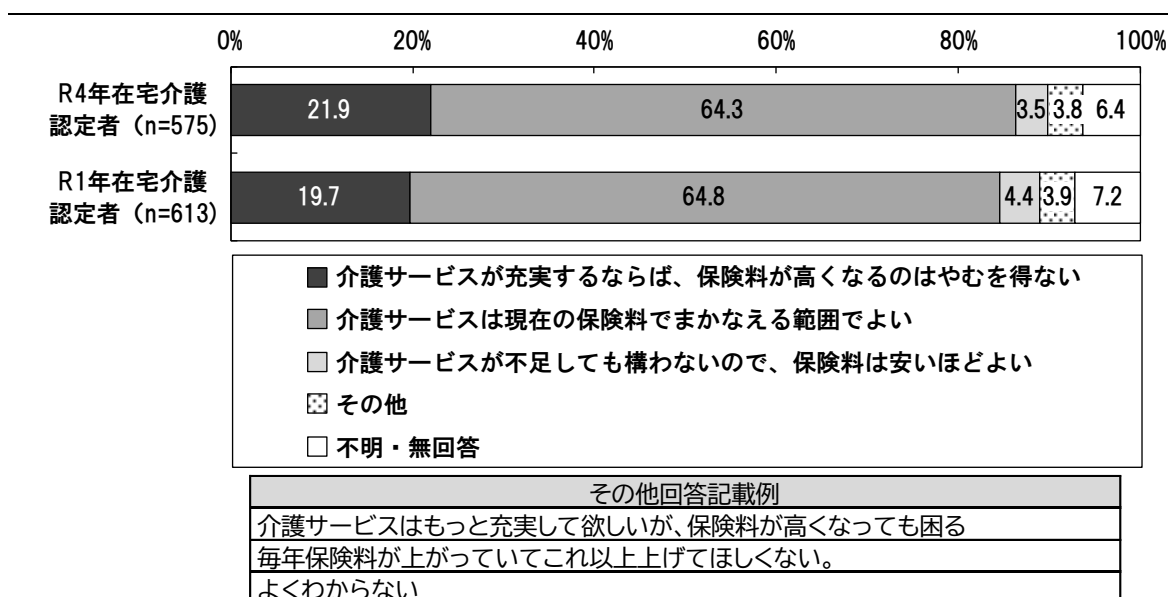


要介護度別でみると、いずれの要介護度も「福祉用具の購入やレンタル、住宅改修、介護用品助成」「自宅や施設で生活する人のためのサービス（居宅サービス、施設サービス）」が上位となっています。なお、要介護1・2で「配食サービス」がそれぞれ30台%と、他の要介護度と比べて高くなっています。

(単位：%)	n=	自宅や施設で生活する人のためのサービス（居宅サービス、施設サービス）	福祉用具の購入やレンタル、住宅改修、介護用品助成	配食サービス	介護予防に関する教室（元氣アップ教室等）	社会参加ポイント制度	在宅での医療や介護、認知症理解に関する講演会や認知症カフェ	地域での支え合い活動の支援	地域包括支援センターの運営	知らない	不明・無回答
要介護度別											
要支援1	112	60.7	69.6	28.6	18.8	14.3	18.8	11.6	23.2	8.9	7.1
要支援2	151	60.9	70.9	27.2	21.9	7.9	14.6	10.6	29.1	13.2	5.3
要介護1	118	66.1	65.3	33.1	11.0	7.6	14.4	6.8	22.0	11.0	4.2
要介護2	83	71.1	78.3	31.3	13.3	6.0	19.3	14.5	28.9	7.2	1.2
要介護3	47	74.5	74.5	17.0	17.0	4.3	25.5	6.4	21.3	8.5	4.3
要介護4	39	56.4	74.4	15.4	10.3	2.6	28.2	12.8	25.6	5.1	17.9
要介護5	11	81.8	63.6	18.2	9.1	0.0	9.1	0.0	9.1	0.0	18.2

問14 今後の介護保険料のあり方について、あなたの考えに一番近いものはどれですか。

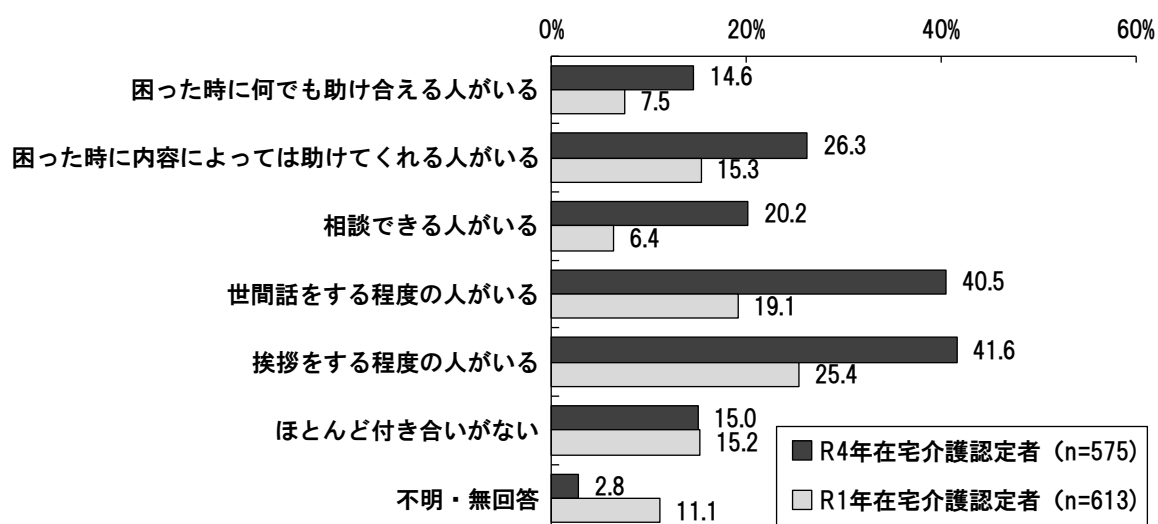
今後の介護保険料のあり方について一番近い考えについては、「介護サービスは現在の保険料でまかなえる範囲でよい」が64.3%と最も高く、次いで「介護サービスが充実するならば、保険料が高くなるのはやむを得ない」が21.9%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



6. 地域での支え合いや地域活動について

問 15 地域の人との付き合いは、どのようなですか。【複数回答】

地域の人との付き合いの程度については、「挨拶をする程度の人がいる」が41.6%と最も高く、次いで「世間話をする程度の人がいる」が40.5%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「世間話をする程度の人がいる」が 21.4 ポイント、「挨拶をする程度の人がいる」が 16.2 ポイント、「相談できる人がある」が 13.8 ポイント、「困った時に内容によっては助けてくれる人がある」が 11.0 ポイント、それぞれ高くなっています。



性別でみると、男女ともに「世間話をする程度の人がある」「挨拶をする程度の人がある」が上位となっています。なお、男女ともに「ほとんど付き合いがない」がそれぞれ10%台となっています。

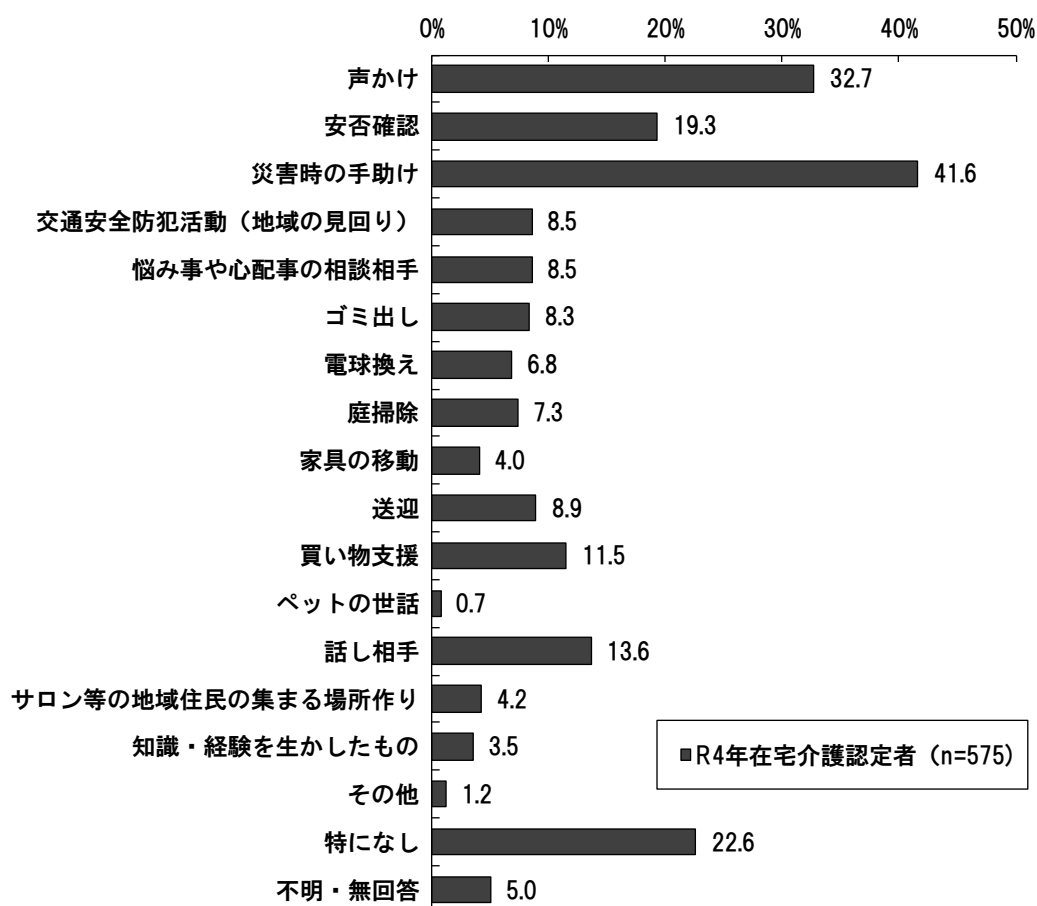
年齢別でみると、75歳～79歳で「困った時に何でも助け合える人がある」が9.8%と、他の年齢と比べて低くなっています。

要介護度別でみると、要介護3で「困った時に何でも助け合える人がある」が34.0%、要介護2で「ほとんど付き合いがない」が21.7%と、それぞれ他の要介護度と比べて高くなっています。

(単位：%)	n=	困った時に何でも 助け合える人がある	困った時に内容に よっては助け られる人がある	相談できる人がある	世間話をする 程度の人がある	挨拶をする 程度の人がある	ほとんど 付き合い がない	不明・無回答
性別								
男性	206	13.1	29.1	20.9	36.4	35.9	16.5	3.9
女性	361	15.8	25.2	20.2	42.7	45.2	13.3	2.2
年齢別								
65歳～69歳	24	20.8	20.8	20.8	45.8	45.8	12.5	8.3
70歳～74歳	56	17.9	28.6	23.2	46.4	51.8	12.5	0.0
75歳～79歳	123	9.8	25.2	17.9	42.3	42.3	17.9	1.6
80歳～84歳	164	16.5	27.4	19.5	38.4	40.9	15.2	2.4
85歳～89歳	129	17.1	26.4	25.6	41.9	38.8	11.6	2.3
90歳以上	71	11.3	28.2	15.5	32.4	39.4	14.1	7.0
要介護度別								
要支援1	112	21.4	30.4	26.8	43.8	43.8	9.8	0.0
要支援2	151	16.6	27.8	25.2	47.0	45.0	9.3	0.7
要介護1	118	12.7	24.6	20.3	33.9	39.0	17.8	1.7
要介護2	83	9.6	26.5	12.0	37.3	44.6	21.7	3.6
要介護3	47	6.4	34.0	10.6	36.2	34.0	19.1	4.3
要介護4	39	12.8	12.8	15.4	41.0	41.0	17.9	12.8
要介護5	11	18.2	9.1	0.0	36.4	36.4	9.1	18.2

問 16 あなたが地域の人に手助けや協力をしてほしいことは何ですか。【複数回答】

地域の人に手助けや協力をしてほしいことについては、「災害時の手助け」が41.6%と最も高く、次いで「声かけ」が32.7%となっています。



その他回答記載例
町内会の組長当番、80歳過ぎたらやめたい。自分たちが弱っているのを言いにくい
急病の時助けてほしい
今は二人暮らしのため特になし

性別でみると、女性で「送迎」「買い物支援」が、男性と比べてやや高くなっています。
年齢別でみると、いずれの年齢でも「災害時の手助け」がそれぞれ4割前後と高くなっています。

要介護度別でみると、要支援1・2、要介護3で「災害時の手助け」がそれぞれ40%台と、他の要介護度と比べて高くなっています。

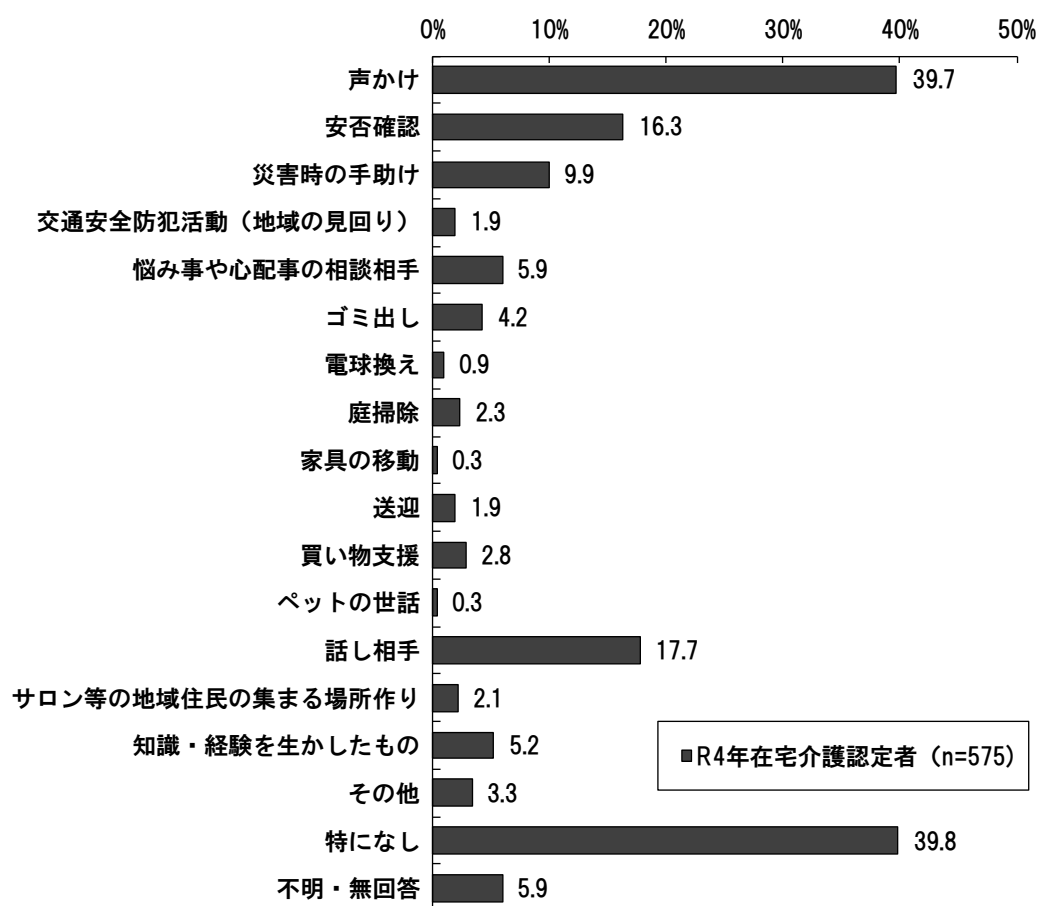
(単位：％)	n=	声かけ	安否確認	災害時の手助け	交通安全防犯活動 (地域の見回り)	悩み事や心配事の 相談相手	ゴミ出し	電球換え	庭掃除	家具の移動	送迎
性別											
男性	206	31.6	18.4	42.2	9.7	10.2	5.8	6.8	5.3	3.9	5.3
女性	361	33.5	20.2	41.8	8.0	7.8	9.7	6.9	8.3	4.2	10.8
年齢別											
65歳～69歳	24	37.5	20.8	37.5	20.8	4.2	4.2	0.0	0.0	12.5	16.7
70歳～74歳	56	30.4	10.7	39.3	5.4	5.4	12.5	10.7	14.3	10.7	7.1
75歳～79歳	123	30.1	18.7	42.3	7.3	14.6	10.6	12.2	8.1	4.1	13.8
80歳～84歳	164	34.1	22.6	44.5	6.1	8.5	5.5	5.5	6.7	2.4	4.3
85歳～89歳	129	36.4	19.4	39.5	10.1	4.7	10.1	4.7	6.2	1.6	9.3
90歳以上	71	28.2	21.1	43.7	12.7	9.9	5.6	4.2	5.6	4.2	8.5
要介護度別											
要支援1	112	40.2	22.3	48.2	8.0	8.9	11.6	10.7	9.8	4.5	12.5
要支援2	151	29.1	12.6	41.1	9.9	9.3	12.6	9.9	7.9	6.0	14.6
要介護1	118	31.4	23.7	39.8	7.6	10.2	4.2	5.9	5.9	1.7	5.1
要介護2	83	37.3	21.7	37.3	9.6	6.0	9.6	2.4	8.4	4.8	2.4
要介護3	47	17.0	12.8	48.9	6.4	6.4	2.1	2.1	2.1	2.1	6.4
要介護4	39	30.8	20.5	33.3	10.3	12.8	0.0	2.6	5.1	5.1	2.6
要介護5	11	54.5	45.5	36.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1

(単位：％)	n=	買い物支援	ペットの世話	話し相手	サロン等の地域住民 の集まる場所作り	知識・経験を生かした もの	その他	特になし	不明・無回答
性別									
男性	206	7.8	0.5	13.1	2.9	5.3	0.5	21.4	6.3
女性	361	13.3	0.8	13.9	5.0	2.5	1.7	23.0	4.4
年齢別									
65歳～69歳	24	0.0	0.0	20.8	0.0	4.2	0.0	29.2	4.2
70歳～74歳	56	3.6	0.0	1.8	3.6	7.1	1.8	30.4	1.8
75歳～79歳	123	16.3	0.0	17.1	4.1	1.6	2.4	21.1	4.1
80歳～84歳	164	13.4	0.0	11.0	5.5	4.9	0.6	19.5	5.5
85歳～89歳	129	9.3	1.6	13.2	5.4	0.8	0.0	24.0	5.4
90歳以上	71	11.3	2.8	21.1	1.4	5.6	2.8	19.7	8.5
要介護度別									
要支援1	112	16.1	0.9	9.8	7.1	3.6	0.0	16.1	1.8
要支援2	151	13.9	1.3	14.6	4.0	4.6	2.6	21.2	6.0
要介護1	118	9.3	0.8	14.4	4.2	4.2	1.7	29.7	1.7
要介護2	83	7.2	0.0	18.1	1.2	2.4	0.0	21.7	7.2
要介護3	47	8.5	0.0	12.8	2.1	2.1	2.1	27.7	4.3
要介護4	39	7.7	0.0	10.3	7.7	0.0	0.0	20.5	12.8
要介護5	11	0.0	0.0	18.2	0.0	0.0	0.0	18.2	18.2

問 17 あなた自身が、地域の人に対して手助けや協力できることは、何ですか。

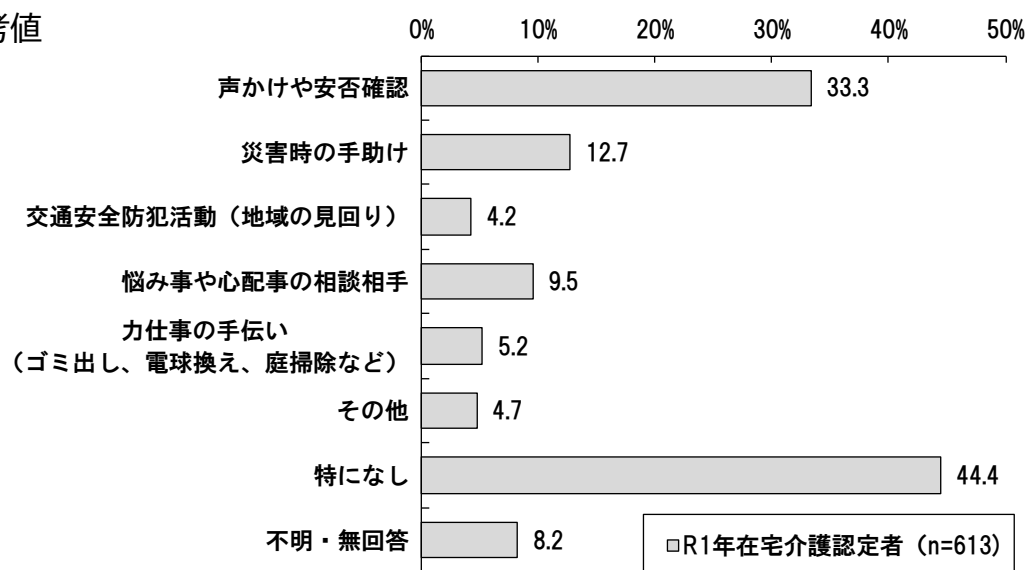
【複数回答】

地域の人に対して手助けや協力できることについては、「特になし」が39.8%と最も高く、次いで「声かけ」が39.7%となっています。



その他回答記載例
高齢・病気のためできない
自分自身が介護を受けている

□参考値



性別でみると、女性で「話し相手」が20.5%と、男性と比べてやや高くなっています。

年齢別でみると、65歳～69歳、75歳～84歳で「声かけ」がそれぞれ40%台と、他の年齢と比べて高くなっています。

要介護度別でみると、要支援1で「声かけ」「安否確認」が、他の要介護度と比べて高くなっています。

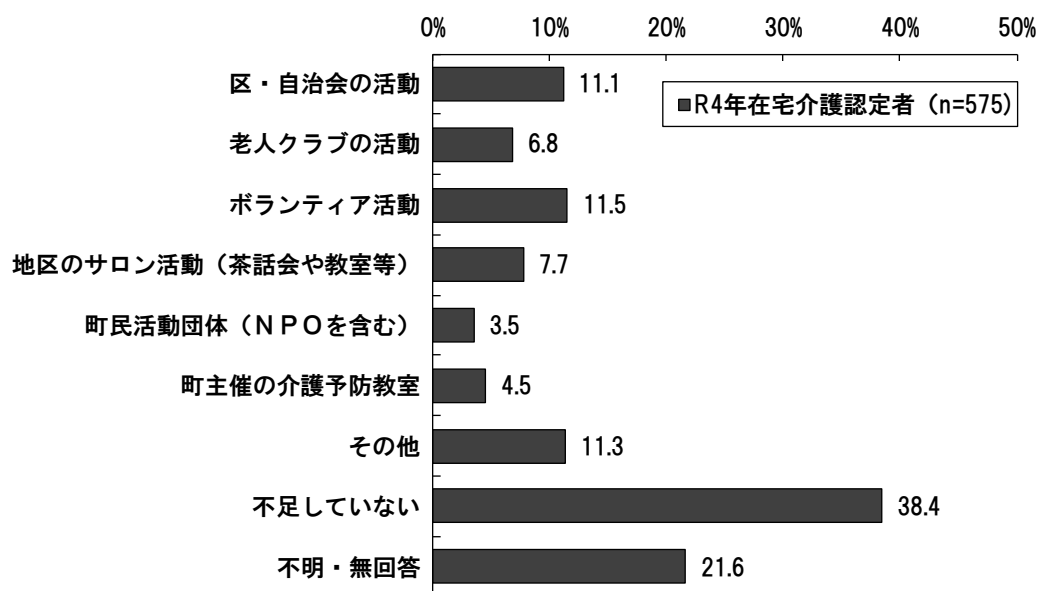
(単位：％)	n=	声かけ	安否確認	災害時の手助け	交通安全防犯活動 (地域の見回り)	悩み事や心配事の 相談相手	ゴミ出し	電球換え	庭掃除	家具の移動	送迎
性別											
男性	206	37.9	15.5	12.6	1.5	5.3	5.8	1.0	3.9	0.5	1.5
女性	361	40.7	16.9	8.6	2.2	6.4	3.3	0.6	1.4	0.3	2.2
年齢別											
65歳～69歳	24	45.8	16.7	33.3	4.2	0.0	4.2	0.0	4.2	0.0	4.2
70歳～74歳	56	39.3	21.4	7.1	0.0	8.9	3.6	0.0	1.8	0.0	3.6
75歳～79歳	123	44.7	21.1	6.5	1.6	10.6	6.5	0.8	2.4	0.0	1.6
80歳～84歳	164	40.2	18.3	12.8	1.8	2.4	4.9	1.8	1.8	0.6	1.8
85歳～89歳	129	38.8	11.6	8.5	3.1	7.0	3.1	0.0	1.6	0.8	2.3
90歳以上	71	29.6	8.5	7.0	1.4	4.2	1.4	0.0	4.2	0.0	0.0
要介護度別											
要支援1	112	56.3	28.6	9.8	0.0	11.6	2.7	0.9	0.0	0.0	2.7
要支援2	151	44.4	14.6	9.3	2.0	5.3	6.0	0.7	2.6	0.0	1.3
要介護1	118	36.4	11.0	11.0	2.5	3.4	4.2	0.8	3.4	1.7	2.5
要介護2	83	31.3	16.9	8.4	2.4	4.8	3.6	0.0	2.4	0.0	1.2
要介護3	47	25.5	10.6	12.8	4.3	4.3	2.1	0.0	2.1	0.0	0.0
要介護4	39	20.5	12.8	10.3	2.6	7.7	5.1	2.6	2.6	0.0	2.6
要介護5	11	45.5	18.2	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1

(単位：％)	n=	買い物支援	ペットの世話	話し相手	サロン等の地域住民 の集まる場所作り	知識・経験を生かした もの	その他	特になし	不明・無回答
性別									
男性	206	2.9	0.5	13.1	2.4	8.7	3.4	40.8	6.8
女性	361	2.5	0.3	20.5	1.9	3.3	3.3	38.8	5.5
年齢別									
65歳～69歳	24	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	37.5	4.2
70歳～74歳	56	3.6	1.8	23.2	1.8	8.9	1.8	42.9	1.8
75歳～79歳	123	0.8	0.8	22.0	3.3	4.1	4.9	36.6	4.9
80歳～84歳	164	4.3	0.0	15.2	4.3	6.1	3.0	37.8	6.1
85歳～89歳	129	3.1	0.0	15.5	0.0	3.9	3.9	41.9	7.8
90歳以上	71	1.4	0.0	16.9	0.0	7.0	2.8	42.3	8.5
要介護度別									
要支援1	112	3.6	0.0	23.2	0.9	7.1	0.9	29.5	2.7
要支援2	151	3.3	0.0	19.9	3.3	7.3	2.6	32.5	7.9
要介護1	118	2.5	0.0	13.6	1.7	4.2	4.2	46.6	2.5
要介護2	83	1.2	0.0	15.7	0.0	2.4	2.4	51.8	4.8
要介護3	47	0.0	2.1	10.6	0.0	2.1	2.1	48.9	8.5
要介護4	39	5.1	0.0	17.9	10.3	7.7	10.3	43.6	12.8
要介護5	11	0.0	0.0	27.3	0.0	0.0	9.1	18.2	18.2

問 18 あなたの住む地域には、どのような地域活動が不足していると思いますか。

【複数回答】

居住地で不足していると思う地域活動については、「不足していない」が38.4%と最も高く、次いで「ボランティア活動」が11.5%となっています。



その他回答記載例
わからない
地域活動を知らない／参加したことがない

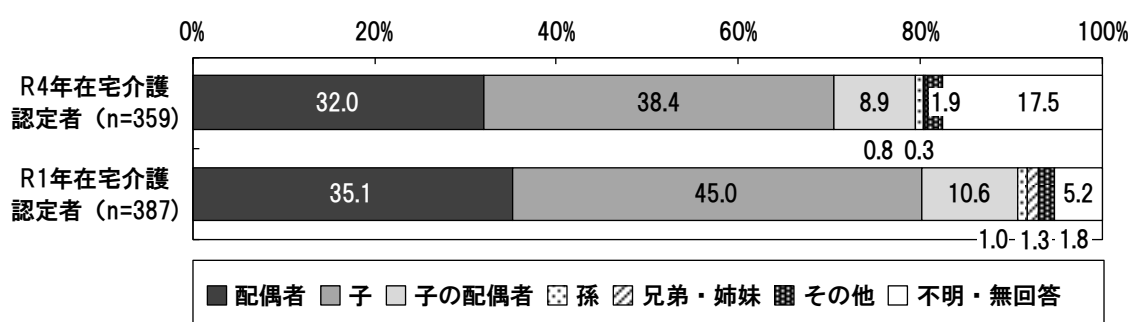
【B票】主な介護者の方について

※B票は「主な介護者」への質問のため、A票の間2（家族・親族からの介護の頻度）において「家族・親族の介護はあるが、週に1日よりも少ない」「週に1～2日ある」「週に1～2日ある」「週に1～2日ある」のいずれかに回答した方を対象とした。

7. 主な介護者自身について

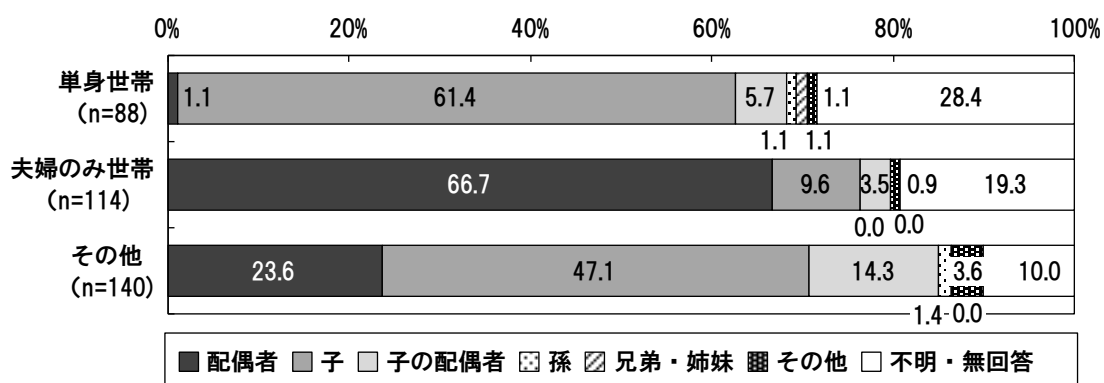
問1 主な介護者の方は、どなたですか。

主な介護者については、「子」が38.4%と最も高く、次いで「配偶者」が32.0%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「子」がやや低くなっています。



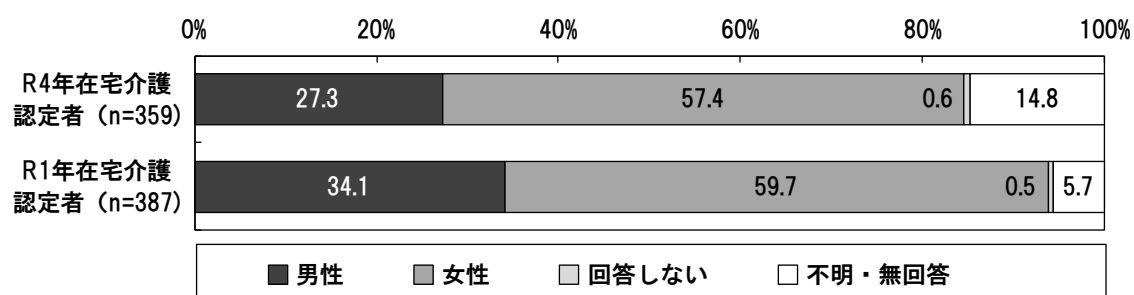
その他回答記載例
ヘルパー、訪問看護
介護は施設に任せている

世帯構成別でみると、単身世帯で「子」が61.4%、夫婦のみ世帯で「配偶者」が66.7%、それぞれ高くなっています。なお、その他で「子の配偶者」が14.3%と、他の世帯構成と比べて高くなっています。



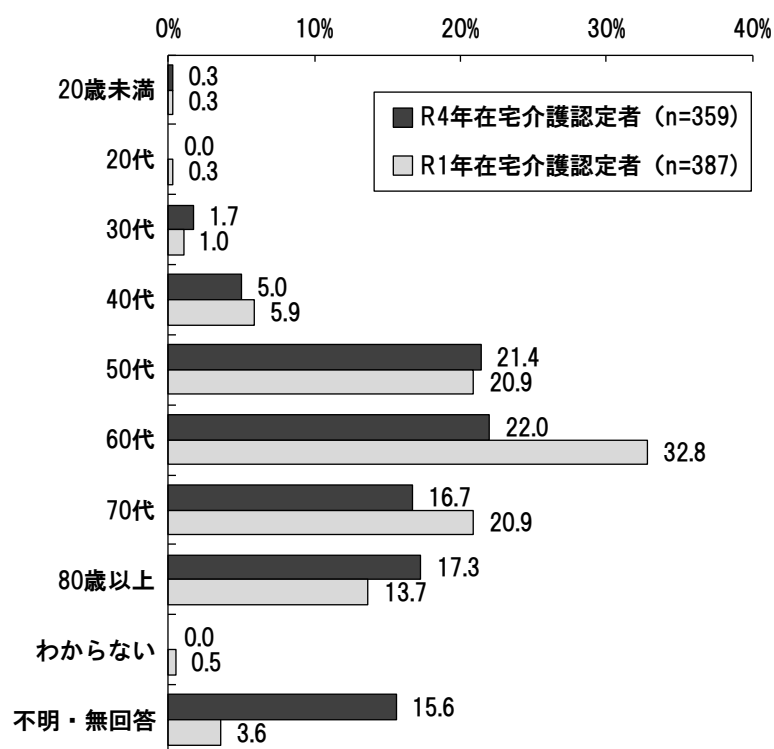
問2 主な介護者の方の性別について、ご回答ください。

主な介護者の方の性別については、「男性」が 27.3%、「女性」が 57.4%、「回答しない」が 0.6%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「男性」がやや低くなっています。



問3 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください。

主な介護者の方の年齢については、「60代」が22.0%と最も高く、次いで「50代」が21.4%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「60代」は10.8ポイント低くなっている一方で、「80歳以上」がやや高くなっています。



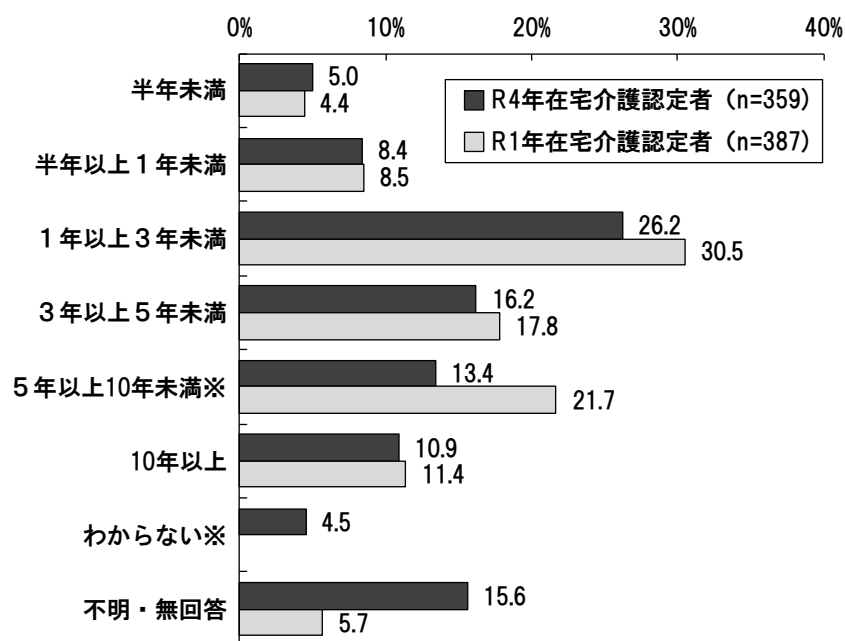
※「20歳未満」(n=1)、「20代」(n=0)のため、本設問以降、20代以下の主な介護者の年齢は30代と合わせて「30代以下」と表記します。

要介護度者の年齢別でみると、主な介護者が70代の方は「75歳～79歳」の方を、主な介護者が80以上の方は「85歳～89歳」の方を、それぞれ介護している割合が高くなっています。

(単位：%)	n=	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳～79歳	80歳～84歳	85歳～89歳	90歳以上	不明・無回答
主な介護者の年齢別								
30代以下	7	0.0	28.6	28.6	28.6	14.3	0.0	0.0
40代	18	0.0	16.7	38.9	22.2	11.1	11.1	0.0
50代	77	1.3	5.2	19.5	39.0	31.2	3.9	0.0
60代	79	12.7	3.8	1.3	13.9	35.4	31.6	1.3
70代	60	3.3	21.7	30.0	20.0	5.0	16.7	3.3
80歳以上	62	0.0	4.8	24.2	25.8	30.6	14.5	0.0

問4 ご本人に対しては、どのくらい介護を続けていますか。

介護の期間については、「1年以上3年未満」が26.2%と最も高く、次いで「3年以上5年未満」が16.2%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「5年以上10年未満」で8.3ポイント低くなっています。

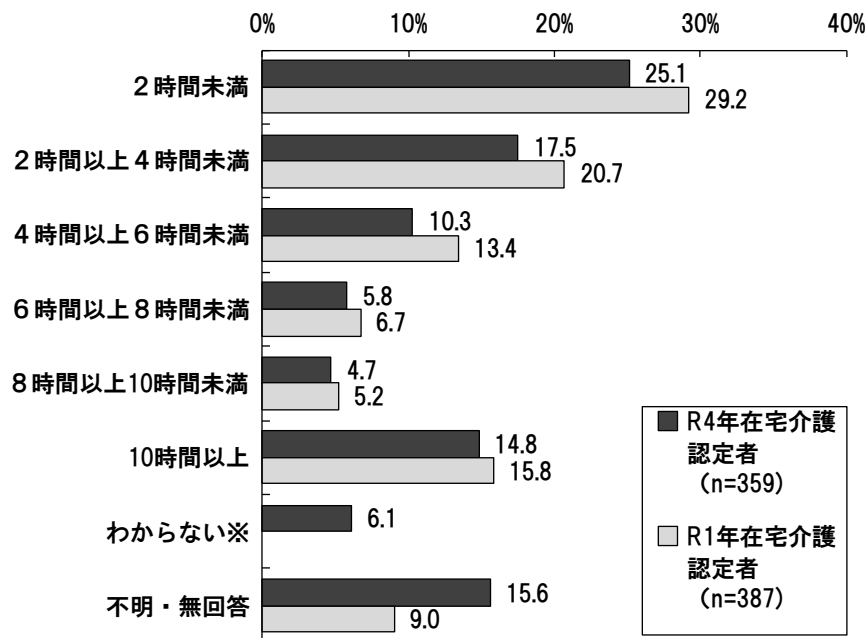


※選択肢「5年以上10年未満」は、R1年度調査では「5～8年未満」「8～10年未満」と分かれている選択肢の結果を合算してR4年度調査との比較を行っています。

※選択肢の「わからない」はR4年度調査のみとなっています。

問5 主な介護者の方の、一日の平均的な介護時間はどのくらいですか。（身体介護だけでなく、家事等の見守りも含めてお答えください）

一日の平均的な介護時間については、「2時間未満」が25.1%と最も高く、次いで「2時間以上4時間未満」が17.5%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



※選択肢の「わからない」は、R4 年度調査のみとなっています。

要介護度別でみると、要介護3・4で「10時間以上」が、それぞれ最も高くなっています。

(単位：%)	n=	2時間未満	4時間以上2時間未満	6時間以上4時間未満	8時間以上6時間未満	10時間以上8時間未満	10時間以上	わからない	答不明・無回
要介護度別									
要支援1	41	34.1	12.2	9.8	4.9	0.0	2.4	9.8	26.8
要支援2	93	36.6	20.4	7.5	5.4	2.2	4.3	6.5	17.2
要介護1	92	19.6	17.4	14.1	5.4	4.3	18.5	5.4	15.2
要介護2	65	23.1	23.1	7.7	7.7	4.6	20.0	4.6	9.2
要介護3	33	9.1	15.2	12.1	9.1	12.1	27.3	3.0	12.1
要介護4	23	17.4	8.7	4.3	4.3	17.4	30.4	0.0	17.4
要介護5	6	16.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0

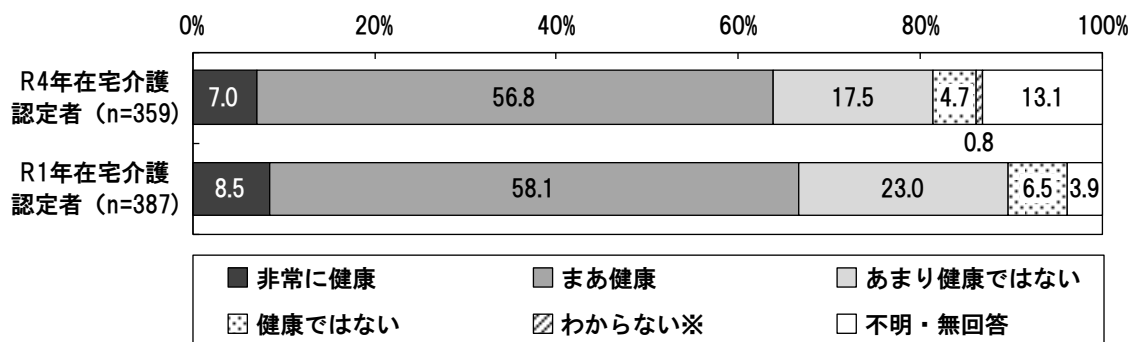
問6 主な介護者の方の、健康状態はいかがですか。

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『健康』 … 「非常に健康」と「まあ健康」の合算

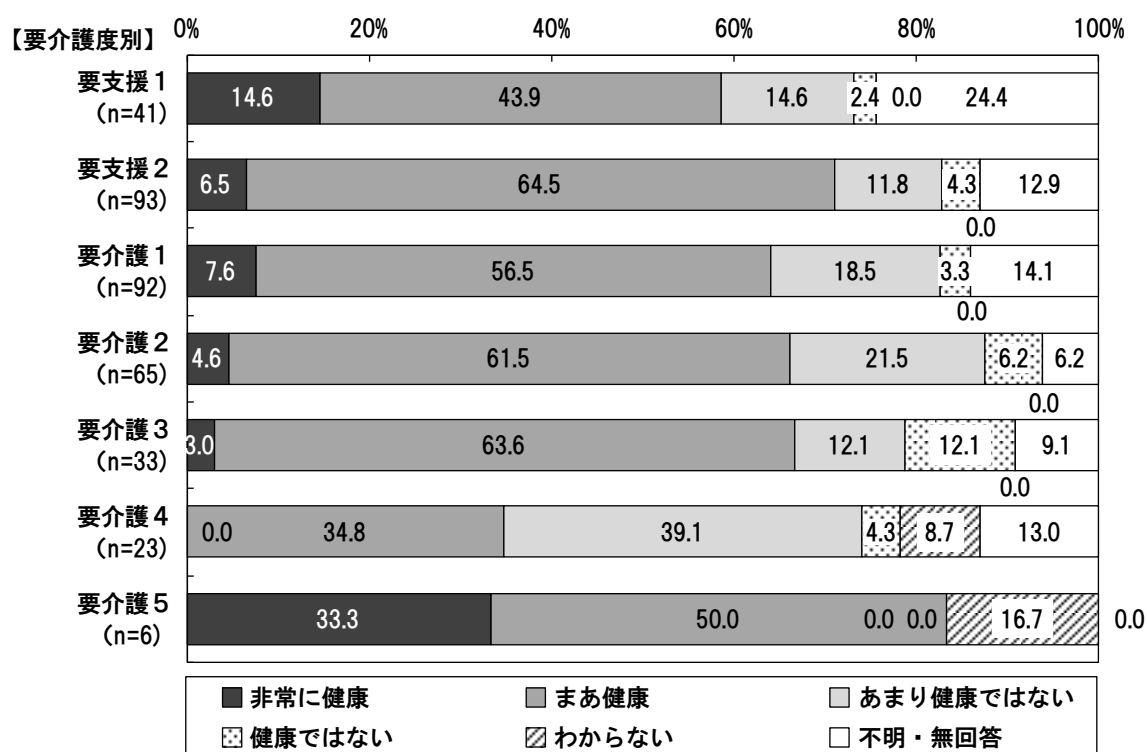
『健康ではない』 … 「あまり健康ではない」と「健康ではない」の合算

主な介護者の方の健康状態については、『健康』が 63.8%、『健康ではない』が 22.2%、「わからない」が 0.8%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、『健康ではない』が7.3ポイント低くなっています。



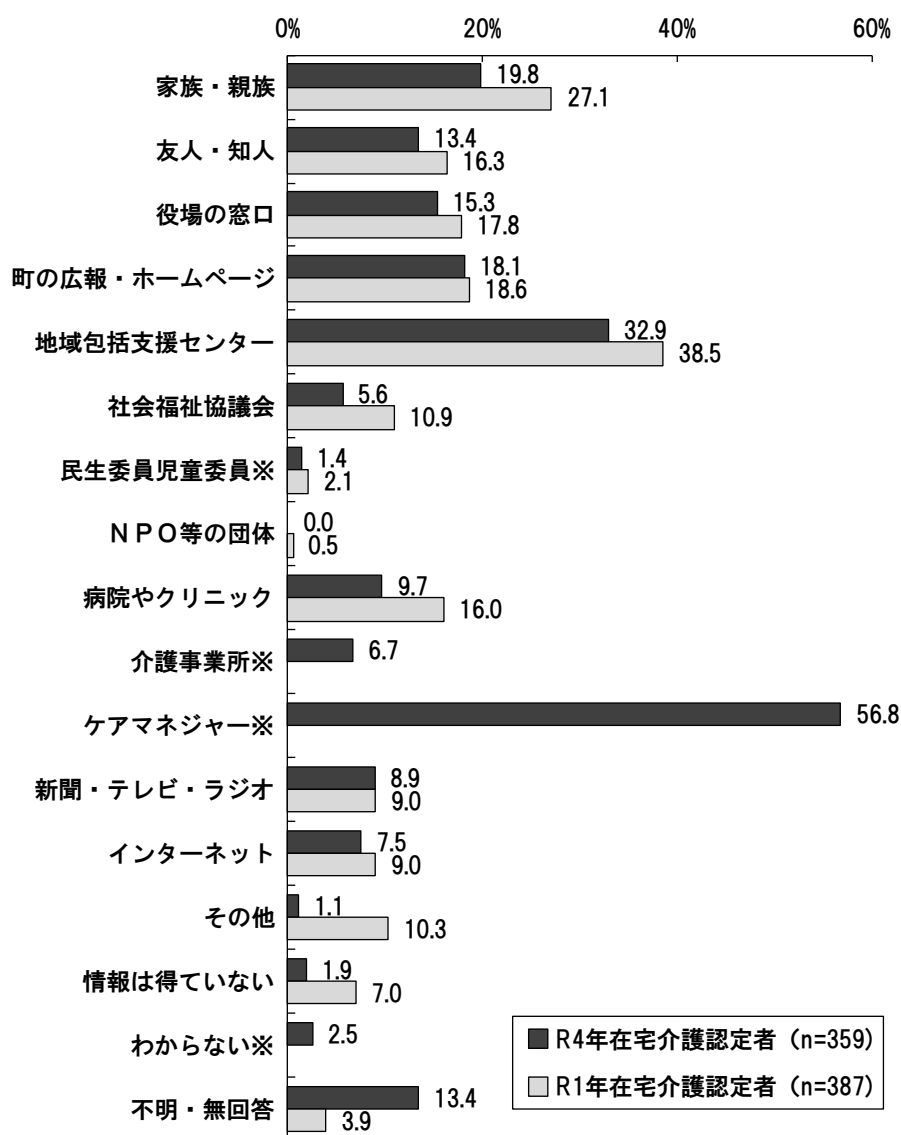
※選択肢の「わからない」は、R4 年度調査のみとなっています。

要介護度別でみると、要介護4の主な介護者で『健康ではない』が43.4%と、他の要介護度と比べて高くなっています。また、要介護3の主な介護者で「健康ではない」が12.1%と、他の要介護度と比べて高くなっています。



問7 主な介護者の方は、介護保険の情報や高齢者サービスの情報を主にどこ（誰）から得ていますか。【複数回答】

介護保険の情報や高齢者サービスの情報の入手先については、「ケアマネジャー」が56.8%と最も高く、次いで「地域包括支援センター」が32.9%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「家族・親族」で7.3ポイント低くなっています。



※R4 年度調査の選択肢「民生委員児童委員」は、R1 年度調査では「民生委員」となっています。

※選択肢の「介護事業所」「ケアマネジャー」「わからない」は、R4 年度調査のみとなっています。

その他回答記載例
書籍
職場
老人ホーム

要介護度別でみると、要支援1は「地域包括支援センター」、要支援2～要介護4は「ケアマネジャー」が、それぞれ最も高くなっています。

主な介護者の年齢別でみると、40代以上で「ケアマネジャー」がそれぞれ高く、60代以上でそれぞれ70%台と高くなっています。

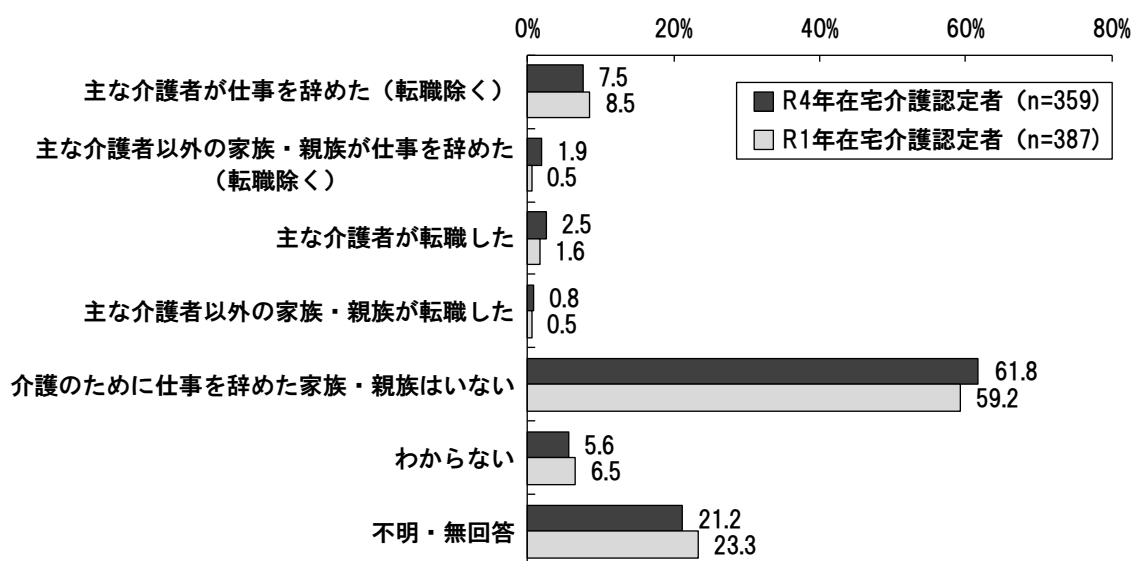
(単位：%)	n=	家族・親族	友人・知人	役場の窓口	町の広報・ホームページ	地域包括支援センター	社会福祉協議会	民生委員児童委員	NPO等の団体	病院やクリニック	介護事業所
要介護度別											
要支援1	41	26.8	14.6	19.5	19.5	34.1	4.9	2.4	0.0	4.9	0.0
要支援2	93	21.5	17.2	14.0	16.1	39.8	3.2	2.2	0.0	10.8	3.2
要介護1	92	19.6	13.0	14.1	17.4	34.8	7.6	2.2	0.0	7.6	4.3
要介護2	65	13.8	12.3	12.3	23.1	23.1	4.6	0.0	0.0	6.2	9.2
要介護3	33	15.2	6.1	12.1	18.2	24.2	9.1	0.0	0.0	6.1	9.1
要介護4	23	30.4	8.7	21.7	13.0	30.4	4.3	0.0	0.0	34.8	30.4
要介護5	6	0.0	0.0	33.3	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0
主な介護者の年齢別											
30代以下	7	28.6	14.3	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0
40代	18	27.8	16.7	16.7	0.0	38.9	0.0	5.6	0.0	11.1	0.0
50代	77	14.3	20.8	15.6	16.9	35.1	3.9	1.3	0.0	11.7	5.2
60代	79	20.3	13.9	21.5	24.1	38.0	5.1	1.3	0.0	10.1	5.1
70代	60	31.7	13.3	16.7	30.0	35.0	6.7	3.3	0.0	18.3	13.3
80歳以上	62	21.0	12.9	19.4	21.0	43.5	11.3	0.0	0.0	4.8	12.9

(単位：%)	n=	ケアマネジャー	新聞・テレビ・ラジオ	インターネット	その他	情報は得ていない	わからない	不明・無回答
要介護度別								
要支援1	41	26.8	7.3	4.9	2.4	2.4	4.9	24.4
要支援2	93	45.2	11.8	4.3	2.2	1.1	3.2	15.1
要介護1	92	60.9	8.7	6.5	0.0	3.3	2.2	13.0
要介護2	65	75.4	6.2	13.8	0.0	0.0	3.1	6.2
要介護3	33	78.8	9.1	15.2	0.0	3.0	0.0	9.1
要介護4	23	69.6	8.7	4.3	0.0	0.0	0.0	13.0
要介護5	6	50.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7
主な介護者の年齢別								
30代以下	7	28.6	14.3	0.0	0.0	14.3	28.6	0.0
40代	18	55.6	11.1	22.2	5.6	0.0	5.6	0.0
50代	77	55.8	6.5	15.6	2.6	3.9	3.9	2.6
60代	79	73.4	8.9	13.9	0.0	1.3	1.3	1.3
70代	60	70.0	13.3	0.0	1.7	1.7	1.7	0.0
80歳以上	62	72.6	11.3	0.0	0.0	1.6	1.6	1.6

8. 仕事と介護の両立について

問8 ご家族やご親族の中で、ご本人の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか。（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）※自営業や農業等の仕事を辞めた方を含みます。【複数回答】

介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた家族等の介護者の状況については、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が61.8%と最も高く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が7.5%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



要介護度別でみると、要介護4で「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が39.1%と、他の要介護度と比べて高くなっています。

主な介護者の年齢別でみると、40代、60代で「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」がそれぞれ10%台と高くなっています。

(単位：%)	n=	主な介護者が仕事を辞めた (転職除く)	主な介護者以外の家族・親族 が仕事を辞めた（転職除く）	主な介護者が転職した	主な介護者以外の家族・親族 が転職した	介護のために仕事を辞めた家 族・親族はいない	わからない	不明・無回答
要介護度別								
要支援1	41	2.4	0.0	2.4	0.0	51.2	4.9	39.0
要支援2	93	2.2	2.2	2.2	1.1	63.4	6.5	23.7
要介護1	92	5.4	1.1	1.1	1.1	69.6	4.3	19.6
要介護2	65	10.8	4.6	3.1	1.5	55.4	4.6	20.0
要介護3	33	6.1	0.0	0.0	0.0	72.7	9.1	12.1
要介護4	23	39.1	4.3	8.7	0.0	47.8	0.0	8.7
要介護5	6	16.7	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	16.7
主な介護者の年齢別								
30代以下	7	14.3	0.0	0.0	0.0	85.7	0.0	14.3
40代	18	11.1	0.0	0.0	0.0	83.3	0.0	5.6
50代	77	5.2	1.3	5.2	0.0	75.3	2.6	10.4
60代	79	11.4	2.5	1.3	0.0	64.6	12.7	7.6
70代	60	3.3	1.7	1.7	3.3	70.0	3.3	16.7
80歳以上	62	8.1	1.6	1.6	1.6	64.5	4.8	17.7

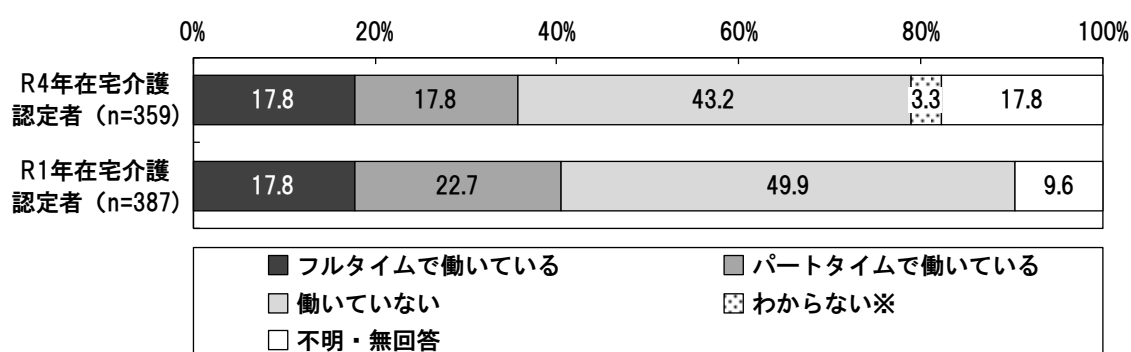
問9 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください。

※「パートタイム」とは、「1週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い方」が該当します。いわゆる「アルバイト」「嘱託」「契約社員」等の方を含みます。自営業・フリーランス等の場合も、就労時間・日数等から「フルタイム」・「パートタイム」のいずれかを選択してください。

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『働いている』…「フルタイムで働いている」と「パートタイムで働いている」の合算

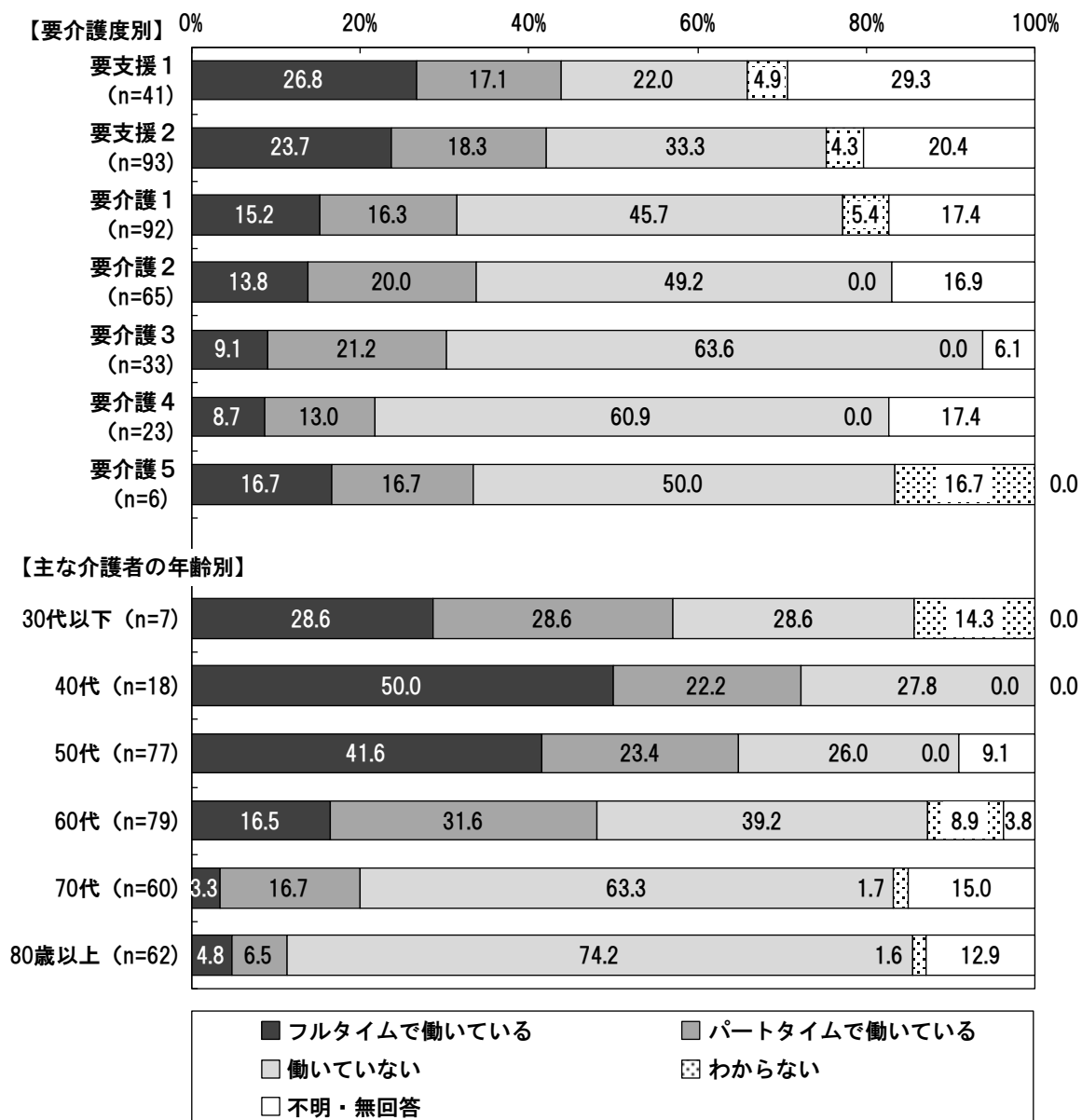
主な介護者の方の現在の勤務形態については、「働いていない」が43.2%と最も高く、次いで「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」がそれぞれ17.8%となっており、『働いている』主な介護者は、35.6%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「働いていない」が6.7ポイント低くなっています。



※選択肢の「わからない」は、R4 年度調査のみとなっています。

要介護度別でみると、要支援1・2で『働いている』主な介護者はそれぞれ40%台と、他の要介護度と比べて高くなっています。

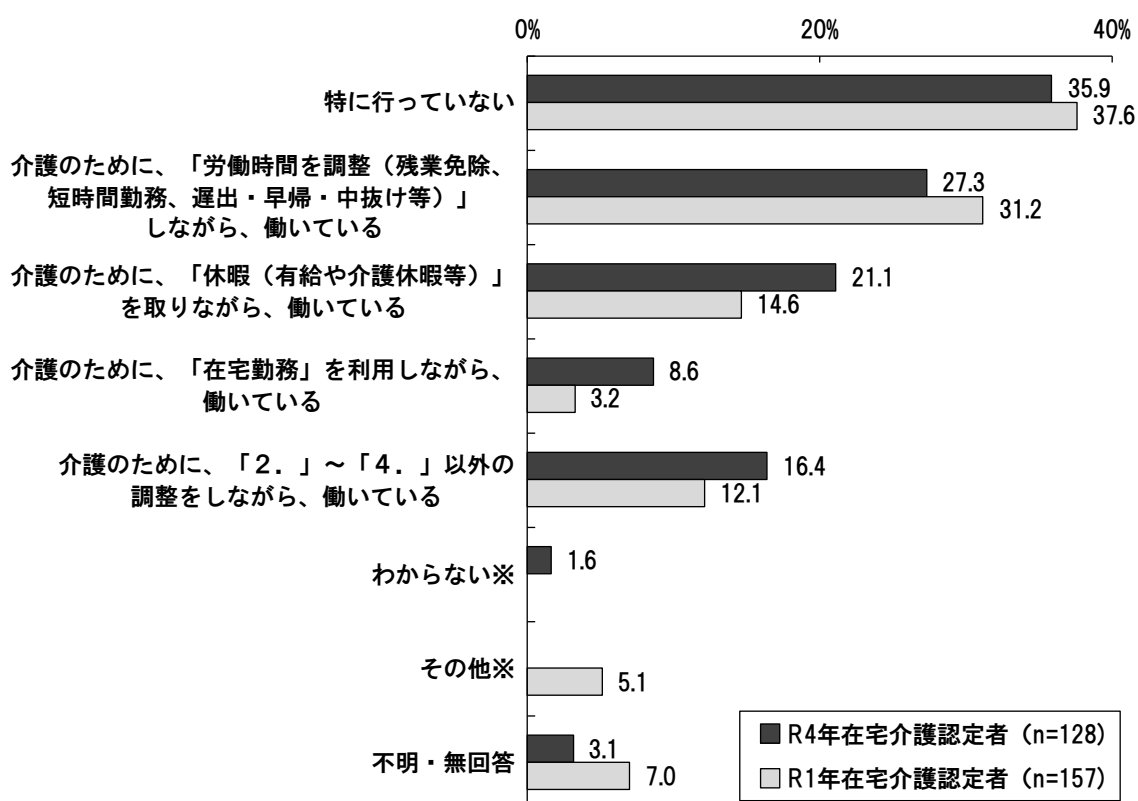
主な介護者の年齢別でみると、『働いている』主な介護者は40代で72.2%、50代で65.0%と、他の年齢と比べて高くなっています。



【問9で「1. フルタイムで働いている」または「2. パートタイムで働いている」と回答した方のみ】

問 10 主な介護者の方は、介護をするに当たって、何か働き方についての調整等を行っていますか。【複数回答】

介護をするに当たって、働き方についての調整等を行っているかについては、「特に行っていない」が35.9%と最も高く、次いで「介護のために、『労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）』しながら、働いている」が27.3%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「介護のために、『休暇（有給や介護休暇等）』を取りながら、働いている」「介護のために、『在宅勤務』を利用しながら、働いている」がそれぞれやや高くなっています。



※選択肢の「わからない」は R4 年度調査のみ、「その他」は R1 年度調査のみとなっています。

要介護度別でみると、要介護1～3で「介護のために、『労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）』しながら、働いている」がそれぞれ3割以上と高くなっています。

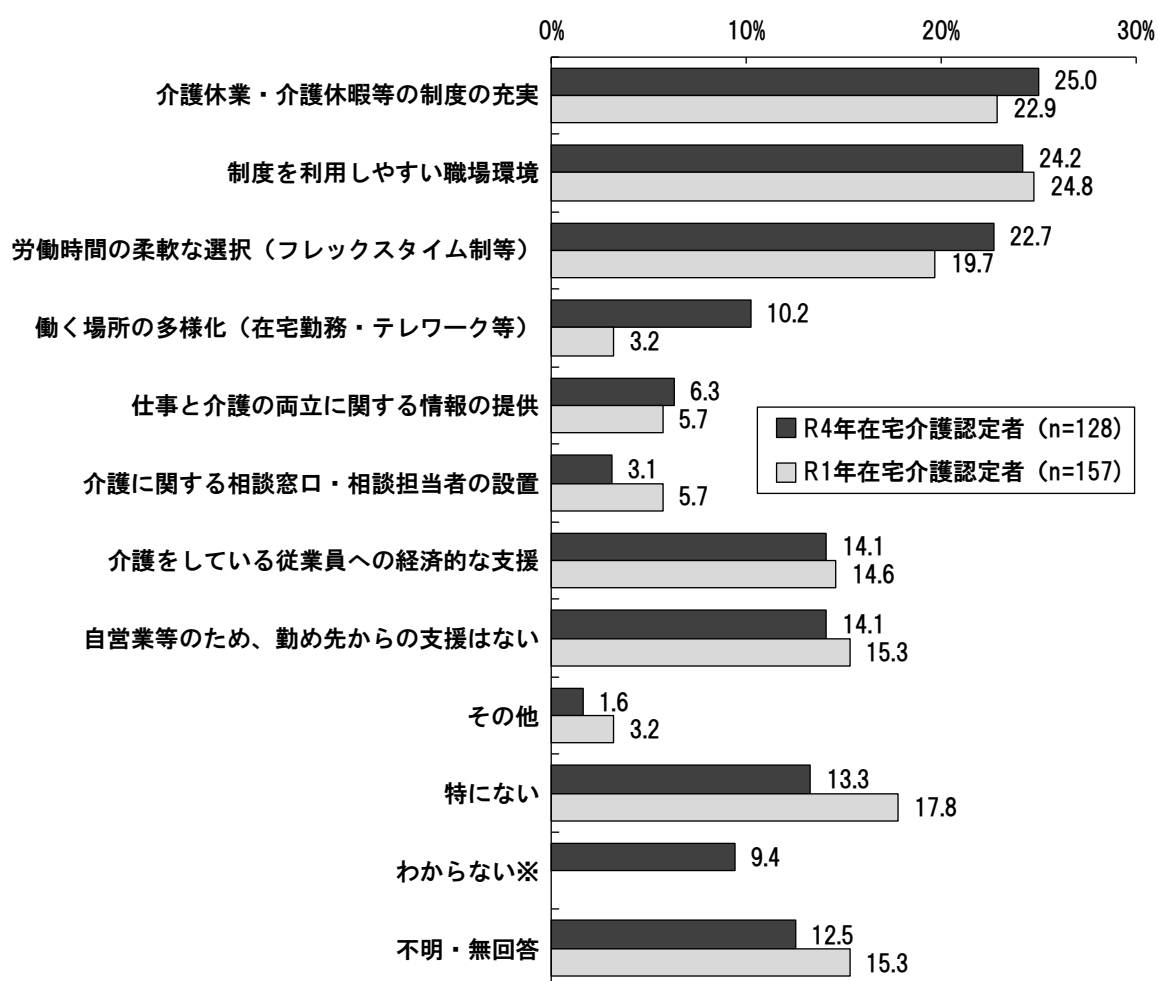
主な介護者の年齢別でみると、60代で「介護のために、『労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）』しながら、働いている」が36.8%と、他の年齢と比べて高くなっています。

(単位：%)	n=	特に行っていない	介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている	介護のために、「休暇（有給や介護休暇等）」を取りながら、働いている	介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている	介護のために、「2.」「4.」以外の調整をしながら、働いている	わからない	不明・無回答
要介護度別								
要支援1	18	44.4	11.1	22.2	5.6	11.1	0.0	5.6
要支援2	39	41.0	23.1	25.6	5.1	17.9	2.6	0.0
要介護1	29	20.7	34.5	20.7	20.7	17.2	0.0	6.9
要介護2	22	22.7	36.4	13.6	9.1	22.7	4.5	4.5
要介護3	10	40.0	50.0	30.0	0.0	0.0	0.0	0.0
要介護4	5	60.0	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0
要介護5	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
主な介護者の年齢別								
30代以下	4	50.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
40代	13	61.5	7.7	23.1	0.0	7.7	0.0	0.0
50代	50	28.0	26.0	24.0	14.0	20.0	0.0	6.0
60代	38	26.3	36.8	28.9	5.3	18.4	0.0	2.6
70代	12	58.3	25.0	8.3	0.0	16.7	8.3	0.0
80歳以上	7	42.9	42.9	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0

【問9で「1. フルタイムで働いている」または「2. パートタイムで働いている」と回答した方のみ】

問 11 主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。【複数回答】

勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思うかについては、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が25.0%と最も高く、次いで「制度を利用しやすい職場環境」が24.2%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



※選択肢の「わからない」は、R4 年度調査のみとなっています。

その他回答記載例
要介護者がデイに行っている曜日に仕事ができればと思う
休みを取りやすい環境、特に人員

要介護度別でみると、要介護3以下で「介護休業・介護休暇等の制度の充実」「制度を利用しやすい職場環境」「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制等）」が上位となっています。

主な介護者の年齢別でみると、40代で「制度を利用しやすい職場環境」が38.5%と、他の年齢と比べて高くなっています。

(単位：%)	n=	介護休業・介護休暇等の制度の充実	制度を利用しやすい職場環境	労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制等）	働く場所の多様化（在宅勤務・テレワーク等）	仕事と介護の両立に関する情報の提供	介護に関する相談窓口・相談担当者の設置	介護をしている従業員への経済的な支援	自営業等のため、勤め先からの支援はない	その他	特にない	わからない	不明・無回答
		要介護度別											
要支援1	18	27.8	33.3	16.7	5.6	11.1	5.6	16.7	5.6	0.0	16.7	11.1	16.7
要支援2	39	23.1	25.6	28.2	15.4	7.7	2.6	5.1	15.4	2.6	10.3	12.8	10.3
要介護1	29	20.7	13.8	27.6	13.8	0.0	6.9	20.7	13.8	0.0	20.7	10.3	10.3
要介護2	22	27.3	27.3	9.1	0.0	9.1	0.0	22.7	9.1	4.5	13.6	0.0	22.7
要介護3	10	30.0	30.0	30.0	10.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	10.0	0.0
要介護4	5	40.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	20.0
要介護5	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
主な介護者の年齢別													
30代以下	4	0.0	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0
40代	13	30.8	38.5	15.4	23.1	15.4	0.0	23.1	7.7	0.0	7.7	7.7	7.7
50代	50	34.0	28.0	30.0	8.0	6.0	6.0	22.0	16.0	0.0	8.0	6.0	10.0
60代	38	23.7	18.4	23.7	10.5	5.3	2.6	7.9	2.6	5.3	18.4	10.5	15.8
70代	12	16.7	33.3	8.3	8.3	8.3	0.0	8.3	41.7	0.0	8.3	0.0	16.7
80歳以上	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0	42.9	14.3	14.3

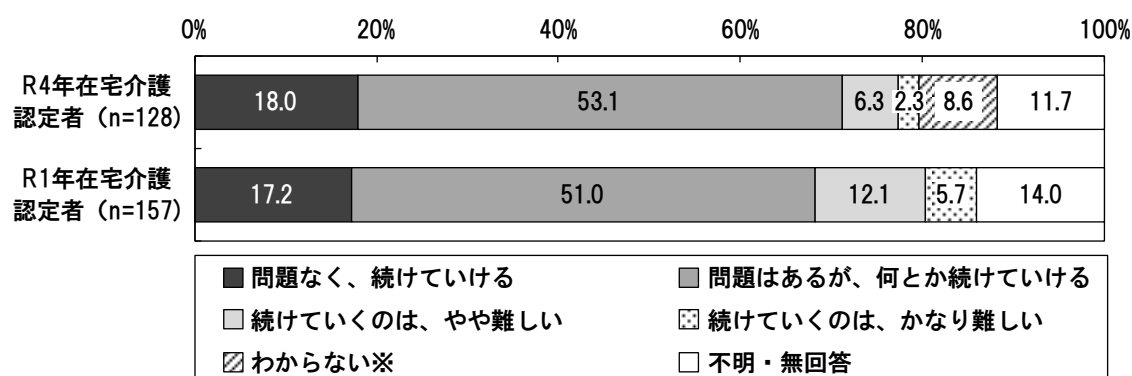
【問9で「1. フルタイムで働いている」または「2. パートタイムで働いている」と回答した方のみ】

問12 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『続けていける』 … 「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」の合算
『続けていくのは難しい』 … 「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのは、かなり難しい」の合算

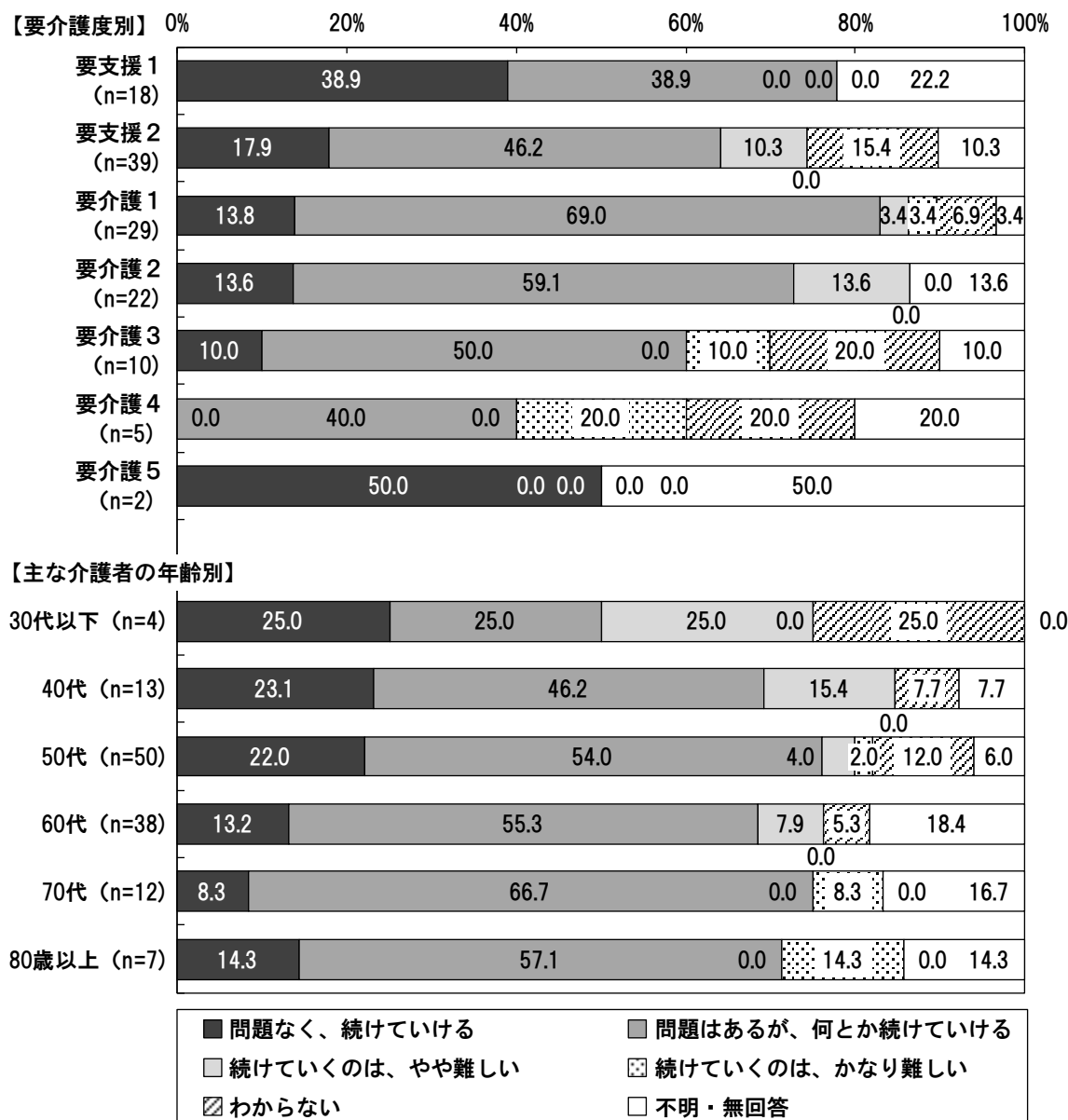
今後も働きながら介護を続けていけそうかについては、『続けていける』が71.1%、『続けていくのは難しい』が8.6%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「続けていくのは、やや難しい」がやや低くなっています。



※選択肢の「わからない」は、R4年度調査のみとなっています。

要介護度別でみると、要介護1で『続けていける』が82.8%と、他の要介護度と比べて高くなっているものの、69.0%は「問題はあるが、何とか続けていける」という状況です。

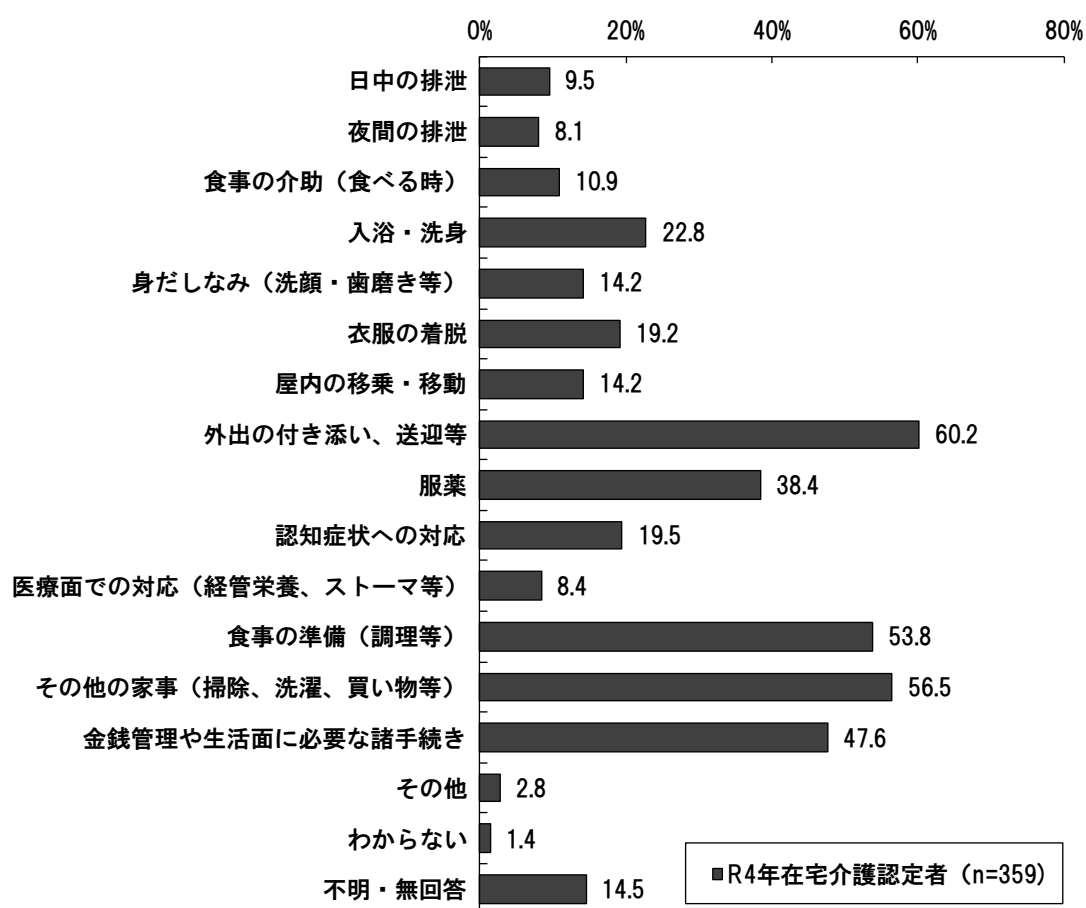
主な介護者の年齢別でみると、40代で『続けていくのは難しい』が15.4%と、他の年齢と比べて高くなっています。



9. 介護する上での負担について

問 13 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください。【複数回答】

介護等の内容については、「外出の付き添い、送迎等」が60.2%と最も高く、次いで「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が56.5%となっています。



要介護度別でみると、要介護2・3で「外出の付き添い、送迎等」が、要介護3で「食事の準備（調理等）」が、要介護2で「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」がそれぞれ70%台と、他の要介護度と比べて高くなっています。

主な介護者の年齢別でみると、40代で「外出の付き添い、送迎等」が83.3%、70代で「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が71.7%と、それぞれ他の年齢と比べて高くなっています。

(単位：％)	n=	日中の排泄	夜間の排泄	食事の介助（食べる時）	入浴・洗身	身だしなみ（洗顔・歯磨き等）	衣服の着脱	屋内の移乗・移動	外出の付き添い、送迎等	服薬	認知症状への対応
要介護度別											
要支援1	41	0.0	2.4	4.9	2.4	9.8	2.4	7.3	34.1	9.8	7.3
要支援2	93	2.2	2.2	4.3	20.4	4.3	7.5	3.2	60.2	12.9	3.2
要介護1	92	3.3	5.4	8.7	19.6	12.0	13.0	12.0	66.3	50.0	31.5
要介護2	65	13.8	12.3	10.8	29.2	20.0	30.8	16.9	70.8	60.0	36.9
要介護3	33	33.3	18.2	27.3	42.4	27.3	57.6	42.4	75.8	69.7	18.2
要介護4	23	21.7	17.4	30.4	34.8	30.4	34.8	30.4	47.8	47.8	21.7
要介護5	6	33.3	16.7	16.7	33.3	33.3	16.7	0.0	16.7	16.7	0.0
主な介護者の年齢別											
30代以下	7	14.3	0.0	0.0	14.3	14.3	14.3	14.3	57.1	28.6	28.6
40代	18	0.0	5.6	5.6	11.1	0.0	5.6	5.6	83.3	33.3	33.3
50代	77	3.9	3.9	5.2	16.9	9.1	10.4	13.0	74.0	31.2	18.2
60代	79	10.1	7.6	10.1	17.7	12.7	19.0	10.1	68.4	45.6	25.3
70代	60	11.7	11.7	21.7	41.7	28.3	31.7	20.0	68.3	55.0	23.3
80歳以上	62	17.7	14.5	14.5	37.1	17.7	32.3	19.4	53.2	46.8	12.9

(単位：％)	n=	医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）	食事の準備（調理等）	その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）	金銭管理や生活面に必要な諸手続き	その他	わからない	不明・無回答
要介護度別								
要支援1	41	4.9	34.1	41.5	24.4	2.4	2.4	24.4
要支援2	93	2.2	48.4	49.5	32.3	2.2	1.1	19.4
要介護1	92	5.4	55.4	58.7	60.9	1.1	1.1	14.1
要介護2	65	10.8	69.2	75.4	56.9	3.1	0.0	6.2
要介護3	33	6.1	78.8	69.7	69.7	9.1	0.0	3.0
要介護4	23	39.1	34.8	43.5	47.8	0.0	0.0	26.1
要介護5	6	16.7	16.7	33.3	50.0	16.7	16.7	0.0
主な介護者の年齢別								
30代以下	7	14.3	100.0	85.7	71.4	14.3	0.0	0.0
40代	18	11.1	55.6	61.1	50.0	5.6	0.0	11.1
50代	77	3.9	50.6	64.9	49.4	5.2	0.0	9.1
60代	79	7.6	60.8	65.8	62.0	3.8	3.8	3.8
70代	60	16.7	70.0	71.7	53.3	0.0	0.0	1.7
80歳以上	62	8.1	64.5	51.6	50.0	0.0	0.0	6.5

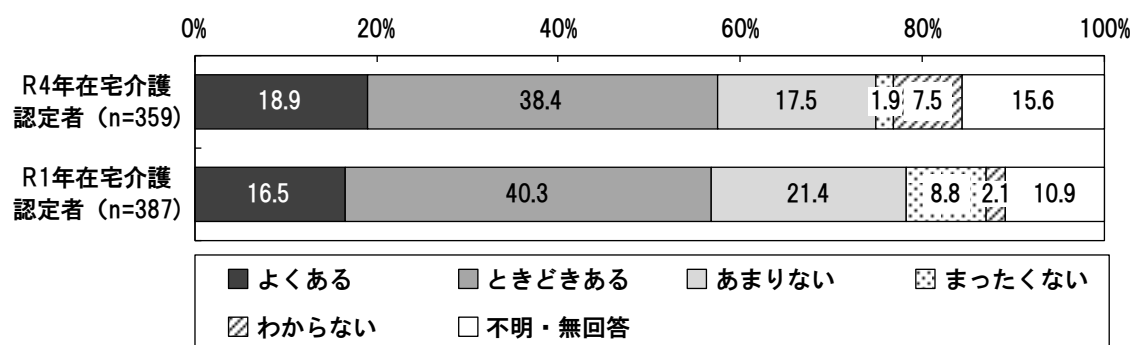
問 14 介護をしているとき、不安に感じることはありますか。

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『ある』…「よくある」と「ときどきある」の合算

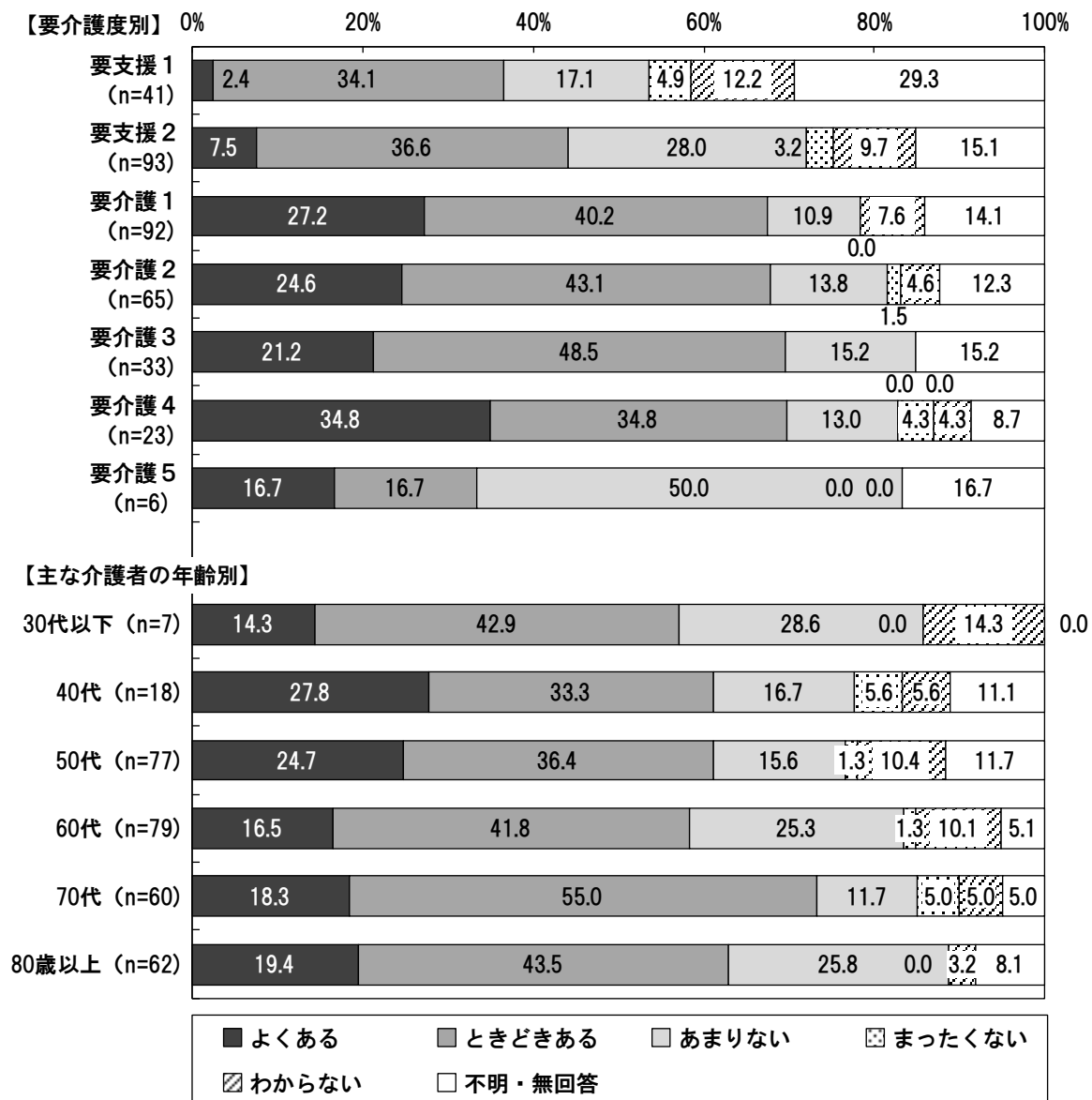
『ない』…「あまりない」と「まったくない」の合算

介護への不安については、『ある』が57.3%、『ない』が19.4%、「わからない」が7.5%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、『ない』が10.8ポイント低くなっています。



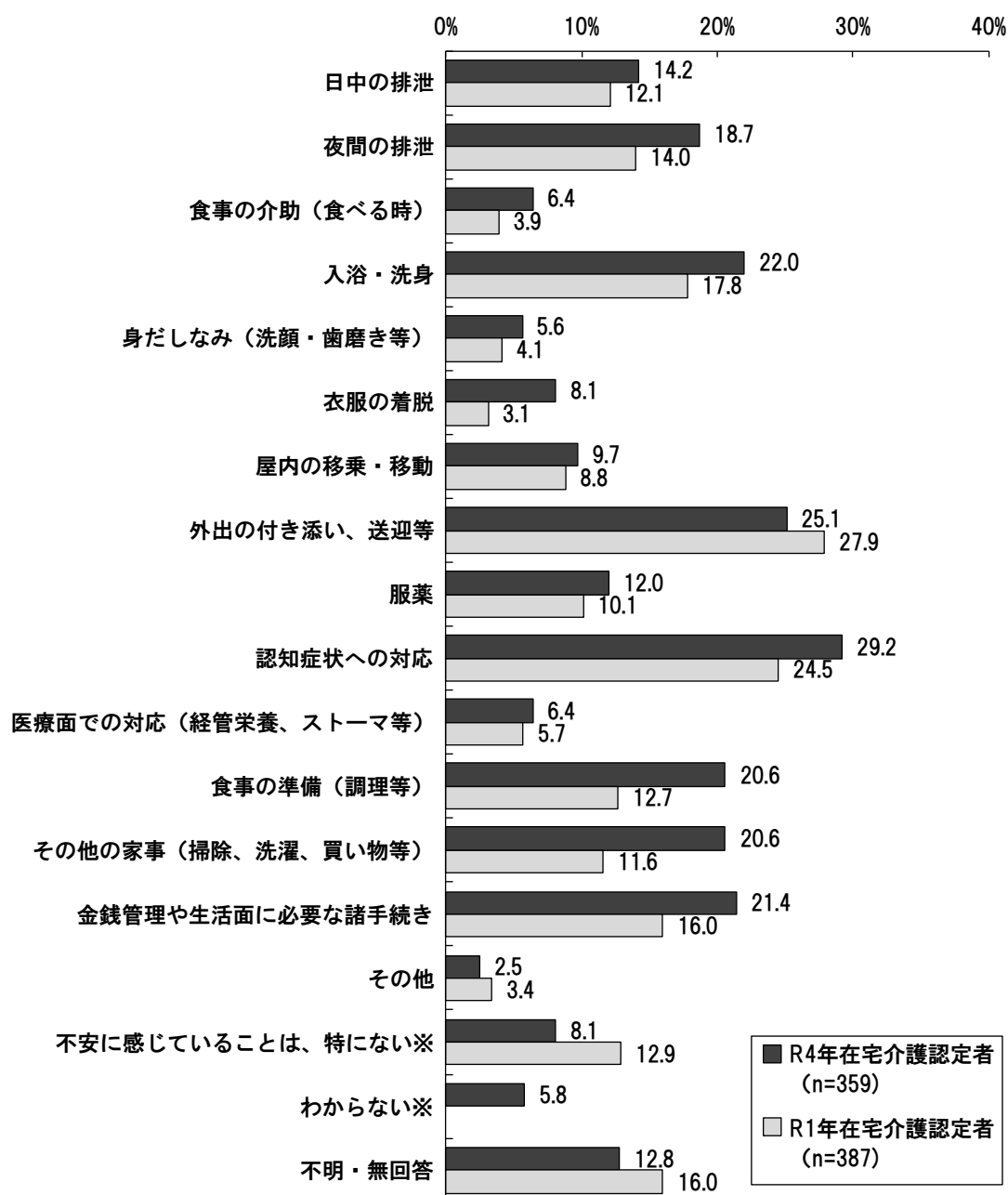
要介護度別でみると、要介護1～4で『ある』がそれぞれ60%台と高くなっています。

主な介護者の年齢別でみると、70代で『ある』が73.3%と、他の年齢と比べて高くなっています。なお、「よくある」は40代、50代でそれぞれ20%台と高くなっています。



問 15 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください。（現状で行っているか否かは問いません）
【複数回答】

現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等については、「認知症状への対応」が 29.2%と最も高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が 25.1%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が 9.0 ポイント高くなっています。



※R4 年度調査の選択肢「不安に感じていることは、特にない」は、R1 年度調査では「特にない」となっています。

※選択肢の「わからない」は、R4 年度調査のみとなっています。

要介護度別でみると、要支援1、要介護3で「外出の付き添い、送迎等」が、要支援2で「入浴・洗身」が、要介護1・2・4で「認知症状への対応」が、それぞれ最も高くなっています。

主な介護者の性別でみると、男性で「食事の準備（調理等）」が女性と比べて12.6ポイント、女性で「認知症状への対応」が男性と比べて13.9ポイント、それぞれ高くなっています。

主な介護者の年齢別でみると、40代で「外出の付き添い、送迎等」が、50代以上で「認知症状への対応」が、それぞれ最も高くなっています。

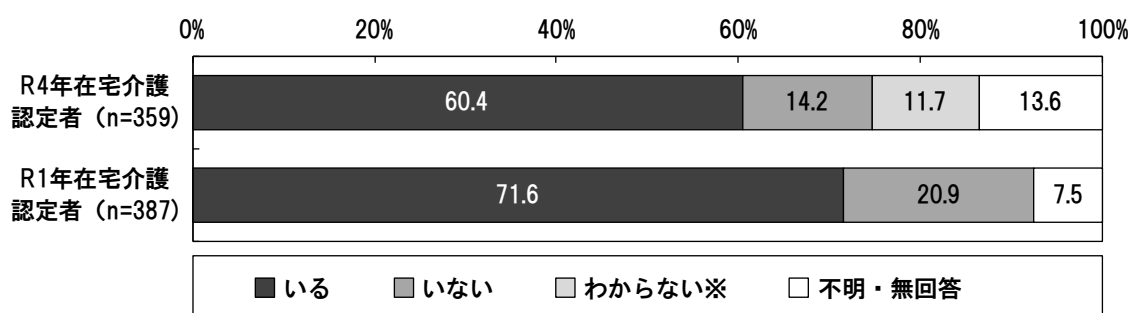
(単位：％)	n=	日中の排泄	夜間の排泄	食事の介助（食べる時）	入浴・洗身	顔・身だしなみ（洗顔・歯磨き等）	衣服の着脱	屋内の移乗・移動	外出の付き添い、送迎等	服薬	認知症状への対応
要介護度別											
要支援1	41	4.9	7.3	2.4	9.8	2.4	0.0	0.0	24.4	4.9	9.8
要支援2	93	9.7	17.2	5.4	26.9	4.3	8.6	14.0	23.7	5.4	16.1
要介護1	92	17.4	20.7	8.7	21.7	6.5	7.6	5.4	21.7	21.7	40.2
要介護2	65	21.5	18.5	6.2	21.5	9.2	10.8	7.7	23.1	7.7	44.6
要介護3	33	24.2	36.4	6.1	33.3	3.0	12.1	24.2	39.4	24.2	27.3
要介護4	23	4.3	17.4	13.0	13.0	4.3	8.7	17.4	30.4	8.7	34.8
要介護5	6	16.7	16.7	0.0	16.7	16.7	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0
主な介護者の性別											
男性	98	13.3	16.3	6.1	23.5	5.1	9.2	13.3	30.6	11.2	23.5
女性	206	17.5	21.8	7.8	25.7	7.3	9.2	9.7	25.7	13.6	37.4
主な介護者の年齢別											
30代以下	7	42.9	14.3	14.3	42.9	14.3	14.3	28.6	28.6	0.0	42.9
40代	18	11.1	16.7	5.6	16.7	5.6	5.6	5.6	50.0	16.7	44.4
50代	77	15.6	19.5	6.5	18.2	6.5	5.2	5.2	29.9	11.7	33.8
60代	79	17.7	24.1	8.9	29.1	7.6	8.9	12.7	20.3	12.7	34.2
70代	60	13.3	16.7	8.3	26.7	6.7	13.3	13.3	28.3	15.0	31.7
80歳以上	62	14.5	19.4	4.8	27.4	4.8	11.3	12.9	25.8	14.5	29.0

(単位：％)	n=	栄養、医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）	食事の準備（調理等）	洗濯、買い物等	その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）	金銭管理や生活面に必要な諸手続き	その他	不安に感じていることは、特になし	わからない	不明・無回答
要介護度別										
要支援1	41	2.4	19.5	19.5	22.0	2.4	12.2	9.8	26.8	
要支援2	93	2.2	16.1	18.3	14.0	3.2	9.7	9.7	17.2	
要介護1	92	10.9	23.9	18.5	25.0	2.2	4.3	2.2	12.0	
要介護2	65	7.7	24.6	29.2	24.6	3.1	7.7	3.1	4.6	
要介護3	33	6.1	30.3	24.2	18.2	3.0	9.1	0.0	3.0	
要介護4	23	8.7	4.3	13.0	26.1	0.0	4.3	8.7	17.4	
要介護5	6	16.7	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	16.7	0.0	
主な介護者の性別										
男性	98	4.1	30.6	25.5	18.4	2.0	8.2	8.2	4.1	
女性	206	8.7	18.0	20.9	24.3	3.4	9.2	5.3	4.9	
主な介護者の年齢別										
30代以下	7	0.0	0.0	14.3	14.3	0.0	14.3	28.6	0.0	
40代	18	11.1	22.2	22.2	33.3	11.1	0.0	0.0	11.1	
50代	77	11.7	19.5	27.3	28.6	3.9	6.5	5.2	6.5	
60代	79	5.1	20.3	13.9	20.3	3.8	10.1	8.9	3.8	
70代	60	8.3	25.0	28.3	20.0	1.7	10.0	6.7	5.0	
80歳以上	62	4.8	27.4	21.0	21.0	0.0	8.1	3.2	1.6	

10. 介護者への支援について

問 16 主な介護者の方には、介護の手助けや介護に関する悩みを相談できる人がいますか。

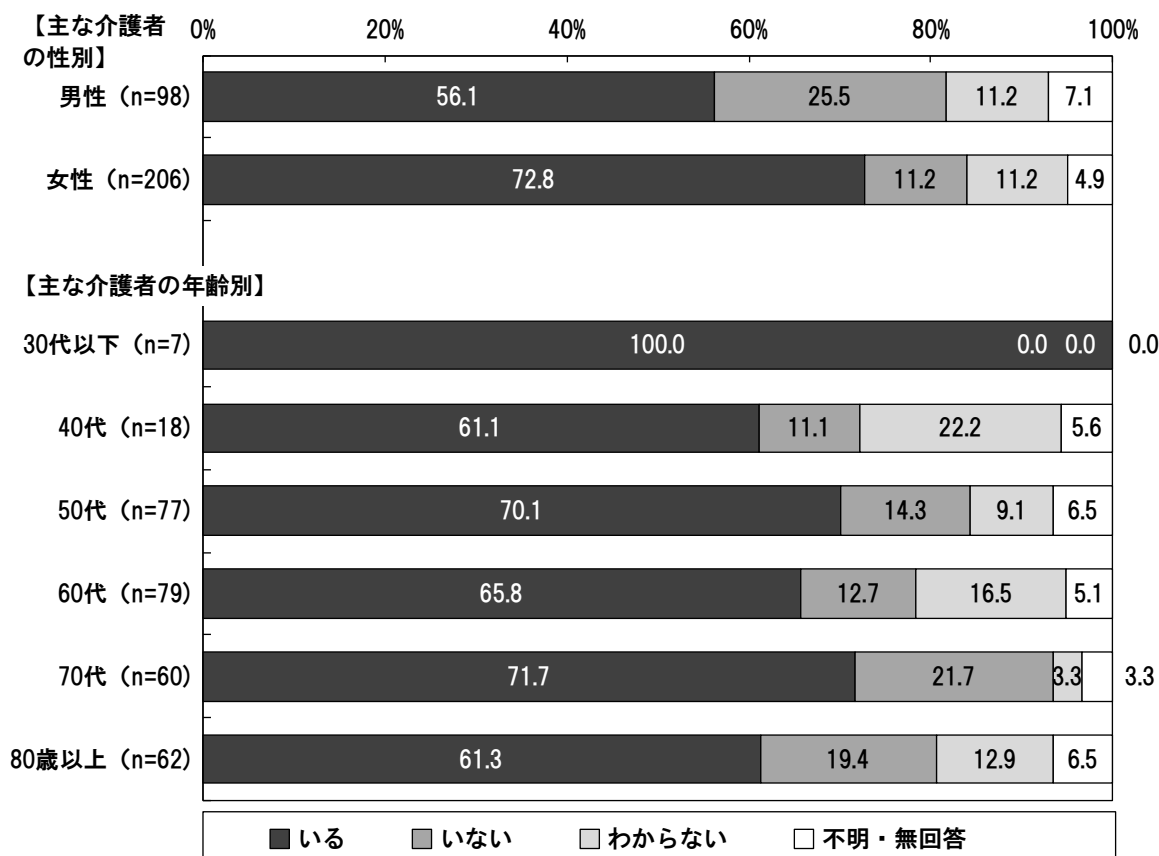
介護の手助けや介護に関する悩みを相談できる人がいるかについては、「いる」が 60.4%、「いない」が 14.2%、「わからない」が 11.7%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「いる」が 11.2 ポイント低くなっています。



※選択肢の「わからない」は、R4 年度調査のみとなっています。

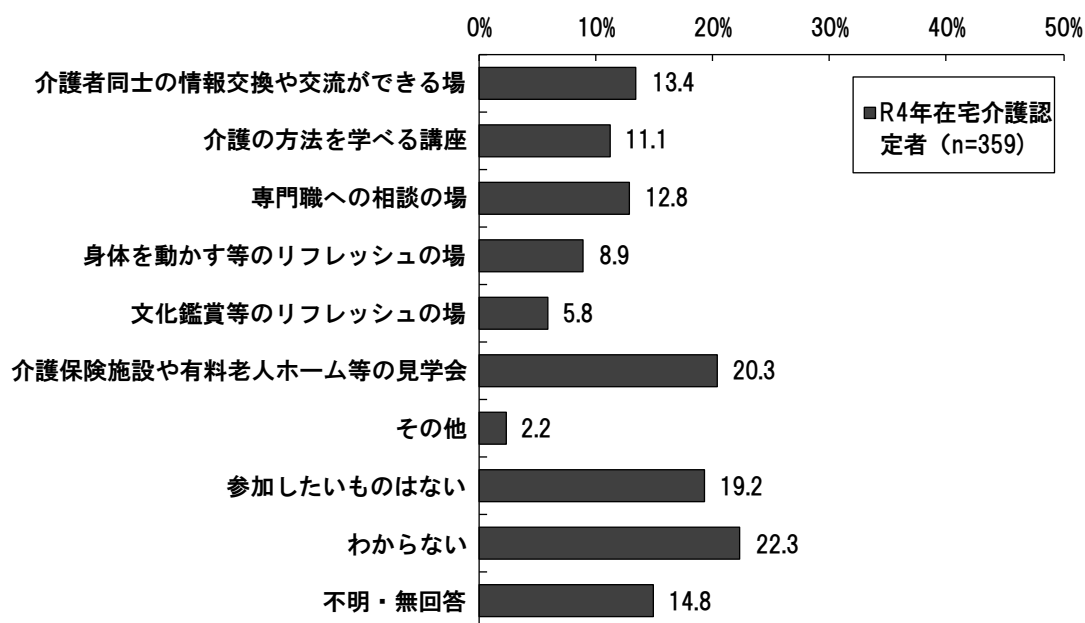
主な介護者の性別でみると、男性で「いる」が 56.1%と、女性と比べて 16.7 ポイント低くなっています。

主な介護者の年齢別でみると、70 代で「いない」が 21.7%と、他の年齢と比べて高くなっています。



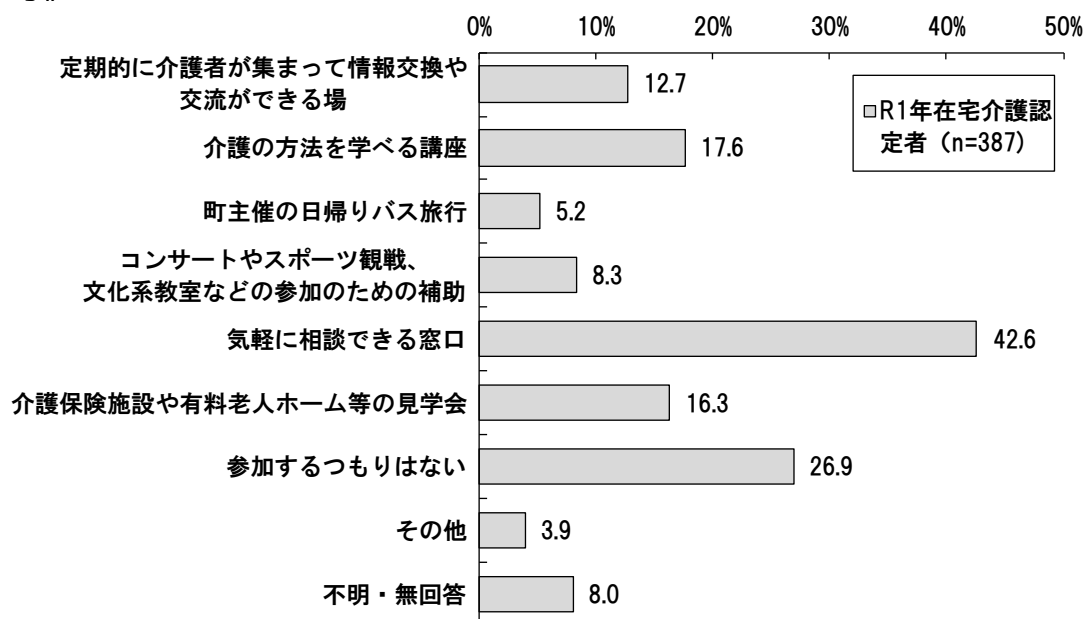
問 17 介護者の支援としてあると良いもの（参加したいもの）はどれですか。【複数回答】

介護者の支援としてあると良いもの（参加したいもの）については、「わからない」が22.3%と最も高く、次いで「介護保険施設や有料老人ホーム等の見学会」が20.3%となっています。



その他回答記載例
インターネットを通じた情報発信
時間的に参加出来ない
介護者の急用時の一時預かり
施設をいやがる親に対する解決策を一緒に考えてほしい

□参考値



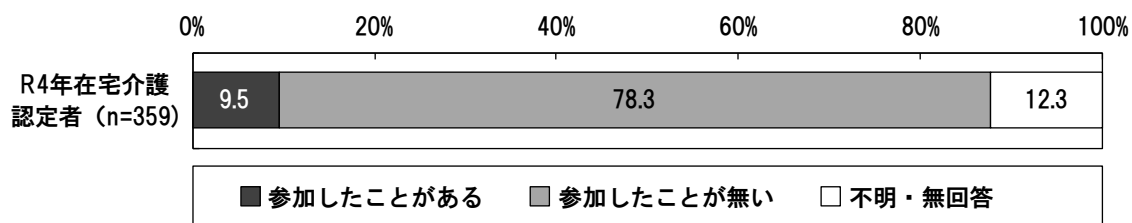
主な介護者の性別でみると、男性で「参加したいものはない」が 29.6%と、女性と比べて 12.1 ポイント高くなっています。女性では「介護保険施設や有料老人ホーム等の見学会」が、24.8%と最も高くなっています。

主な介護者の年齢別でみると、50 代～70 代で「介護保険施設や有料老人ホーム等の見学会」が、それぞれ最も高くなっています。

(単位：%)	n=	介護者同士の情報交換 や交流ができる場	介護の方法を学べる講 座	専門職への相談の場	身体を動かす等のリフ レッシュの場	文化鑑賞等のリフレッ シュの場	介護保険施設や有料老 人ホーム等の見学会	その他	参加したいものはない	わからない	不明・無回答
主な介護者の性別											
男性	98	12.2	7.1	11.2	9.2	5.1	16.3	4.1	29.6	25.5	6.1
女性	206	14.6	14.1	15.0	9.2	6.3	24.8	1.9	17.5	20.9	8.7
主な介護者の年齢別											
30 代以下	7	14.3	28.6	14.3	14.3	14.3	28.6	0.0	14.3	14.3	0.0
40 代	18	5.6	11.1	33.3	0.0	5.6	16.7	0.0	33.3	27.8	5.6
50 代	77	11.7	15.6	13.0	7.8	3.9	24.7	3.9	14.3	24.7	10.4
60 代	79	12.7	5.1	15.2	6.3	7.6	26.6	2.5	22.8	21.5	2.5
70 代	60	23.3	16.7	13.3	13.3	5.0	25.0	0.0	23.3	21.7	10.0
80 歳以上	62	14.5	11.3	8.1	14.5	6.5	14.5	3.2	22.6	22.6	9.7

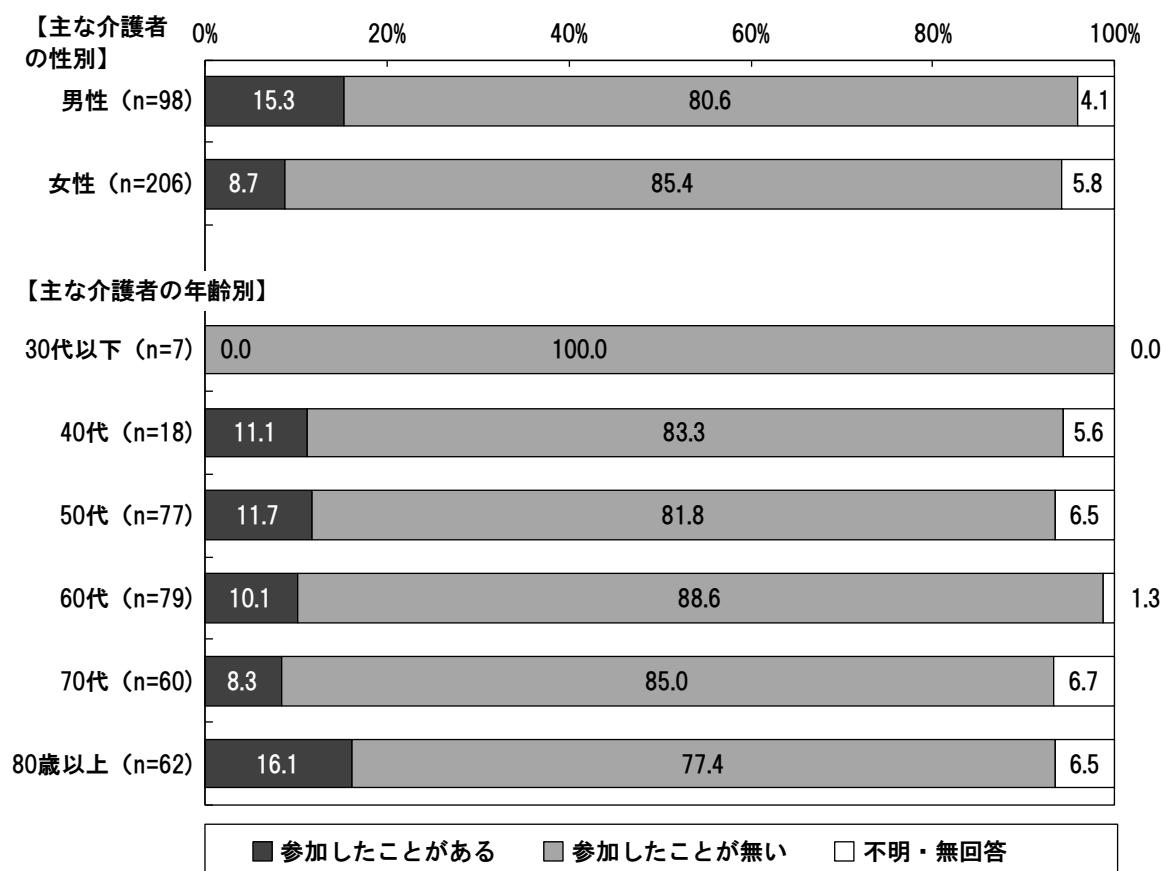
問 18 これまでに介護者の支援事業に参加したことはありますか。

介護者の支援事業に参加したことの有無については、「参加したことがある」が 9.5%、「参加したことが無い」が 78.3%となっています。



主な介護者の性別でみると、男性で「参加したことがある」が 15.3%と、女性と比べてやや高くなっています。

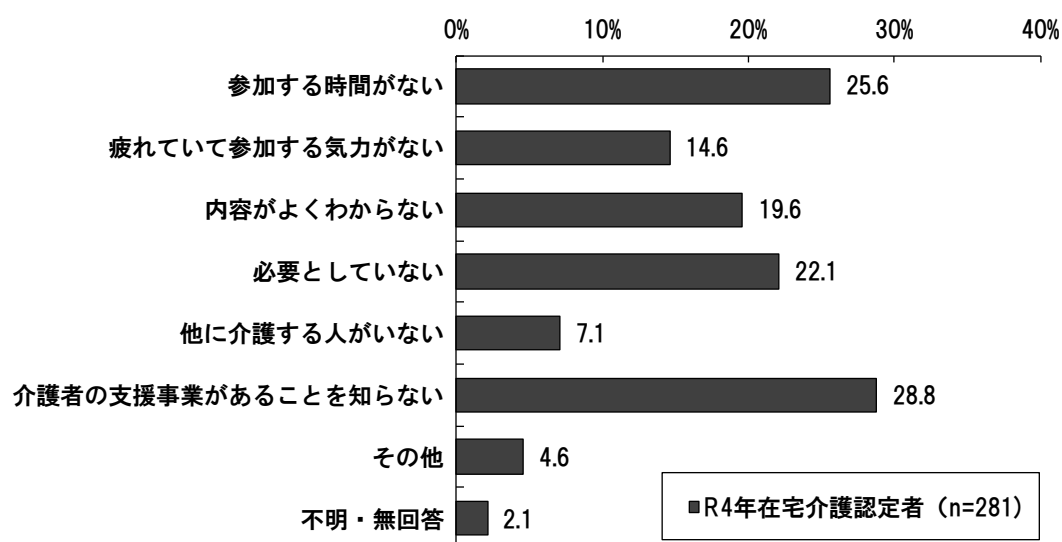
主な介護者の年齢別でみると、80 歳以上で「参加したことがある」が 16.1%と高くなっているものの、40 代～70 代ではそれぞれ 1 割前後にとどまっています。



【問 18 で「2. 参加したことが無い」と回答した方のみ】

問 19 その理由は次のどれですか。【複数回答】

参加したことが無い理由については、「介護者の支援事業があることを知らない」が28.8%と最も高く、次いで「参加する時間がない」が25.6%となっています。



その他回答記載例
自分の体調不良
一人暮らしのため
機会がなかった

要介護度別でみると、要支援1で「介護者の支援事業があることを知らない」が37.9%と、他の要介護度と比べて高くなっています。

主な介護者の性別でみると、男性で「必要としていない」が女性と比べて 11.5 ポイント、女性で「介護者の支援事業があることを知らない」が男性と比べて 12.7 ポイント、それぞれ高くなっています。

主な介護者の年齢別でみると、40 代、50 代で「介護者の支援事業があることを知らない」が 4 割前後と、他の年齢と比べて高くなっています。

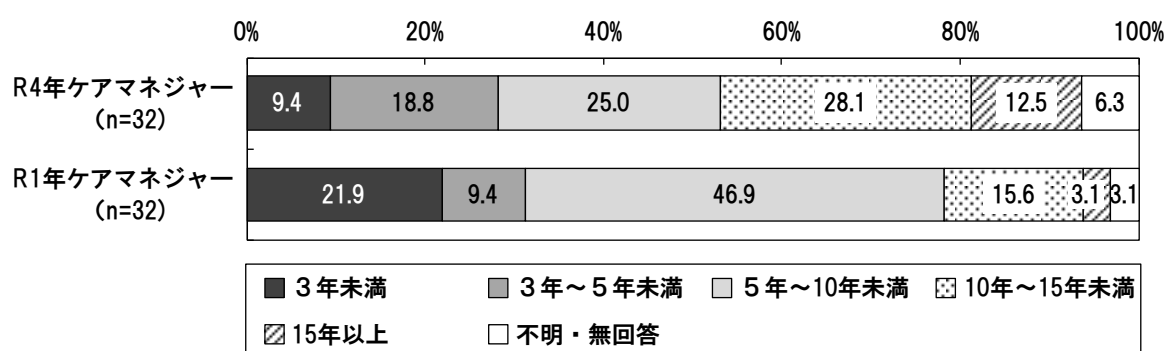
(単位：％)	n=	参加する時間がない	疲れていて参加する 気力がない	内容がよくわからな い	必要としていない	他に介護する人がい ない	介護者の支援事業が あることを知らない	その他	不明・無回答
要介護度別									
要支援 1	29	24.1	6.9	27.6	31.0	3.4	37.9	6.9	3.4
要支援 2	69	15.9	14.5	15.9	34.8	7.2	29.0	4.3	2.9
要介護 1	75	29.3	12.0	20.0	16.0	4.0	32.0	5.3	1.3
要介護 2	50	28.0	20.0	22.0	14.0	12.0	28.0	6.0	2.0
要介護 3	30	33.3	16.7	23.3	16.7	10.0	20.0	3.3	0.0
要介護 4	18	44.4	16.7	11.1	16.7	5.6	16.7	0.0	0.0
要介護 5	5	0.0	20.0	0.0	40.0	0.0	40.0	0.0	0.0
主な介護者の性別									
男性	79	27.8	16.5	15.2	29.1	3.8	20.3	5.1	1.3
女性	176	24.4	14.2	21.0	17.6	8.0	33.0	5.1	2.3
主な介護者の年齢別									
30 代以下	7	14.3	14.3	42.9	14.3	14.3	57.1	0.0	0.0
40 代	15	40.0	26.7	13.3	26.7	13.3	40.0	0.0	0.0
50 代	63	30.2	15.9	17.5	11.1	0.0	39.7	3.2	1.6
60 代	70	31.4	11.4	14.3	22.9	8.6	17.1	7.1	2.9
70 代	51	15.7	13.7	25.5	21.6	5.9	25.5	5.9	2.0
80 歳以上	48	16.7	14.6	22.9	27.1	10.4	31.3	6.3	2.1

V ケアマネジャー調査の結果

問1 あなたのそれぞれの経過年数を記入してください。【数量回答】

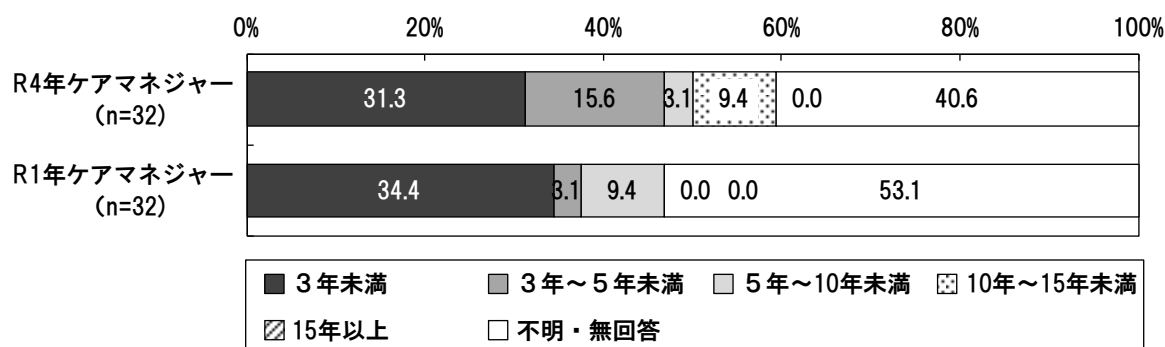
① ケアマネジャー歴

ケアマネジャー歴については、「10年～15年未満」が28.1%と最も高く、次いで「5年～10年未満」が25.0%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「5年～10年未満」が21.9ポイント、「3年未満」が12.5ポイント、それぞれ低くなっています。一方、「10年～15年未満」は12.5ポイント高くなっています。



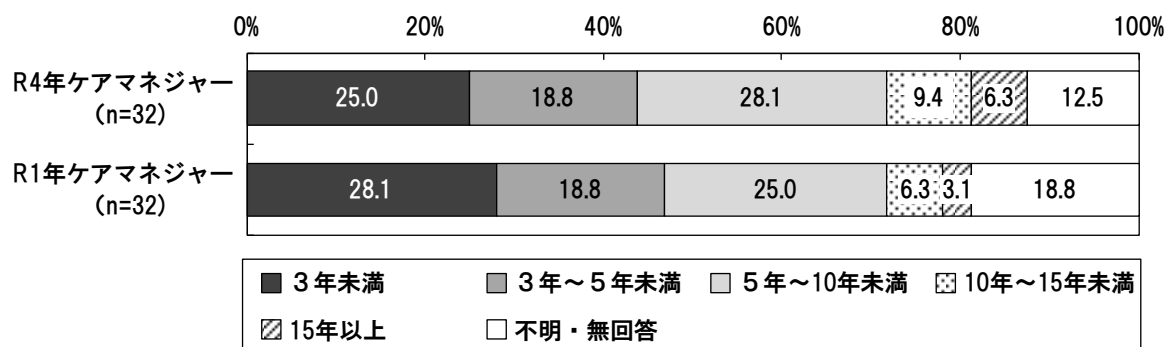
② 主任ケアマネジャー歴

主任ケアマネジャー歴については、「3年未満」が31.3%と最も高く、次いで「3年～5年未満」が15.6%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「3年～5年未満」が12.5ポイント高くなっています。



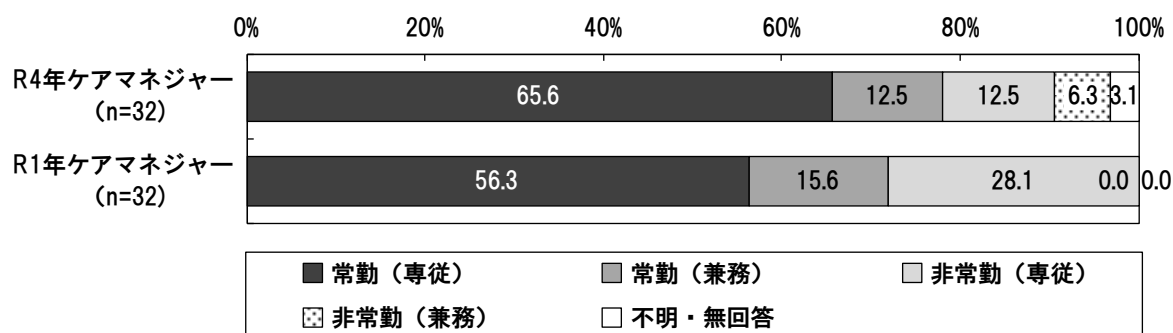
③ 現在の勤務地での勤務歴

現在の勤務地での勤務歴については、「5年～10年未満」が28.1%と最も高く、次いで「3年未満」が25.0%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



問2 あなたの勤務形態はどれに該当しますか。

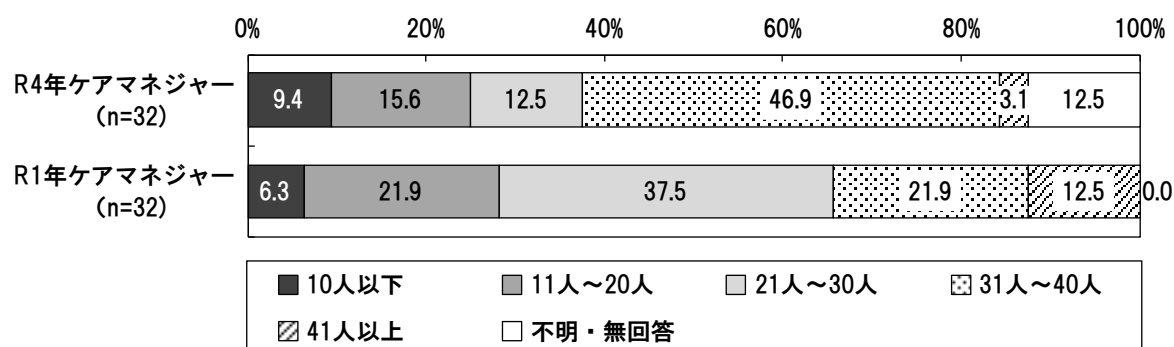
勤務形態については、「常勤（専従）」が65.6%と最も高く、次いで「常勤（兼務）」「非常勤（専従）」がそれぞれ12.5%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「非常勤（専従）」が15.6ポイント低くなっています。



問3 令和5年1月1日現在、あなたは何人のケアプランを担当していますか。

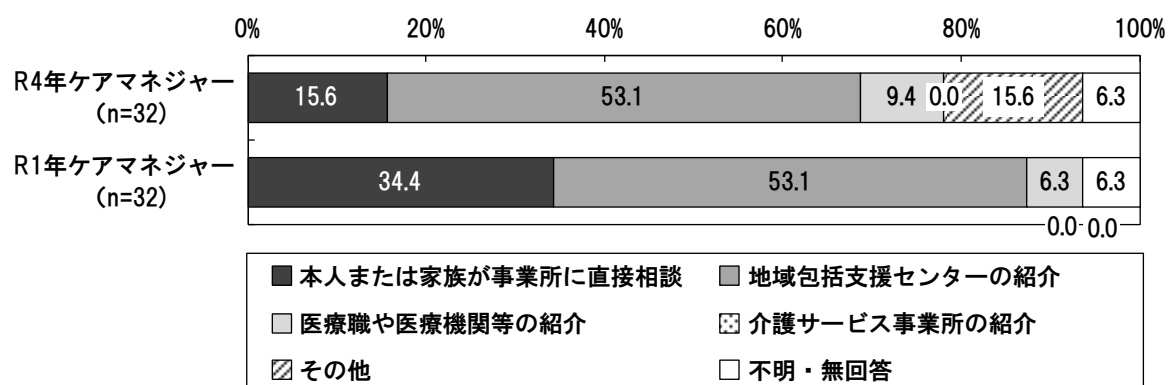
【数量回答】

令和5年1月1日現在、ケアプランの担当人数については、「31人～40人」が46.9%と最も高く、次いで「11人～20人」が15.6%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「31人～40人」が25.0ポイント高くなっています。



問4 あなたが関わる要介護認定者のうち、どこから案内された方が最も多いですか。

関わる要介護認定者のうち、どこからの案内が最も多いかについては、「地域包括支援センターの紹介」が53.1%と最も高く、次いで「本人または家族が事業所に直接相談」「その他」がそれぞれ15.6%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「本人または家族が事業所に直接相談」が18.8ポイント低く、「その他」が15.6ポイント高くなっています。



その他回答記載例
行政からの紹介
同事業所のケアマネジャーからの引き継ぎ

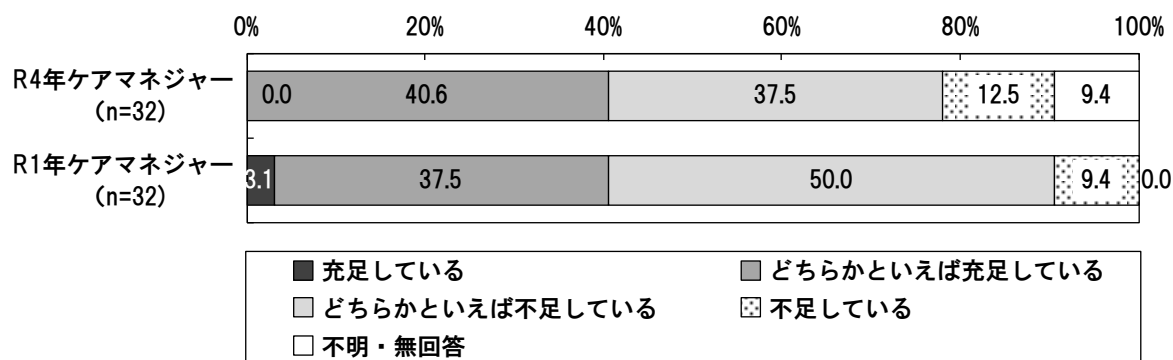
問5 あなたは、町内における介護保険対象の居宅サービスの充足度について、どのようにお考えですか。

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『充足している』…「充足している」と「どちらかといえば充足している」の合算

『不足している』…「どちらかといえば不足している」と「不足している」の合算

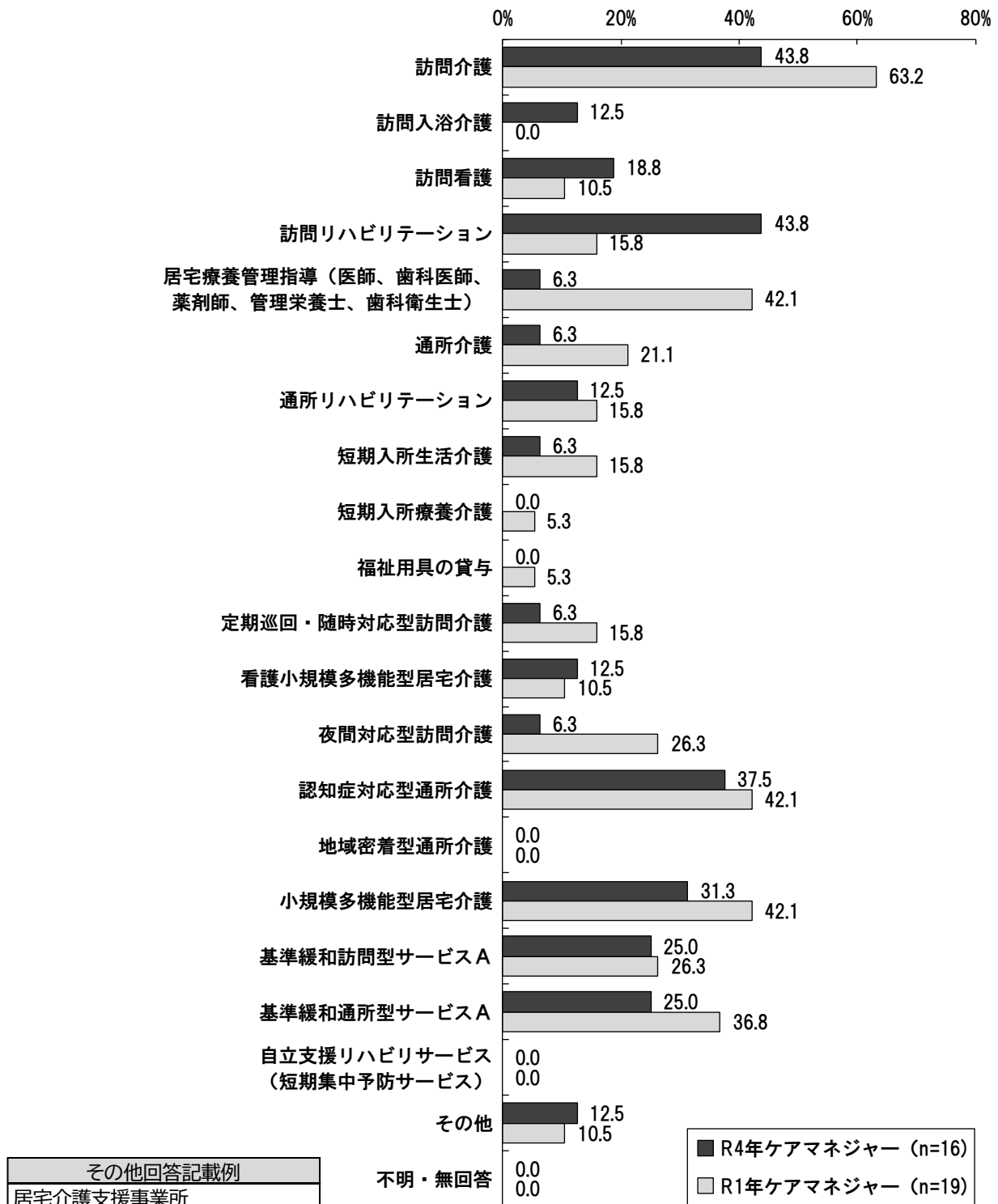
町内における介護保険対象の居宅サービスの充足度については、『充足している』が40.6%、『不足している』が50.0%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、『不足している』が9.4ポイント低くなっています。



【問5で「3. 4.」のいずれかに選択した方のみ】

問5-1 介護保険対象の居宅サービスの中で、供給が不足していると感じているサービスは何ですか。【複数回答】

介護保険対象の居宅サービスの中で、供給が不足していると感じているサービスについては、「訪問介護」「訪問リハビリテーション」がそれぞれ43.8%と最も高く、次いで「認知症対応型通所介護」が37.5%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「訪問リハビリテーション」が28.0ポイント、「訪問入浴介護」が12.5ポイント、それぞれ高くなっています。



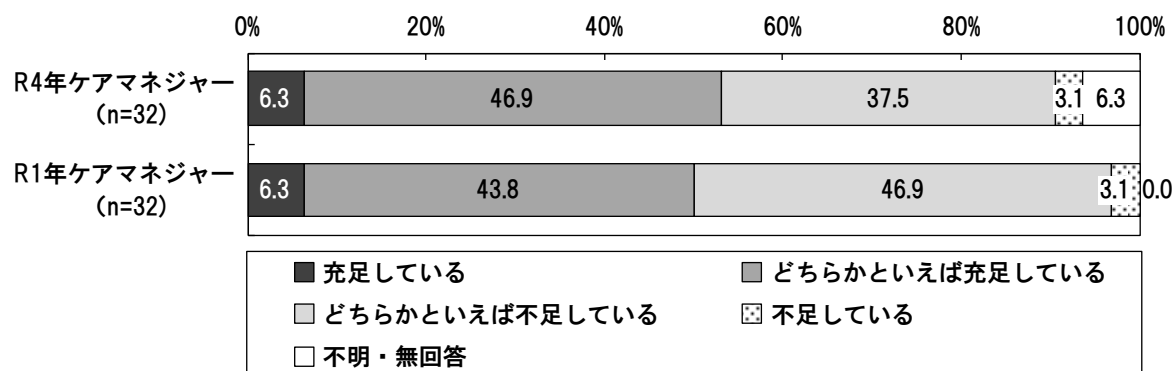
問6 町内における施設や居住系サービスの充足度について、どのようにお考えですか。

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『充足している』…「充足している」と「どちらかといえば充足している」の合算

『不足している』…「どちらかといえば不足している」と「不足している」の合算

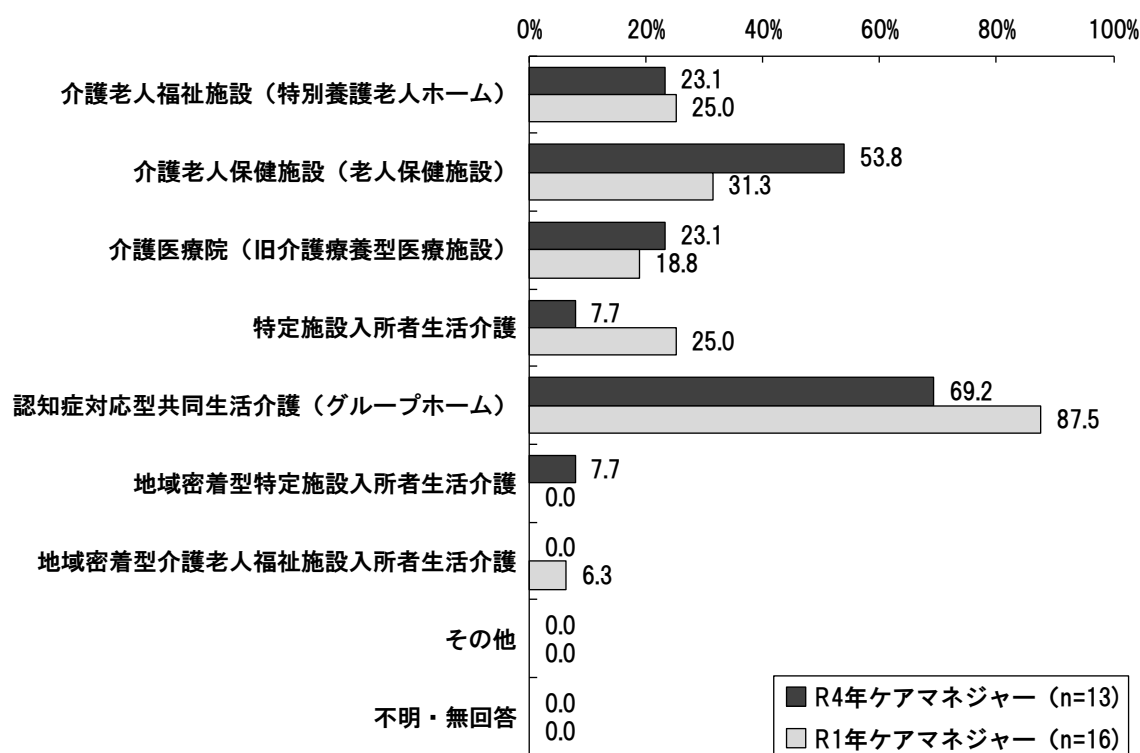
町内の施設や居住系サービスの充足度については、『充足している』が53.2%、『不足している』が40.6%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、『不足している』が9.4ポイント低くなっています。



【問6で「3. どちらかといえば不足している」「4. 不足している」のいずれかに回答した方のみ】

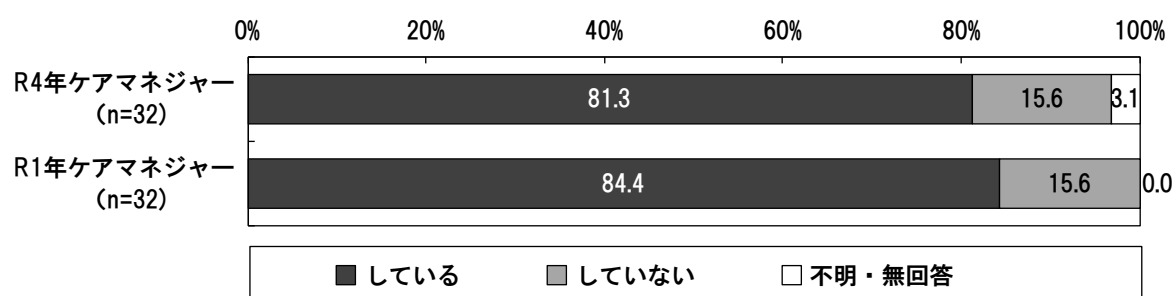
問6-1 不足していると考えているのはどんなサービスですか。【複数回答】

不足していると考えているサービスについては、「認知症対応型共同生活介護（グループホーム）」が69.2%と最も高く、次いで「介護老人保健施設（老人保健施設）」が53.8%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「介護老人保健施設（老人保健施設）」が22.5ポイント高くなっています。



問7 介護保険サービス以外のサービス（生活支援サービスや町が単独で行っているサービス等）も含めて、居宅サービス計画の作成を行っていますか。

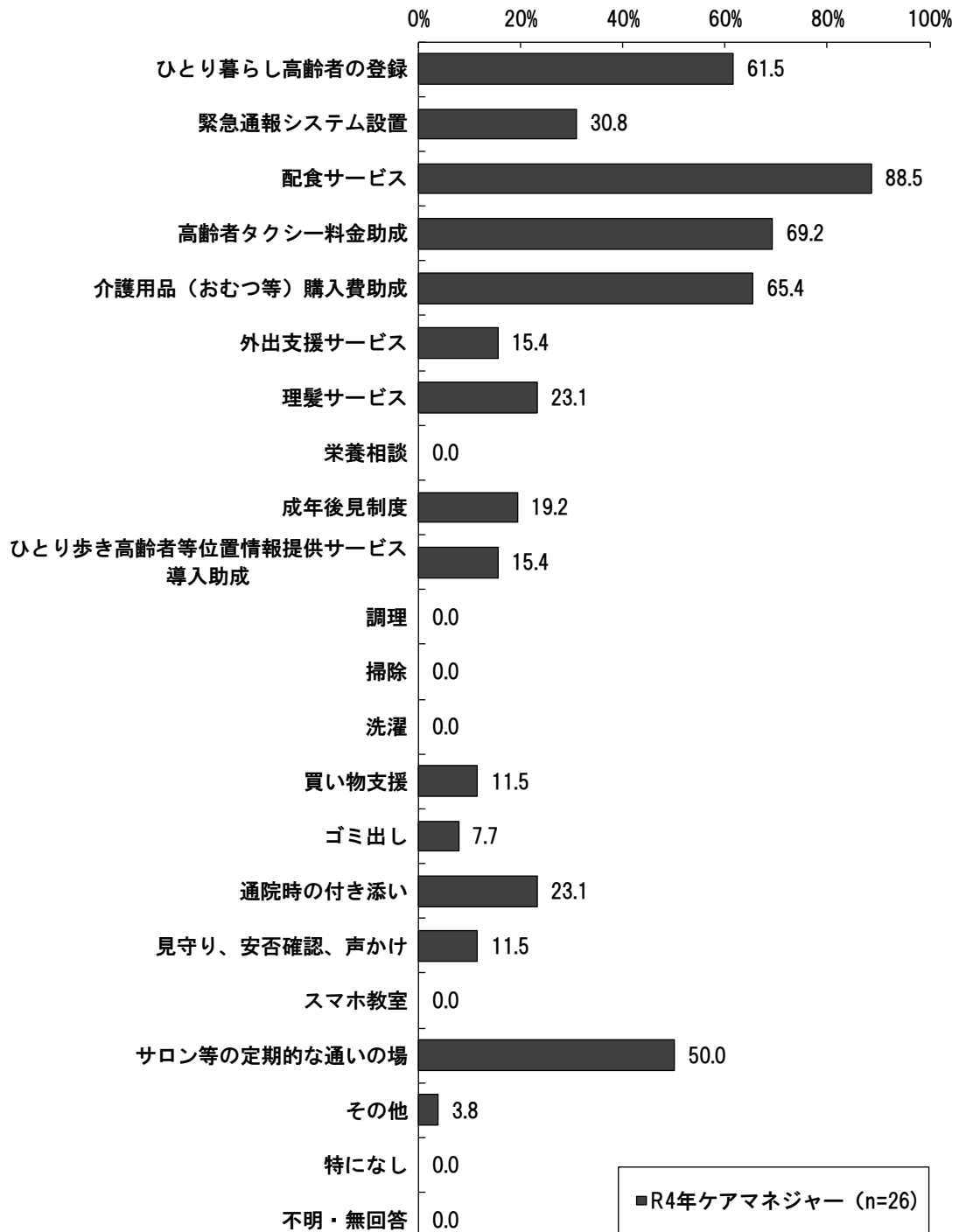
介護保険サービス以外のサービス（生活支援サービスや町が単独で行っているサービス等）も含めて、居宅サービス計画の作成を行っているかについては、「している」が81.3%、「していない」が15.6%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【問7で「1. している」と回答した方のみ】

問7-1 どのようなサービスを導入していますか。【複数回答】

導入しているサービスについては、「配食サービス」が88.5%と最も高く、次いで「高齢者タクシー料金助成」が69.2%となっています。

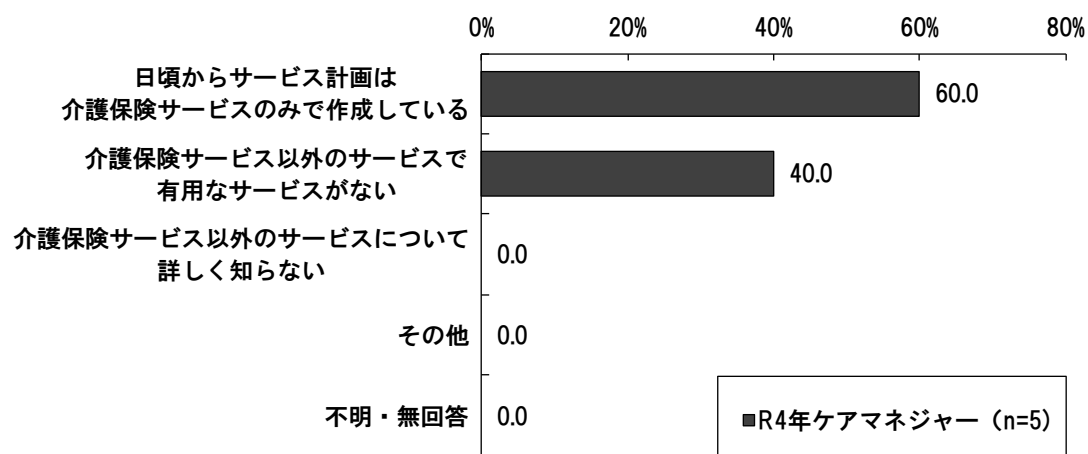


その他回答記載例
シルバー人材センター

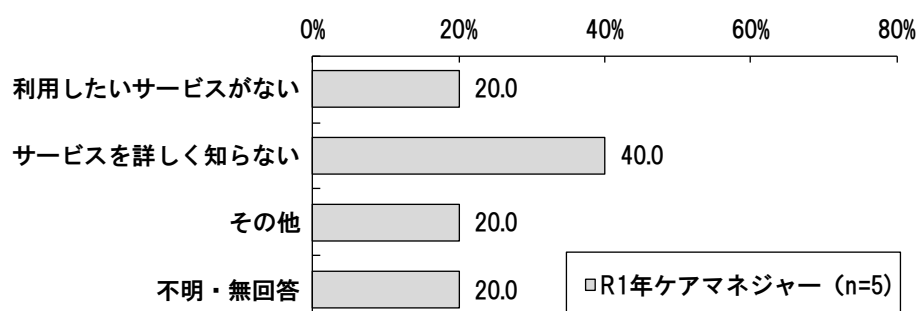
【問7で「2. していない」と回答した方にお伺いします。】

問7-2 その理由は何ですか。【複数回答】

居宅サービス計画の作成を行っていない理由については、「日頃からサービス計画は介護保険サービスのみで作成している」が60.0%と最も高く、次いで「介護保険サービス以外のサービスで有用なサービスがない」が40.0%となっています。



□参考値

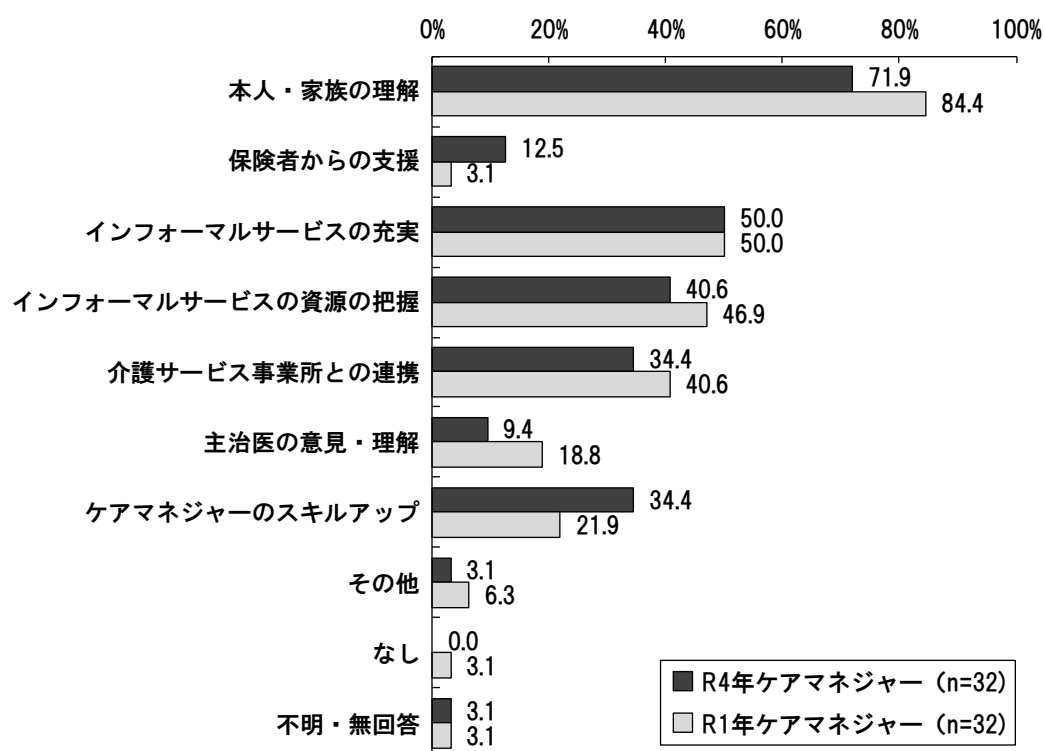


問8 こんなサービスがあると良いと思うサービスはどのようなサービスですか。
【記述回答】

あると良いと思うサービス
ゴミ出しサービス。
ゴミ出しや買い物、通院介助などあるとよい（ボランティアや有償ボランティアなど）。
買い物支援増加。ゴミ出し支援増加。外出支援増加。
課税者と非課税者での世帯でも受けられるサービス。ゴミの回収。
移動スーパー（家の前まで来てくれる）。内服薬を忘れないように飲む機械レンタル。散歩の付き添い。
今ある各教室に、送迎があるとよいと思います。
近隣の散歩付き添い。話し相手。
デマンドタクシーの予約が取りづらいとの話をよく聞きます。車のない方の通院や買い物に困る人がもう少し利用しやすいサービスがあると良いと思う。町内のみとなると利用がやりづらい人が多い。

問9 自立支援のためのケアマネジメントを促進するために必要だと思うことはありますか。【複数回答】

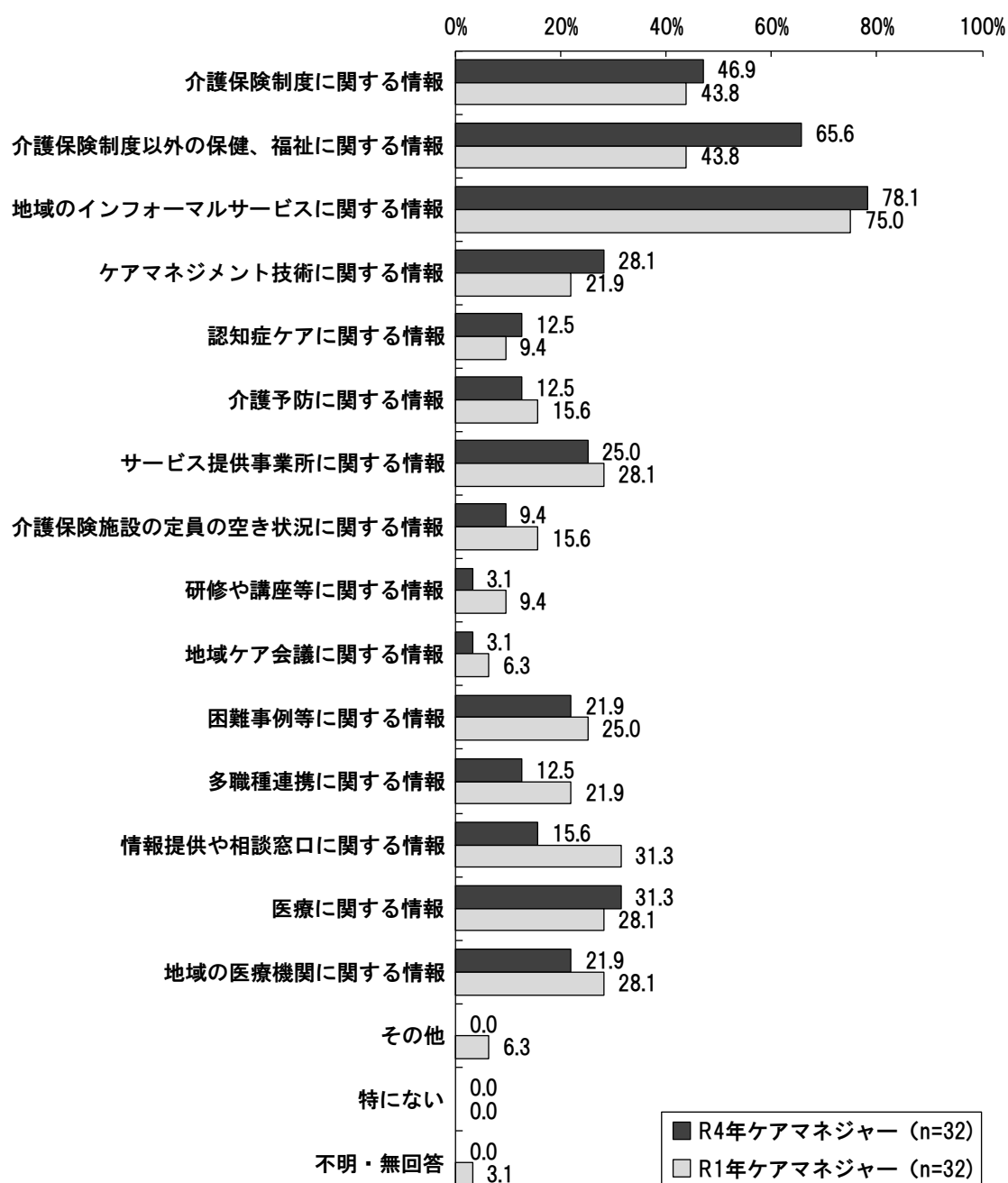
自立支援のためのケアマネジメントを促進するために必要だと思うことについては、「本人・家族の理解」が 71.9%と最も高く、次いで「インフォーマルサービスの充実」が 50.0%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「ケアマネジャーのスキルアップ」が 12.5 ポイント高くなっています。



その他回答記載例
地域資源の見直し。今ある自治会等の活用。

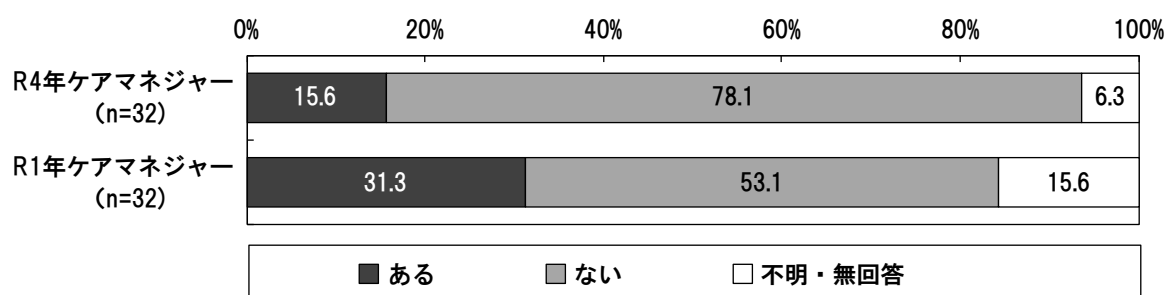
問 10 ケアマネジメントを円滑に行うために、どのような情報が必要ですか。【複数回答】

ケアマネジメントを円滑に行うために、必要な情報については、「地域のインフォーマルサービスに関する情報」が78.1%と最も高く、次いで「介護保険制度以外の保健、福祉に関する情報」が65.6%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「介護保険制度以外の保健、福祉に関する情報」が21.8ポイント高くなっています。



問 11 介護サービス計画の作成を断ったことはありますか。

介護サービス計画の作成を断ったことがあるかについては、「ある」が 15.6%、「ない」が 78.1%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「ない」が 25.0 ポイント高くなっています。



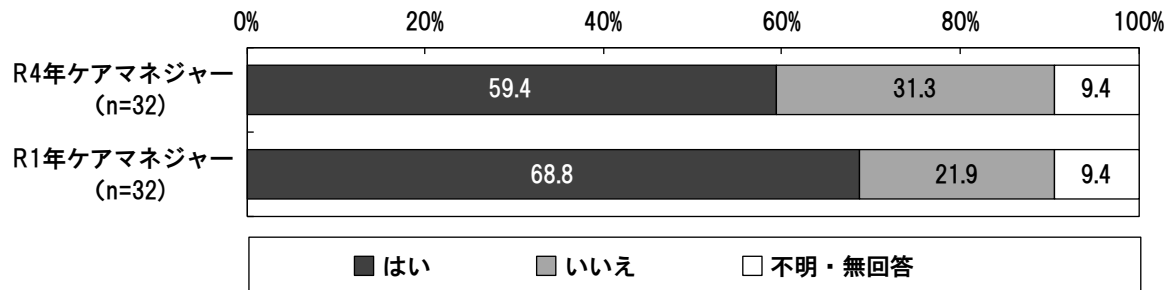
【問 11 で「1. ある」と回答した方のみ】

問 11-1 その理由は何ですか。【記述回答】

介護サービス計画の作成を断った理由
受け持ち人数がいっぱいだったため。
件数が MAX だった時。
事業所として件数オーバーになるのでお断りした。
その時の持ち人数が多かったり、緊急対応案件があって新しく引き受けられない状態だった。
病院の SW からの依頼で、事業所が休日に対応ができなかったため。

問 12 困難事例等を地域包括支援センターに相談したことはありますか。

困難事例等を地域包括支援センターに相談したことがあるかについては、「はい」が59.4%、「いいえ」が31.3%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「はい」が9.4ポイント低くなっています。

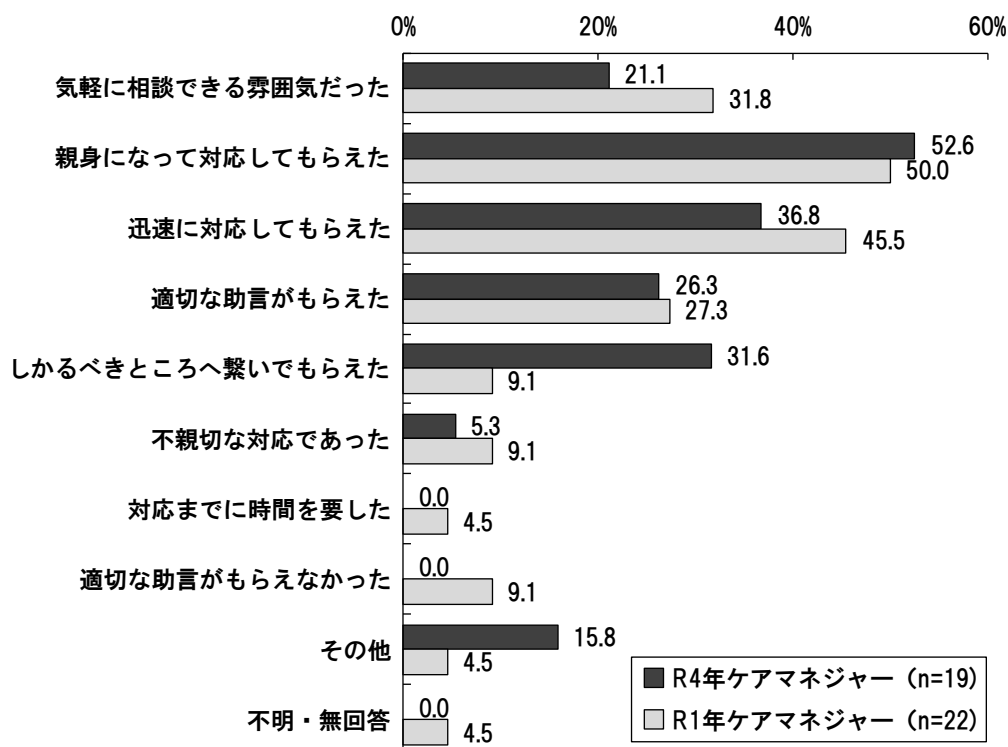


※R4 年度調査の選択肢「はい」「いいえ」は、R1 年度調査ではそれぞれ「ある」「ない」となっています。

【問 12 で「1. はい」と回答した方のみ】

問 12-1 その時の地域包括支援センターの印象はどうでしたか。【複数回答】

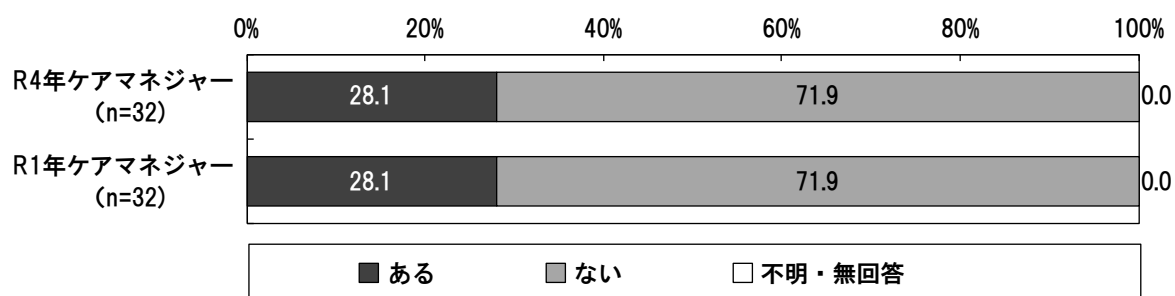
困難事例等を地域包括支援センターに相談した際の地域包括支援センターの印象については、「親身になって対応してもらえた」が52.6%と最も高く、次いで「迅速に対応してもらえた」が36.8%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「しかるべきところへ繋いでもらえた」が22.5ポイント高くなっている一方で、「気軽に相談できる雰囲気だった」は10.7ポイント低くなっています。



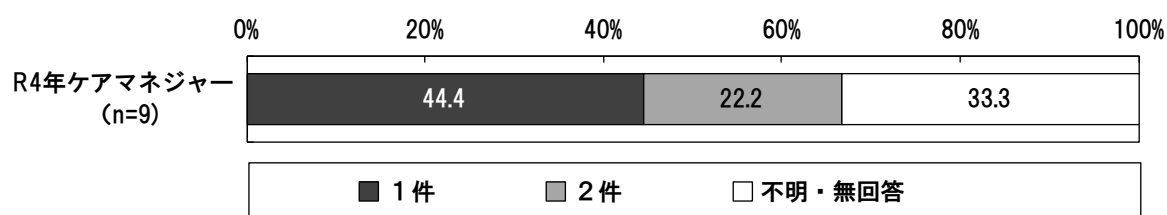
その他回答記載例	
相談しづらい	
あまり参考にならなかったが、情報は共有できた	

問 13 あなたが関わる要介護認定者のうち、この1年間で高齢者虐待を受けた、または受けていると疑われる事案はありましたか。

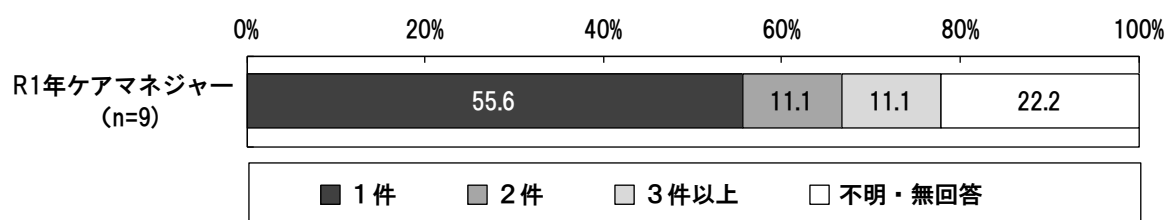
関わる要介護認定者のうち、この1年間で高齢者虐待を受けた、または受けていると疑われる事案の有無については、「ある」が28.1%、「ない」が71.9%となっています。虐待事案の件数は、1～2件となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、1件が多くなっています。



■虐待事案件数



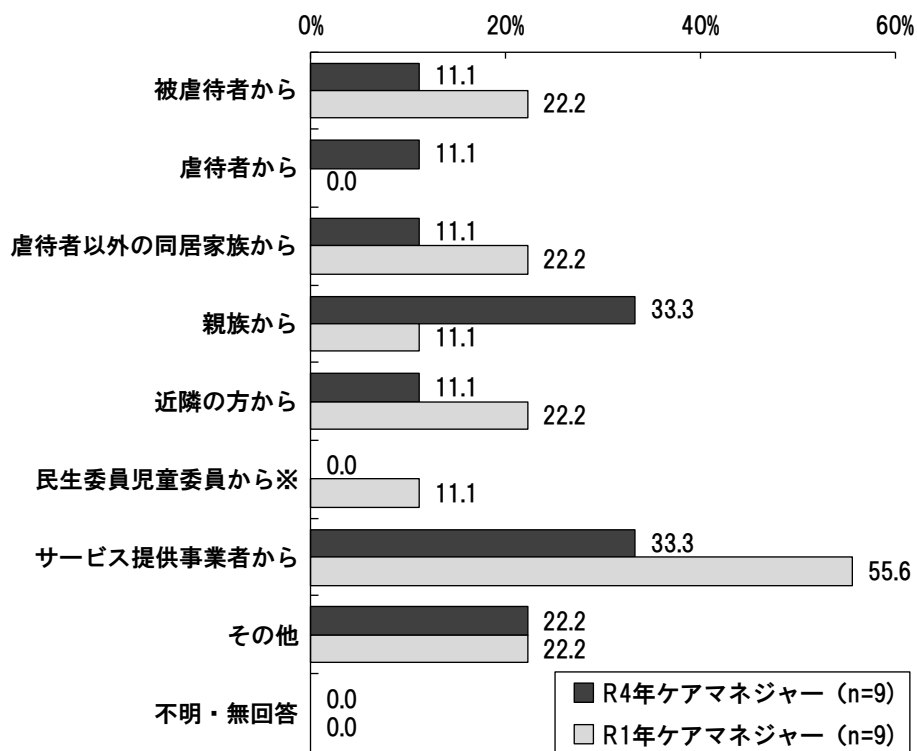
□参考値



【問13で「1. ある」と回答した方のみ】

問13-1 それは誰からの通報でしたか。【複数回答】

虐待事案の通報者については、「親族から」「サービス提供事業者から」がそれぞれ33.3%と最も高く、次いで「その他」が22.2%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「親族から」が高くなっている一方で、「サービス提供事業者から」は低くなっています。



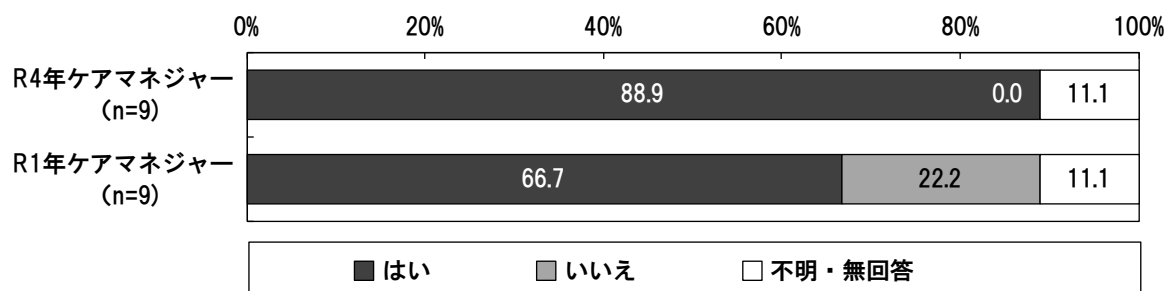
※R4年度調査の選択肢「民生委員児童委員から」は、R1年度調査では「民生委員から」となっています。

その他回答記載例
包括から
友人等から

【問13で「1. ある」と回答した方のみ】

問13-2 関係機関に相談・通報しましたか。

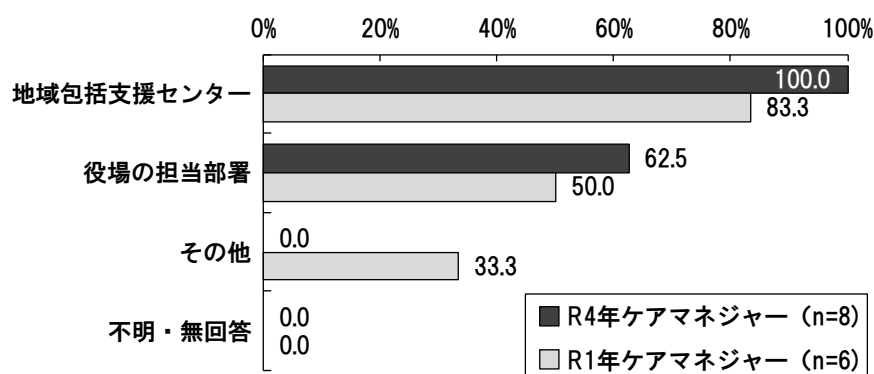
関係機関への虐待事案の相談・通報の有無については、「はい」が88.9%、「いいえ」が0.0%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「はい」が22.2ポイント高くなっています。



【問 13-2 で「1. はい」と回答した方のみ】

問 13-3 相談・通報先はどこですか。【複数回答】

虐待事案の相談・通報先については、「地域包括支援センター」が 100.0%、「役場の担当部署」が 62.5%、「その他」が 0.0%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「地域包括支援センター」が 16.7 ポイント、「役場の担当部署」が 12.5 ポイント、それぞれ高くなっています。



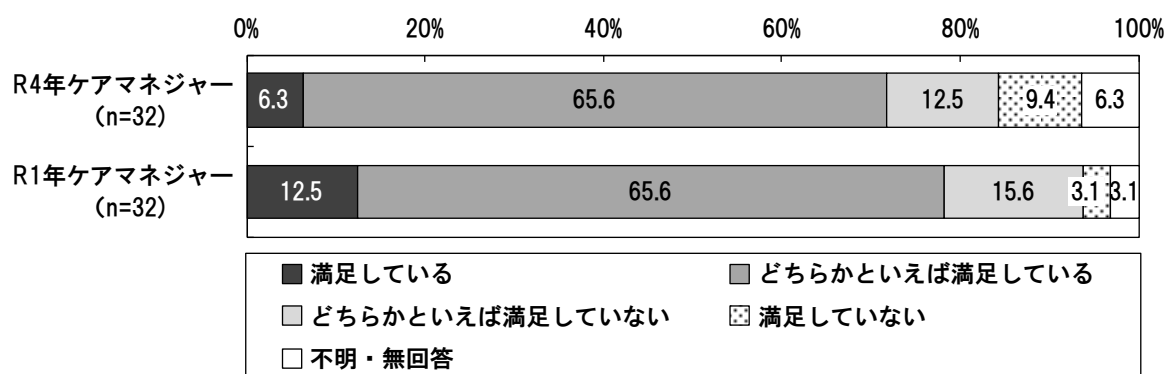
問 14 あなたは、ケアマネジャーとしての仕事に満足していますか。

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『満足している』…「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合算

『満足していない』…「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合算

ケアマネジャーとしての仕事に満足しているかについては、『満足している』が 71.9%、『満足していない』が 21.9%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、『満足している』がやや低くなっています。



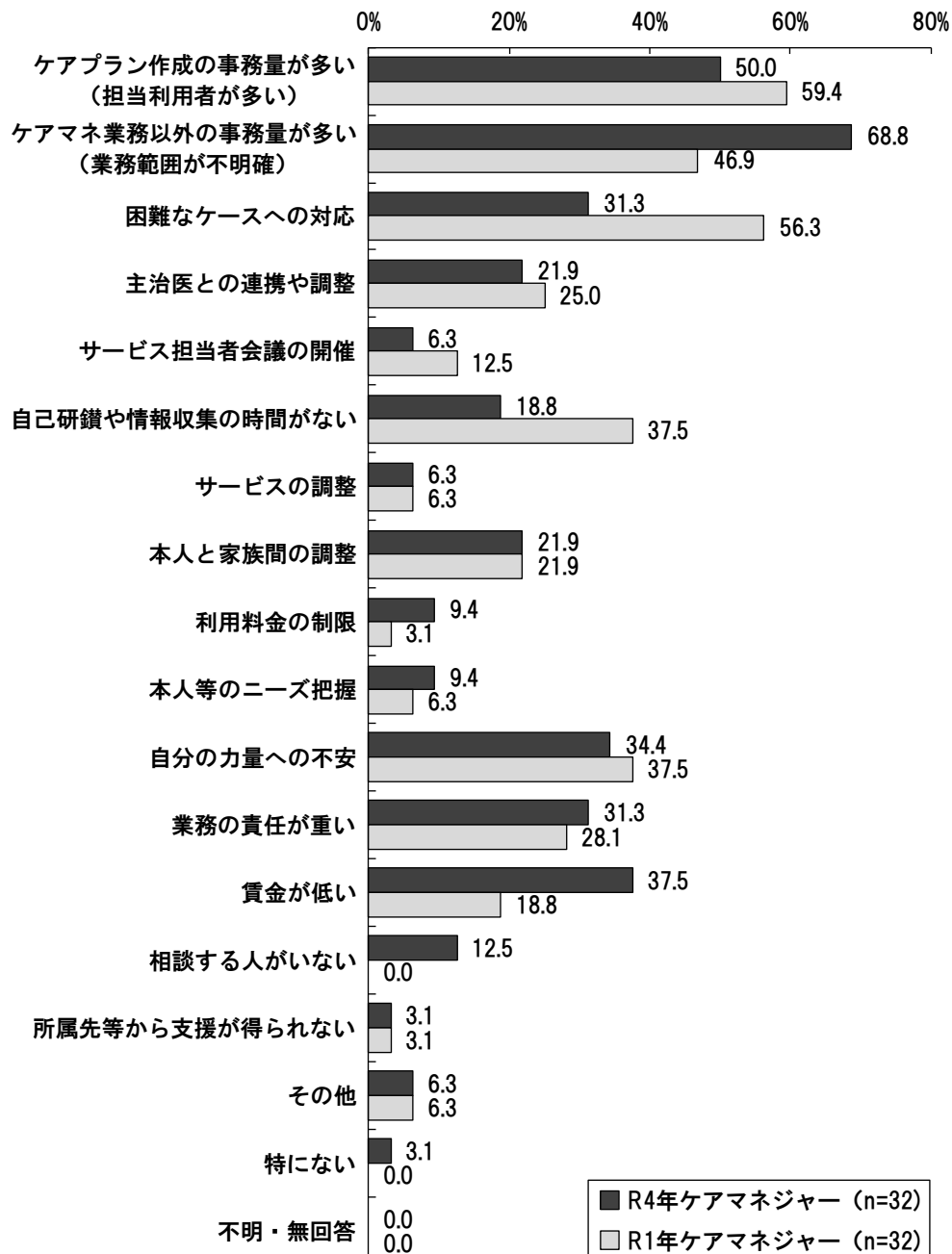
【問 14 で「3. どちらかといえば満足していない」「4. 満足していない」のいずれかに回答した方のみ】

問 14-1 その理由は何ですか。【記述回答】

ケアマネジャーとしての仕事に満足していない理由
忙しすぎてつらいです。
時間に追われてしまい、ゆっくりと話が聞けない時もある。
自分のスキル不足。
報酬が少ない。

問 15 あなたが、ケアマネジャーとして困っていることは何ですか。【複数回答】

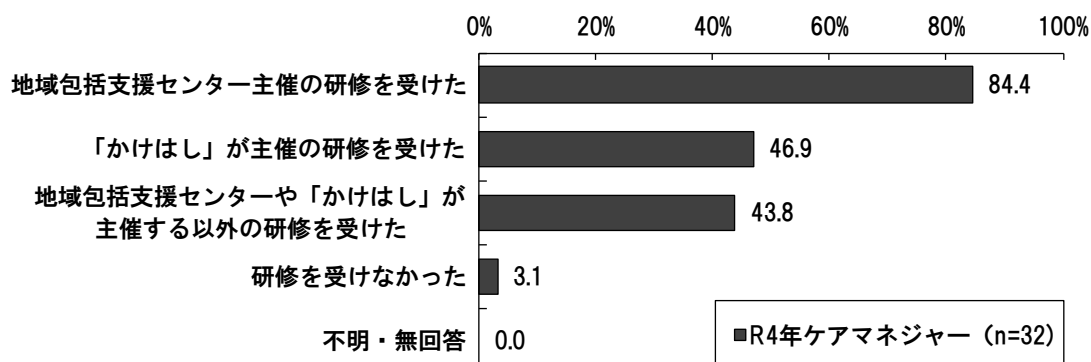
ケアマネジャーとして困っていることについては、「ケアマネ業務以外の事務量が多い（業務範囲が不明確）」が68.8%と最も高く、次いで「ケアプラン作成の事務量が多い（担当利用者が多い）」が50.0%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「ケアマネ業務以外の事務量が多い（業務範囲が不明確）」が21.9ポイント、「賃金が低い」が18.7ポイント、「相談する人がいない」が12.5ポイント、それぞれ高くなっています。



その他回答記載例
研修が多すぎる
家族からの相談内容が多く、時間を要することが多い

問 16 過去 1 年間に研修を受けましたか。【複数回答】

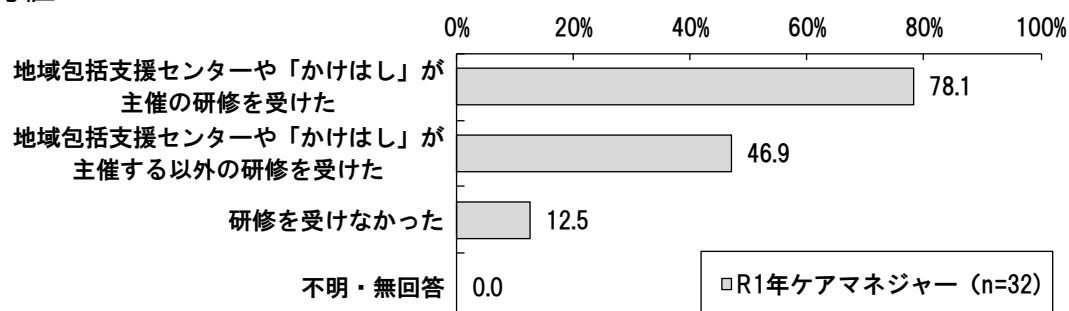
過去 1 年間に研修を受けたかについては、「地域包括支援センター主催の研修を受けた」が 84.4%と最も高く、次いで「「かけはし」が主催の研修を受けた」が 46.9%となっています。



□地域包括支援センターや「かけはし」が主催する以外の研修を受けた詳細内容

地域包括支援センターや「かけはし」が主催する以外の研修内容
愛介護やシルバーサービス振興会主催のもの
インフォーマルサービスを活かしたケアプランのつくり方。自宅医療の落とし穴。家族の介護の実態と支援
ハラスメント、高齢者虐待防止、個人情報、感染症対策
虐待対応
終末ケア
主任ケアマネジャー更新研修等
新任者研修

□参考値



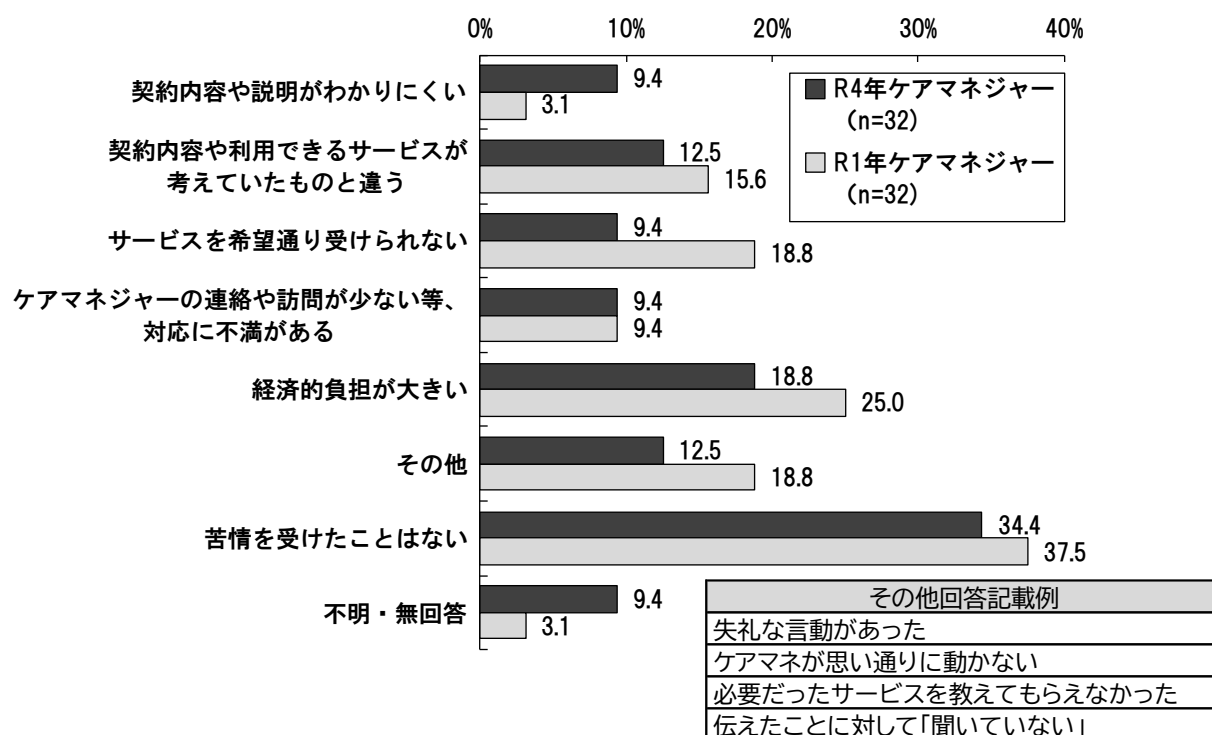
【問 16 で「4. 」に回答した方にお伺いします。】

問 16-1 研修を受けなかった理由は何ですか。【記述回答】

※本設問への回答はありませんでした。

問 17 利用者や家族から受けたことがある苦情は何ですか。【複数回答】

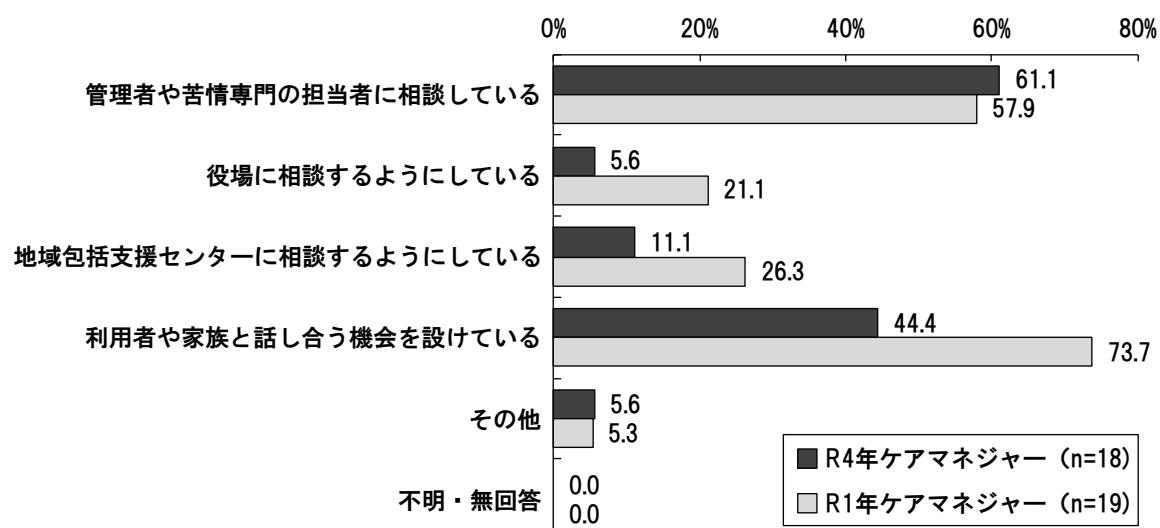
利用者や家族から受けたことがある苦情については、「苦情を受けたことはない」が34.4%と最も高く、次いで「経済的負担が大きい」が18.8%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「契約内容や説明がわかりにくい」がやや高くなっています。



【問 17 で「1.」～「6.」のいずれかに回答した方のみ】

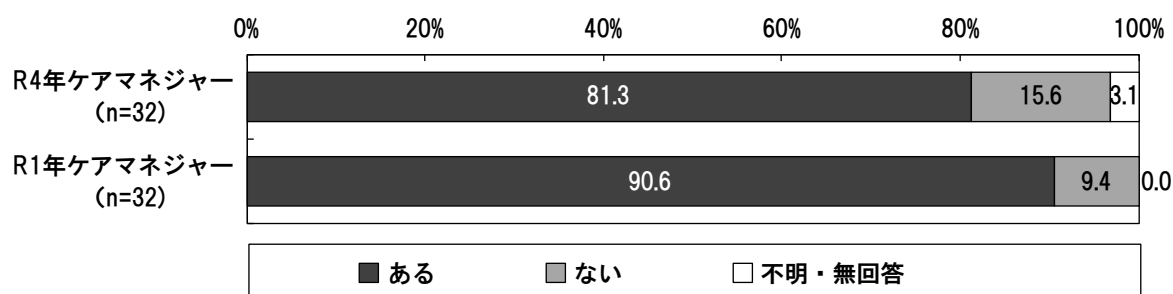
問 17-1 あなたはどのような対応をとっていますか。【複数回答】

苦情に対しての対応については、「管理者や苦情専門の担当者に相談している」が61.1%と最も高く、次いで「利用者や家族と話し合う機会を設けている」が44.4%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「利用者や家族と話し合う機会を設けている」が29.3ポイント、「役場に相談するようにしている」が15.5ポイント、「地域包括支援センターに相談するようにしている」が15.2ポイント、それぞれ低くなっています。



問 18 介護者から、被介護者の相談以外に、介護者自身のことについて相談を受けたことがありますか。

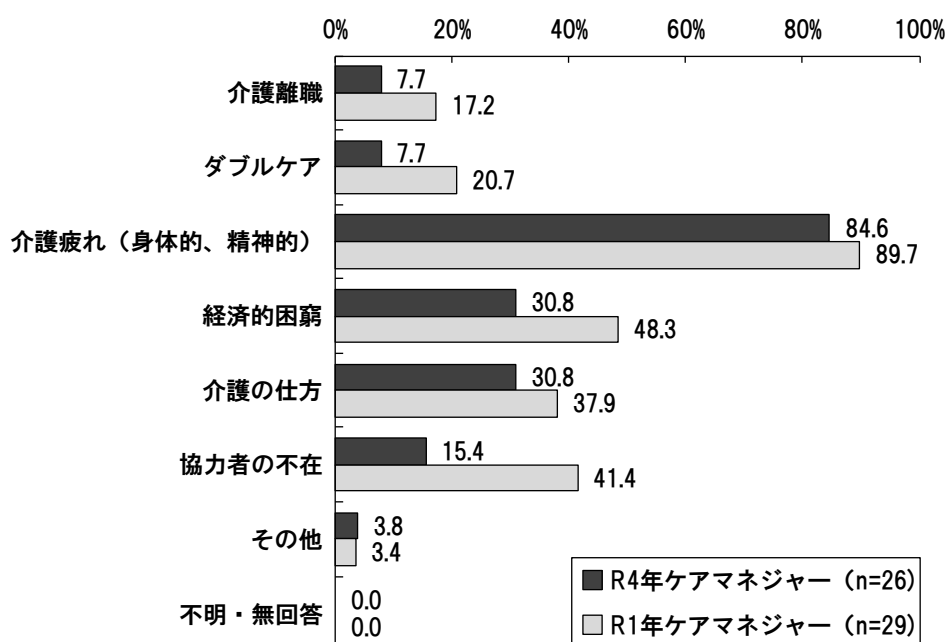
介護者自身のことについて相談を受けたことがあるかについては、「ある」が81.3%、「ない」が15.6%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「ある」が9.3ポイント低くなっています。



【問 18 で「1. ある」と回答した方のみ】

問 18-1 どのような相談でしたか。【複数回答】

介護者自身のことについて相談を受けた内容については、「介護疲れ（身体的、精神的）」が84.6%と最も高く、次いで「経済的困窮」「介護の仕方」がそれぞれ30.8%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「協力者の不在」が26.0ポイント、「経済的困窮」が17.5ポイント、「ダブルケア」が13.0ポイント、それぞれ低くなっています。

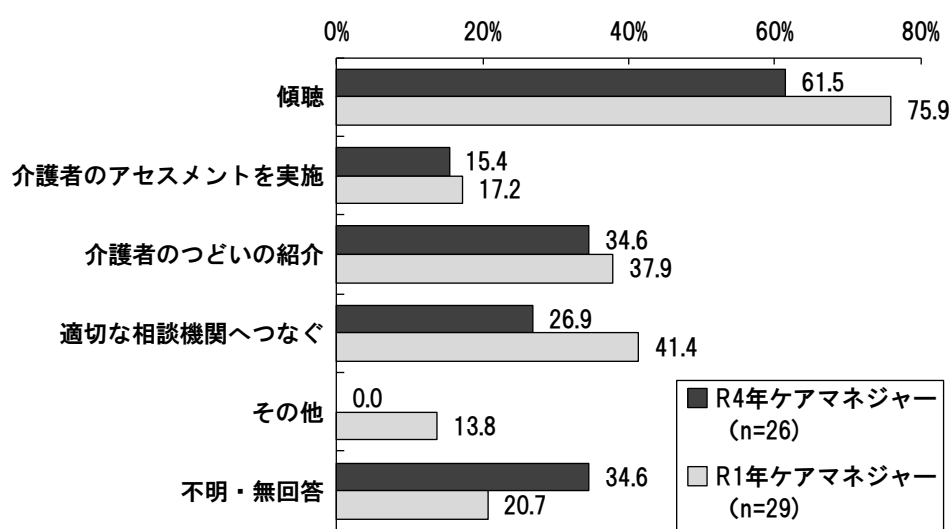


その他回答記載例
今後に対する不安

【問 18 で「1. ある」と回答した方のみ】

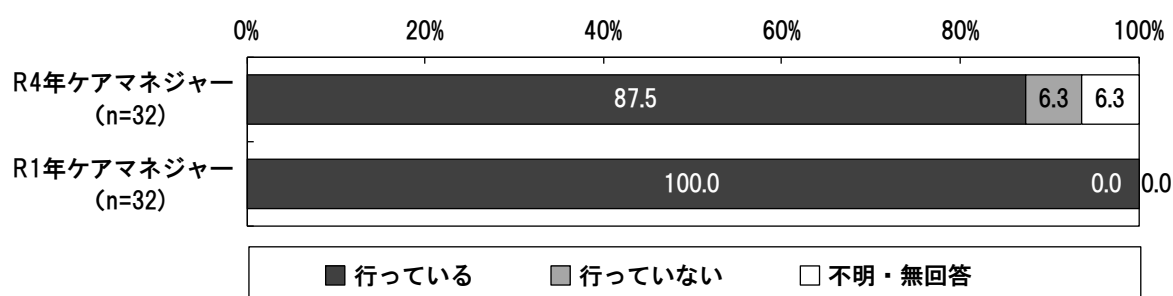
問 18-2 どのように対応していますか。【複数回答】

介護者自身のことについて相談を受けたことへの対応については、「傾聴」が61.5%と最も高く、次いで「介護者のつどいの紹介」が34.6%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「適切な相談機関へつなぐ」が14.5ポイント、「その他」が13.8ポイント、それぞれ低くなっています。



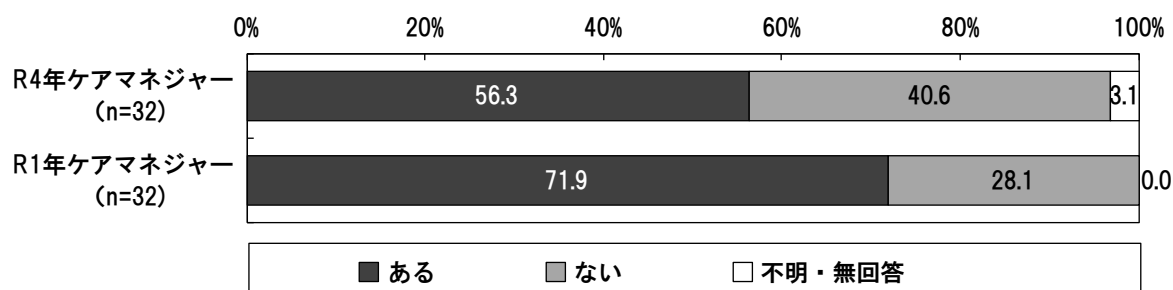
問 19 利用者の病状や健康状態について主治医と連携し、情報共有を行っていますか。（1件でも実績があれば「1. 行っている」を選択）

利用者の病状や健康状態について主治医と連携し、情報共有を行っているかについては、「行っている」が87.5%、「行っていない」が6.3%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「行っている」が12.5ポイント低くなっています。



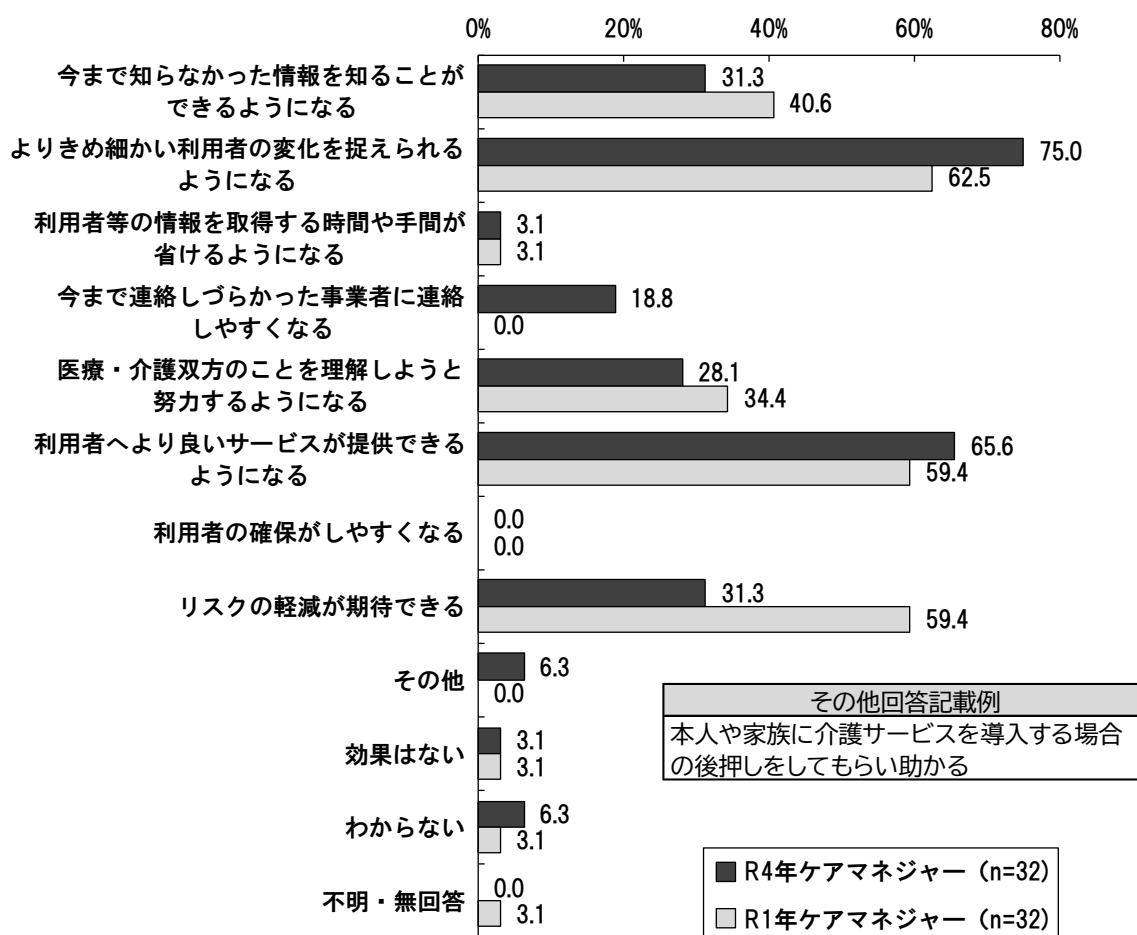
問 20 医療機関や医療従事者との連携について、苦労していることはありますか。

医療機関や医療従事者との連携について、苦労していることがあるかについては、「ある」が 56.3%、「ない」が 40.6%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「ある」が 15.6 ポイント低くなっています。



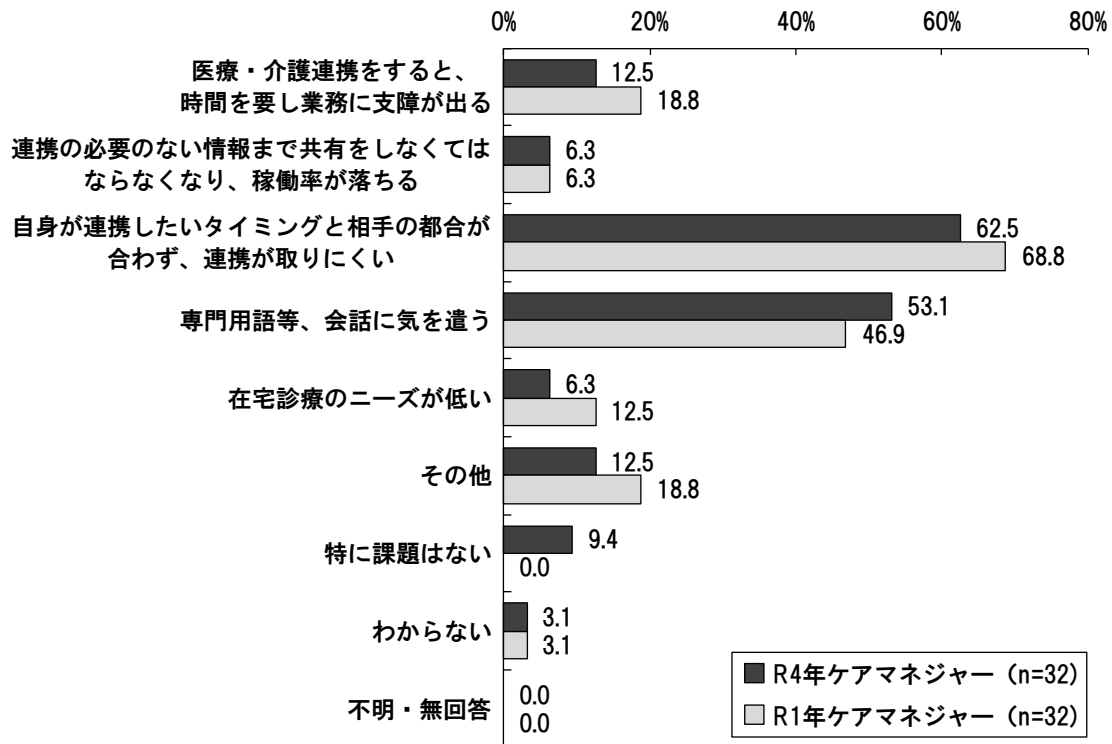
問 21 医療と介護が連携する効果は何だと思えますか。【複数回答】

医療と介護が連携する効果については、「よりきめ細かい利用者の変化を捉えられるようになる」が 75.0%と最も高く、次いで「利用者へより良いサービスが提供できるようになる」が 65.6%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「今まで連絡しづらかった事業者に連絡」が 18.8 ポイント、「よりきめ細かい利用者の変化を捉えられる」が 12.5 ポイント、それぞれ高くなっている一方で、「リスクの軽減が期待できる」は 28.1 ポイント低くなっています。



問 22 医療・介護連携を行うに当たっての課題は何だと思いますか。【複数回答】

医療・介護連携を行うに当たっての課題については、「自身が連携したいタイミングと相手の都合が合わず、連携が取りにくい」が62.5%と最も高く、次いで「専門用語等、会話に気を遣う」が53.1%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「特に課題はない」が9.4ポイント高くなっています。



その他回答記載例

顔が見える関係づくり、とはいうもののわざわざ面会する時間が作れない。多職種カンファに出席する、交流するとよい。

問 23 あなたは他職種との連携がどの程度とれていますか。

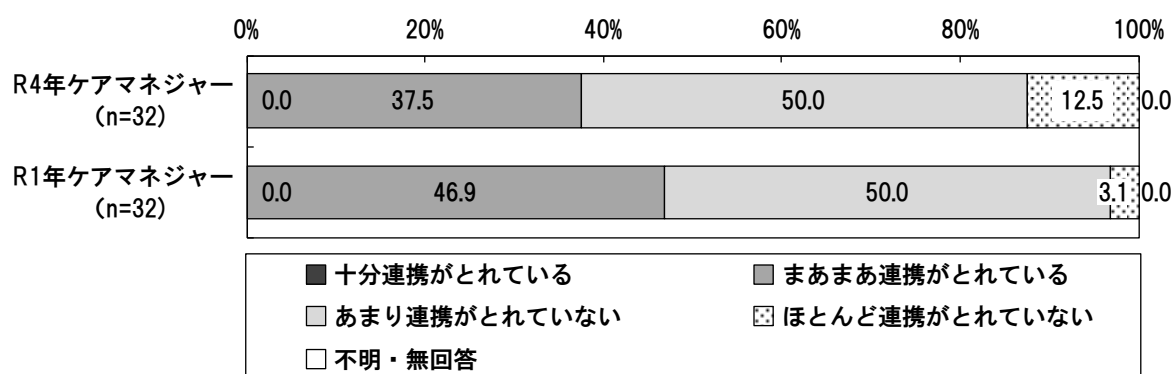
本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『連携がとれている』…「十分連携がとれている」と「まあまあ連携がとれている」の合算

『連携がとれていない』…「あまり連携がとれていない」と「ほとんど連携がとれていない」の合算

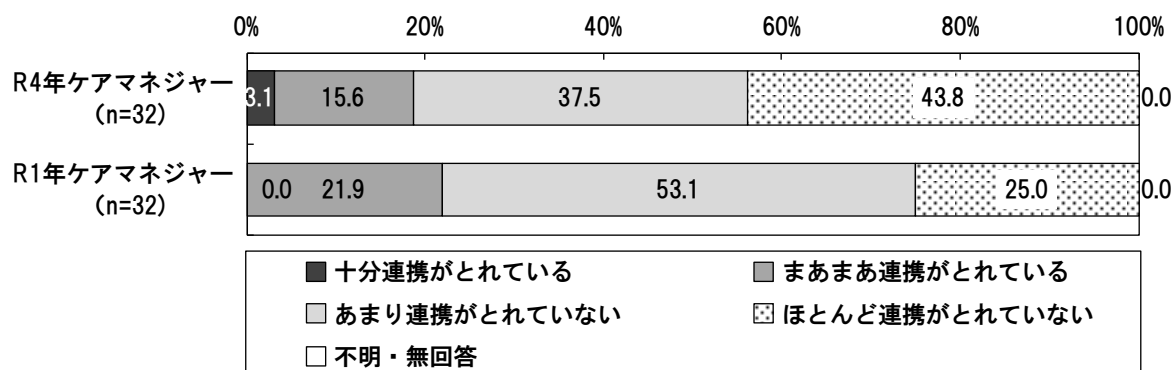
① 医師

医師との連携の程度については、『連携がとれている』が37.5%、『連携がとれていない』が62.5%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、『連携がとれている』が9.4ポイント低くなっています。



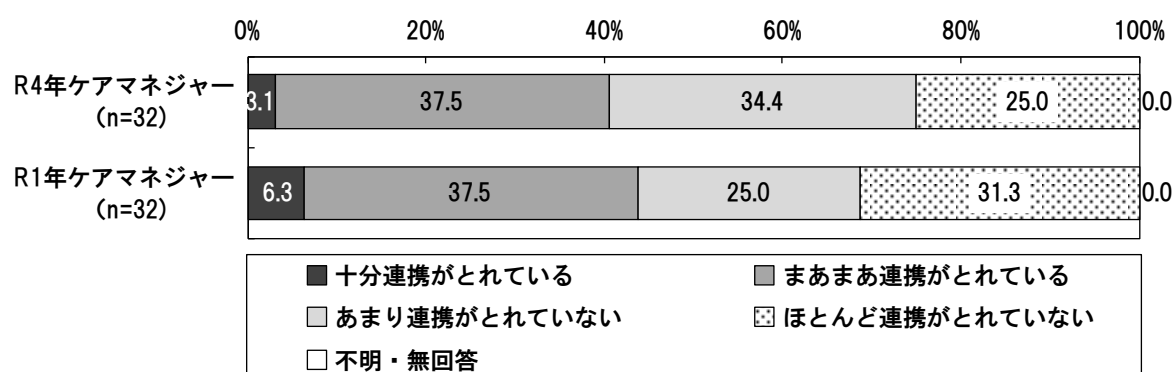
② 歯科医師

歯科医師との連携の程度については、『連携がとれている』が18.7%、『連携がとれていない』が81.3%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、『連携がとれていない』では大きな差異はみられないものの、「ほとんど連携がとれていない」では43.8%と、18.8ポイント高くなっています。



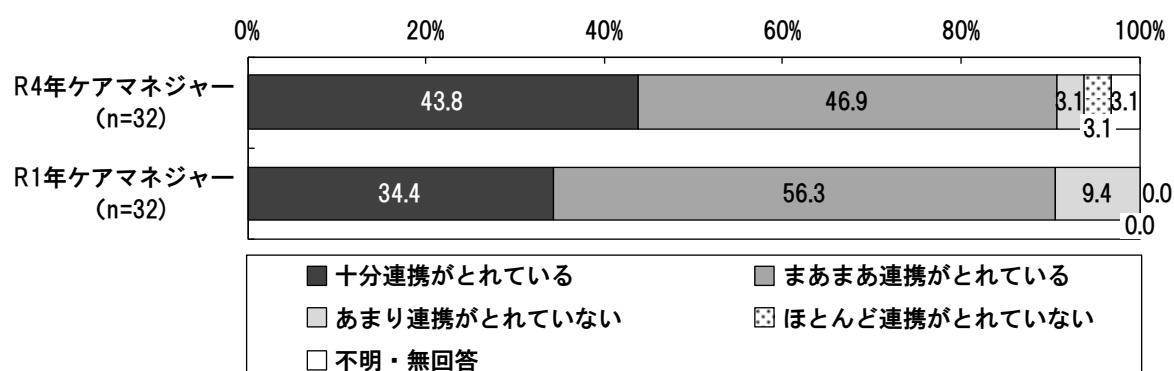
③ 薬剤師

薬剤師との連携の程度については、『連携がとれている』が40.6%、『連携がとれていない』が59.4%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



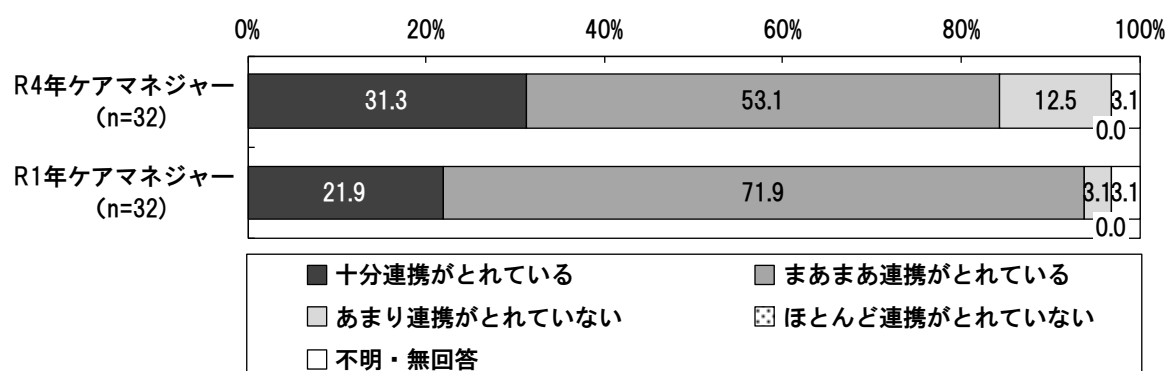
④ 訪問看護師

訪問看護師との連携の程度については、『連携がとれている』が90.7%、『連携がとれていない』が6.2%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



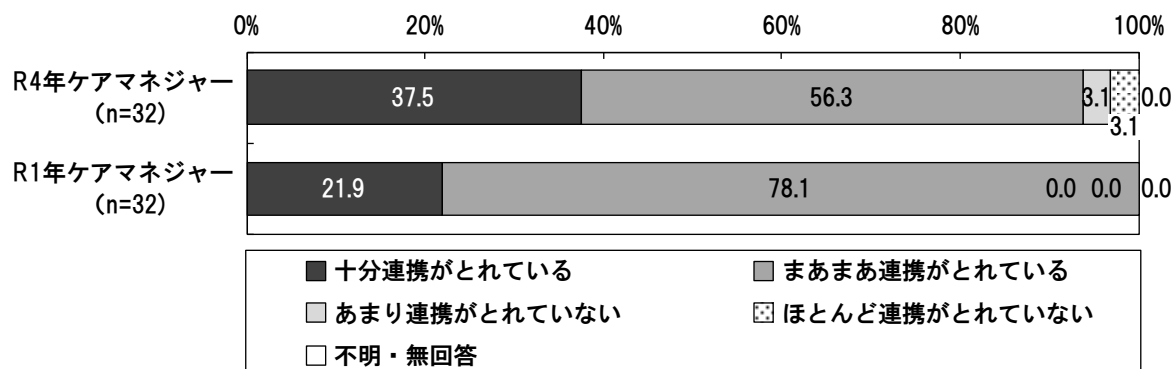
⑤ リハビリ職（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）

リハビリ職（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）との連携の程度については、『連携がとれている』が84.4%、『連携がとれていない』が12.5%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、『連携がとれている』が9.4ポイント低くなっています。



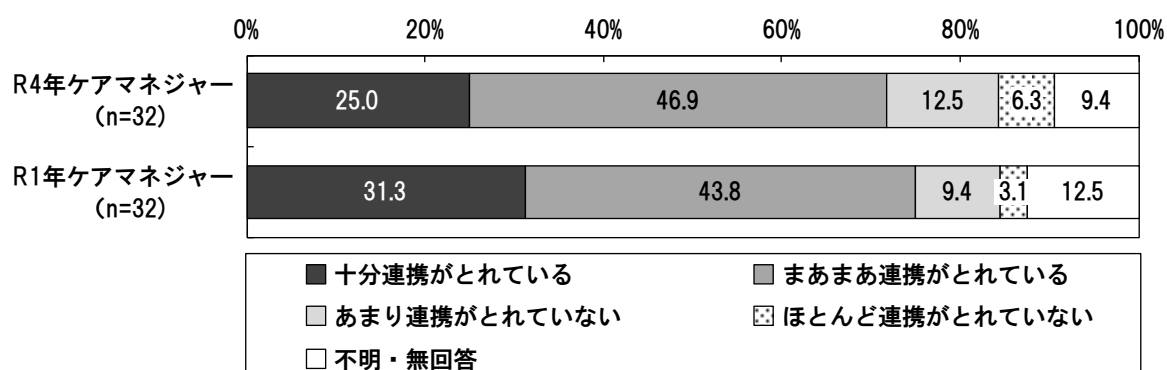
⑥ 介護職員

介護職員との連携の程度については、『連携がとれている』が93.8%、『連携がとれていない』が6.2%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、『連携がとれている』がやや低くなっています。



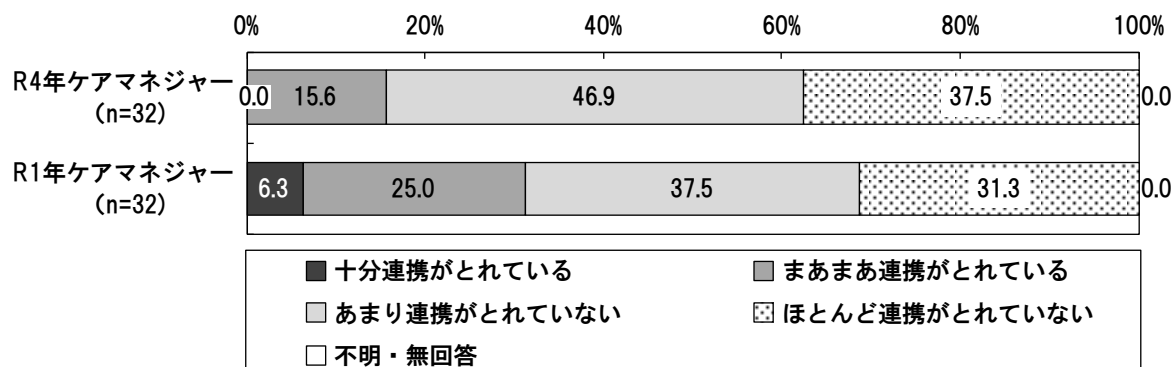
⑦ 地域包括支援センター

地域包括支援センターとの連携の程度については、『連携がとれている』が71.9%、『連携がとれていない』が18.8%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、『連携がとれていない』がやや高くなっています。



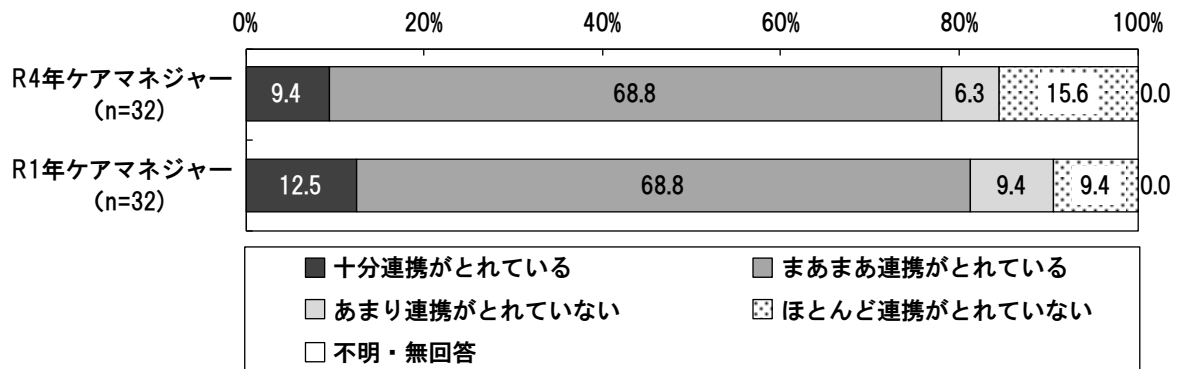
⑧ 医療介護サポートセンター（かけはし）

医療介護サポートセンター（かけはし）との連携の程度については、『連携がとれている』が15.6%、『連携がとれていない』が84.4%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、『連携がとれている』が15.7ポイント低くなっています。



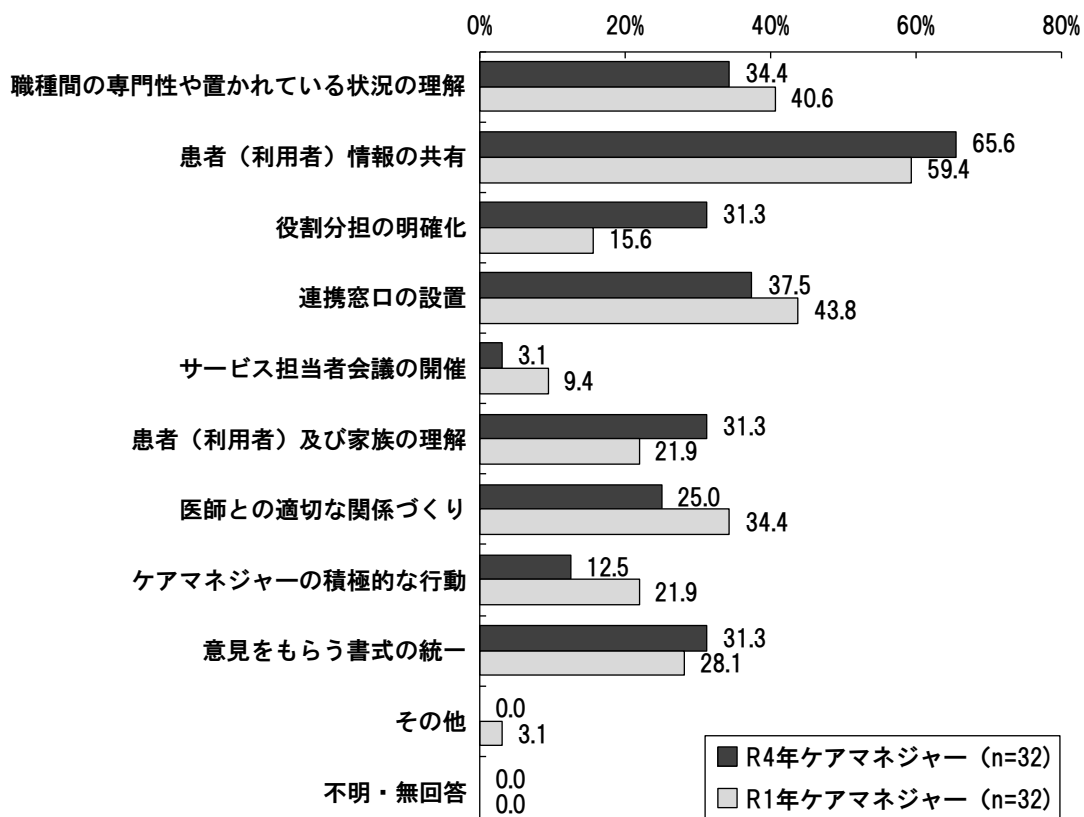
⑨ 医療相談員（医療ソーシャルワーカー）

医療相談員（医療ソーシャルワーカー）との連携の程度については、『連携がとれている』が78.2%、『連携がとれていない』が21.9%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



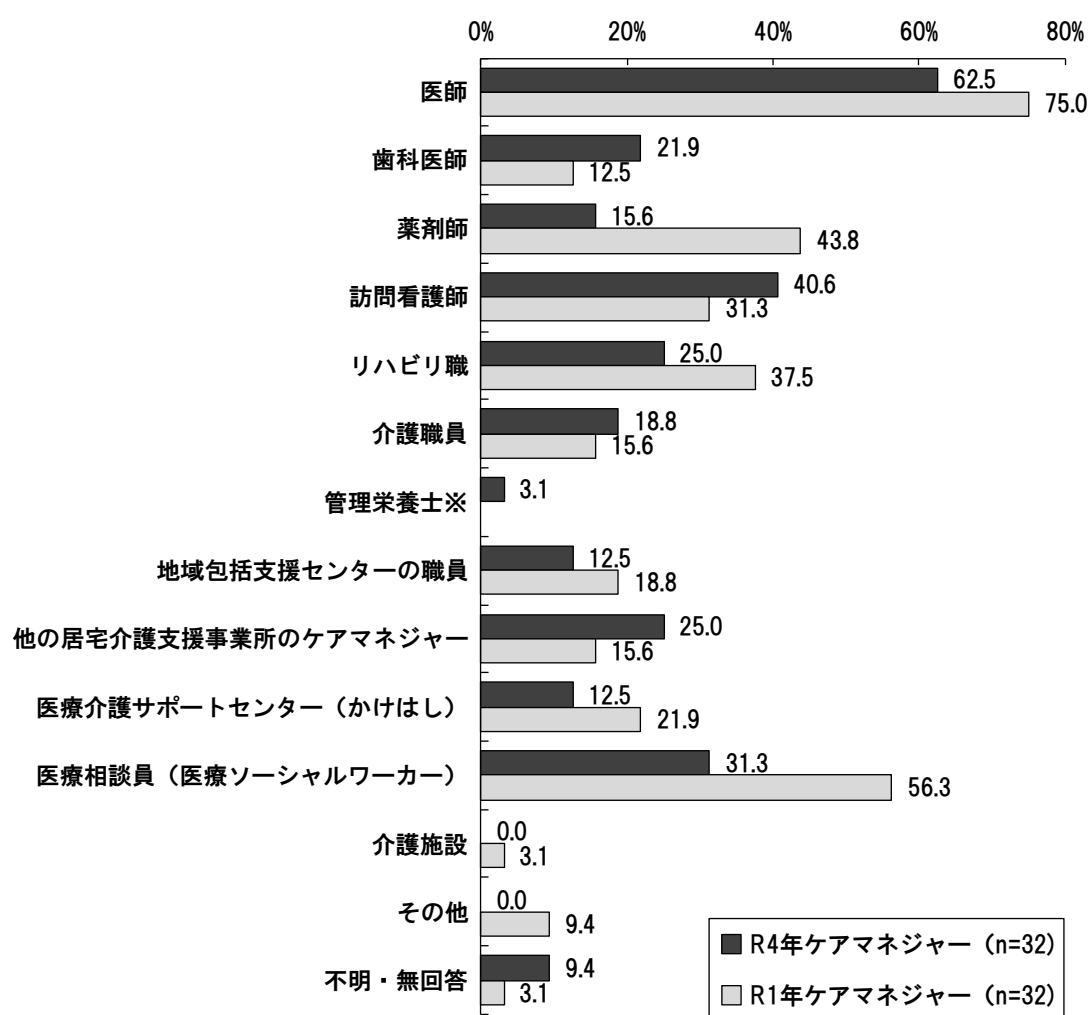
問 24 医療機関や医療従事者等他職種との連携のためには、どのようなことが必要だと思いますか。【複数回答】

医療機関や医療従事者等他職種との連携のために必要だと思うことについては、「患者（利用者）情報の共有」が65.6%と最も高く、次いで「連携窓口の設置」が37.5%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「役割分担の明確化」が15.7ポイント高くなっています。



問 25 あなたが今後、より連携を図ることが重要だと思う職種は何ですか。【複数回答】

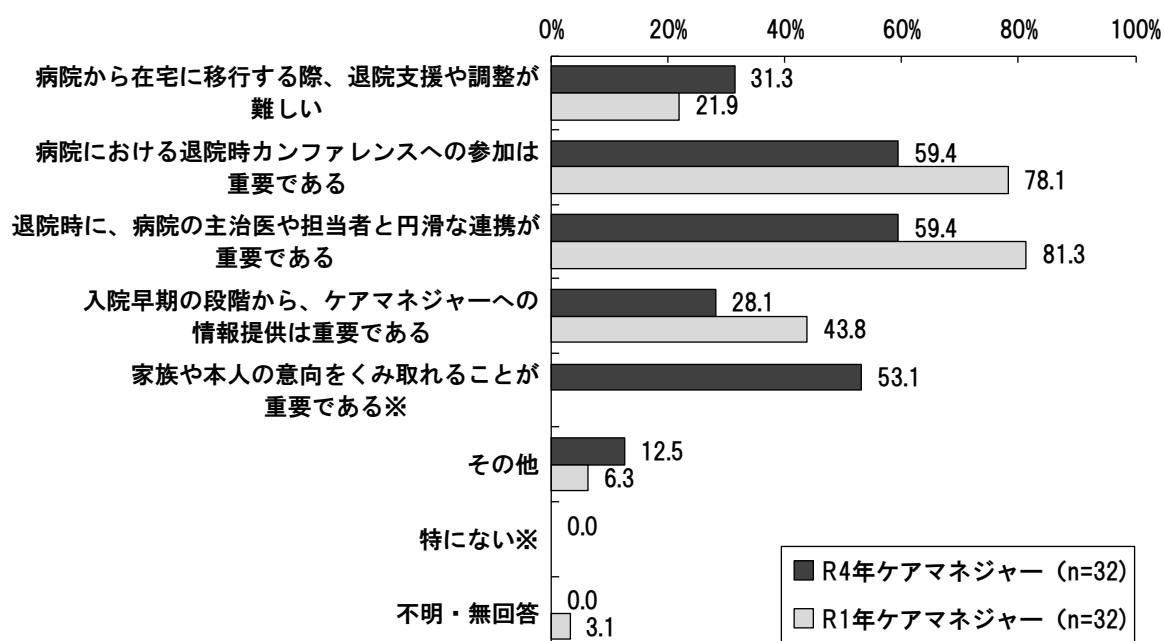
今後、より連携を図ることが重要だと思う職種については、「医師」が62.5%と最も高く、次いで「訪問看護師」が40.6%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「医療相談員（医療ソーシャルワーカー）」が25.0ポイント、「薬剤師」が28.2ポイント、「医師」「リハビリ職」はそれぞれ12.5ポイント、いずれも低くなっています。一方、「歯科医師」「他の居宅介護支援事業所のケアマネジャー」はそれぞれ9.4ポイント、「訪問看護師」は9.3ポイント、それぞれ高くなっています。



※選択肢の「管理栄養士」は、R4 年度調査のみとなっています。

問 26 利用者が病院を退院し、在宅生活を送る際の調整について、あなたが感じることはどれですか。【複数回答】

利用者が病院を退院し、在宅生活を送る際の調整について感じることにについては、「病院における退院時カンファレンスへの参加は重要である」「退院時に、病院の主治医や担当者と円滑な連携が重要である」がそれぞれ59.4%と最も高く、次いで「家族や本人の意向をくみ取れることが重要である」が53.1%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「退院時に、病院の主治医や担当者と円滑な連携が重要である」が 21.9 ポイント、「病院における退院時カンファレンスへの参加は重要である」が 18.7 ポイント、「入院早期の段階から、ケアマネジャーへの情報提供は重要である」が 15.7 ポイント、それぞれ低くなっています。

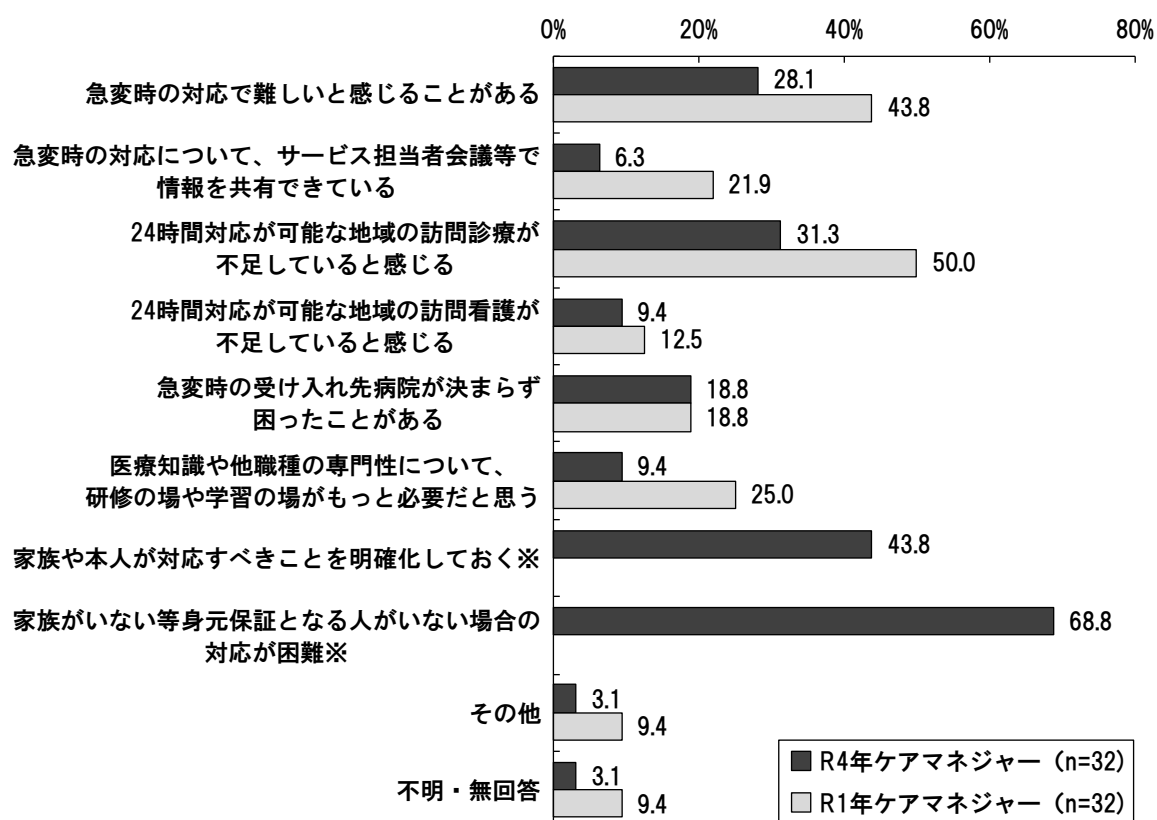


※選択肢の「家族や本人の意向をくみ取れることが重要である」「特にない」は、R4 年度調査のみとなっています。

その他回答記載例
家族からの情報とHPからの情報に食い違いがあることが多い
退院時に認定結果が出ていない時のサービス調整が困難である
コロナのため本人に直接会えず、情報がわかりづらい

問 27 利用者の容態が急変した場合の対応について、あなたが感じていることはどれですか。【複数回答】

利用者の容態が急変した場合の対応について感じていることについては、「家族がいない等身元保証となる人がいない場合の対応が困難」が68.8%と最も高く、次いで「家族や本人が対応すべきことを明確化しておく」が43.8%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「24 時間対応が可能な地域の訪問診療が不足していると感じる」が18.7 ポイント、「急変時の対応で難しいと感じることがある」が15.7 ポイント、「急変時の対応について、サービス担当者会議等で情報を共有できている」「医療知識や他職種の専門性について、研修の場や学習の場がもっと必要だと思う」がそれぞれ15.6 ポイント、いずれも低くなっています。

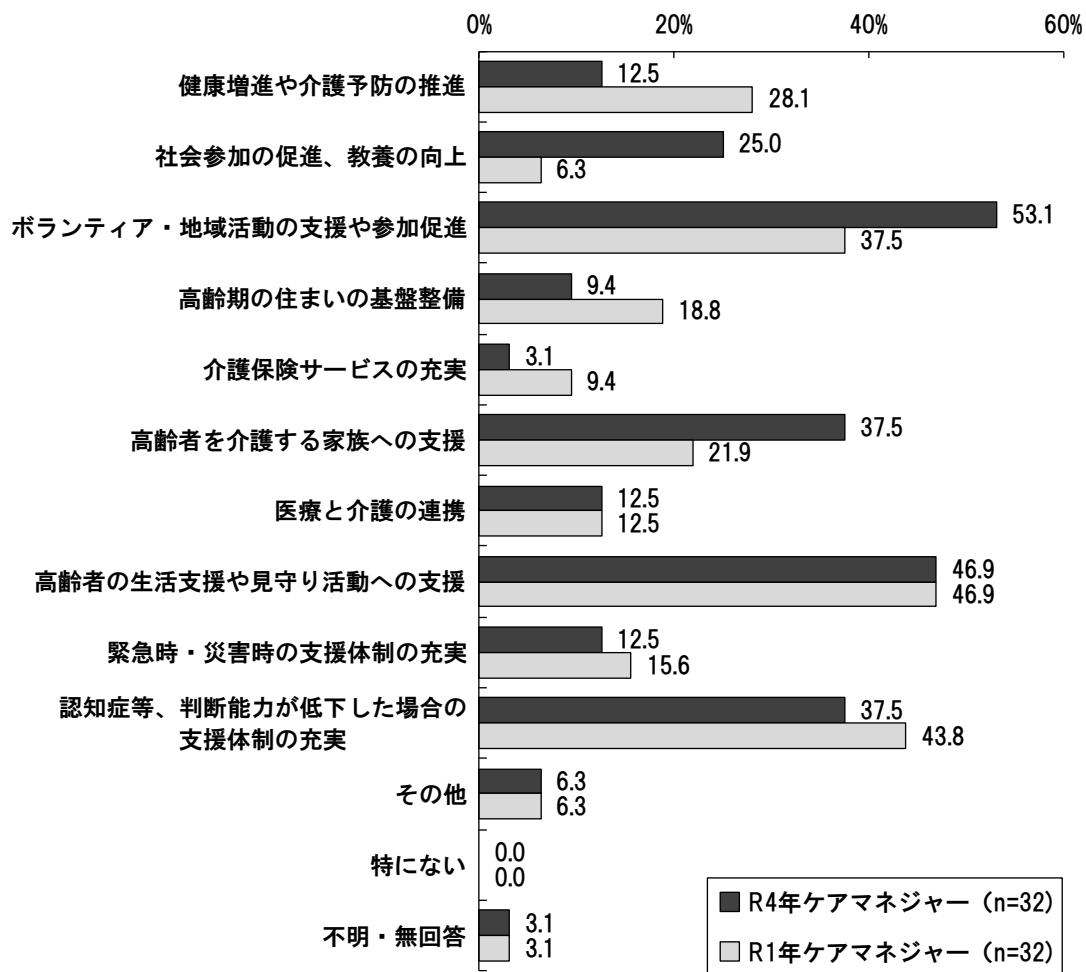


※選択肢の「家族や本人が対応すべきことを明確化しておく」「家族がいない等身元保証となる人がいない場合の対応が困難」は、R4 年度調査のみとなっています。

その他回答記載例
コロナ禍のため、発熱時のタクシーや介護タクシーの利用が困難

問 28 今後、高齢者の保健福祉や介護予防等に関する取組みを進めていく上で、町はどのようなことに重点を置くべきだと思いますか。【複数回答】

今後、高齢者の保健福祉や介護予防等に関する取組みを進めていく上で、町が重点を置くべきだと思うことについては、「ボランティア・地域活動の支援や参加促進」が53.1%と最も高く、次いで「高齢者の生活支援や見守り活動への支援」が46.9%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「社会参加の促進、教養の向上」が18.7ポイント、「ボランティア・地域活動の支援や参加促進」「高齢者を介護する家族への支援」がそれぞれ15.6ポイント、いずれも高くなっています。一方、「健康増進や介護予防の推進」は15.6ポイント低くなっています。



その他回答記載例
自治会の活用
独居や高齢夫婦世帯の支援

問 29 あなたが地域包括支援センターに期待することは何ですか。

困難事例の支援やケアマネへの支援、地域づくり等の活動について意見があります。

地域包括支援センターに期待すること
今現存しているサービスを利用・活用できるとよい。新しくサービスを開始することもよいが、なんとかうまく今のサービスを活かせる方向付けをした方がよいと思う。東郷町はまだ自治会が生きているので、なんとかならないかなあ。学校の活用も始まったので、目標や目的を明確にして進めてほしい（「イベントやりました」だけではダメ。達成できる目標を地域の人と一緒に考える姿勢が必要）。
困難事例を抱えたケアマネへの支援・同行。
相談のしやすさ。地域資源などの情報提供。
地域の中に入っていき、身近な存在になっていきたいと思います。
困難ケースやサービス未利用時だけでなく、平時の業務の相談にも乗ってもらえると安心します。
ケアマネの不安解消につながる後方支援。
今まで通りでよろしくお願いします。

問 30 あなたが町に期待することは何ですか。

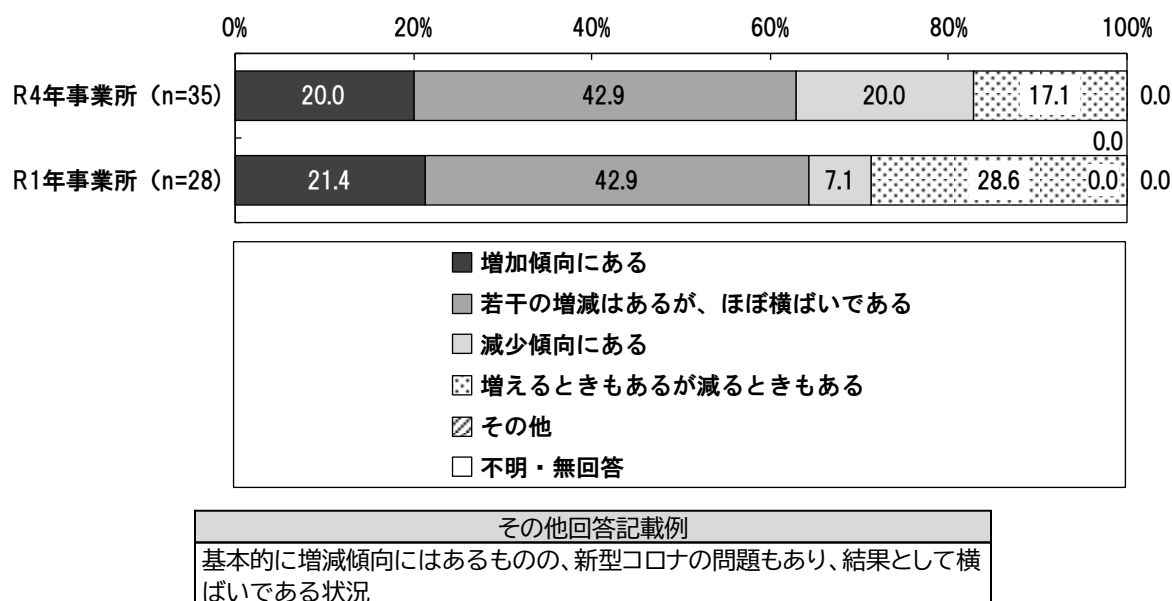
支援・サービスの充実について、ケアマネジャーの立場から見た必要な支援について回答されています。

町に期待すること
これからは独居、身寄りなし、認知症の方への支援が増え、1 ケースあたりにかかる時間やスキルが必要となると考えています。「高齢者」とつくとも何もかも包括センターが担当することになりますので、お互いに協働できるような関係でいられるように、いつもコミュニケーションがとれるようにしていただきたいです（今も相談に乗ってもらいありがたいです）。
看取りまでできるグループホームを作してほしい、または誘致してほしい。
巡回バスの運行時間の変更・本数の減少により、活動機会の範囲が狭くなっている人がみえます。デマンドタクシーも予約が取れないという不満が出ています。高齢者の移動手段の拡充ができるといいな、と思います。豊田市地域生活意思決定事業のような権利擁護支援を必要とする人が今後増えていくのではないかと思います。
デマンドタクシーがもっと増え、待ち時間が短くなる。退職後にボランティアや地域活動をするような取り組みができるともっと地域が活性化するのではないかな。子育て世代と高齢者が一緒にできるイベントなど。
東郷町には入院できるような総合病院がないので、できると良いと思います。
子供の政策は色々充実しているようだけど、高齢者（特に身寄りのない一人暮らしの方）にも、もう少し手厚いサービスや制度があるとケアマネも安心して支援ができます。
バス本数を増やしてほしい（車を手放してもバスの本数が少なく、歩いては行けずヘルパーさんに頼るしかない、自分の目で見て買いたい人は多い）。移動スーパーの利用ができるといい。
いつも大変お世話になっております。介護保険の更新で認知症の方や独居の方が現在利用中のサービスで落ち着いて自宅生活が継続できているが、介護度が下がってしまい今まで通りのサービス利用ができなくなり、在宅生活が継続できなくなってしまう可能性がある。調査だけの基準ではなく、その方のサービス内容を見てもらって判断して介護度を決めてほしい。

VI 事業所調査の結果

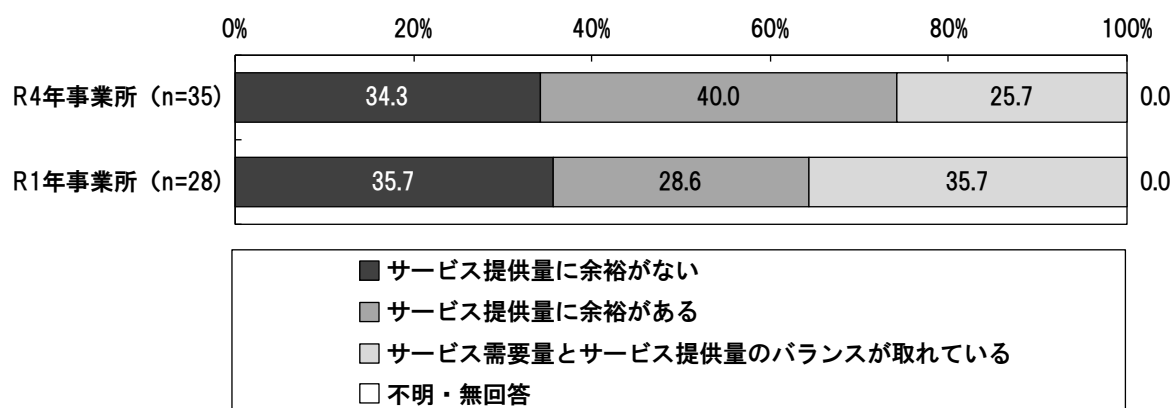
問1 貴事業所の利用者数の状況についてお答えください。

事業所の利用者数の状況については、「若干の増減はあるが、ほぼ横ばいである」が42.9%と最も高く、次いで「増加傾向にある」「減少傾向にある」がそれぞれ20.0%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「減少傾向にある」が12.9ポイント高くなっています。



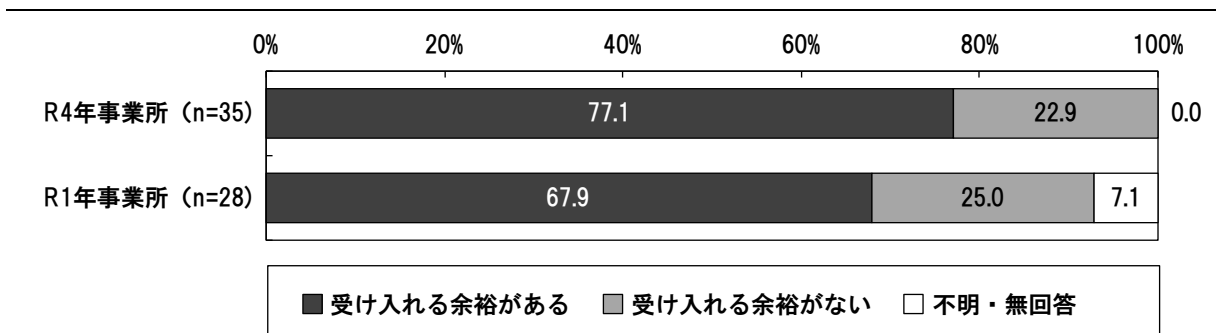
問2 現在、貴事業所のサービス提供は、どのような状況ですか。

事業所のサービス提供の状況については、「サービス提供量に余裕がない」が34.3%、「サービス提供量に余裕がある」が40.0%、「サービス需要量とサービス提供量のバランスが取れている」が25.7%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「サービス提供量に余裕がある」が11.4ポイント高くなっています。



問3 サービスの待機者の状況はいかがですか。

サービスの待機者の状況については、「受け入れる余裕がある」が77.1%、「受け入れる余裕がない」が22.9%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、受け入れる余裕がある」が9.2ポイント高くなっています。



問3-1 その理由は何ですか。

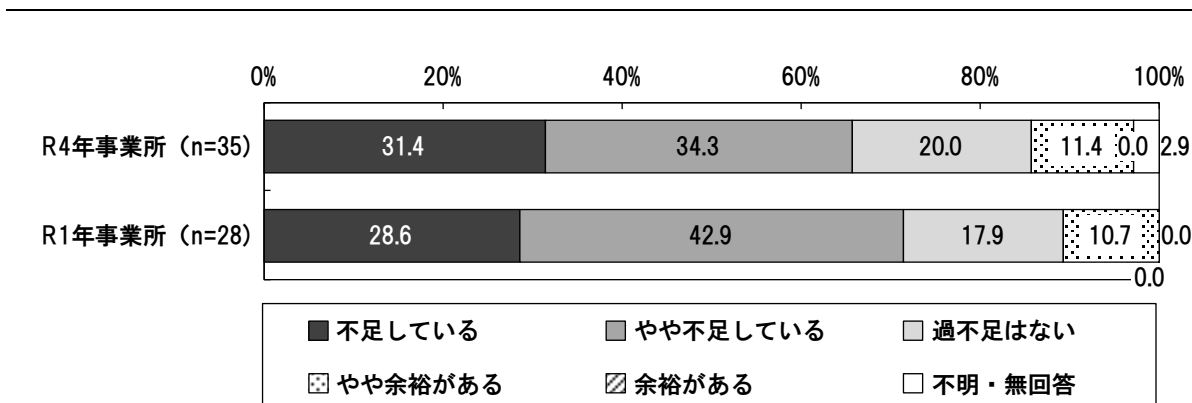
主な回答
居宅介護支援：本事業所は管理者以外は臨時職員のため、あまり大きな負荷がかかると離職につながることから、各ケアマネの業務量には限界がある。
訪問介護：パートヘルパーが不足しているため、新規依頼に対応することが難しい。（サービス提供中止となった利用者が出れば新規対応を検討する状態）
現利用者は頻回な訪問支援が必要な方が多く、すでに週間予定が埋まっている。
施設内訪問は特に問題ないが、施設外訪問の受け入れる際に人員が不足しサービスの提供が困難となることがある。
自分の家族の入退院や通院のため
職員数は常勤換算で2：1を満たしているが、コロナ感染対応で業務量が激増しており余裕が無い
人手不足
退職者、異動による人員不足
担当ケースが増え、業務量が増えているため
通所介護のみ、受け入れのサービス提供量に余裕はないが、定員19名に対して平均10人程度の利用のため、定員的には余裕ある。
定員枠が空いている

問4 現在のサービス提供状況からみて、職員数の過不足はありますか。

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

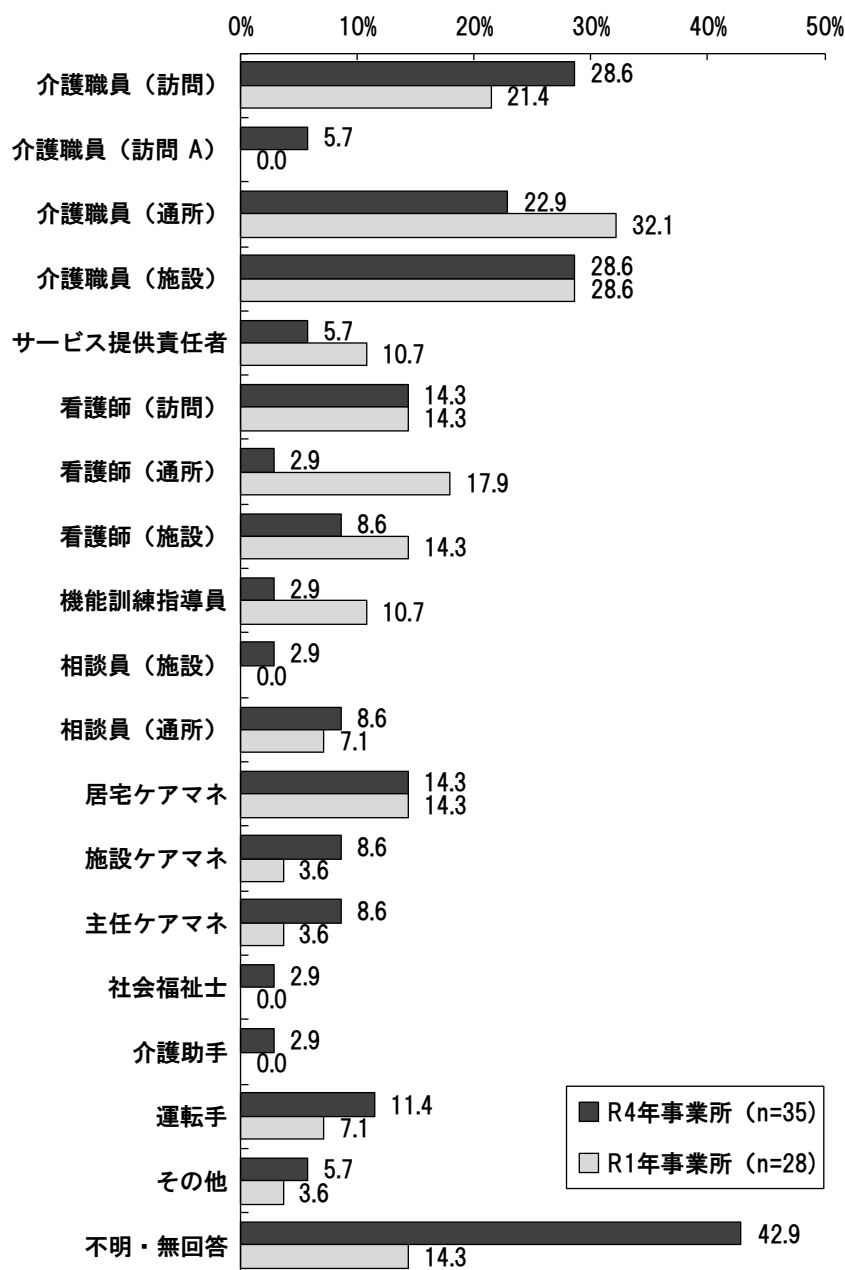
『不足している』…『不足している』と『やや不足している』の合算

現在のサービス提供状況と職員数の過不足の状況については、『不足している』が65.7%、「過不足はない」が20.0%、「やや余裕がある」が11.4%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、『不足している』はやや低くなっています。



問5 特に人材確保に苦慮している職種はどれですか。【複数回答】

特に人材確保に苦慮している職種については、「介護職員（訪問）」「介護職員（施設）」がそれぞれ 28.6%と最も高く、次いで「介護職員（通所）」が 22.9%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「看護師（通所）」が 15.0 ポイント、「介護職員（通所）」が 9.2 ポイント、それぞれ低くなっています。



その他回答記載例

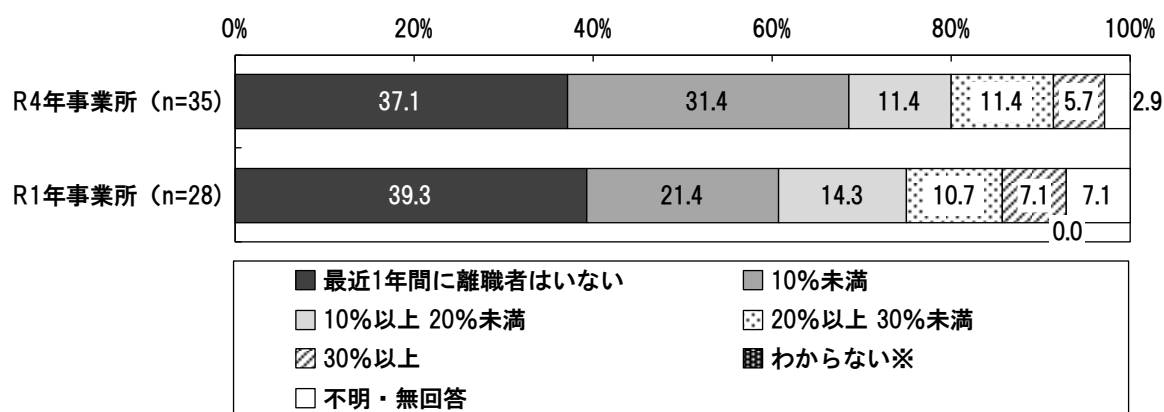
言語聴覚士

訪問は移動があるので、職員が集まらない。サービス提供責任者は資格がないとなれない。

理学療法士、作業療法士

問6 貴事業所のこの1年間の離職率（登録ヘルパーは除く）はどのくらいですか。

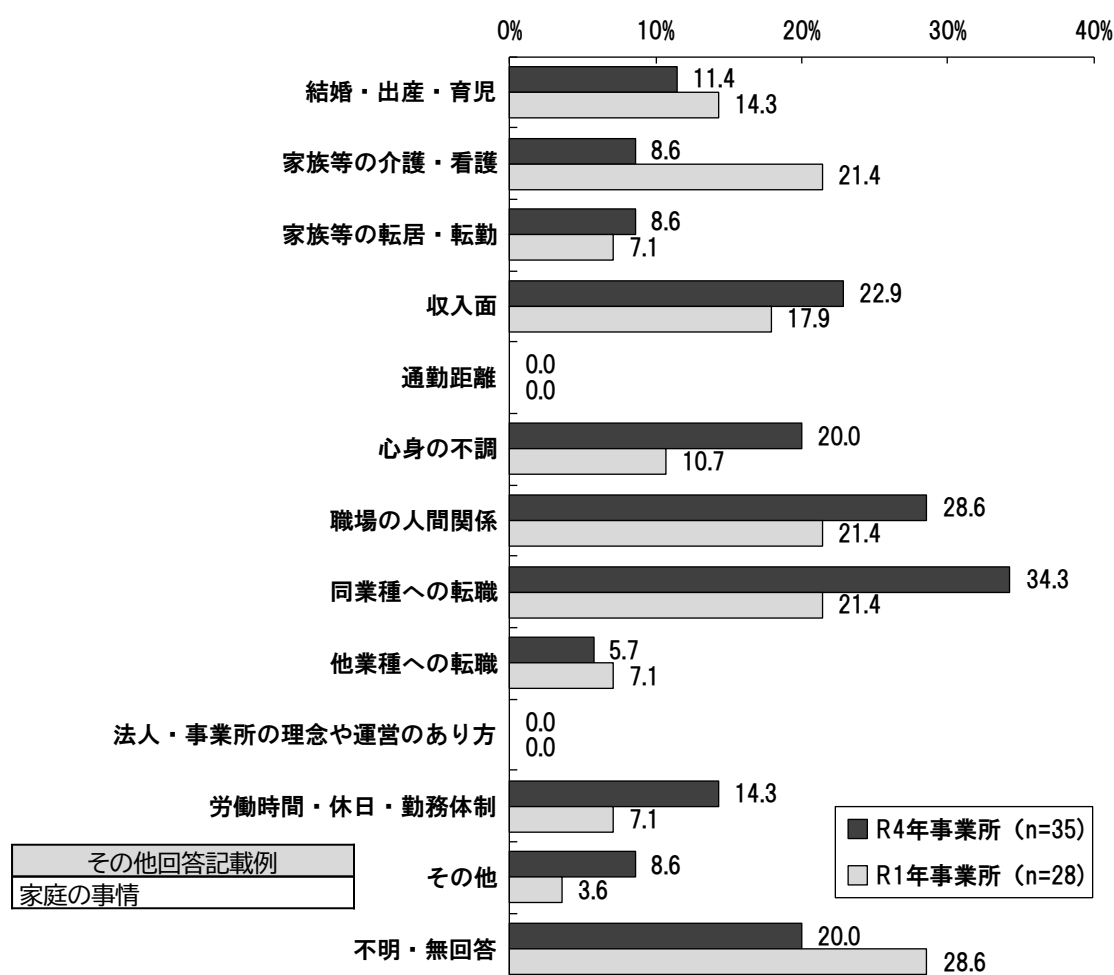
この1年間の離職率（登録ヘルパーは除く）については、「最近1年間に離職者はいない」が37.1%と最も高く、次いで「10%未満」が31.4%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「最近1年間に離職者はいない」は大きな差異はなく、「10%未満」が10.0ポイント高くなっています。



※選択肢の「わからない」はR1年度調査のみとなっています。

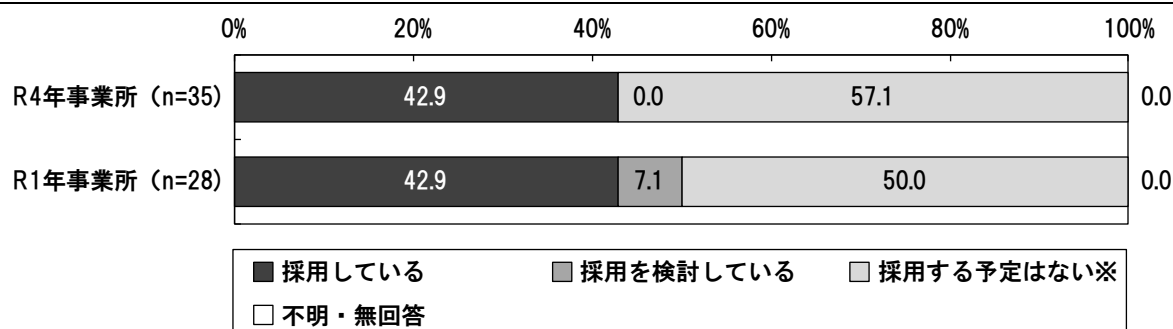
問7 職員の離職理由は、どのような内容が多いですか。【複数回答】

職員の離職理由については、「同業種への転職」が34.3%と最も高く、次いで「職場の人間関係」が28.6%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「同業種への転職」が12.9ポイント高い一方で、「家族等の介護・看護」は12.8ポイント低くなっています。



問8 貴事業所において、介護助手等介護職の補助的役割（掃除、配膳等）を担う人材を採用していますか。

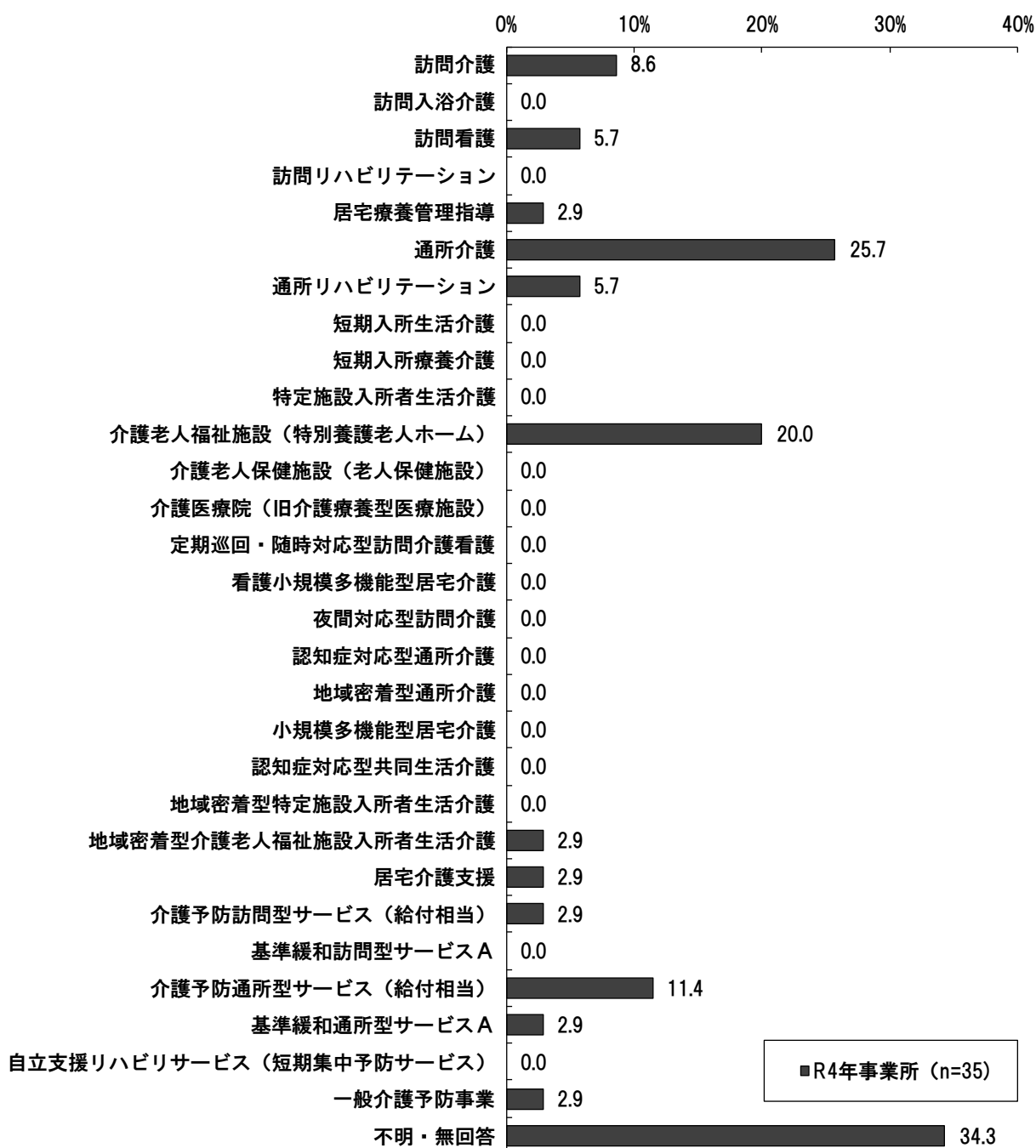
介護助手等介護職の補助的役割（掃除、配膳等）を担う人材の採用については、「採用している」が42.9%、「採用を検討している」が0.0%、「採用する予定はない」が57.1%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「採用している」に大きな差異はみられません。



※選択肢の「採用する予定はない」は、R1年度調査では「採用するつもりはない」となっています。

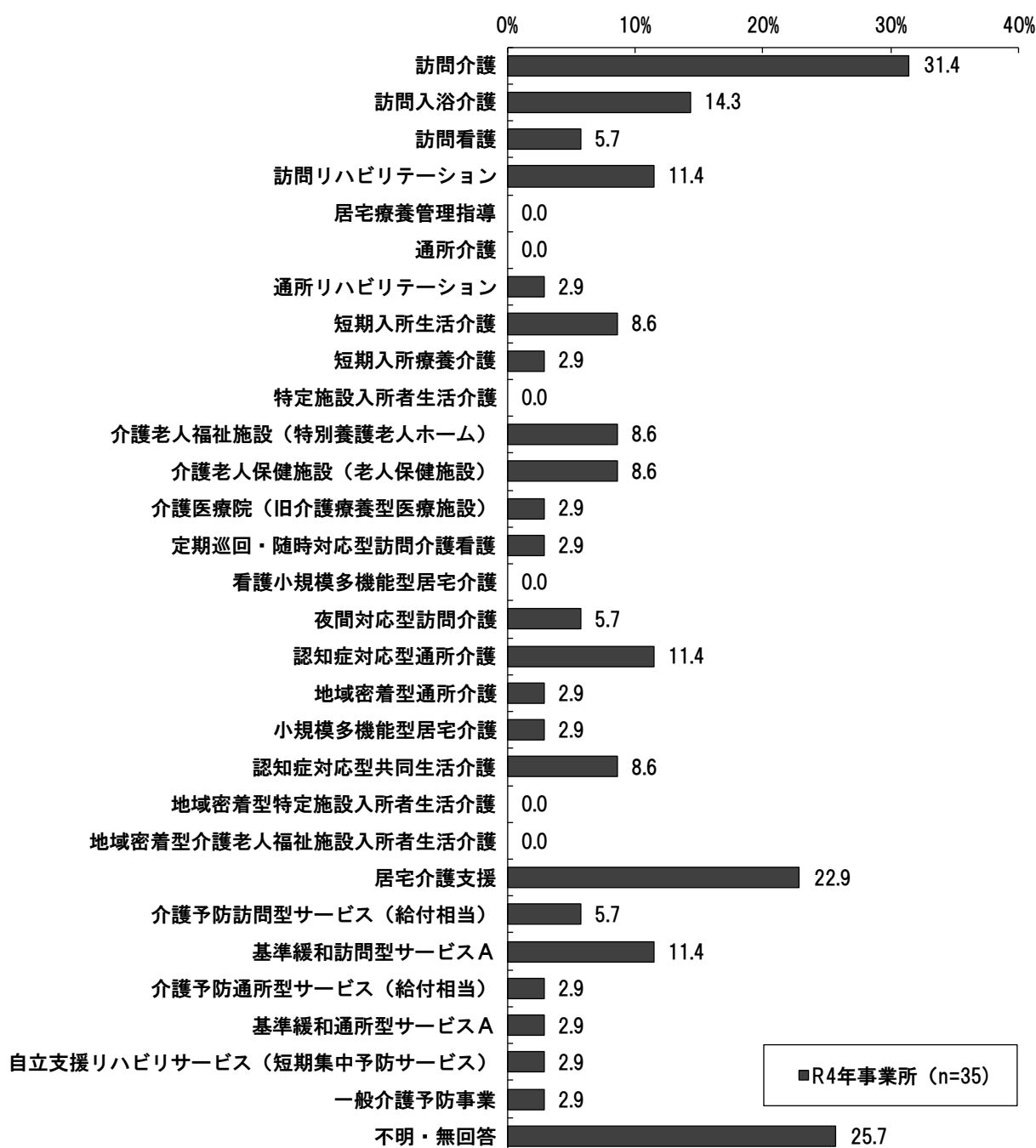
問9 ①町内において充足していると思うサービスは何だと思いますか。【複数回答】

町内において充足していると思うサービスについては、「通所介護」が25.7%と最も高く、次いで「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」が20.0%となっています。



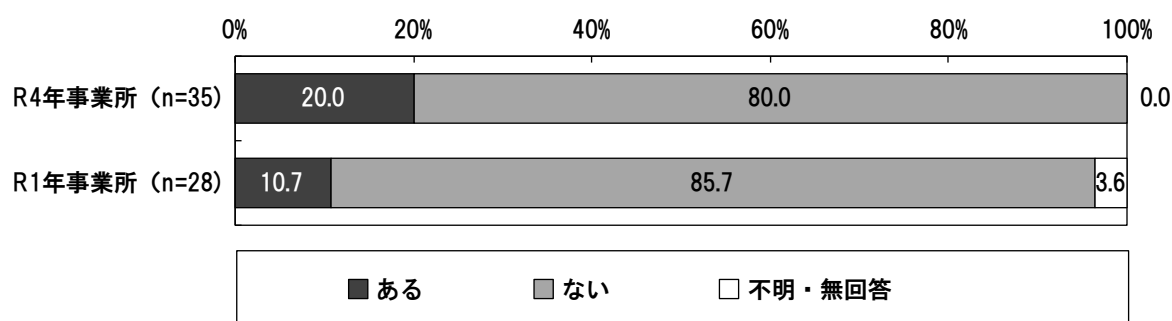
問9 ②町内において不足していると思うサービスは何だと思いますか。【複数回答】

町内において不足していると思うサービスについては、「訪問介護」が31.4%と最も高く、次いで「居宅介護支援」が22.9%となっています。

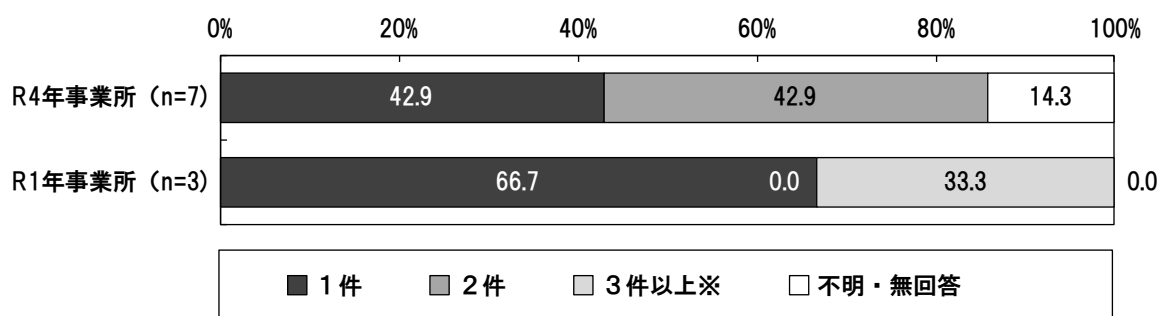


問 10 貴事業所がサービスを提供している要介護等認定者の中で、この1年間に高齢者虐待を受けた、または受けていると疑われる事案がありましたか。

事業所がサービスを提供している要介護等認定者の中で、この1年間に高齢者虐待を受けた、または受けていると疑われる事案については、「ある」が20.0%、「ない」が80.0%となっています。令和4年度調査の虐待事案の件数は、1～2件となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「ある」が9.3ポイント高くなっています。



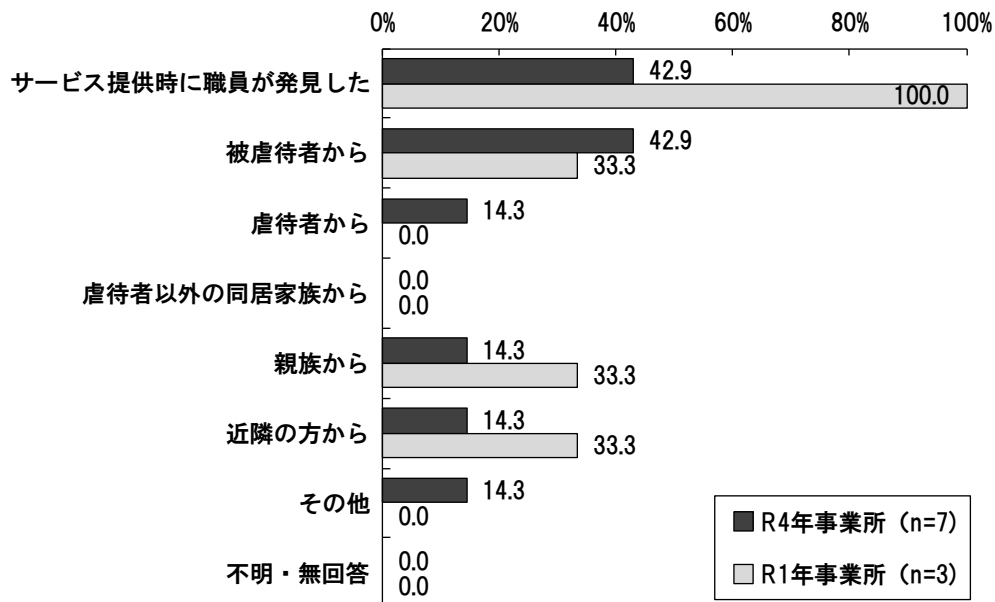
■虐待事案件数



※「3件以上」はR1年度調査のみとなっています。

問 10-1 どこから虐待を発見しましたか。【複数回答】

虐待の発見・通報については、「サービス提供時に職員が発見した」「被虐待者から」がそれぞれ42.9%と最も高く、次いで「虐待者から」「親族から」「近隣の方から」「その他」がそれぞれ14.3%となっています。



その他回答記載例
サービス提供事業者(デイ、訪問看護)から報告があった

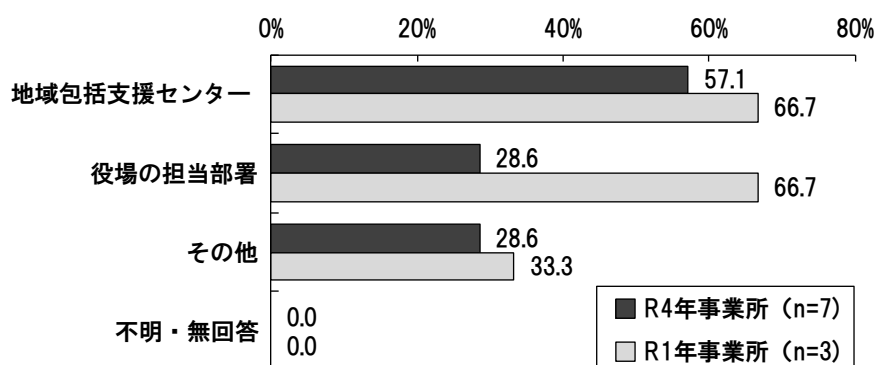
問 10-2 その時に、関係機関に相談・通報しましたか。

虐待事案の関係機関への相談・通報の有無については、「はい」が100.0%となっており、令和元年度調査も同様となっています。



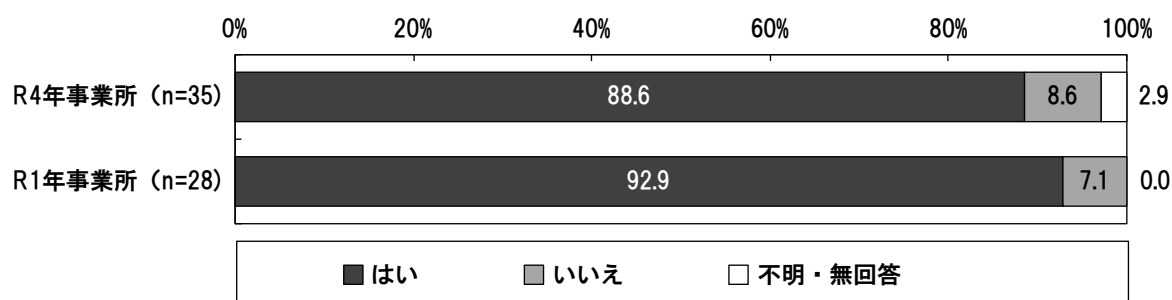
問 10－3 相談・通報先はどこでしたか。【複数回答】

虐待事案の相談・通報先については、「地域包括支援センター」が57.1%、「役場の担当部署」が66.7%、「その他」がそれぞれ28.6%となっています。



問 11 日頃から同職種との関わり（情報交換、連携等）は必要だと思いますか。

日頃から同職種との関わり（情報交換、連携等）は必要だと思うかについては、「はい」が88.6%、「いいえ」が8.6%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「はい」がやや低くなっています。

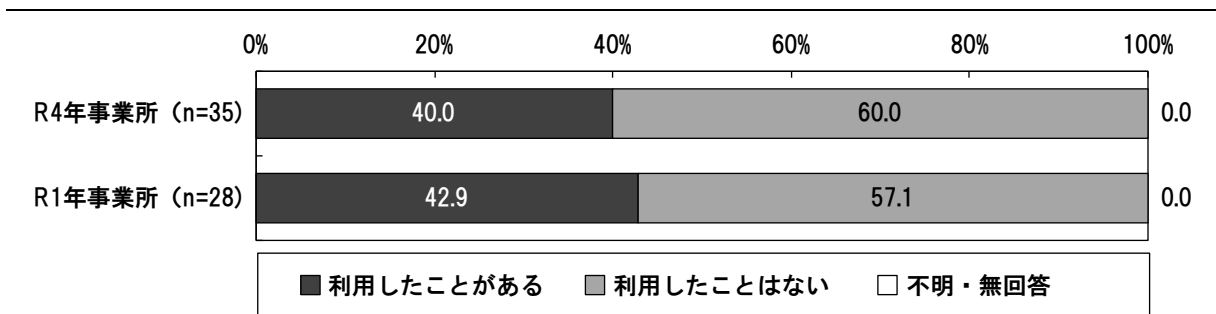


問 12 同職種とどのような関わりがしたいですか。（相談がしたい、合同で研修がしたい等）

主な回答
効率的な運営の為、サービス利用希望者の情報共有をできる限りしたい。
合同研修の実施・新規事業者との関係づくり
サービスの不足が補えあえるような体制や連携が取れるような組織
業務上のことで、このような場合はどのように対処しているか等についての情報共有
現在では、特に新型コロナなどの対応状況や方法などの共有が出来れば良いと思います。
合同で BCP やハラスメントなどについての情報交換など研修をしたい
合同での研修及び交流。同職種のみで行えれば一番良いと思います。
合同で研修し、グループワークを通して顔の見える関係になりたい。
直接顔を見て相談ができると良い（書面では伝わらないことが多い） 関係職種との定期的な顔合わせや研修の開催
他施設や世間の状況の情報収集
同じような困難事例の情報共有
利用者が減っていく中で、どのような対策をしているか。どんなカルチャーに力を入れているか。
情報の交換・法令への対応等

問 13 電子@連絡帳レガッタネットとうごうを利用し、主治医等と介護サービス利用者の状況について情報共有を行ったことがありますか。

電子@連絡帳レガッタネットとうごうを利用し、主治医等と介護サービス利用者の状況について情報共有を行ったことの有無については、「利用したことがある」が40.0%、「利用したことはない」が60.0%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「利用したことがある」がやや低くなっています。

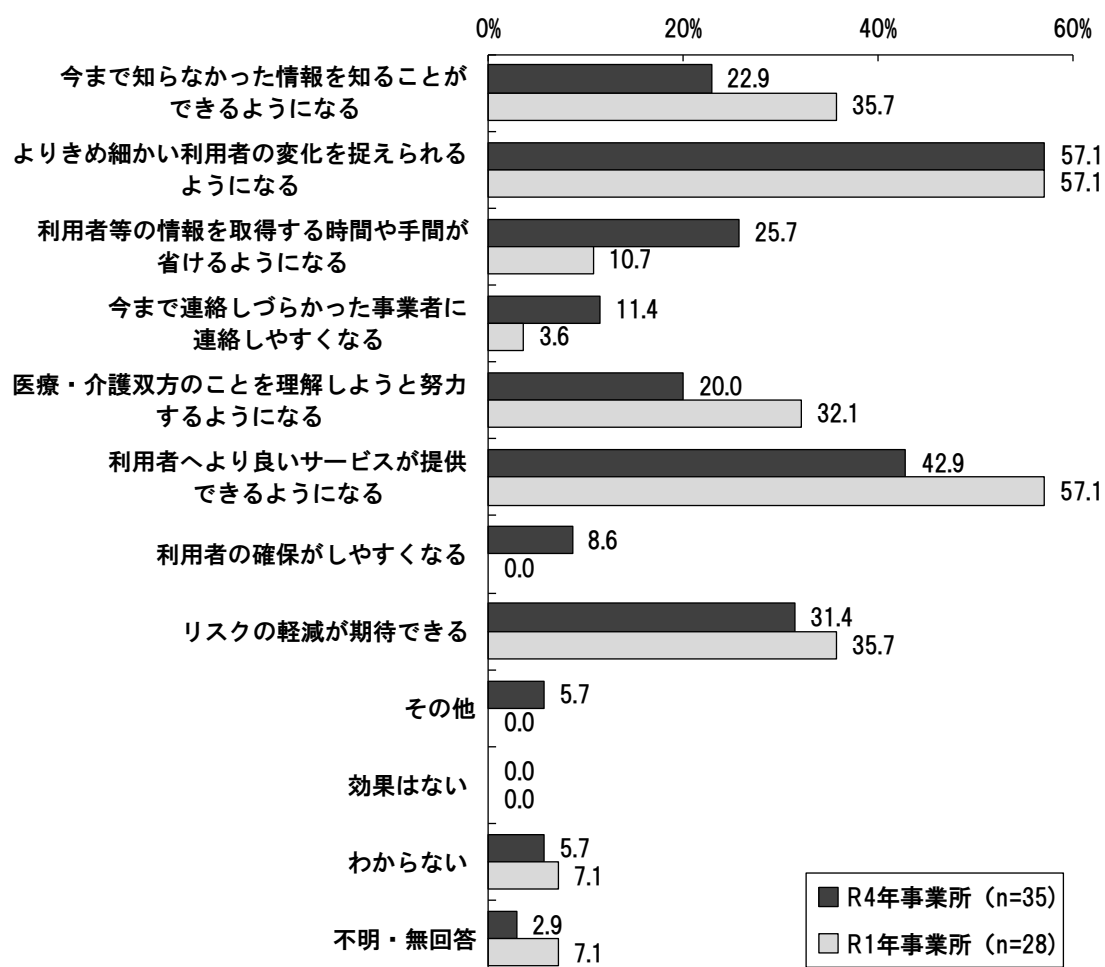


問 13-1 その理由は何ですか。

主な回答
事業運営上、必要とならないため。
ケアマネージャーが十分な情報を共有してくれる
パソコンのバージョンアップでセキュリティが強化されたら、つながらなくなったため
やり方がよくわからない
レガッタネットとうごうのことを理解していないため
活用方法がよくわからない
主治医がレガッタネット東郷を利用していない
情報共有するような利用者がいない。
情報共有する際、データ量を気にしなくてよいから
直接情報交換する
電子@連絡帳のシステムを知らなかった。
登録方法が分かっていない
日々の業務があり、時間が作れない。
認知症の利用者で周辺症状がひどい方の対応や相談
利用登録者の受診（基本月 1 回）には付き添いを行い直接的に主治医への情報提供、主治医からの意見を頂いており現時点で利用する機会がありませんでした。

問 14 医療と介護が連携する効果は何だと思いますか。【複数回答】

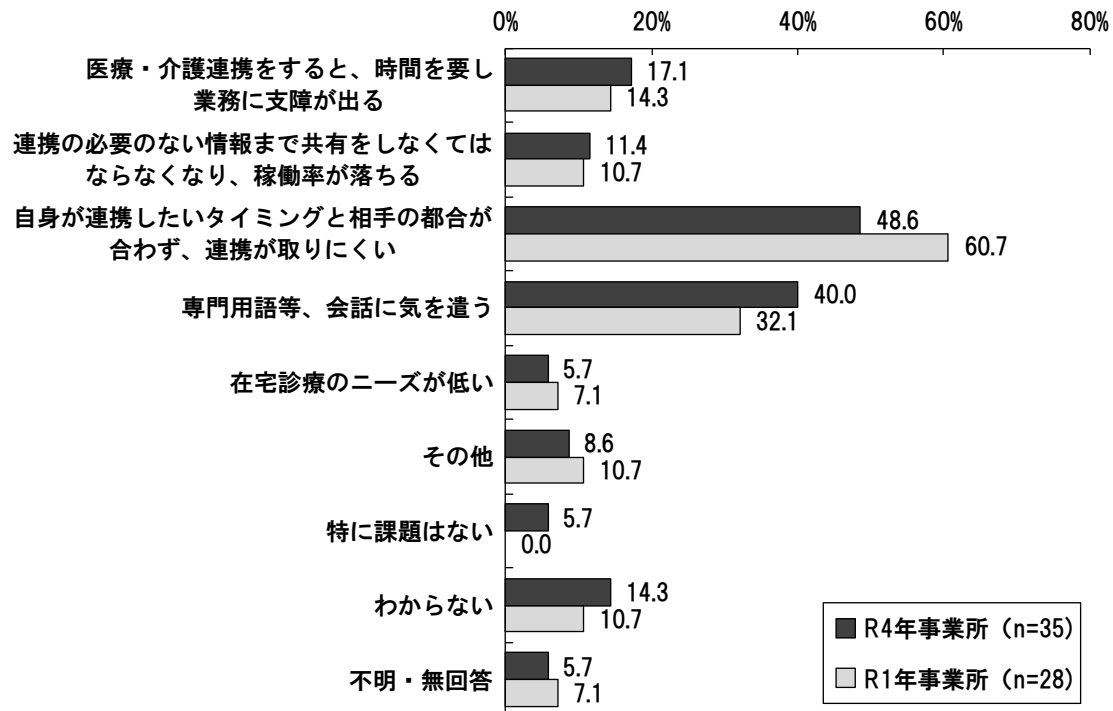
医療と介護が連携する効果については、「よりきめ細かい利用者の変化を捉えられるようになる」が 57.1%と最も高く、次いで「利用者へより良いサービスが提供できるようになる」が 42.9%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「利用者等の情報を取得する時間や手間が省けるようになる」が 15.0 ポイント高くなっています。一方、「利用者へより良いサービスが提供できるようになる」「今まで知らなかった情報を知ることができるようになる」「医療・介護双方のことを理解しようとするようになる」がそれぞれ 12 ポイント以上高くなっています。



その他回答記載例
当施設に入居後、東郷町の方であれば、連携病院が特養までつながっているので、切れ目なく、終末期まで、同じ医師が関わる事ができる。
医療職からの書き込みはほとんどないし、こちらが書き込んだ情報も見ているかどうかかわからない
家族に支援内容の根拠を明確に示すことができる。お互いのことを理解し、協力、支援体制をととえられる

問 15 医療・介護連携を行うにあたっての課題は何だと思いますか。【複数回答】

医療・介護連携を行うにあたっての課題については、「自身が連携したいタイミングと相手の都合が合わず、連携が取りにくい」が48.6%と最も高く、次いで「専門用語等、会話に気を遣う」が40.0%となっています。なお、令和元年度調査と比較すると、「自身が連携したいタイミングと相手の都合が合わず、連携が取りにくい」が12.1ポイント低くなっています。



その他回答記載例
人に対しての利用者と言う認識と患者と言う認識の違い。生活と治療と言う認識の違い。責任の所在と責任の取り方の違い。
医師によっては連携の必要性の認識が異なる
医療と介護の利用者に対する意識の違いを共有することが難しい。(医療面、介護面での見方で相違がでることが多い)
関係職種がどういう情報を必要としているか、またそれを報告、情報共有するためのツール活用、職種を超えた関係性の構築。
病院(特に医師)の積極的な参加

問 16 地域包括支援センターに期待することは何ですか。

困難事例への支援や地域活動について複数の意見があります。

主な回答
サービス利用者とサービス事業者との橋渡し。サービス提供側は、発生ベースの為、必死に利用してくださる方を探しています。
介護サービスを必要とする方に施設入所の提案をしてもらうこと。
高齢者の生活支援に関する情報提供・困難ケース対応支援・介護関係者の顔のみえる関係づくり支援
一緒に行動してほしい。
介護困難者の介護事業者では踏み込めないエリアへの介入と調整
高齢者の方への状況に応じた継続的な支援。
困難ケースへの協力や一緒に動こうとする姿勢。丸投げは困ります。
困難事例はやはり包括支援センターですね
事業所の利用者との間の困りごとの相談をしたい。
社会資源や地域の情報提供、研修計画など
地域ぐるみでの活動（コロナ禍が落ちついたら）
地域住民とのかかわり
認定者に対してのきめ細かい地域連携

問 17 町に期待することは何ですか。

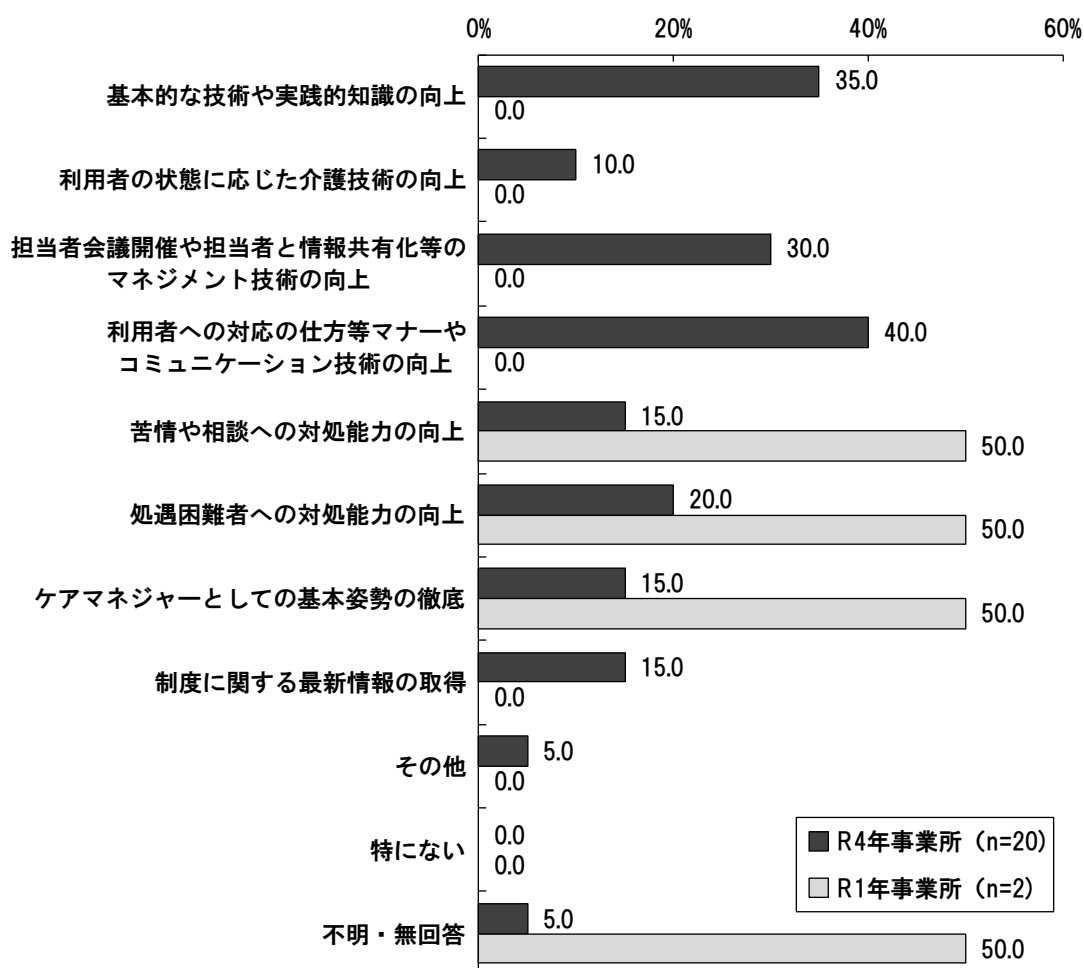
支援・サービスの充実について、ケアマネジャーの立場から見た必要な支援について回答されています。

主な意見
コミュニティバスを充実させてほしい（路線を増やす、本数を増やす）。
介護保険制度の周知・介護事業者が東郷町に参入しやすくなるための環境整備。
事業者との共同、共生、共存。介護事業所の運営は、どんどん難しく、厳しくなっています。介護に関わる町民の方が増える、24 時間、365 日の稼働が維持出来る人財が町民の方から生まれ、その循環が継続される事が望ましく、そのような声が町内で共有できれば、事業継続がしやすい環境になると思います。
地域の活動が活発になる・町民の知識を深める機会の確保（講習会の開催等）
ケアマネジャーの方の数が少ない。（居宅介護支援事業所の数も少なく、1 人ケアマネや定年が近い方が多いと感じる。）今後、地域（在宅）の方のサービスのご要望に満足にお応えできないと感じる。
コロナを流行させ免疫をつけるという国の政策は分かりますが、それによって多大な被害を受け続ける介護施設への保障が少な過ぎます。クラスターが発生すると新規入居のキャンセル、利用者の逝去、職員の離職等が発生し、経営が成り立ちません。
介護職の増加の促進
介護認定の基準が厳しいと思う時がある
基幹病院の誘致：名古屋市、日進市、豊明市、みよし市と四方八方へ分散して連携面や急患の対応時に柱となる病院があると有難いです。
基準緩和型デイサービスについての広報活動、または当該事業に対する支援
近隣他市のような補助事業の充実（感染症対策、燃料高騰、物価高、賃金上昇）
高齢者が安全に安心して暮らせることへの支援。
高齢者が住みやすい地域づくり
社会資源をジャンル別に検索しやすいように整備してほしい。各地域の特色や自治会等の活動内容について知りたい
身寄りのない方のサポート体制づくり
地域ケア会議の開催や地域住民、民生委員とケアマネジャーとの連携の場を整えてほしい。
東郷町、日進市、みよし市等の近隣市からも OK にしてほしい。

【居宅介護支援及び施設サービスの事業所のみ】

問 18 貴事業所では、ケアマネジャーの質の確保・向上を図るために、特にどのような点を重視して取り組んでいますか。【複数回答】

貴事業所では、ケアマネジャーの質の確保・向上を図るために特に重視して取り組んでいることについては、「利用者への対応の仕方等マナーやコミュニケーション技術の向上」が40.0%と最も高く、次いで「基本的な技術や実践的知識の向上」が35.0%となっています。

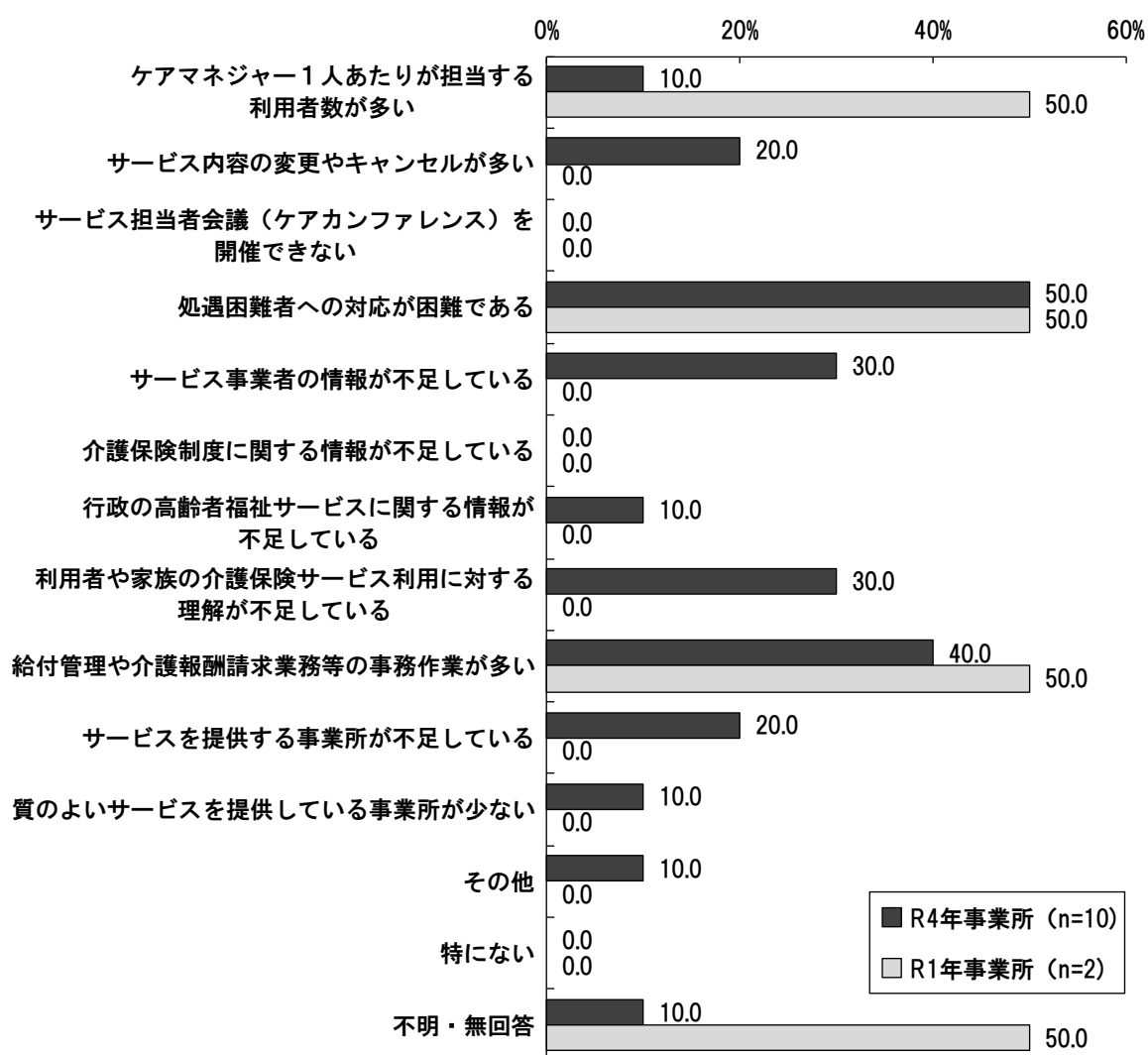


その他回答記載例
多職種連携のスキルアップ・自立支援型ケアマネジメントのスキルアップ

【居宅介護支援の事業所のみ】

問 19 居宅介護サービス計画を作成するにあたって、問題があると考えているのは、どのようなことですか。【複数回答】

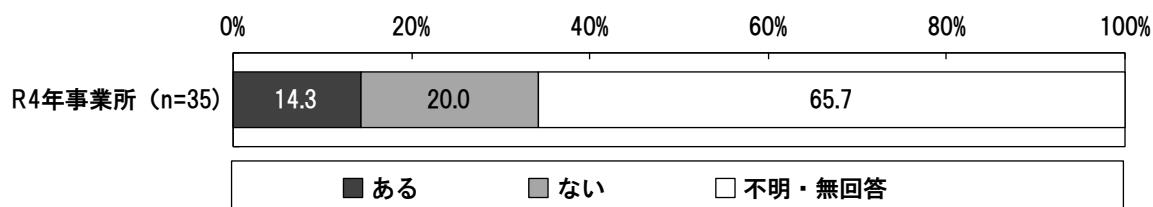
居宅介護サービス計画を作成するにあたって、問題があると考えていることについては、「処遇困難者への対応が困難である」が50.0%と最も高く、次いで「給付管理や介護報酬請求業務等の事務作業が多い」が40.0%となっています。



その他回答記載例
適切に認知症の利用者に対応できる事業所が少ない
要支援者の受け入れを依頼できない

問 20 適切なサービスを提供することが困難であると認めた場合は、他の居宅介護支援事業者への連絡、適当な他の事業所の紹介等必要な措置を講じることになっています。貴事業所では、サービス提供が困難な事例がありましたか。

サービス提供が困難な事例の有無については、「ある」が 14.3%、「ない」が 20.0%となっています。



※R1 年度調査は n=2 であり、いずれも「不明・無回答」であったため、グラフを省略しています。

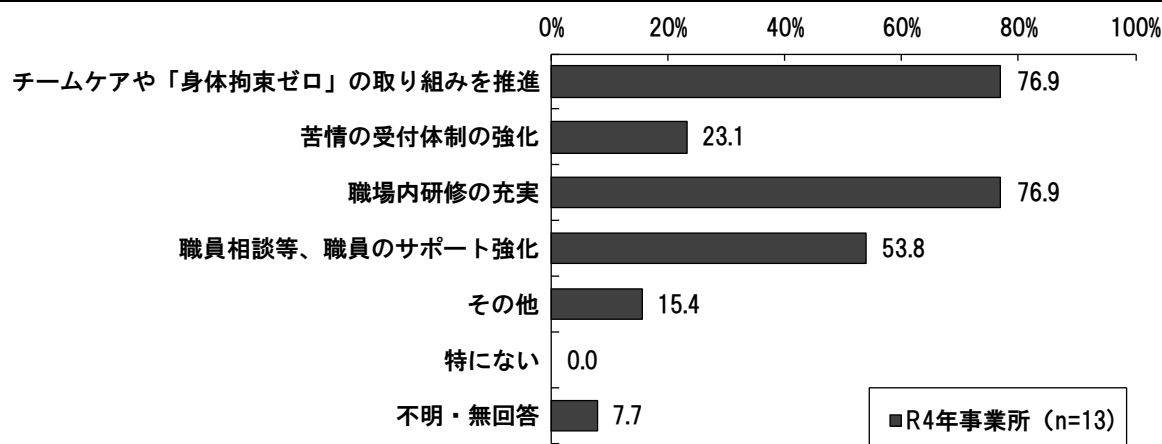
問 20-1 どのような事例でしたか。

主な回答
ご利用者の生活拠点がサービス提供実施地域以外になった場合。
介護拒否（日によって、ヘルパーに「盗んだ」と怒り、必要な介護サービスを拒否する）。介護家族が遠方で入院時などに対応ができないため、ケアマネが代行。
介護者の妻が精神疾患があり、適切なサービスの受け入れが困難だったため、介護度が変わった時に包括支援センターに入ってもらい他の事業所に変わる。
担当人数が超えてしまい、包括支援センターに相談して他の居宅事業所に変更していただいた。
認知症状がひどくなり、攻撃性が出て、職員や他の利用者さんに暴力をふるい始めた。認知の為、異性に執着して他の利用者さんに不快感を与えてしまった。

【施設サービスの事業所のみ】

問 21 貴事業所では、虐待予防に関してどのような取り組みをしていますか。【複数回答】

虐待予防に関する取り組みについては、「チームケアや『身体拘束ゼロ』の取り組みを推進」「職場内研修の充実」がそれぞれ 76.9%と最も高く、次いで「職員相談等、職員のサポート強化」が 53.8%となっています。



その他回答記載例
居室内を含め100台の見守りカメラを設置してあるため、虐待が発生しにくい環境であると考えています。

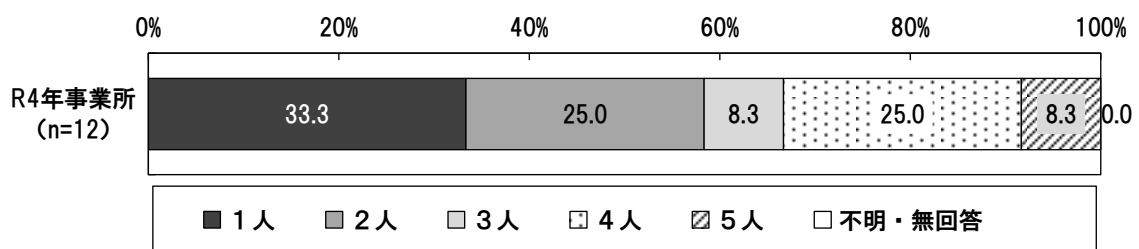
VII 在宅生活改善調査の結果

1. 事業所票

問1 貴事業所に所属するケアマネジャーの人数、および利用者数について、ご記入ください。

①所属するケアマネジャーの人数

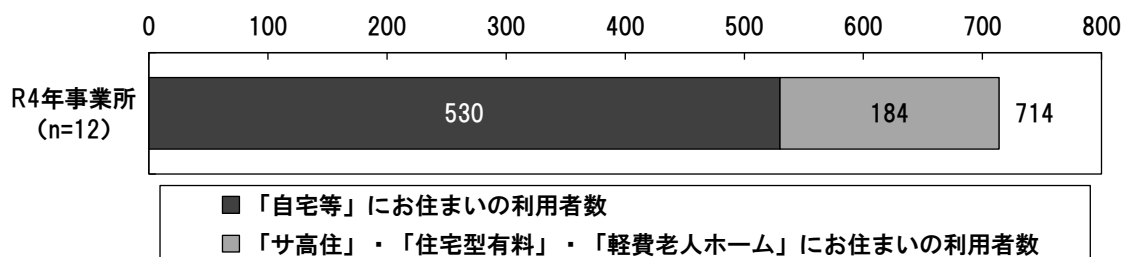
対象となった事業所に所属するケアマネジャーの人数は、「1人」が33.3%で最も多く、次いで「2人」と「4人」が25.0%となっています。



②「自宅等」にお住まいの利用者数

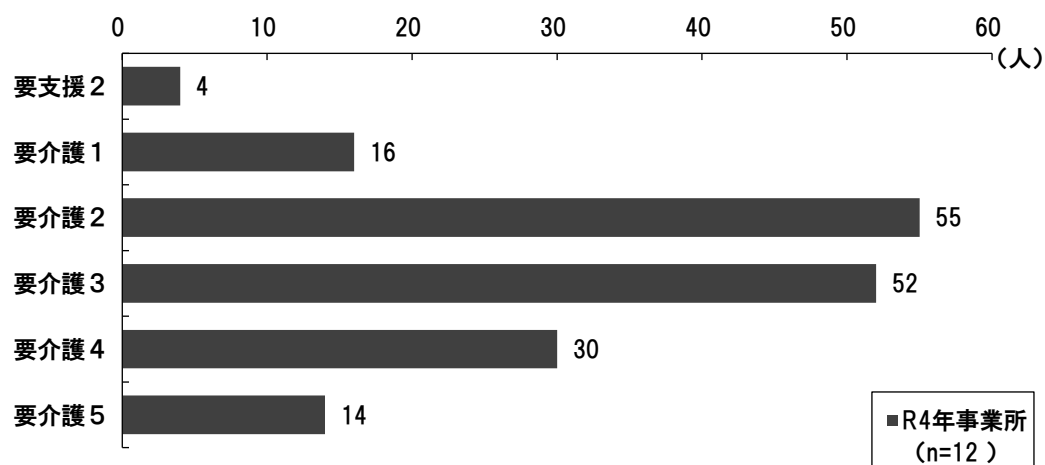
③「サ高住」・「住宅型有料」・「軽費老人ホーム」にお住まいの利用者数

回答した12事業所の利用者数を合計すると、「自宅等」が530人、「サ高住」・「住宅型有料」・「軽費老人ホーム」が184人となっています。



問2 貴事業所において、過去1年の間に「自宅等（サ高住・住宅型有料・軽費老人ホームを除く）から、居場所を変更した利用者数」を要介護度別にご記入ください。

過去1年の間に居場所を変更した利用者数は、12事業所の合計で171人となっており、「要介護2」が55人で最も多く、次いで「要介護3」が52人となっています。



問3 貴事業所において、過去1年の間に「自宅等（サ高住・住宅型有料・軽費老人ホームを除く）から居場所を変更した利用者数」を行き先別に記入ください。

居場所を変更した利用者171人の行き先を見ると「居場所変更先を把握していない」が45.6%で最も多くなっています。把握されている行先を見ると、町内の「住宅型有料老人ホーム」が9.9%で最も多く、次いで町外の「特別養護老人ホーム」が8.8%となっています。

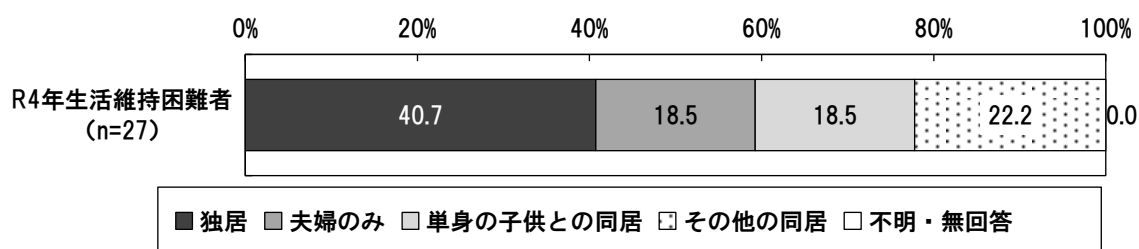
町内														
	兄弟・子ども・親戚等の家	住宅型有料老人ホーム	軽費老人ホーム	サービス付き高齢者向け住宅	グループホーム	特定施設	地域密着型特定施設	介護老人保健施設	療養型・介護医療院	特別養護老人ホーム	地域密着型特別養護老人ホーム	その他		
居所変更利用者 (n=171)	1.8	9.9	0.0	1.2	1.2	0.0	0.0	2.9	0.0	2.9	4.1	0.0		
町外														
	兄弟・子ども・親戚等の家	住宅型有料老人ホーム	軽費老人ホーム	サービス付き高齢者向け住宅	グループホーム	特定施設	地域密着型特定施設	介護老人保健施設	療養型・介護医療院	特別養護老人ホーム	地域密着型特別養護老人ホーム	その他	居場所変更先把握していない	死亡
居所変更利用者 (n=171)	0.0	7.0	0.6	0.0	1.2	1.8	0.0	2.9	1.2	8.8	0.0	5.3	45.6	3.5

2. 利用者票

問1 「自宅」、「サ高住」、「住宅型有料」、「軽費老人ホーム」にお住まいの方のうち「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている利用者について

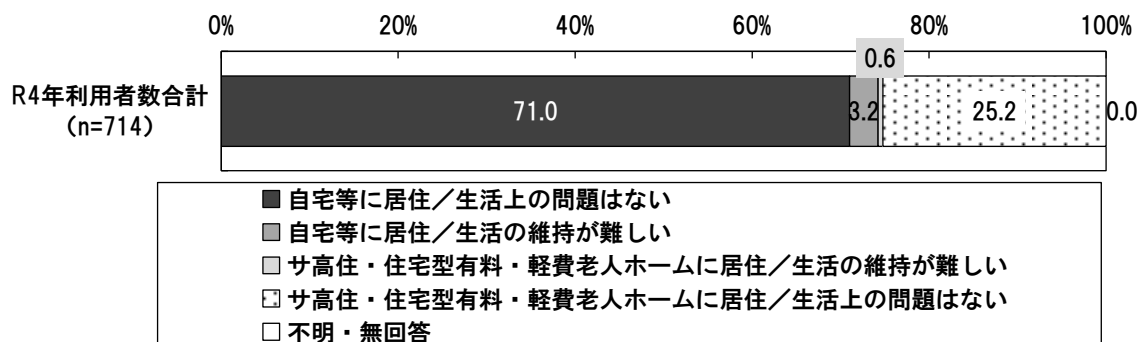
①世帯類型

生活の維持が難しくなっていると回答されたのは 27 人でした。「独居」が 40.7%で最も多くなっています。



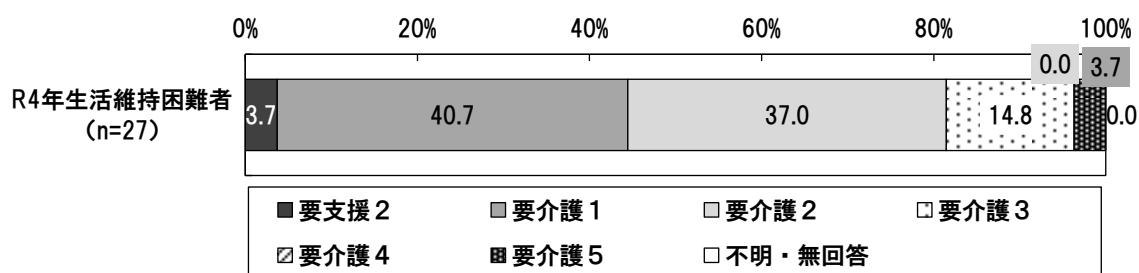
②現在の居所

回答された 27 人のうち、自宅等に居住が 23 人、「サ高住」、「住宅型有料」、「軽費老人ホーム」に居住が 4 人となっています。事業所票で回答された利用者総数と合わせると、下表のような内訳になります。



③要介護度

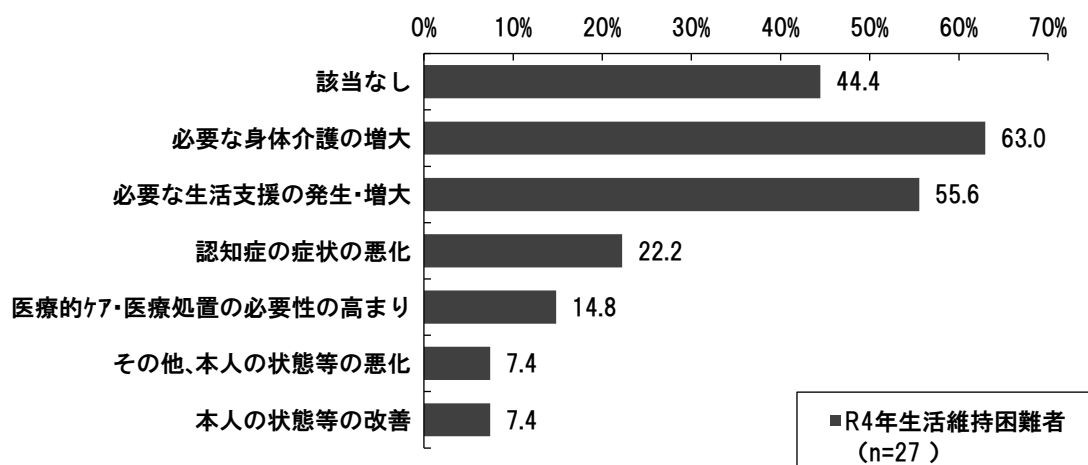
要介護1が40.7%で最も多く、次いで「要介護2」が37.0%となっています。



問2 現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている理由について

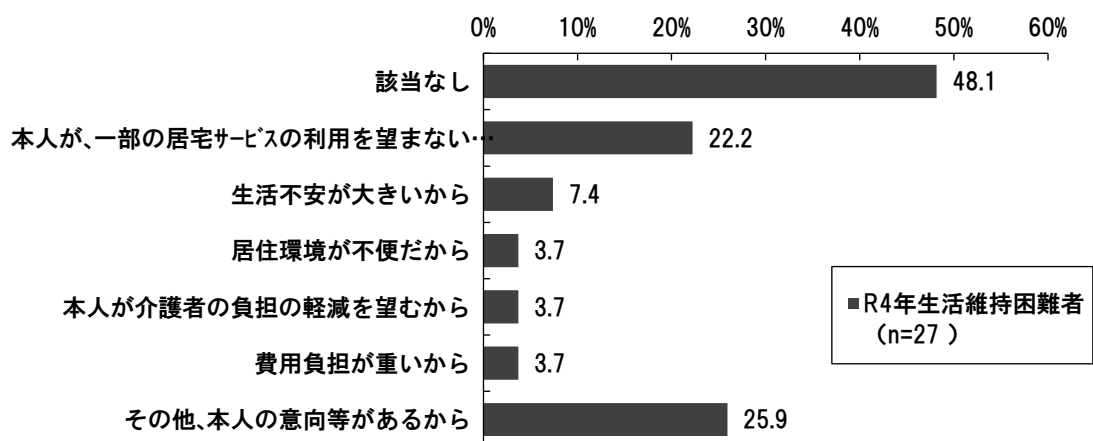
①本人の状態等に属する理由について、お答えください

「必要な身体介護の増大」が63.0%で最も多く、次いで「必要な生活支援の発生・増大」が55.6%となっています。



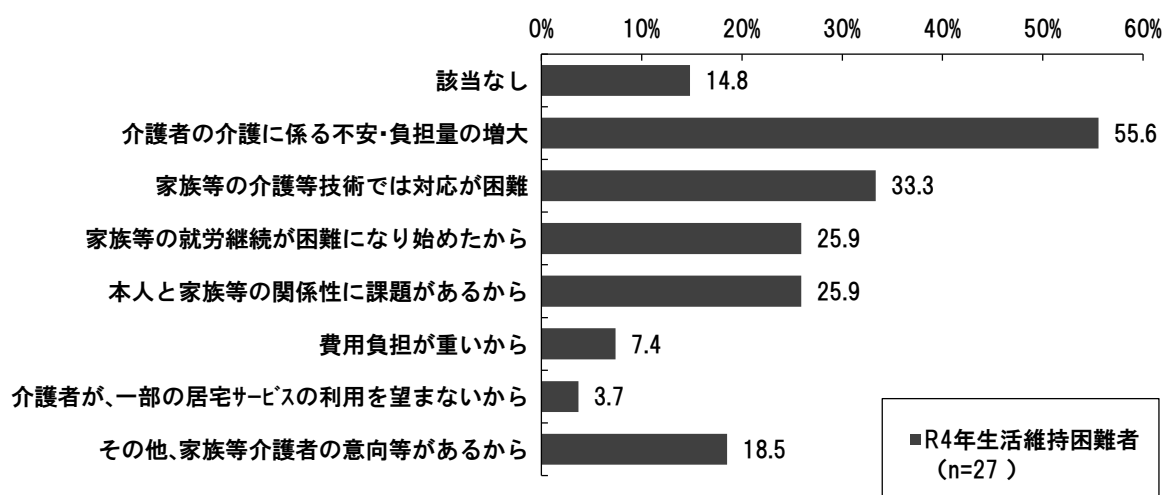
②主に本人の意向等に属する理由について、お答えください

「該当なし」が 48.1%で最も多く、次いで「その他、本人の意向等があるから」が 25.9%となっています。



③主に家族等介護者の意向・負担等に属する理由について、お答えください

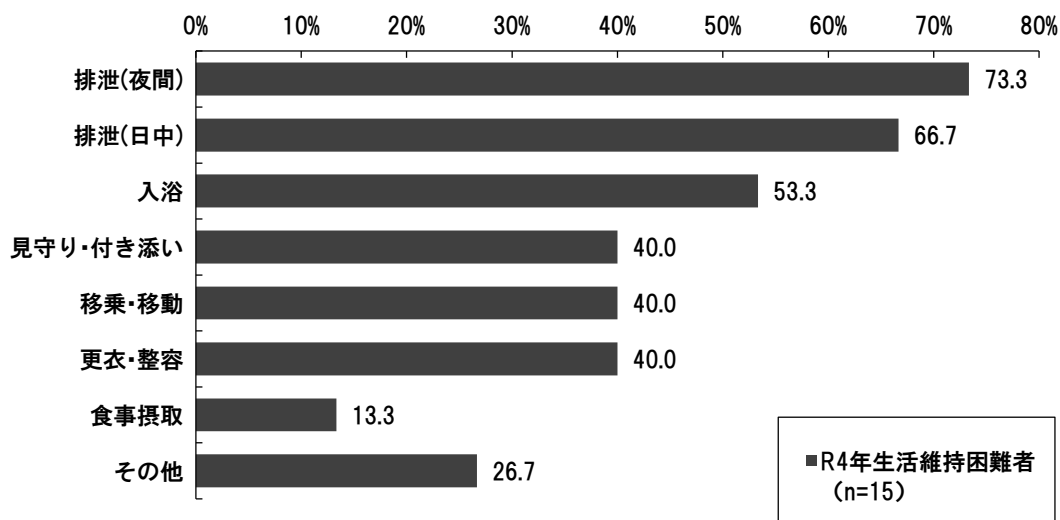
「介護者の介護に係る不安・負担量の増大」が 55.6%で最も多く、次いで「家族等の介護技術では対応が困難」が 33.3%となっています。



【問2①で「必要な身体介護の増大」を選択した場合のみ】

④理由となる、具体的な「身体介護」をお答えください

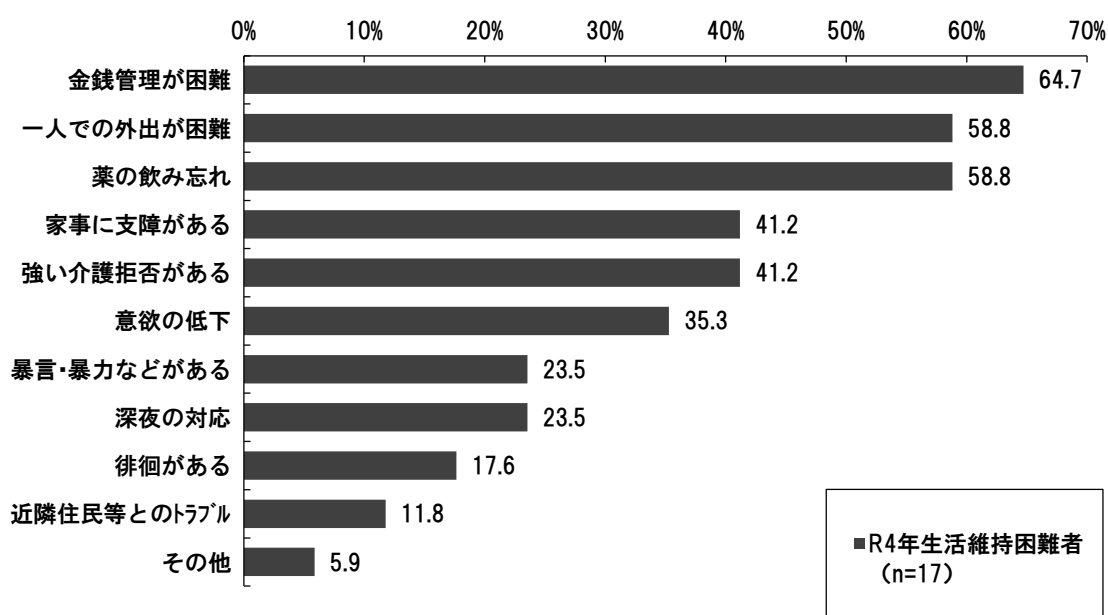
「排泄（夜間）」が73.3%で最も多く、次いで「排泄（日中）」が66.7%となっています。



【問2①で「認知症の症状の悪化」を選択した場合のみ】

⑤理由となる、具体的な「認知症の症状」をお答えください

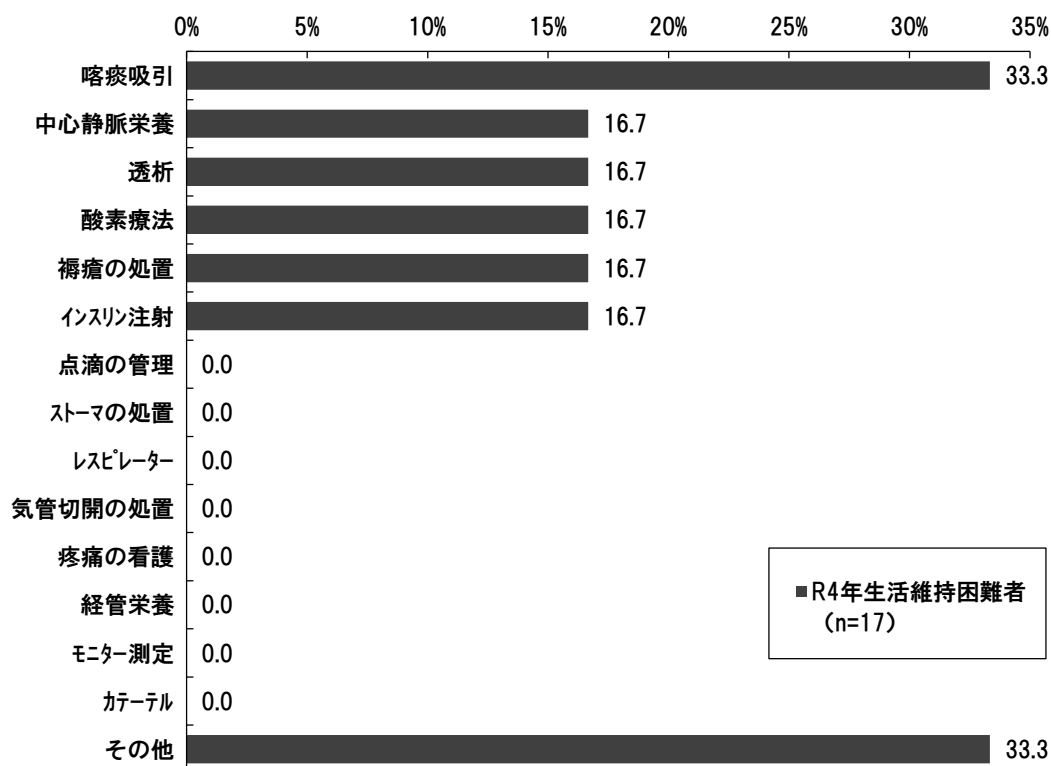
「金銭管理が困難」が64.7%で最も多く、次いで「一人での外出が困難」「薬の飲み忘れ」が58.8%となっています。



【問2①で「医療的ケア・医療処置の必要性の高まり」を選択した場合のみ】

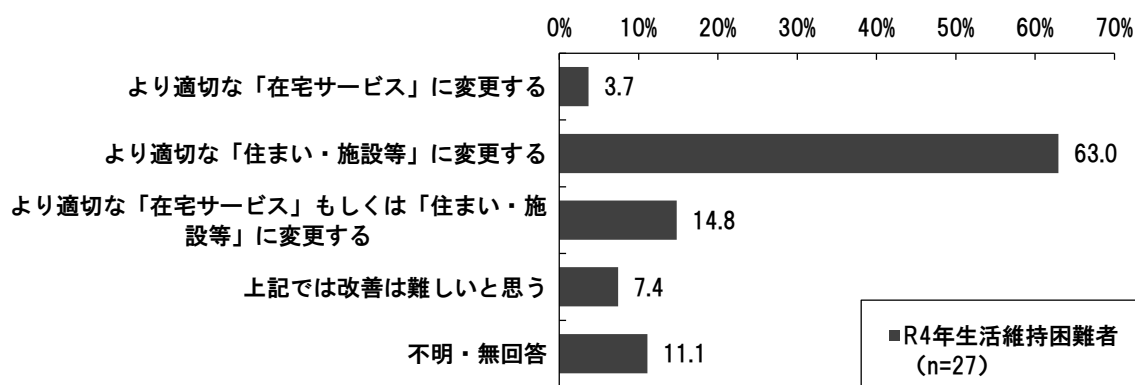
⑥理由となる、具体的な「医療的ケア」、「医療処置」をお答えください

「喀痰吸引」と「その他」が33.3%で最も多くなっています。



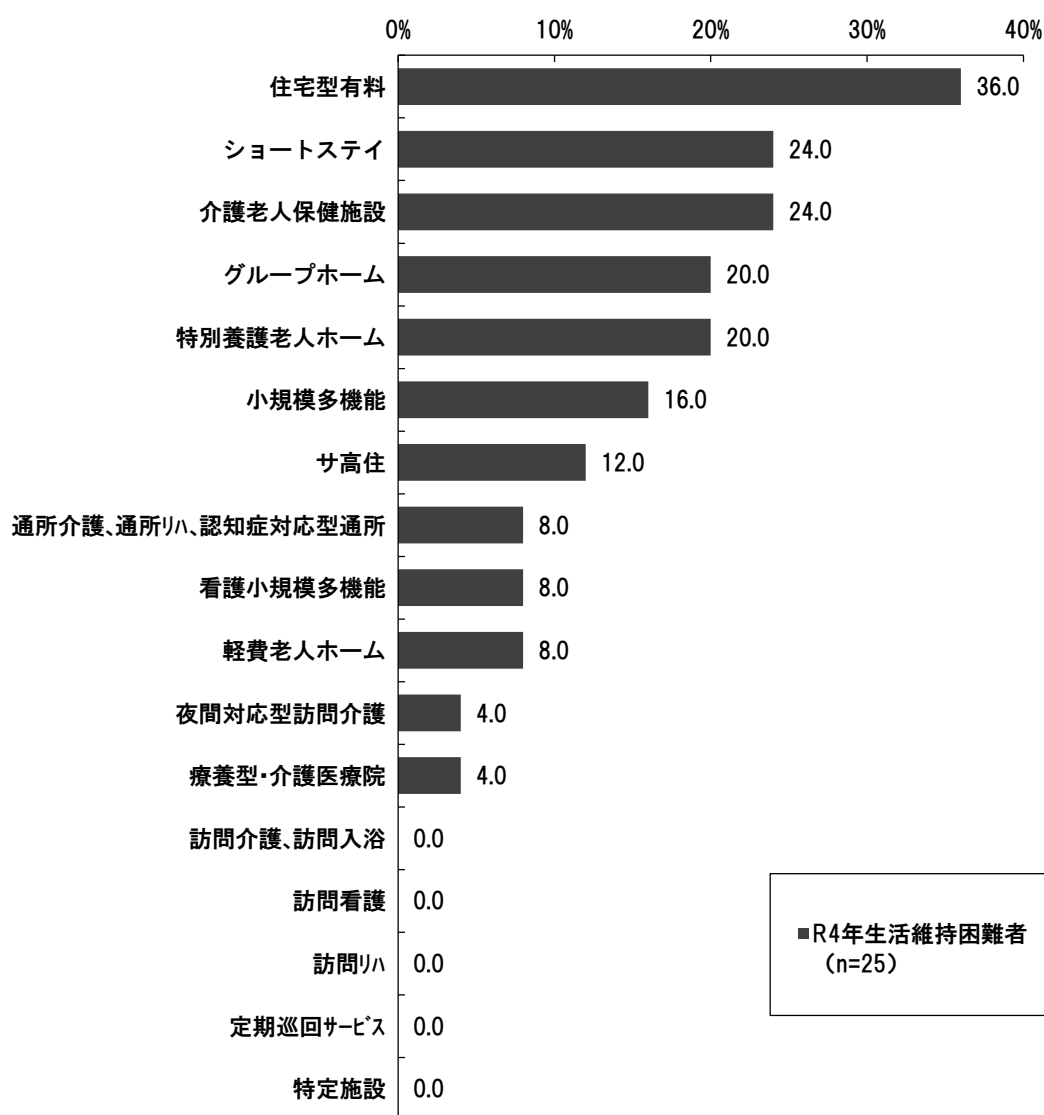
問3-1 「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている」状況に対して、どのようなサービスに変更することで改善できると思いますか。

「より適切な「住まい・施設等」に変更する」が63.0%で最も多くなっています。



問3-2 問3-1で選択したサービス利用の変更について、本来であればより適切と思われる、具体的なサービスをお答えください

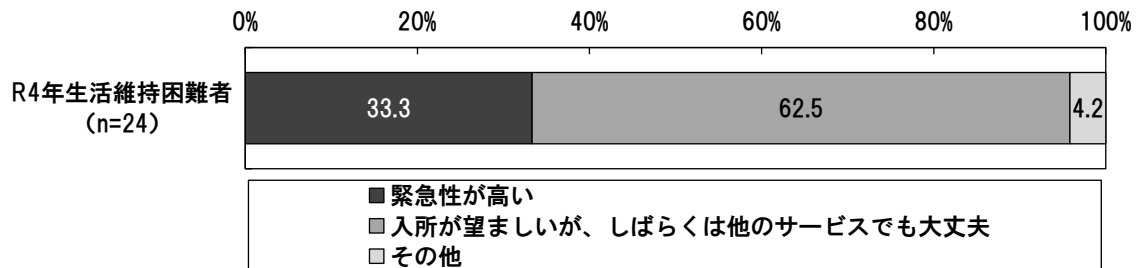
「住宅型有料」が36.0%で最も多く、次いで「ショートステイ」と「介護老人保健施設」が24.0%となっています。



【問3-2で住まい・施設等のサービスを選択した場合のみ】

問3-3 利用者の入所・入居の緊急度をお答えください

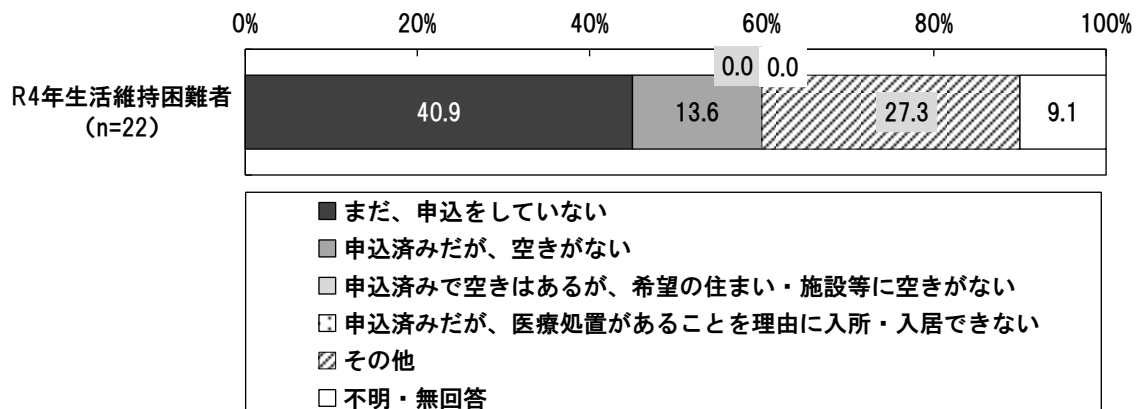
「緊急性が高い」が33.3%、「入所が望ましいが、しばらくは他のサービスでも大丈夫」が52.5%となっています。



【問3-2で特別養護老人ホーム以外の住まい・施設等のサービスを選択した場合のみ】

問3-4 入所・入居できていない理由をお答えください

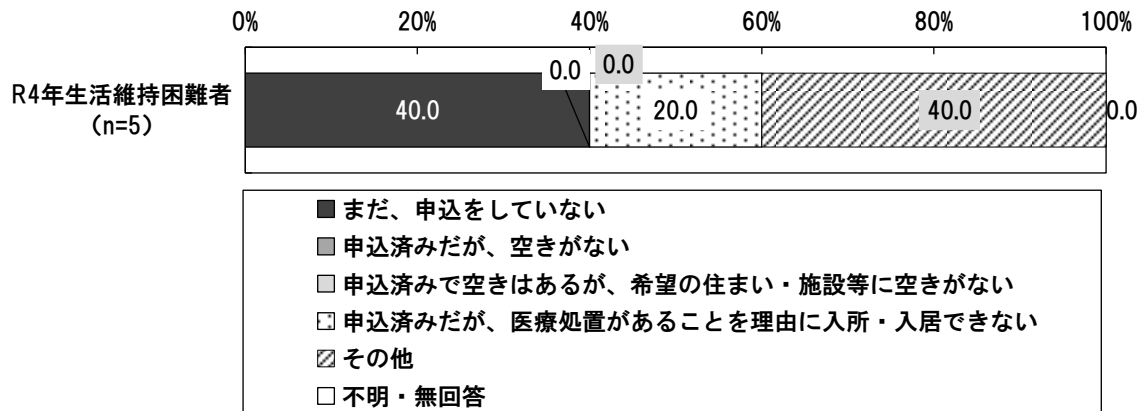
「まだ、申込をしていない」が40.9%で最も多くなっています。



【問3－2で「特別養護老人ホーム」を選択した場合のみ】

問3－5 特養に入所できていない理由をお答えください

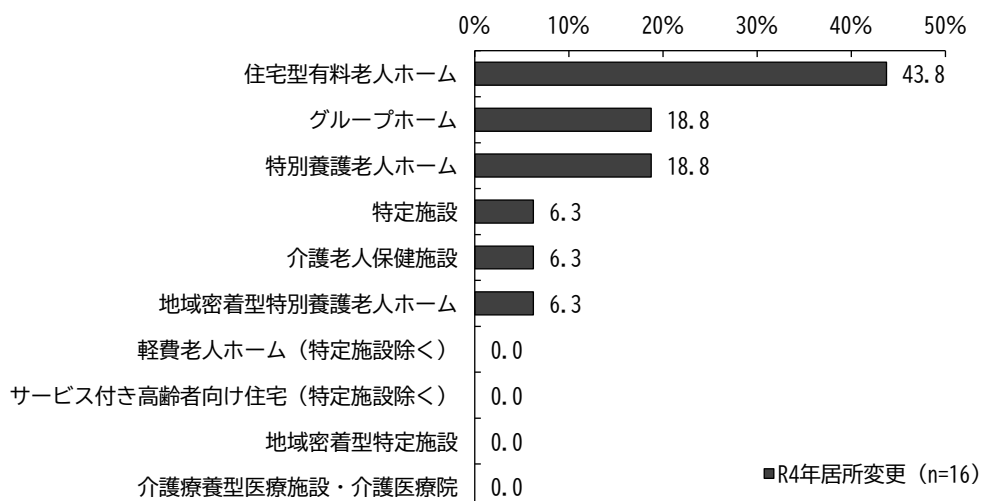
「まだ、申込をしていない」と「その他」がそれぞれ40.0%となっています。



VIII 居所変更実態調査の結果

問1 該当するサービス種別を、ご回答ください。

回答を得られたのは、「住宅型有料老人ホーム」が7事業所（43.8%）、「グループホーム」「特別養護老人ホーム」が3事業所（18.8%）、「特定施設」「介護老人保健施設」「地域密着型特別養護老人ホーム」がそれぞれ1事業所（6.3%）となっています。



2 貴施設等の概要について、以下にご記入ください。

回答のあった施設系事業所の入所・入居者数の合計は 708 人、待機者数の合計は 122 人となっています。

	回答施設数 (件)	入所・入居者 数合計 (人)	待機者数合計 (人)	特別養護老人 ホームの待機 者数 (申込者 数) 合計 (人)
住宅型有料老人ホーム	7	201	15	1
グループホーム	3	111	2	0
特定施設	1	50	5	4
介護老人保健施設	1	105	4	1
特別養護老人ホーム	3	212	86	0
地域密着型特別養護老人ホーム	1	29	10	0
合計	16	708	122	6

問3 現在の入所・入居者の要支援・要介護度について、ご記入ください。

「特定施設」「グループホーム」は「要介護2」が最も多く、「介護老人保健施設」は「要介護3」、それ以外の施設は「要介護4」が最も多くなっています。

	回答施設数 (件)	入所・入居者数合計 (人)	入所・入居者の要介護度別の割合 (%)								
			自立	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	申請中・不明
住宅型有料老人ホーム	7	190	2.6	0.0	1.6	14.2	23.7	14.7	24.2	18.4	0.5
グループホーム	3	105	1.0	1.0	1.0	11.4	30.5	15.2	17.1	22.9	0.0
特定施設	1	47	0.0	0.0	0.0	23.4	51.1	21.3	4.3	0.0	0.0
介護老人保健施設	1	95	0.0	0.0	0.0	10.5	21.1	26.3	25.3	16.8	0.0
特別養護老人ホーム	3	187	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	29.9	42.8	25.1	0.0
地域密着型特別養護老人ホーム	1	29	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	34.5	48.3	17.2	0.0
合計	16	653	0.9	0.2	0.6	9.2	19.1	22.2	28.2	19.4	0.2

問4 以下の医療処置を受けている人数について、ご記入ください。

合計で処置を受けているのが最も多いのは「経管栄養」の 4.9%となっています。「特定施設」については医療処置の回答がありませんでした。

	回答施設数 (件)	入所・入居者数合計 (人)	入所・入居者の受けている医療処置別の割合 (%)						
			点滴の 管理	中心静 脈栄養	透析	ストー マの処 置	酸素療 法	レスピ レー ター	気管切 開の処 置
住宅型有料老人ホーム	7	190	0.0	0.5	2.6	1.1	1.6	0.0	1.1
グループホーム	3	105	5.7	0.0	3.8	1.0	1.9	0.0	0.0
特定施設	1	47	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
介護老人保健施設	1	95	2.1	0.0	0.0	3.2	0.0	0.0	0.0
特別養護老人ホーム	3	187	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0
地域密着型特別養護老人ホーム	1	29	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	16	653	1.2	0.2	1.4	1.1	0.8	0.0	0.3

	回答施設数 (件)	入所・入居者数合計 (人)	入所・入居者の受けている医療処置別の割合 (%)						
			疼痛の 看護	経管 栄養	モニ ター測 定	褥瘡の 処置	カテー テル	喀痰吸 引	インス リン注 射
住宅型有料老人ホーム	7	190	1.1	6.8	0.0	4.7	3.7	3.2	1.6
グループホーム	3	105	1.0	3.8	0.0	5.7	2.9	3.8	0.0
特定施設	1	47	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
介護老人保健施設	1	95	0.0	5.3	0.0	2.1	0.0	3.2	0.0
特別養護老人ホーム	3	187	0.0	4.8	0.0	1.1	2.1	1.1	0.0
地域密着型特別養護老人ホーム	1	29	0.0	3.4	0.0	0.0	0.0	3.4	0.0
合計	16	653	0.5	4.9	0.0	2.9	2.1	2.5	0.5

問5 過去1年間に、貴施設等に新規で入所・入居した人の人数をご記入ください。

問6 問5でご記入いただいた過去1年間の新規の入所・入居者について、入所・入居する前の居場所別の人数をご記入ください。

①入居する前の居場所：町内

「住宅型有料老人ホーム」「特定施設」「特別養護老人ホーム」「地域密着型特別養護老人ホーム」は町内外の「自宅」が最も多くなっています。

			入所・入居する前の居場所別の割合（％）						
	回答施設数（件）	過去1年間の新規入所・入居者数合計（人）	自宅（兄弟・子ども・親戚等の家含む）	住宅型有料老人ホーム	軽費老人ホーム（特定施設除く）	サービス付き高齢者向け住宅（特定施設除く）	グループホーム	特定施設	地域密着型特定施設
住宅型有料老人ホーム	7	39	38.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
グループホーム	3	58	15.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特定施設	1	12	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
介護老人保健施設	1	23	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特別養護老人ホーム	3	46	37.0	0.0	0.0	0.0	2.2	0.0	0.0
地域密着型特別養護老人ホーム	1	11	63.6	9.1	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	16	189	25.4	0.5	0.5	0.0	0.5	0.0	0.0

			入所・入居する前の居場所別の割合（％）				
	回答施設数（件）	過去1年間の新規入所・入居者数合計（人）	介護老人保健施設	療養型・介護医療院	特別養護老人ホーム	地域密着型特別養護老人ホーム	その他
住宅型有料老人ホーム	7	39	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
グループホーム	3	58	17.2	0.0	0.0	0.0	67.2
特定施設	1	12	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
介護老人保健施設	1	23	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特別養護老人ホーム	3	46	8.7	0.0	2.2	0.0	2.2
地域密着型特別養護老人ホーム	1	11	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	16	189	7.4	0.0	0.5	0.0	21.2

②入居する前の居場所：町外

			入所・入居する前の居場所別の割合（％）						
	回答施設数（件）	過去1年間の新規入所・入居者数合計（人）	自宅（兄弟・子ども・親戚等の家含む）	住宅型有料老人ホーム	軽費老人ホーム（特定施設除く）	サービス付き高齢者向け住宅（特定施設除く）	グループホーム	特定施設	地域密着型特定施設
住宅型有料老人ホーム	7	39	43.6	2.6	2.6	2.6	0.0	0.0	0.0
グループホーム	3	58	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特定施設	1	12	58.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
介護老人保健施設	1	23	4.3	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特別養護老人ホーム	3	46	13.0	8.7	0.0	0.0	2.2	2.2	0.0
地域密着型特別養護老人ホーム	1	11	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	16	189	16.4	3.2	0.5	0.5	0.5	0.5	0.0

			入所・入居する前の居場所別の割合（％）					
	回答施設数（件）	過去1年間の新規入所・入居者数合計（人）	介護老人保健施設	療養型・介護医療院	特別養護老人ホーム	地域密着型特別養護老人ホーム	その他	入居・入所する前の居場所を把握していない
住宅型有料老人ホーム	7	39	0.0	0.0	0.0	0.0	10.3	0.0
グループホーム	3	58	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特定施設	1	12	41.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
介護老人保健施設	1	23	4.3	0.0	0.0	0.0	87.0	0.0
特別養護老人ホーム	3	46	6.5	0.0	0.0	0.0	15.2	0.0
地域密着型特別養護老人ホーム	1	11	0.0	0.0	0.0	0.0	18.2	0.0
合計	16	189	4.8	0.0	0.0	0.0	17.5	0.0

問7 過去1年間に、貴施設等を退去した人の人数をご記入ください。

問8 問7でご記入いただいた過去1年間の退去者について、要介護度別の人数をご記入ください

「住宅型有料老人ホーム」「グループホーム」「地域密着型特別養護老人ホーム」は退去の半数以上が「死亡」となっています。

			退去者の要介護度別の割合（％）										
	回答施設数 （件）	過去１年間の退去 数合計 （人）	自立	要支援 １	要支援 ２	要介護 １	要介護 ２	要介護 ３	要介護 ４	要介護 ５	申請中	死亡	
住宅型有料老人ホーム	7	48	0.0	0.0	2.1	6.3	8.3	16.7	2.1	10.4	0.0	54.2	
グループホーム	3	56	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	8.9	7.1	8.9	0.0	71.4	
特定施設	1	14	0.0	0.0	0.0	7.1	21.4	50.0	21.4	0.0	0.0	0.0	
介護老人保健施設	1	32	0.0	0.0	0.0	3.1	15.6	12.5	25.0	18.8	0.0	25.0	
特別養護老人ホーム	3	42	0.0	0.0	0.0	2.4	0.0	14.3	26.2	19.0	0.0	38.1	
地域密着型特別養護老人ホーム	1	10	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	10.0	0.0	0.0	80.0	
合計	16	202	0.0	0.0	0.5	3.0	7.4	14.9	13.9	11.9	0.0	48.5	

問9 問7でご記入いただいた過去1年間の退居者について、退去先別の人数をご記入ください。

①退去先：町内

「死亡」を除くと、「介護老人保健施設」では「病院・診療所」、「特定施設」では「特別養護老人ホーム」が多くなっています。

	回答施設数（件）	過去1年間の退去数合計（人）	退去者の退去先別の割合（％）							
			自宅（兄弟・子ども・親戚等の家含む）	住宅型有料老人ホーム	軽費老人ホーム（特定施設除く）	サービス付き高齢者向け住宅（特定施設除く）	グループホーム	特定施設	地域密着型特定施設	介護老人保健施設
住宅型有料老人ホーム	7	48	0.0	2.1	0.0	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0
グループホーム	3	56	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特定施設	1	14	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
介護老人保健施設	1	32	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特別養護老人ホーム	3	42	0.0	0.0	0.0	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0
地域密着型特別養護老人ホーム	1	10	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	16	202	0.0	1.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0

	回答施設数（件）	過去1年間の退去数合計（人）	退去者の退去先別の割合（％）				
			療養型・介護医療院	左記を除く病院・診療所（一時的な入院を除く）	特別養護老人ホーム	地域密着型特別養護老人ホーム	その他
住宅型有料老人ホーム	7	48	2.1	0.0	2.1	2.1	4.2
グループホーム	3	56	0.0	0.0	1.8	0.0	0.0
特定施設	1	14	0.0	0.0	14.3	7.1	0.0
介護老人保健施設	1	32	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0
特別養護老人ホーム	3	42	9.5	0.0	0.0	0.0	0.0
地域密着型特別養護老人ホーム	1	10	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	16	202	2.5	0.5	2.0	1.0	1.0

②退去先：町外

	回答施設 数（件）	過去1年 間の退去 数合計 （人）	退去者の退去先別の割合（％）							
			自宅 （兄弟・ 子ども・ 親戚等の 家含む）	住宅型有 料老人 ホーム	軽費老人 ホーム （特定施 設除く）	サービス 付き高齢 者向け住 宅（特定 施設除 く）	グループ ホーム	特定施設	地域密着 型特定施 設	介護老人 保健施設
住宅型有料老人ホーム	7	48	2.1	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
グループホーム	3	56	1.8	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特定施設	1	14	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	14.3
介護老人保健施設	1	32	3.1	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特別養護老人ホーム	3	42	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
地域密着型特別養護老人ホーム	1	10	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	16	202	1.5	4.5	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	1.0

	回答施設 数（件）	過去1年 間の退去 数合計 （人）	退去者の退去先別の割合（％）						
			療養型・ 介護医療 院	左記を除 く病院・ 診療所 （一時的 な入院を 除く）	特別養護 老人ホーム	地域密着 型特別養 護老人 ホーム	その他	行先を把 握してい ない	死亡 （搬送先 での死亡 を含む）
住宅型有料老人ホーム	7	48	2.1	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	66.7
グループホーム	3	56	1.8	5.4	16.1	0.0	0.0	0.0	71.4
特定施設	1	14	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0	0.0	14.3
介護老人保健施設	1	32	0.0	65.6	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
特別養護老人ホーム	3	42	0.0	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	76.2
地域密着型特別養護老人ホーム	1	10	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	80.0
合計	16	202	1.0	12.9	8.4	0.0	0.0	1.0	60.4

問 10 貴施設等の入居・入所者が、退去する理由は何ですか。退去理由として多いものを上位3つまで選んでください。

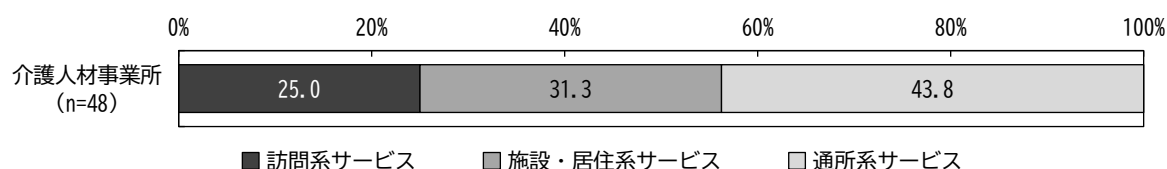
全体では「医療的ケア・医療処置の必要性が高まったから」が最も多く、次いで「その他」が多くなっています。

	回答施設数（件）	退去理由として多いもの（％）									
		必要な生活支援が発生・増大したから	必要な身体介護が発生・増大したから	認知症の症状が悪化したから	医療的ケア・医療処置の必要性が高まったから	左記以外の状態像が悪化したから	入所・入居者の状態等が改善したから	入所・入居者が、必要な居宅サービスの利用を望まなかったから	費用負担が重くなったから	その他	不明・無回答
住宅型有料老人ホーム	7	0.0	0.0	0.0	71.4	14.3	0.0	0.0	71.4	71.4	0.0
グループホーム	3	0.0	33.3	33.3	66.7	0.0	33.3	33.3	66.7	33.3	0.0
特定施設	1	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
介護老人保健施設	1	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
特別養護老人ホーム	3	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	66.7	0.0
地域密着型特別養護老人ホーム	1	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
合計	16	0.0	6.3	25.0	75.0	6.3	12.5	6.3	50.0	62.5	0.0

IX 介護人材実態調査の結果

問1 該当するサービス種別（介護予防を含む）を、ご回答ください。

「訪問系サービス」が12事業所、「施設・居住系サービス」が21事業所、「通所系サービス」が15事業所となっています。



問2 貴施設等（問1で○をつけたサービス種別の施設等）に所属する介護職員について、お伺いします

問2-1 介護職員の総数を、ご記入ください。

問2-2 問2-3 開設から1年以上を経過している施設等にお伺いします。過去1年間の介護職員の採用者数と離職者数をご記入ください。

職員総数、採用者数、離職者数と昨年比の職員数は以下の通りです。いずれのサービス系統においても採用者数が離職者数を上回っており、職員数が増加しています。

	回答事業所数（事業所）	職員総数（人）			採用者数（人）		
		正規職員	非正規職員	小計	正規職員	非正規職員	小計
全サービス系統	48	401	443	844	90	97	143
訪問系サービス	12	79	126	205	23	23	34
施設・居住系サービス	21	250	217	467	44	43	73
通所系サービス	15	72	100	172	23	31	36

	回答事業所数（事業所）	離職者数（人）			昨年比（%）		
		正規職員	非正規職員	小計	正規職員	非正規職員	小計
全サービス系統	48	58	52	113	108.7	111.3	103.7
訪問系サービス	12	14	8	22	112.9	113.5	106.2
施設・居住系サービス	21	32	35	70	105.0	103.8	100.6
通所系サービス	15	12	9	21	118.0	128.2	109.6

問2-3 問2-2の採用者・離職者について、正規・非正規の別・年齢別をご記入ください。

正規職員の採用については、訪問系サービスで30歳代、施設・居住系サービスで40歳代、通所系サービスで50歳代が最も多くなっています。非正規職員の採用については、いずれのサービス系統も60歳代が最も多くなっています。

職員の離職については、正規職員では40歳代、50歳代が多くなっています。

				採用者の年齢別割合（％）								
採用者数		回答事業 所数（事 業所）	採用者 合計 （人）	20歳未 満	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70～79 歳	年齢不 明	
正規職員	全サービス系統	48	90	5.6	16.7	25.6	27.8	20.0	4.4	0.0	0.0	
	訪問系サービス	12	23	17.4	13.0	47.8	17.4	4.3	0.0	0.0	0.0	
	施設・居住系サービス	21	44	2.3	22.7	18.2	31.8	20.5	4.5	0.0	0.0	
	通所系サービス	15	23	0.0	8.7	17.4	30.4	34.8	8.7	0.0	0.0	
非正規職員	全サービス系統	48	97	3.1	3.1	10.3	17.5	23.7	42.3	0.0	0.0	
	訪問系サービス	12	23	0.0	4.3	4.3	0.0	34.8	56.5	0.0	0.0	
	施設・居住系サービス	21	43	7.0	4.7	11.6	23.3	11.6	41.9	0.0	0.0	
	通所系サービス	15	31	0.0	0.0	12.9	22.6	32.3	32.3	0.0	0.0	

				離職者の年齢別割合（％）								
離職者数		回答事業 所数（事業所）	離職者 合計 （人）	20歳未 満	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70～79 歳	年齢不 明	
正規職員	全サービス系統	48	58	0.0	10.3	8.6	44.8	29.3	5.2	1.7	0.0	
	訪問系サービス	12	14	0.0	7.1	7.1	64.3	21.4	0.0	0.0	0.0	
	施設・居住系サービス	21	32	0.0	12.5	12.5	34.4	31.3	6.3	3.1	0.0	
	通所系サービス	15	12	0.0	8.3	0.0	50.0	33.3	8.3	0.0	0.0	
非正規職員	全サービス系統	48	52	5.8	3.8	15.4	25.0	19.2	17.3	13.5	0.0	
	訪問系サービス	12	8	0.0	0.0	25.0	12.5	25.0	25.0	12.5	0.0	
	施設・居住系サービス	21	35	8.6	5.7	14.3	25.7	14.3	17.1	14.3	0.0	
	通所系サービス	15	9	0.0	0.0	11.1	33.3	33.3	11.1	11.1	0.0	

第9期東郷町高齢者福祉計画策定のための
アンケート調査結果報告書

発 行：令和5年3月

発行者：東郷町

編 集：福祉部 高齢者支援課

〒470-0198

愛知県愛知郡東郷町大字春木字羽根穴1番地

T E L：(0561) 56-0753（直通）

F A X：(0561) 38-7932